講義科目名称： 人間哲学　　授業コード：R20191F100

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 鈴木利定 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。 |
| 授業の概要 | 孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。<br>論語　史記　信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きなる者について、学問について。 |
| | 第２回 | 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。<br>命の使い方Ｐ1、Ｐ174 |
| | 第３回 | 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。<br>プロタゴラス（真理なし）<br>ソクラテス<br>プラトン（イデア論）（真理あり）プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。 |
| | 第４回 | 大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）<br>プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明 |
| | 第５回 | 至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）<br>コメントカードの質問に答える。<br>①　形物上学他、　②　ギリシャの愛についてプリント配布して説明成有一徳　Ｐ14～22 |
| | 第６回 | 家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思 |

| | |
|---|---|
| | が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）<br><br>第７回　道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）<br><br>第８回　顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）<br>大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。<br>第９回　国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。（右第十、十一章）<br>朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。<br>第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章）<br>後世へ残すもの、1、お金　2　事業　3、　思想　、祈　4、元気<br>結論　誰にでも出来て　害にならないもの<br>第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章）<br>道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。<br>第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。<br>①西洋の2聖人　アリストテレス　イエスキリストのその後の影響<br>②宗教と哲学の違い　　宗教は信ずること　　哲学は問うことＰ8<br>第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。<br>孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。<br>顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。<br>第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。<br>孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。<br>孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。<br>第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。<br>現代のみだれ　　宗教・道徳が必要<br>宗教の問題　1、救済の問題　　2、続行者の問題　　3、　信仰者の問題（行為）<br>「親鸞」についても話すプリント　　日本の仏教一覧表 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（2回以上のもの）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | テキストの予習・復習をすること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　10時30分～12時。 |
| 評価方法 | ■筆記試験（□論述　□客観）　■レポート　□口頭試験　□その他評価配分：成績評価は、試験（70%）・レポート（15%）・授業取組み状況（15%）を鑑み、評価を与える。 |
| 教科書 | 鈴木利定著「儒教哲学の研究―修正版」（明治図書）　　咸有一徳（中央法規） |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介していく。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容 |

| | |
|---|---|
| | you tube にて遠隔授業の実施。学生の質問はwebポータルを利用。 |

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード： R20191F101

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生もいるため、日本における小・中学校における道徳教育についても触れ、義務教育で道徳教育が展開される理由を理解しましょう。 【到達目標】<br>・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。<br>・小中学校で道徳教育がおこなわれる理由について説明ができる。 |
| 授業の概要 | ・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。<br>・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。<br>・道徳や倫理に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること）<br>【key words】<br>受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること<br>【授業概要】<br>受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>プリントを配布します<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>初回は特にないが、遅刻をしないこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>初回はなし |
| | 第２回 | 咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 咸有一徳　仁　習慣<br>【授業概要】<br>これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ１５～Ｐ２８<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておくこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>３０分 |
| | 第３回 | 咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ<br>【key words】<br>古典　論語　仁　建学の精神<br>【授業概要】<br>訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ２８～Ｐ３９<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第４回 | 「仁」とは何か　「真心」とは何か<br>【key words】<br>仁　真心　惻隠の心　四端<br>【授業概要】<br>「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ４１～Ｐ５８<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>３０分 |
| | 第５回 | 「至誠」とは何か<br>【key words】<br>至誠　尽くす　儒教　儒学<br>【授業概要】<br>「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ５９～Ｐ７２<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>３０分 |
| | 第６回 | 家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察）<br>【key words】<br>家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ<br>【授業概要】<br>社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ７３～Ｐ８８<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>２０分 |
| | 第７回 | ボランティアにおける品位あるマナー　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察）<br>【key words】<br>ボランティア　礼儀　あいさつ　学校生活　服装　環境美化活動<br>【授業概要】<br>私たちはボランティア先で、学ばせてもらう立場の者です。したがって、ボランティア先で失礼な言動や礼儀に欠けた行為をすることは断じて許されません。快く受け入れてもらい、お互いが気持ちよく作業するためのマナーをここでは学びます。また、学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべき |

なのか考えてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８９～Ｐ１２６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
敬語の使い方を高校までに使用した便覧等を用いて復習しておくこと。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第８回　豊かな人間性の涵養と人格の向上について（交際・礼儀作法・エチケット）
【key words】
礼儀作法　エチケット　noblesse oblige
【授業概要】
フランス語に“noblesse oblige”（位高き者は徳高くあれ）という言葉があります。社会的地位が高くなればなるほど、その地位にふさわしい人格にならなければならないとする考えです。つまり人が人である限り人格の向上は絶えず付いてくるのです。我々はどのようにして人格を高めていくべきなのか考えていきましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に配布したプリントを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第９回　日本における道徳教育の現状について
【key words】
学習指導要領
【授業概要】
なぜ、みなさんは小中学校で「特別の教科　道徳」の授業を受けてきたのでしょうか。もちろん、それは教科化されているからです。とはいえ、「道徳」は他の科目と位置づけが異なります。文教政策として考えた際に、国としてはどのような意図で道徳教育を考えているのか。学習指導要領を中心に解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に配布したプリントを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　西洋哲学における道徳の考え方
【key words】
徳倫理　アリストテレス　義務論　カント　功利主義　ベンサム、ミル
【授業概要】
『咸有一徳』は建学の精神「仁」を代表とする東洋哲学を中心とした考えに基づいて編集されてあります。この回からは２回連続で、西洋哲学における道徳に関する基本的な三つの枠組みについて理解します。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ブリタニカ国際大百科事典またはブリタニカオンラインジャパンでkey wordの言葉を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　生命倫理という考え方
【key words】
生命倫理
【授業概要】
生命倫理とは、生殖医療、終末期医療（安楽死・尊厳死）臓器移植、中絶といった、人間の生命に直接関わる問題を扱います。従来の道徳心や倫理観では対処に困難を覚える場合が出てきます。では、どのようなときに、困難―要するにジレンマ―に陥るのか、具体例を挙げて解説していきます。また、そのような場合に、あなたならどうするかを話し合ってもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生命倫理という言葉について、ブリタニカ国際大百科事典またはブリタニカオンラインジャパンでkey wordの言葉を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第１２回　道徳と読書Ⅰ
【key words】
道徳　読書
【授業概要】
我々の道徳心や倫理観を養うものは自己の体験になります。この体験の中には、自らが経験したものと、知識として吸収したものとの二つに大別されるでしょう。この回では読書を通じて道徳を考えてみます。その題材として芥川龍之介の作品から「侏儒の言葉」を読んでいきます。この箴言から芥川は何が言いたかったのでしょうか。そして我々は、自分の考えが果たして本当に妥当なのか、ということを考察していきましょう。
【教科書ページ・参考文献】
青空文庫に収録されている「侏儒の言葉」を各自ダウンロードして印刷しかつ読んでおくこと。または文庫本で持っていれば当然それでも構いません。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「侏儒の言葉」を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

| | |
|---|---|
| | 第１３回　道徳と読書Ⅱ<br>【key words】<br>道徳　読書<br>【授業概要】<br>前回の講義で扱った芥川の「侏儒の言葉」について、各自が考えたことについて発表をしてもらいます。またいくつかのグループに分かれて「道徳」「正しさ」について討論してもらいます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自が所有している芥川龍之介「侏儒の言葉」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義の時までに４００字から６００字程度に自己の考察をまとめてくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１４回　それぞれの現場における道徳<br>【key words】<br>道徳心　倫理観<br>【授業概要】<br>昨今、それぞれの現場に於ける利用者への虐待や不当な対応が新聞や報道で取り上げられています。自らの立場を利用して、放縦に陥るケースは多々ありますが、そのようにならないためには自制心が必要です。そしてこの自制心を養うものが道徳心や倫理観です。なぜこのようなことが起こってしまうのかを、道徳の視点から考察していきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>どのような事件があったのかを調べておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>３０分<br>第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える）<br>【key words】<br>時事問題<br>【授業概要】<br>最近の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてきてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>１時間～２時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。<br>・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。<br>・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。<br>・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組むこと。<br>・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。<br>・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えること。<br>・１年生のうちに文庫本・親書100冊以上を読みこなすという気合を持つこと。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、課題15%、発表15%。 |
| 教科書 | 鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第３版、中央法規、2020 年4月 |
| 参考書 | 『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月、マイケル サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年11月 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育 |

| | |
|---|---|
| | ■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 教育原理　　授業コード： R20191S102

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 中津瀬　隆 | | | |
| 基礎科目 | | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ・教育の意義・目的について学び、生涯にわたって学び続けることの意味を理解する。<br>・教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。<br>・生涯学習の観点から、また、専門職業人として生涯学び続ける態度を身に付け，今後の展望について言語化することができる。 |
| 授業の概要 | これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々の社会・文化を背景として、どのように教育というものを捉えてきたのか。教育思想とその方法の歴史を概観しつつ、その様々な思想が現在おこなわれている教育に対してどのような影響を与えているのかについて考える。特に、生涯学習論に注目しながら、生涯にわたって学び続けるということの意味について、ともに考えていきたい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | ガイダンス・教育学とは<br>【key words】<br>教育、原理<br>【授業概要】<br>自己紹介をする。授業の受け方・進め方、理解の深め方、評価の仕方、ついて説明し、教育とはどんなことか改めて考えてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp. 2-5<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>小学校から高校まで受けてきた教育について考える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第２回 | 教育の本質<br>【key words】<br>子ども観、社会化<br>【授業概要】<br>教育と密接に関わる様々な事柄を通して、子どもや教育について考えてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.6-17<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第３回 | 教育の歴史①<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 公教育制度、新教育運動<br>【授業概要】<br>古代ギリシアから近代の公教育制度確立までの歴史を概観し、その間におこなわれた教育がどんなものであったのかを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.18-31<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第４回 | 教育の歴史②<br>【key words】<br>大正自由教育、戦後教育改革<br><br>【授業概要】<br>大正時代から太平洋戦争後の教育改革、現代へ至るまでの教育の姿を概観する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.32-39<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第５回 | 教育の理念①<br>【key words】<br>ルソー、ペスタロッチ<br>【授業概要】<br>近代教育学の誕生とその考え方について、ルソーやペスタロッチらを軸に理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.40-49<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第６回 | 教育の理念②<br>【key words】<br>デューイ、フレーベル、モンテッソーリ<br>【授業概要】<br>幼児教育の理念について、特にデューイやフレーベルの思想･実践から理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.50-59<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第７回 | 教育の課程<br>【key words】<br>学習指導要領、隠れたカリキュラム<br><br>【授業概要】<br>教育課程･カリキュラムとはどんなものか大枠をつかみ、これまでの学習指導要領の流れを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.90-107<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第８回 | 学習指導・生徒指導<br>【key words】<br>学習の評価、キャリア教育<br>【授業概要】<br>教育方法の基礎や学習の評価の考え方、生徒指導の基本原理を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.120-143<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第９回 | 特別支援教育<br>【key words】<br>発達障害、才能を活かす教育<br>【授業概要】<br>特別支援教育の歴史や基本的な理念を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.176-191<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１０回 | 教育に関する行政と財政<br>【key words】<br>文部科学省、教育委員会 |

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>教育行政に関する組織とその役割、教育に関わる財政についての基本事項を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.192-203<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１１回　教育に関する法規<br>【key words】<br>日本国憲法、教育基本法、学校教育法<br>【授業概要】<br>教育制度を支える様々な法規の基本事項を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.204-213<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１２回　子どもの成長・生活をめぐる諸問題<br>【key words】<br>社会力、問題行動、性の多様化<br>【授業概要】<br>子どもの成長･生活に関わる問題にはどんな真野があるのか考えてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.214-235<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１３回　家庭教育、地域の教育、生涯学習①<br>【key words】<br>家庭、地域<br>【授業概要】<br>学校教育以外で、教育的機能を果たすのはどんなものがあるのかについて考えてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.236-243<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１４回　家庭教育、地域の教育、生涯学習②<br>【key words】<br>社会教育、生涯学習<br>【授業概要】<br>生涯教育の理念や生涯学習社会のための制度･施設にはどんなものがあるのか理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストpp.244-247<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１５回　まとめ<br>【key words】<br>教育観<br>【授業概要】<br>これまで学んできたことを生かし、自分の教育観をどう構築してきたかを整理し、期末レポートの内容を構想する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | webポータル経由でのリアクションペーパー記入 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられた際は、指定日までに必ず提出すること。 |
| オフィスアワー | 金曜・第2時限 |
| 評価方法 | 期末レポート（60%）　小レポート（30%）　各回終了時に記入するリアクションペーパー（10%）で総合的に判断する。 |
| 教科書 | 安彦忠彦　藤井千春　田中博之編著『新版　よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房 |
| 参考書 | 小学校学習指導要領　幼稚園教育要領　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領<br>授業中にもそのつど紹介していく。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/ | 授業担当教員 |

| | |
|---|---|
| リテラシー教育 | ■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>（平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤]<br>（平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生涯学習概論　　授業コード：R20191S103

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 篠原章 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。 |
| 授業の概要 | 生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、外国の生涯教育、日本の生涯教育の先駆け、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。<br>社会人として仕事上必要とする書類作成の要領を公用文を中心に学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション<br>【key words】<br>生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習<br>【授業概要】<br>科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：Ｐ１～４<br>参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分<br>第２回　国際社会の議論　21世紀教育はケルン宣言によって方向づけられ、生涯学習による知識と技術と資格の重要性を解説する。<br>【key words】<br>ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格<br>【授業概要】<br>21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：<br>参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 60分 |
| | 第３回 | 日本での議論・政策　教育基本法は生涯学習の理念を導入、だれでも、いつでも、どこでも学習でき、どう評価するかを考える。<br>【key words】<br>誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス<br>【授業概要】<br>教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明。ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P9～14<br>参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第４回 | 生涯学習の理念と理論１　古代ギリシャの思想、公教育の父コンドルセの公教育理念、私学教育を概観する。<br>【key words】<br>公教育　知識を育てる<br><br>【授業概要】<br>ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。<br>コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P5～6<br>参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>50分 |
| | 第５回 | 生涯学習の理念と理論２　ユネスコとOECDの流れを知り、最近話題のPISAの問題点を考える。<br>【key words】<br>ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　ＰＩＳＡ<br>【授業概要】<br>ユネスコとＯＥＣＤの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。<br>最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P20から22<br>参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ユネスコとＯＥＣＤの基本的な考え方を整理<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>50分 |
| | 第６回 | 生涯学習の内容と形態　民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習への影響を検討する。<br>【key words】<br>役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ<br>【授業概要】<br>生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明<br>生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。<br>最近の民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P37～40<br>参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第７回 | 学校教育と生涯学習　現在の学校は生涯学習の場であり、そのような役割を期待されているかを考える。<br>【key words】<br>リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム<br><br>【授業概要】<br>学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明<br>初等・中等教育を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P49～64<br>参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>50分 |
| | 第８回 | 外国の生涯学習１　ドイツの生涯学習の学習プログラム、統一後の問題点や北欧の生涯学習事情を概説する。<br>【key words】<br>宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル |

【授業概要】
ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。
豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明
【教科書ページ・参考文献】

宿泊型学習プグラ　ブック　学習サクル
【授業概要】
ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。
豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　外国の生涯学習２　オランダの個別教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーを概説する。
【key words】
ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング

【授業概要】
テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　生涯学習の先駆け１　生涯勉強に励むことは古今東西を問わず語られてきた。セネカや世阿弥 佐藤一斎を概説する。
【key words】
初心　修身　学は一生の大事
【授業概要】
生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫
【課題・予習・復習・授業準備指示】
大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　生涯学習の先駆け２　理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生き方、生活倫理実践者の石田梅岩の石門心学を概説する。
【key words】
致良知　　五事を正す　職分　心学
【授業概要】
学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明
生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館
【課題・予習・復習・授業準備指示】
中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　社会教育制度　生涯学習を推進するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。
【key words】
公的社会教育生涯学習センター
【授業概要】
生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P65～86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会教育を担う人々の役割を考えること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　生涯学習支援の動向と課題　個人、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し連携・協力する課題について考える。
【key words】
ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P87～97<br>参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分自身が主体となり学習支援を考える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>50分 |
| | 第１４回　まちづくりと生涯学習　自治体が旗振り役のまちづくりと住民主体のまつづくりで、「学び」がどのように関連しているか考える。<br>【key words】<br>生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化<br>【授業概要】<br>自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P99～110<br>参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回　グローバリゼーションと生涯学習　ダカール行動枠組みなどを初めとする世界の動きを概観し、私たちの生活への影響を考える。<br>【key words】<br>ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い<br>【授業概要】<br>生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：P111～121<br>参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。<br>小論文、レポートは必ず提出すること。<br>5 回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。 |
| オフィスアワー | 講師室で授業後30 分。 |
| 評価方法 | レポート等で総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「テキスト生涯学習　新訂版」学文社 |
| 参考書 | 講義の中で適宜紹介していく。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 |

| | |
|---|---|
| | □その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 心理学　　授業コード：R20191F104

英文科目名称： Introduction to Psychology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 橋本広信 | | | |
| 基礎科目 | | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムについて理解し、人間を理解する視野を広げる。<br>【到達目標】<br>①知覚や認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。<br>②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。<br>③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。<br>④専門職としてやがて出会う「患者の心理」に関連する知識を学ぶことで、今後の医療技術の専門的学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。 |
| 授業の概要 | 広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を短期間で学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。<br>心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。専門職として深くかかわる患者の心理や人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：心理学の歴史を概観する<br>【key words】<br>心身二元論、ヴント、行動主義、精神分析学、マズロー、エリクソン、ゲシュタルト心理学、認知心理学、心理検査、心理統計<br>【授業概要】<br>・心理学がどのようなことを研究対象とし、学問としてどのような流れで変化をしていったのか、心理学の歴史をおおまかに学ぶ。心理学者が何に注目し、どのように心を知ろうとしてきたかを知ることで、心理学が対象とする「心」の特質を知る。を参考に、考えていく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書201-207ﾍﾟｰ、（参考文献）更科功（2019）『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』（ＮＨＫ出版）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書該当範囲について、授業前に予習しておくこと。スレッドに投稿する形でコメントを入力するので、ポップアップブロックなどの設定を解除しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間 |
| | 第２回 | 感覚と知覚：ヒトは環境をどうとらえているか |

【key words】
感覚、適刺激、刺激閾、刺激頂、弁別閾、知覚、知覚の体制化、図と地、プレグナンツの法則、恒常性、錯視
【授業概要】
・生きることは、環境に適応すること。そのために必要な力として発達させてきた感覚と知覚について、内面的な面や働きに注目しながら解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書2-9ページ、山﨑明夫（2016）『にほんごがこんなふうにみえたのよ！』（㈱QOLサービス）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「錯覚」についてウェブサイトなどで調べ、授業後それぞれが学習したことを深めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　注意と認知

【key words】
奥行知覚、運動知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚の異常に基づく発達障害、学習障害、コグニティブ・トレーニング
【授業概要】
ヒト（生物）に備わる「注意」の力や働きを知り、生きる環境の中にある情報を捉える認知の特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書10-14ページ、更科功（2019）『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』（ＮＨＫ出版）、宮口幸治他（2014）『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』（三輪書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「認知作業トレーニング（コグニティブ・トレーニング）」について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　学習の理論

【key words】
レスポンデント条件付け、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け、報酬と罰、強化子、観察学習（バンデューラ）、洞察学習（ケーラー）
【授業概要】
生物にはそれぞれ生まれながらにできる多くの行動（本能）があるが、ヒトの場合はできる行動は大変少ない状態で生まれ、意識的な行動が生後急速にできるようになっていく。ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」され、獲得されていく。この基本メカニズムを理解し、ヒトらしさを形作る学習の力について理解できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書16-19ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習理論は後期で扱う心理療法の重要な理論となるので、しっかりと理解すること。復習に力を入れて、用語を知識として定着させておくこと。また、学習理論と関連する心理療法について自習をして調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　記憶のメカニズム

【key words】
宣言記憶、エピソード記憶、意味記憶、非宣言記憶、手続き記憶、プライミング、チャンク、マジカルナンバー、感覚情報保存、短期記憶、長期記憶、ワーキンメモリー（作動記憶）、展望記憶、健忘
【授業概要】
ヒトが現在の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることが出来るのは、記憶の力があるからである。ここでは、こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか、また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのかについても考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書20-26ページ、（参考文献）ジュリア・ショウ（2016）『脳はなぜ都合よく記憶するのか』（講談社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記憶はリハビリや国試にストレートに関係するテーマであるので、特に予習復習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、課題2時間

第６回　動機づけ

【key words】
マズロー、欲求階層説、自己効力感、学習性無力感
【授業概要】
人に行動を起こさせる心理的な働きである動機づけについて学ぶ。これにより、人の行動を制御するメカニズムや動機づけのあり方、種類を理解し、人の行動を予測したり推察する一つの理論的な手がかりを得る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書28-38ページ、ディラン・エヴァンズ（2005）『感情』（岩波書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
やる気を失わせたり、引き出したりした、親や教師、友人の言葉などの思い出を書き出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第７回　感情

【key words】
情動、ジェームズ・ランゲ説、キャノン・バード説、情動二要因説（シャクターとシンガー）、ホメオスタシス（キャノン）、マズロー、欲求階層説、アンダー・マイニング効果パーソナリティ
【授業概要】
ヒトの心に備わる働きの一つである感情（情動）ややる気（動機付け）のメカニズムについて学ぶ。心は常に何らかの刺激に反応し、動き続ける。それとともに、行動に向かう心や遠ざかる心

も動き続ける。情動や動機づけのメカニズムや種類を学ぶことで、人の心を動かす基本的な要素について理解していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書44-47ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
人が「感情的になりやすい場面」について調べ、具体例を漫画、映画、ドラマ、小説などの中から探し書き出しておくこと。発言を求められたら答えられるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第８回　パーソナリティとその調べ方

【key words】
類型論、特性論、向性、ビッグファイブ、パーソナリティ検査
【授業概要】
・同じ環境下にあっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ（人格）として捉える視点を学ぶ。また、様々なパーソナリティの捉え方について理解することで、どのようにパーソナリティというものを考えればよいのかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書48-49、52-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習2時間

第９回　知能

【key words】
知能、ガードナー、ビネー、知能検査、ウェクスラー、IQ、認知機能検査、長谷川式簡易知能評価スケール
【授業概要】
学習や適応に関する全般的な力である知能について学ぶ。知能というものそのものについて考えたのち、それをどう、様々に開発されてきた知能検査について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書68-80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知能検査の種類について、特にリハビリ国家試験の過去問題に出てきたものについて、自分で調べて整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　思考と推理

【key words】
アルゴリズム、ヒューリスティック、集中的思考（収束的思考）、拡散的思考、アナロジー、帰納的推論、演繹的推論、転動推理、確証バイアス、ディープラーニング
【授業概要】
ヒトは本能的・感覚・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって状況を推理したり、状況を打破する方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書82-92ページ、三宅芳雄・三宅なほみ（2014）『新訂教育心理学概論』（放送大学教育振興会）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
92ページの4枚カード問題（ウェイソン問題）を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　ヒトはどのように変化していくのか？　ピアジェの発達理論

【key words】
胎児期、生理的早産、乳児期、言葉の発達、幼児期、ピアジェ、シェマ、前操作期、感覚運動期、具体的操作期、形式的操作期、ヴィゴツキー、発達の再近接領域
【授業概要】
ヒトは生物として見た時、非常に変わった状態で誕生する。このことの持つ意味や意義を確認しながら、人が乳幼児期から児童期という子ども時代に、内面的にはどのような力や感覚を発達させていくかについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書94-107ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ネットなども使って、ピアジェの認知発達理論についてよく調べておくこと。幼い頃の自分が描いた絵や作文などを探して一つ写真かコピーを撮っておくこと。（授業時に提出日を指示した上で提示予定）
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　エリクソン（Erikson）の発達段階理論①　子どもから青年へ

【key words】
基本的信頼 対 不信：希望、自律性対恥・疑惑：意志、主導性イブ対罪悪感：目的、勤勉対劣等感：コンピテンシー、アイデンティティ対アイデンティティ拡散：忠誠、モラトリアム
【授業概要】
独自の発達段階論で有名な、エリク・エリクソンによるエピジェネティック・チャート（発達の漸成理論図）のうち早期の５段階について解説する。持って生まれた能力を子ども時代の遊びや仲間関係を通じてそれぞれに伸ばしながら、やがて子どもたちは家族から離れ、それぞれの「社会」に入るための訓練を受ける時期を迎える。学校を中心とした生活において学習などの適応課題にうまく対処することで、社会で適応的に生きる力を伸ばすが、その逆も多く起こる。身体の急速な変化とともに、社会への入り口を探し始め、青年期を生き始める。ヒトが大人になるというプロセスを知ることで、人間の一生をイメージすることができるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書101、98-116ページ

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>主にスライドや演習、活動を通して青年期が何故あるのかを考える。積極的に参加すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習2時間、復習2時間<br>第１３回　エリクソン（Erikson）の発達段階理論③　中年期・老年期<br>【key words】<br>ジェネラティビティ、加齢、更年期、空の巣症候群、中年期の危機、サクセスフルエイジング、モーニング・ワーク、グリーフワーク、お迎え現象<br>【授業概要】<br>長い時間をかけてオトナとしての時間を生きていくうちに、やがてヒトは種々の能力や社会的なつながり、立場を喪失し、衰退を体験する人生後半の課題に向き合うことになる。この人生の後半にこそ、ネガティブな自分の心に捕らわれず、創造的に変化を遂げることが試される。一人のヒトとして自分の人生をいかに閉じていくか、ライフサイクル終盤の発達課題について検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書112-124ページ、プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>偉人の一生など、ライフサイクル全体を見通して描かれたような映画を探し、あらすじを報告できるようにしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間<br>第１４回　ヒトとして、心が健康である状態とは？：精神的健康<br>【key words】<br>抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安神経症、統合失調症、人格障害、物質関連性障害、心身症　等<br>【授業概要】<br>ヒトは体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとらわれて日々の生活を送る人々がいる。青年期は特に体も社会的立場も不安定で、精神的に不健康になりやすい。本格的な一人一人の苦悩に寄り添う臨床心理学は後期に学ぶが、ここでは、心の健康が損なわれている状態について理解を深めることで、健康な心というものを考えていく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書149-164ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ゲスト講師の講義を次週に組んだ場合、調べ学習の課題を出す予定。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間<br>第１５回　大きな変化と出会う時、心はどう揺れるのか？（ゲストを呼ばない場合は教科書第14章心理学の応用分野を学ぶ）<br>【key words】<br>障害受容、病の意味、NBM（ナラティブ・ベイスド・メディスン）<br>【授業概要】<br>カウンセリングや臨床心理に関する学習は後期に行う。ここでは将来医療現場で仕事をする受講生の特性を考え、人生の中で大きな病を体験したゲスト講師をお呼びし、医療的支援を受けた患者当事者や医療専門職の方が、医療的な問題と出会う中で感じたこと、考えたことをお聞きし、医療の中で出会う心の問題について学ぶ。生きていくということは、長い人生のどこかで、病や事故という想像しえない出来事と出会う可能性の中に生きることでもある。そうした出来事によって「患者」となった人を支える職業に将来就くものとして、大事なことは何かを考える機会とする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料：事前に提示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前にゲスト講師に関連する病や障害などを調べ、「質問」を一つ必ず用意しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習3時間、復習1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという、人間観の基礎を培う科目に位置づけられる。<br>・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。<br>〔受講のルール〕<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。<br>・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッドで資料配布をするので、そこへの返信の形で、授業後すぐに授業へのコメントを書き込むこと。質問はもちろん、授業の進め方や感想、自分で学習して興味が出たことなど自由に描くこと。少なくとも3行以上は書くこと。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。<br>・授業時に紹介する図書や映画などを自主的に学習すること。 |
| オフィスアワー | 前橋キャンパスで授業を行うので、授業後2号館2階東角にある高等教育支援センターにて声をかけること。特に決まった時間は設けない。授業後の質問、メールによる質問も受け付ける。（メール：hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp） |
| 評価方法 | ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：Ｃ、70-79点：Ｂ、80-89点：Ａ、90点以上Ｓ<br>・原則期末試験で80％、小レポート・課題提出等で20％として総合的に評価をする。 |
| 教科書 | 二宮克己（編著）（2016）『ベーシック心理学 第2版』（医歯薬出版） |
| 参考書 | 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2020）『心理学（第5版補訂版）』（東京大学出版会） |

| | |
|---|---|
| | 内山　靖・藤井浩美・立石雅子（編著）（2020）『リハベーシック　心理学・臨床心理学』（医歯薬出版） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容<br>状況によってzoomを用いて授業を行う。 |

講義科目名称： 国際文化論　　授業コード： R20191F105

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 久山宗彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>国際文化論（ intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。<br>〔到達目標〕<br>国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。 |
| 授業の概要 | 世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（ 諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～<br>【key words】<br>ウクライナ・シリア難民、対話と独語、平和<br>【授業概要】<br>特に難民問題と日本の関わりを巡って言及する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分 |
| | 第２回 | 和の文化（ １ ）～その構造について～<br>【key words】<br>和、多様性、聖徳太子<br>【授業概要】<br>「和」と同一性・均一性の違いを特に強調したい。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分 |
| | 第３回 | 和の文化（ ２ ）～神の文化との比較～<br>【key words】<br>open-nationalism,日本人としてのIdentity |

【授業概要】
自分たちが持っている優れた特徴ある文化的なものを、これからは国際社会で貢献できるもの、分かち合えるものにしていってはどうであろうか。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　マルティン・ブーバー（ Martin Buber）の「関係」の哲学（ １ ）
【key words】
はじめに関係があった、対話と独語、Ich-Du Ich-Es
【授業概要】
人間は他者に対して、「我～汝」、「我～それ」の二つの態度をとっている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　マルティン・ブーバー（ Martin Buber）の「関係」の哲学（ ２ ）～医療世界への応用～
【key words】
ブーバー、主観と客観・主体と客体
【授業概要】
ブーバーの理論は、医療従事者と患者がいかなる関係になるかを明示してくれている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子・福沢諭吉
【key words】
聖徳太子、華夷秩序、脱亜論
【授業概要】
聖徳太子が隋の煬帝に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」
という手紙に、日本外交の原点があるのではないか
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　日本・韓国・中国の文化の違い
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私たちはどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　ヨーロッパ文明とEU、そしてEUの英国・トルコとの関わり（東アジアと比較）
【key words】
ドイツ・フランス・イタリア、ド・ゴール、東アジア共同体構想
【授業概要】
EUはアメリカニズムに対する危機感から生じたとも言える。しかし、地域統合には独自性と一体性があるから、限界もある。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　日本と中東（ １ ）
【key words】
ムハンマド、共存・共生、斎戒
【授業概要】
「和」を提唱した聖徳太子と「サラーム」（平和）の世界観を紹介したムハンマドが同時代人であったということもあって、日本と中東には共通の観念が多々見られることも紹介し、現代の中東世界の特徴についても言及する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
６０分

| | |
|---|---|
| | 第１０回　日本と中東（２）<br>【key words】<br>ハリーファ、サウジアラビアからヨルダンまで、統合と断絶<br>【授業概要】<br>日本史に現れる権威としての天皇と将軍は、イスラーム史におけるハリーファ（カリフ）とスルターンの関係のようである。ところで、中東地域それぞれの国家の統合の柱は、宗教、言語（民族）の視点で見ると分かり易いと思う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１１回　国際ボランティア活動、かつての湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動<br>【key words】<br>イラク、国際ボランティア活動、経済制裁<br>【授業概要】<br>湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性を明らかにする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１２回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて<br>【key words】<br>ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure<br><br>【授業概要】<br>医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１３回　「国際平和」実現への第一歩とは（1）<br>【key words】<br>旧約・新約聖書、報復、汝の敵を赦す・愛する<br><br>【授業概要】<br>「あなたの目はその人に憐みを掛けてはいけない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならない」（申命記１９～２１）とあるが、この旧約の報復の論理を身をもって克服・完成させたのは誰であろうか。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>６０分<br>第１４回　「国際平和」実現への第一歩とは（２）<br>【key words】<br>ウクライナ・シリア難民、聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際、積極的な反一抵抗・敵対<br>【授業概要】<br>聖遷（ヘジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１５回　国際文化論として考えるリハビリテーション<br>【key words】<br>リハビリテーション観、宗教観、障害<br>【授業概要】<br>世界をリードする立場にある日本のリハビリテーションであるが、それぞれの国との関係では言語・行政問題以外では、リハビリテーション観・宗教観の違いに注目することが重要である。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業レジュメを配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>特にはありません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>６０分<br>６０分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業レジュメは原則として毎回配布する。<br>・授業には積極的な態度で臨むように。 |

| | |
|---|---|
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。 |
| オフィスアワー | 授業後の10分間は対応可能です。 |
| 評価方法 | 最終レポート試験（ 80%）、授業時等のレポート（ 20%）。 |
| 教科書 | 教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（ 北樹出版）もそのうちの一つである。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 物理学　　授業コード： R20191S107

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 品川和男・柴ひとみ | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。<br>②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。<br>③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解する。 |
| 授業の概要 | 物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 人体における力の働き方 / 物理量とその表し方<br>【key words】<br>バイオメカニクス、単位、累乗、有効数字<br><br>【授業概要】<br>(1) 理学療法や作業療法と関連性のある人体における力の働き方について、自身の体を使って理解する。（担当：柴）45分。<br>(2) 物理量とその表し方について学ぶ。<br>①物理量とは②単位③ベクトル量とスカラー量④大きい数と小さい数の表し方⑤累乗の計算法⑥有効数字とその計算　45分<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ14～ｐ15、ｐ26～ｐ29<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分　～　90分 |
| | 第２回 | 力と重心 (1)<br>【key words】<br>力の3要素、重心、圧力<br><br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 力の働きと重心の求め方について学ぶ。<br>①力とは②力の3要素③力の単位④いろいろな力⑤重さと質量⑥重心⑦身体の重心<br>⑧圧力（大気圧と水圧）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ8～ｐ25<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分 |
| | 第３回 | 力と重心（2）<br>【key words】<br>ベクトル量とスカラー量、力の合成・分解、力のつりあい<br>【授業概要】<br>力の表し方と力の合成や分解の仕方について学ぶ。力のつりあいと作用・反作用の法則について学ぶ。<br>①ベクトル量とスカラー量②ベクトルの合成と分解③力のつりあい④作用・反作用の法則<br>⑤身体の重心を求める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ30～ｐ51<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分　～　90分 |
| | 第４回 | 床反力と身体運動（1）<br>【key words】<br>床反力、COP<br><br>【授業概要】<br>足底が床から受ける床反力とそれらを合成した床反力ベクトルについて学ぶ。床反力ベクトルの作用点（COP）と立位姿勢を安定させる条件について学ぶ。<br>①床反力とCOP②立位姿勢を安定させる条件<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ54～ｐ67<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分 |
| | 第５回 | 床反力と身体運動（2）<br>【key words】<br>エレベータ内で受ける力、慣性力<br>【授業概要】<br>（1）体験を通して、エネベーターに乗っている人が受ける力を理解する。（担当：柴）60分<br>（2）エレベーターが加速や減速をしている時、エレベーター内にいる人が受ける力（慣性力）について学ぶ。30分<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ56～ｐ57<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分 |
| | 第６回 | 床反力と身体運動（3）<br>【key words】<br>床反力ベクトルの合成・分解・成分<br>【授業概要】<br>身体にかかる力をベクトルで表し、そのベクトルの合成や分解の仕方について学ぶ。また、ベクトルの成分表示について学ぶ。<br>①床反力ベクトルの合成②床反力ベクトルの分解③ベクトルの成分表示<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ68～ｐ81<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分 |
| | 第７回 | 並進運動と運動の法則（1）<br>【key words】<br>並進運動、変位、速度、加速度、慣性の法則、運動の法則、運動方程式<br>【授業概要】<br>並進運動において変位、速度、加速度とは何かについて学ぶ。慣性の法則や運動の法則について理解し、運動方程式の立て方と使い方について学ぶ。<br>①並進運動と回転運動②速度と加速度③慣性の法則④運動の法則⑤運動方程式<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ84～ｐ101<br>パワーポイントのスライドプリント |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　並進運動と運動の法則（2）
【key words】
変位と速度と加速度のグラフ、重心の移動

【授業概要】
変位・速度・加速度と時間との関係を表すグラフについて学び、変位と速度と加速度の関係について理解する。重心の移動と重力・床反力との関係について学び、床反力が身体の運動を作ることを理解する。
①変位と速度と加速度のグラフ②変位と速度と加速度の関係③重心の移動と重力・床反力との関係
④床反力が身体の運動を作る
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ102～ｐ115
パワーポイントのスライドプリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　回転運動とモーメント（1）
【key words】
回転運動、モーメント、てこ、モーメントのつりあい、レバーアーム（腕の長さ）、第1のてこ、第2のてこ、第3のてこ、力点、支点、加重点

【授業概要】
（1）片手で重錘を持ち、肘関節を伸展させたまま肩関節を屈曲する場合と、肘関節を屈曲させたまま肩関節を屈曲する場合の違いを体験する。また、力のつりあいや3種類のてこについて理解する。（担当：柴）45分
（2）回転運動とモーメントについて、また、回転運動とてこについて学ぶ。モーメントのつり合いについて理解する。さらに、3種類のてこの特徴と違いについて学ぶ。45分
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ118～ｐ129
パワーポイントのスライドプリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　回転運動とモーメント（2）
【key words】
関節、骨格筋、関節モーメント、筋力
【授業概要】
筋が関節を動かすことで身体運動が作られることを学び、てことして働く骨と関節と筋の関係について理解する。筋力による関節モーメントについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ130～ｐ137
パワーポイントのスライドプリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　回転運動とモーメント（3）
【key words】
膝関節、股関節、足関節、関節モーメント、関節間力
【授業概要】
姿勢を保つときの関節モーメントの働きについて学ぶ。荷物を持って立ち上がる動作での関節モーメントの働きについても学ぶ。
①膝関節と股関節における関節モーメント②腰の関節への負担を関節間力で求める
③関節モーメントを意識した荷物の持ち上げ
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ138～ｐ147
パワーポイントのスライドプリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　エネルギーとパワー（1）
【key words】
仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー、エネルギーの変換、エネルギー保存の法則
【授業概要】
仕事や力学的エネルギーについて理解する。力学的エネルギーには運動エネルギーと位置エネルギーがあり、ある条件のもとでは力学的エネルギーが保存されることについて学ぶ。
①仕事②力学的エネルギー③エネルギーの変換④力学的エネルギー保存の法則
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ150～ｐ163

| | |
|---|---|
| | パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分<br>第１３回　エネルギーとパワー（2）<br>【key words】<br>仕事率（パワー）、関節パワー、求心性収縮、等尺性収縮、遠心性収縮、正の関節パワー、負の関節パワー<br>【授業概要】<br>仕事率（パワー）について学び、関節パワーについて理解する。筋の収縮様式には3種類あることについて学び、関節パワーには正と負があることについて理解する。<br>①パワーと仕事率②関節パワー③関節パワーと筋の収縮様式<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ164～ｐ173<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分<br>第１４回　運動量と力積、熱の伝わり方<br>【key words】<br>運動量、力積、作用時間、運動量の変化と力積の関係、運動量保存の法則、伝導、対流、放射<br>【授業概要】<br>運動量と力積について学び、運動量の変化が力積に等しいことを理解する。ジャンプ動作や飛び降り動作における力積について、特に、作用時間との関係について学ぶ。運動量保存の法則について学ぶ。熱の3つの伝わり方について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　ｐ176～ｐ189<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>宿題の問題を解き、次回発表できるようにしておく。本日のスライドプリントと教科書の該当ページを復習する。次回の教科書の該当ページを読んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～120分<br>第１５回　波・電磁気・原子・原子核<br>【key words】<br>超音波、光の強度、光ファイバー、渦電流、放射線（X線、α線、β線、γ線）<br><br>【授業概要】<br>波の波長・振動数・速さとそれらの関係について学ぶ。超音波の吸収、反射、屈折、干渉の現象につて学ぶ。光の強度と光源からの距離の関係や光線を当てる角度によって強度が変化することを学ぶ。光ファイバーの仕組みや渦電流が起こる仕組みについて学ぶ。放射線の種類とその性質、医療への応用について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>パワーポイントのスライドプリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>本日のスライドプリントを復習する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>300分～ |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報　〕<br>・高校で物理を履修していなくてもよい。授業の前に教科書を読んでおおよその内容を把握しておくこと。<br>・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。<br>・3から4人のグループを作るので、座席はグループで活動しやすい位置にする。<br>〔受講のルール〕<br>・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。<br>　分からないところをそのままにしないようにする。<br>・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後、宿題の問題を解き、次回の授業で発表できるようにしておくこと。確認テストを数回行う予定なので、その準備をしておくこと。 |
| オフィスアワー | ・授業終了後30分間<br>・シャトルカードに質問を書いておけば、次の授業で返答します。 |
| 評価方法 | 確認テスト20%、筆記試験80% |
| 教科書 | 姿勢と運動の力学がやさしくわかる本（ナツメ社） |
| 参考書 | PT・OTゼロからの物理学（羊土社） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>　□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容 |

| | |
|---|---|
| | アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 法学　　授業コード： R20191F108

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森田隆夫 | | | |
| 基礎科目 | | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。 この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。<br><br>【到達目標】<br>①六法で条文を調べることができる。<br>②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。<br>③法を解釈するという思考方法をとることができる。 |
| 授業の概要 | 法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を理解してもらいます。<br>さらに、具体的な事案についてディベートすることで、法解釈を体験してもらいます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範<br>【key words】<br>社会規範、法源、法の解釈<br>【授業概要】<br>授業の進め方（シラバスの説明）<br>法の市民生活との関わり合い（日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理網領」）<br>「法源」、「法の解釈」について<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ1～7<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書 Ｐ7～16<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 概論2：市民生活の各領域と主な関係法<br>【key words】<br>日常生活上の法律関係、仕事上の法律関係、消費者保護関連法、不法行為法、労働関係法<br>【授業概要】<br>日常生活や仕事上、生活上の法律関係（消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等）<br>関連する事例についての討論 |

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ7～16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ17～28
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　憲法1：憲法総論、基本的人権総論1
【key words】
憲法、基本原理、日本国憲法、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重
【授業概要】
憲法一般の概念・歴史・基本原理
日本国憲法の歴史・基本的原理、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重等
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ17～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：　教科書　Ｐ28～33
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
【key words】
人権、新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由
【授業概要】
人権についての思考方法
新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ28～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：　教科書　Ｐ33～36
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　憲法3：表現の自由、経済的自由
【key words】
表現の自由、知る権利、経済的自由
【授業概要】
民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等
経済的自由（精神的な自由との比較も含めて）
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ33～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ36、Ｐ38～41
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　憲法4：財産権、社会権
【key words】
財産権、社会権
【授業概要】
財産権
「国家による自由」と言う性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら）
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ36、Ｐ38～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ36～38、Ｐ41～42
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務
【key words】
人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務
【授業概要】
人身の自由
その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ36～38、Ｐ41～42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　Ｐ43～51
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣
【key words】
統治、権力分立、国会、立法権、内閣、行政権
【授業概要】
統治機構の概説（権力分立を中心として）
国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等
行政を担当する内閣の地位、組織、権能等
関連する事例についての討論
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ43～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | 予習：教科書　Ｐ52～63<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第９回 | 憲法7：裁判所、財政、地方自治<br>【key words】<br>裁判所、司法権、財政、財政民主主義、法地方自治、地方自治の本旨<br>【授業概要】<br>裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。<br>財政における民意を反映方法<br>法地方自治につき、その本旨から考える<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ52～63<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ65～71<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１０回 | 民法1：民法総則<br>【key words】<br>法律行為、権利能力、行為能力、代理、時効<br>【授業概要】<br>法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力<br>その他、代理、時効等<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ65～71<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ81～85<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１１回 | 民法2：契約総論<br>【key words】<br>契約、契約の成立、契約の効力、解除<br>【授業概要】<br>法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ81～85<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ85～92<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１２回 | 民法3：契約各論<br>【key words】<br>売買、賃貸借、典型契約、不法行為<br>【授業概要】<br>売買、賃貸借等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ85～92<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ101～115<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１３回 | 民法4：親権<br>【key words】<br>婚姻、親子、親権<br>【授業概要】<br>夫婦の関係、親子の関係<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ101～115<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書　Ｐ115～126<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１４回 | 民法5：相続<br>【key words】<br>相続、相続人、相続分、遺言<br>【授業概要】<br>遺言のない場合のための法定相続、自らの意思に基づく遺言、<br>関連する事例についての討論<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ115～126<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書、プリント等の見直し<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回 | まとめ<br>【key words】<br>法学概論、憲法、民法、まとめ<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめＰ2～180<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Ｐ2～180<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。<br>・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。 |
| オフィスアワー | 火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時 |
| 評価方法 | 定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。 |
| 教科書 | ・森長秀 編著「法学入門 」第2版 光生館，2022年<br>・有斐閣「ポケット六法」（最新のもの） |
| 参考書 | 授業中に随時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 経済学　　授業コード：R20191S109

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 白石憲一 | | | |
| 基礎科目 | | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。 |
| 授業の概要 | 経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>経済学<br>【授業概要】<br>授業の概要について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>21頁～240頁<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の該当ページを確認する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間 |
| | 第２回 | 貧困<br>【key words】<br>相対的貧困<br>【授業概要】<br>貧困の種類について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「国民生活基礎調査」（厚生労働省）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>相対的貧困について調べる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間 |
| | 第３回 | 社会保障と経済<br>【key words】<br>医療保険制度、アメリカ<br>【授業概要】<br>福祉施策と経済学との関わりについて学習する。 |

【教科書ページ・参考文献】
「社会保障」（中央法規）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アメリカの医療保険制度について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第４回　GDP
【key words】
ＧＤＰ、三面等価の原則
【授業概要】
ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
「国民経済計算」（内閣府）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第５回　経済成長
【key words】
ソロー、労働、資本、技術進歩
【授業概要】
新古典派の経済成長理論について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
経済成長率の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第６回　ストック経済学
【key words】
株価
【授業概要】
株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の株価を新聞で確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第７回　国際収支
【key words】
国際収支表
【授業概要】
国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
国際収支表の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第８回　国際金融
【key words】
為替レート
【授業概要】
為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
為替レートの統計数字を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第９回　経済史
【key words】
経済史
【授業概要】
所得不平等の歴史について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「21世紀の資本」（みすず書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「21世紀の資本」（みすず書房）の関心のある章を学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１０回　21世紀の資本
【key words】
トマ・ピケティ
【授業概要】
近年の世界的な所得格差拡大の実態について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
「21世紀の資本」（みすず書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジニ係数の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 4時間<br>第１１回　金融<br>【key words】<br>貨幣ストック<br>【授業概要】<br>貨幣ストックについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「入門マクロ経済学」（日本評論社）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>貨幣ストックの種類を調べる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間<br>第１２回　金融政策<br>【key words】<br>中央銀行<br>【授業概要】<br>金融政策の概要と経済との関係について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「入門マクロ経済学」（日本評論社）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>金融政策の種類を確認する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間<br>第１３回　ナッジ<br>【key words】<br>行動経済学<br>【授業概要】<br>ナッジの概要と活用事例について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「予想どおりに不合理」（早川書房）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ナッジの活用事例を調べる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間<br>第１４回　教育の経済学<br>【key words】<br>認知能力、非認知能力<br>【授業概要】<br>認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>認知能力、非認知能力について調べる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間<br>第１５回　経済学と日本経済<br>【key words】<br>経済理論<br>【授業概要】<br>経済理論と経済現象の関係について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>21頁～240頁<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>新聞を読む。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>4時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。 |
| オフィスアワー | 木曜日4 限。 |
| 評価方法 | 試験（ 60%）と授業中の課題（ 40%）によって評価。 |
| 教科書 | 井堀利広「大学4 年間の経済学が10 時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015 |
| 参考書 | 中谷巌「入門マクロ経済学」（ 日本評論社）2007 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション |

| | |
|---|---|
| | □実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 情報処理Ⅰ　　授業コード：R20191F120

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 藤本　壱 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする<br>【到達目標】<br>①パソコンの基本的な操作を理解する<br>②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる<br>③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる<br>④P検3級の試験を受験できる<br>④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる<br>⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる<br>⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる |
| 授業の概要 | 授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報利活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。<br>また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られうようにする |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション、パソコンの基本操作<br>【key words】<br>情報リテラシー、パソコンの基本<br>【授業概要】<br>情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する<br>・講義のオリエンテーション<br>・情報リテラシーの必要性<br>・情報を利活用する上でのパソコンの役割<br>・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・情報リテラシーの基本を復習する<br>・キーボード入力を練習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 情報の収集と利用<br>【key words】<br>インターネット、検索、図書館 |

【授業概要】
レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する
・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc)
・インターネットの仕組み
・ホームページの検索(Google)
・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど)
・図書館の蔵書の検索
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ホームページで各種の情報を検索する
・図書館で必要な蔵書を検索する
【予習復習に必要な想定時間】
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レポート・論文の作成(1)
【key words】
レポート、論文
【授業概要】
レポートや論文を作る基本的な流れを学習する
・レポート・論文の基本(作文との違いなど)
・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む)
・Wordでの文書作成の基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レポート・論文の作成(2)
【key words】
書式、構成
【授業概要】
レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する
・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
・文書の構成を整える(箇条書きなど)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　情報の分析や可視化(1)
【key words】
Excel、表、分析、可視化
【授業概要】
情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する
・情報の分析・可視化とExcelの関係
・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など)
・Excelでの基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など)
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　プレゼンテーション(1)
【key words】
プレゼンテーション、PowerPoint
【授業概要】
プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する
・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など)
・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など)
・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レポート・論文の作成(3)
【key words】
表
【授業概要】
レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作)
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　レポート・論文の作成(4)

【key words】
図形、写真、ワードアート、スマートアート
【授業概要】
レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する
・図形の挿入と書式設定
・図や写真の挿入
・図等のレイアウト
・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入
・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　レポート・論文の作成(5)

【key words】
改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次
【授業概要】
レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する
・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど)
・改ページの挿入
・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用
・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定
・目次の作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポートを美しく仕上げる練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　情報の分析や可視化(2)

【key words】
棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ
【授業概要】
多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する
・棒グラフの作成
・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定
・折線、円グラフの作成
・複合グラフの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフの作成を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　情報の分析や可視化(3)

【key words】
計算、集計、分析
【授業概要】
多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ
・Excelでの計算の基本
・データの集計(合計、最大値、最小値など)
・データ分析の基本(平均、標準偏差など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
数式や関数を使った計算を練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　プレゼンテーション(2)

【key words】
画面切り替え、アニメーション、動画
【授業概要】
聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ
・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え)
・プレゼンテーション内での動画や音声の利用
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　プレゼンテーション(3)

【key words】
発表、練習、アフターフォロー
【授業概要】
プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能

| | |
|---|---|
| | を学習する<br>・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など)<br>・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど)<br>・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際のプレゼンテーションを行えるように練習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１４回　文書等の活用と管理<br>【key words】<br>コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する<br>・アプリケーション間のコピーと貼り付け<br>・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念<br>・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アプリケーション間のデータのやり取りを練習する<br>ファイル操作に慣れる<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成<br>【key words】<br>情報セキュリティ、情報モラル、課題<br>【授業概要】<br>情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する<br>また、課題の作成も行う<br>・情報セキュリティ<br>・情報モラル<br>・課題内容の説明<br>・課題作成実習<br>・課題を作成して期限までに提出<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>情報セキュリティに留意し、ウィルス感染などの被害を受けないようにする<br>情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする<br>課題を作成して期限までに提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。<br>[受講のルール]<br>・積極的に授業に臨むこと。<br>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。<br>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業の資料をホームページで配布するのでそれを見て復習する<br>レポート作成などで授業の内容を活用する |
| オフィスアワー | 授業開始前20分間 |
| 評価方法 | レポート課題による評価(100%) |
| 教科書 | スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり) |
| 参考書 | 繰り返して慣れる!完全マスターWord　Office365・Office2019対応、NOA出版<br>繰り返して慣れる!完全マスターExcel　Office365・Office2019対応、NOA出版<br>ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>Office関係の雑誌原稿執筆多数あり<br>コンピュータ関連書籍執筆多数あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育 |

| | |
|---|---|
| | ■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>授業を毎回録画してYouTubeで配布 |

講義科目名称： 情報処理Ⅱ　　授業コード： R20191S121

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 藤本　壱 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>情報処理Iに続き、パソコンをより深く使いこなせるようになることを目的とする。<br>また、自助具作成などのために、パソコンで立体の物を作ることも目的とする。<br>【到達目標】<br>①Word／Excel／PowerPointをより深く使いこなすことができる。<br>②3Dデータの作成方法を学び、自助具作りに生かすことができるようになる。 |
| 授業の概要 | WordおよびExcelのより詳しい使い方を学ぶ。<br>3次元モデリングソフトのFusion 360の基本的な使い方や、3Dプリンタでの出力などを学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | レポート・論文の作成(6)<br>【key words】<br>脚注、図表番号、テンプレート<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する<br>・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注)<br>・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照)<br>・テンプレートの作成<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | レポート・論文の作成(7)<br>【key words】<br>セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献<br>【授業概要】<br>レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する<br>・段組みの設定(2段組み等)<br>・セクションで文章を複数のブロックに区切る<br>・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入<br>・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する)<br>・引用文献の挿入<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第３回 | 情報の分析や可視化(4)<br>【key words】<br>スパークライン、条件付き書式<br>【授業概要】<br>Excelで情報を可視化する方法を学習する<br>・スパークラインの作成<br>・条件付き書式の設定<br>・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第４回 | 情報の分析や可視化(5)<br>【key words】<br>データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル<br>【授業概要】<br>多くのデータを元に分析を行う方法を学習する<br>・データベース用のデータ入力<br>・データの並べ替え<br>・データの抽出<br>・ピボットテーブルを使った集計<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第５回 | 情報の分析や可視化(6)<br>【key words】<br>相対参照、絶対参照、関数<br>【授業概要】<br>情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する<br>・相対参照と絶対参照<br>・順位(RANK関数)<br>・複合条件(AND関数／OR関数)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第６回 | 情報の分析や可視化(7)<br>【key words】<br>名前、関数<br>【授業概要】<br>情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する<br>・セルに名前を付けて数式で利用する<br>・セルにふりがなを表示する<br>・日付に関する関数<br>・文字列に関する関数<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>名前機能や各種の関数の使い方を理解する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第７回 | 3Dプリンタによる物作りの概要<br>【key words】<br>3Dプリンタ、3Dデータ<br>【授業概要】<br>3Dプリンタによる物づくりについて、その概要を学習する<br>・医療と3Dプリンタの関係<br>・3Dプリンタの仕組みや方式<br>・3Dデータの入手や作成の概要<br>・3Dプリンタでの出力の概要<br>【教科書ページ・参考文献】<br>スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>3Dプリンタや3Dデータについて復習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第８回 | Fusion360の基本操作(1)<br>【key words】<br>Fusion 360、立体<br>【授業概要】<br>Fusion360で基本的な立体を作る手順を学習する<br>・基本的な立体(直方体など)の作成 |

・立体の移動や回転
・各種の立体作成操作（トーラス、ミラーなど）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スライド資料
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　Fusion360の基本操作(2)
【key words】
スケッチ、押し出し
【授業概要】
教科書2章の作業を実際に行い、Fusion360に慣れる
・下書き画像の配置
・スケッチの作成
・スケッチの立体化
【教科書ページ・参考文献】
教科書第2章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平面に描いたものから立体を作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　Fusion360の基本操作(3)
【key words】
スケッチ、拘束、押し出し
【授業概要】
教科書第5章の作業を実際に行い、平面に絵を描いてそれを立体化する手順を学習する
・スケッチの作成
・拘束の設定
・スケッチから立体を押し出す
【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スケッチの作成を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　Fusion 360の基本操作(3)
【key words】
フォーム
【授業概要】
粘土細工的な物作りができるフォーム機能を学習する
・フォーム
・フォームの押出
・フォームの移動
・フォームの拡大、縮小、回転
【教科書ページ・参考文献】
教科書第8章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土細工のような要領で立体を作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　3Dプリンタ出力を想定したデータの作成
【key words】
サポート、分割
【授業概要】
3Dプリンターの制限を考慮して、それに対応した3Dデータを作ることを学習する
・普通には出力しづらい／できない形状
・サポートを利用して出力する
・複数の部品に分割して出力する
・ネジ穴の作り方
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
3Dプリンタで出力しづらい形状があるので、それに対応したデータを作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　自助具を作ってみる
【key words】
自助具
【授業概要】
ごく簡単な自助具を作ることを通して、Fusion360に慣れる
・ストローホルダーの作成
・スプーンホルダーの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
具体的なものを作る方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　3Dプリンタでの出力
【key words】
スライス、素材、パラメータ、3D出力サービス

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>モデリングした3Dデータを、3Dプリンタで実際に出力するまでの流れを学習する<br>・素材の選択<br>・データのスライス<br>・出力パラメータの調整<br>・3D出力サービスの利用<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書第3章、スライド資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>3Dデータを3Dプリンタで出力するまでの流れを復習する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１５回　3Dデータ作成実習<br>【key words】<br>3Dプリンタ、3Dデータ<br>【授業概要】<br>・好きなものを自分で考えて作ってみる<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>作成したデータを期限までに提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。<br>[受講のルール]<br>・積極的に授業に臨むこと。<br>・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。<br>・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業の資料は公開するので、それを使って復習すること |
| オフィスアワー | 授業開始前20分間 |
| 評価方法 | 平常点(50%)、3Dデータの作成（50%） |
| 教科書 | スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり) |
| 参考書 | はじめてでも簡単 ！ 3Dプリンタで自助具を作ろう、三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>パソコン関連書籍執筆多数<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>授業を録画して後でYouTubeで視聴可能にしている |

講義科目名称： マスメディア論　　授業コード：R20191S130

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 新井英司 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。そのために、物事を客観的に見ていくには<br>どうしたらよいのだろうか。<br>　３６年前、群馬県上野村で起きた日航機の墜落という大惨事を多角的に見つめながら、墜落は事故だった<br>のか、それとも事件だったのか、考察してゆきます。<br>【到達目標】<br>①ものの見方、考え方が深められるようになる。<br>②客観的な認識の方法と態度について理解する。<br>③メディア・リテラシーが磨かれる。<br>④複眼で見る大切さを知る。<br>⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。 |
| 授業の概要 | 　日航１２３便の墜落は単独機としては世界最大の犠牲者、５２０人を数えました。しかし、３６年も<br>経とうとするいま、依然として原因は不明で、墜落の責任はだれ一人とっていません。<br>　そこで、墜落をめぐる国、自衛隊、警察、日航、米軍等の動きを追いながら、墜落の真相を探ります。<br>　５２０人もの犠牲者を出しながら誰一人責任を取らず、納得のいく原因もままならない腑に落ちない墜落の<br>実態を最新の資料を見ながら深めていきます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　　オリエンテーション<br>【key words】<br>令和の時代と世界<br>【授業概要】<br>・オリエンテーション<br>　・「令和」という時代、どんな風景？<br>　・ファクト(事実)とフェイク(偽)<br>　・政府はいつも真実を語っているか<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>ロシアのウクライナ侵攻など世界や日本の動きに関心を持って下さい<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 |

・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２回　１９８５年８月１２日、日航機が墜落、場所はどこ
【key words】
「どうして自分たちは死ななければならなかったのか」
【授業概要】
【授業概要】
・あの日に何が見えたのか
・青山透子さんの挑戦
・多数の腑に落ちない出来事
・新たな真実を求めて
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』の序章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日航機の航跡と機内状況」（テキストの第１，２章）
墜落した日航機は羽田を離陸して４４分、細かく追ってみよう。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　羽田離陸から44分、航路は、機内は
【key words】
離陸から４４分間のドキュメント

【授業概要】
・墜落機の当日の運航日程
・１２３便、１２分遅れで羽田離陸
・１８時２４分、コックピットは極度の緊張
・機内で遺書を書く乗客も
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）
配布資料　「日航機の航跡図」「家族に宛てたメモ」ほか
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「犠牲者への変わらぬ想い」
（テキストの序章、第１、２、３章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　犠牲者への変わらぬ想い
【key words】
乗客乗員５２４人と遺族の想い

【授業概要】
・墜落機はお盆の帰省客等で満員
・墜落の真相を究明する遺族たち
・「御巣鷹に逝った科学者」、上毛で連載
・生命の大切さを訴える遺族の絵本
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
遺族や関係者の最新資料を提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日米、日航の関係者はどう動いたか」
（テキストの序章、第１、２、３章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　日米、日航の関係者はどう動いたか
【key words】
それぞれの狙いや思惑
【授業概要】
・「ロン　ヤス」、日米は表向き仲良し
・「軽井沢は近し、現場は遠し」、中曽根首相
・奇縁だった山下徳夫運輸大臣
・原因に触れたがらない日航関係者

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「不可解な自衛隊、米軍、警察」
（テキストの序章、第１、２、３、４章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　不可解な自衛隊、米軍、警察
【key words】
不可解な救助活動と自衛隊の動向
【授業概要】
・不可解な自衛隊の動向
・米軍の対応
・東京消防庁の対応、群馬県警察の対応
・国産ミサイル開発さなかの日航機墜落
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１、２、３、４章）
「国産ミサイル本格推進」（1985/08/11　日航機墜落前日の読売新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「地元の小、中学生は見た」

（テキストの序章、第１、２、３、４、終章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　地元の小、中学生は見た

【key words】
生かされない目撃情報
【授業概要】
・「小さな目、事故に怒り」
・文集が記録した墜落前後の上野村
・真っ赤な飛行機とファントム二機
・未来を見つめて
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１、２、３、４、終章）
「川上慶子さん　死の直前の妹を励ます」（上毛新聞）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「墜落現場は本当に御巣鷹山?」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　墜落現場は本当に御巣鷹山?

【key words】
御巣鷹山と高天原山
【授業概要】
・上野村の「上野」とは
・御巣鷹山とはどんな山
・墜落現場、高天原山とは
・「彷徨える魂を救う」
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　「山中領」と呼ばれた地域の地図と特徴
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺体に秘められた事実」
（テキストの序章、第１、２、３、４、終章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　遺体に秘められた事実

【key words】
「死人に口あり」
【授業概要】
・「死人に口あり」
・どうしてなの、完全炭化の遺体
・炭化遺体の不自然な位置
・ガソリンとタールの異臭
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１、２、３、４、終章）
「５０５名の遺体の位置」（事故調査報告書から作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「第４エンジンはどこ」
（テキストの序章、第１、２、３、４、終章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　第４エンジンはどこ

【key words】
散乱する第４エンジン
【授業概要】
・木っ葉微塵の第４エンジン
・墜落現場にはあり得ない遺物
・編集されたボイスレコーダ
【教科書ページ・参考文献】
墜落機の残骸分布の全容図（原画は事故調査報告書）
参考文献　青山　透子『日航１２３便墜落　遺物は真相を語る』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「相模湾の衝撃は何だったのか」
青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』（序章～終章）
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　相模湾の衝撃は何だったのか

【key words】
墜落は事件だった
【授業概要】
・米国調査団、異例の早さで来日
・調査実施前に原因報道
・正式な事故調査報告書は発生2年後
・墜落は事故ではなく事件
【教科書ページ・参考文献】
墜落直後に原因をスクープした毎日新聞が
「墜落きょう１５年」（2008/08/12）で隔壁修理ミスを否定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「アメリカにいいなりの日本」
風化していく墜落、次世代への語り部は
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　アメリカにいいなりの日本

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>我がもの顔の日米地位協定<br>【授業概要】<br>・墜落から３８年、いま<br>・不平等な日米地位協定<br>・次世代に向け、語り部となれ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章)<br>「米軍任せ検疫スルー」（2021/12/26　毎日新聞）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回は「原因の特定をなぜ米国は急いだのか」<br>テキストの文庫解説「日本の経済社会を変えた日航１２３便事件」<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１３回　原因の特定をなぜ米国は急いだのか<br>【key words】<br>日航機墜落とプラザ合意<br>【授業概要】<br>・墜落原因の特定をなぜ米国は急いだのか<br>・日本経済の衰退の原点、プラザ合意<br>・修理ミスを犯したはずのＢ社から飛行機を買い続けた日航<br>・先進国でも最貧国の日本の現状<br>【教科書ページ・参考文献】<br>青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章)<br>テキストの文庫解説「日本の経済社会を変えた日航１２３便事件」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回は「まとめ①　どうする家康　どうする君たち」<br>人は常に選択、判断を迫られる、そこで大切なことは<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１４回　まとめ①　どうする家康　どうする君たち<br>【key words】<br>客観的認識とは<br>【授業概要】<br>・常に迫られる判断、選択<br>・批判と疑いの精神<br>・メディア・リテラシー<br>・客観的認識に大切な３視点<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料「偽情報に対する抵抗力、欧州一はフィンランド」<br>（2022/01/14　毎日新聞）<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>最終回は「ありがとうの心で前進」<br>日航機墜落事件から学んだことを整理してみよう<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分<br>第１５回　まとめ②　ありがとうの心で前進<br>【key words】<br>日航機墜落事件から学んだこと<br>【授業概要】<br>・日航機墜落事件が教えること<br>・３８年間、不問に付されていること<br>・救われた事実<br>・ありがとうの心で前進<br>【教科書ページ・参考文献】<br>「急がば回れ」<br>「苦労は買ってでも」<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>後期の試験に向けて<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>６０分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 講義の際にテキストの事前に読んでおくページを指示しますので、必ず取り組んで下さい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッドに毎回、感想や質問等を送信して下さい。これが普段点となります。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 毎時間授業終了後、３０分は対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験５０％　講義への取り組み点５０％ |
| 教科書 | テキストは　青山　透子　著『日航１２３便　墜落の新事実』（河出書房新社　刊）の最新版 |
| 参考書 | 日々の新聞、テレビ等。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>群馬テレビに４１年余り勤務し、この間、報道、制作、編成、営業、事業と各部門を経験、 |

| | |
|---|---|
| | 一方、アナウンサー　やプロデューサーとして番組・イベントの企画、制作に携わりました。<br>また、県域テレビ局の誕生から成長、さらにはテレビのデジタル化という難局に直面し、現場の局員として、あるいは役員、顧問として様々な試練を乗り越えて来ました。<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療英語Ⅰ　　授業コード：R20191F131

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| ザック　グレース | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①　日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。<br>②　医療の専門用語を理解できる。<br>③　英語でコミュニケーションをとり、自信をつける。 |
| 授業の概要 | 医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | Basic Greeting<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Talking about past and future events<br>Target vocabulary: go->went, watch->watched, しゅご (be) going to + どうし めいし, etc.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | Extended Greeting<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>All students will meet and greet every other student in the class<br>Students talk about past and future events and respond based on statments<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | Adjectives |

【key words】

【授業概要】
Practicing and expanding sentences with adjectives
Target vocabulary: A to Z adjectives, A awesome, B big, C cool, D difficult, etc.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　Making comparisons
【key words】

【授業概要】
Using adjectives to compare one item to another
Target vocabulary: big->bigger, cute->cuter, difficult->more difficult, good->better

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　Shopping
【key words】

【授業概要】
Talking about preferences, prices and making focused requests for items
Target prases: Do you have a bigger t-shirt? Do you have a cheaper jacket?, etc.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　Ordering food
【key words】

【授業概要】
Getting a table, ordering food, inquiring about ingredients, requesting various items and payment with tipping

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　Registering at the hospital
【key words】

【授業概要】
How to register an English speaking patient or how to register yourself in a hospital in a foreign country
Target vocabulary: Name, Address, Next of Kin, Insurance information, etc.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　Learning about the body
【key words】

【授業概要】
Practice English vocabulary for various parts of the body
Target vocabulary: Major muscle groups, joints, bones and tendons prone to injury
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　Talking about injuries
【key words】

【授業概要】
How to interview a patient for injury and how to describe a personal injury
Target phrases: How did you injure your bicep? I hurt my rotator cuff playing tennis, etc.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　Review weeks 1-6
【key words】

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>Target conversations: Greeting and going shopping and going to a restaurant together<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　Review weeks 7-9<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Target conversations: Helping a foreign patient at a Japanese hospital and registering yourself at a foreign hospital<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　Interview practice<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Expanded list of conversation phrases<br>Target vocabulary: What is your favorite ~~? Which do you think is better A or B? etc.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　Interview practice<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Similar to week 12 with new conversational phrases and group work<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　Written test review<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Review all materials to be included on the written test<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　Oral test review<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Class will break into pairs and do 5 minute free speaking interviews with each other.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・英和･和英辞書があると授業に役立つでしょう。<br><br>〔受講のルール〕<br>・授業をよく聞いて、ノートをとる。<br>・ペアーワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。<br>・英和･和英辞典が入っている携帯電話は、単語を調べる場合のみ使用可能。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。<br><br>・分からない単語があれば、調べておくこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分は対応可能 |
| 評価方法 | 筆記試験と面接試験　９０％、　授業参加度･授業態度等　１０％ |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療英語Ⅱ　　授業コード： R20191S132

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ザック グレース | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br><br>①　日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。<br>②　医療の専門用語を理解できる。<br>③　英語でコミュニケーションをとる自信をつける。 |
| 授業の概要 | 医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　Review English I Extended Greeting<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Talking about past and future events.<br>All students will meet and greet every other student in the class.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　Adjectives<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Practicing and expanding sentences with adjectives.<br>Using adjectives to compare one item to another.<br>Target vocabulary: big->bigger, cute->cuter, difficult->more difficult, good->better<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３回　Human Anatomy |

【key words】

【授業概要】
Practicing and memorizing the names of bones, tendons and muscles.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　Human Injuries
【key words】

【授業概要】
Practicing and memorizing the names of various health conditions, injuries and diseases in English.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　Hospital Registration
【key words】

【授業概要】
How to translate foreigners personal information to register in a hospital.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　Physical Therapy
【key words】

【授業概要】
How to describe in English how to do various stretches and exercises for physical therapy.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　Conversational English I
【key words】

【授業概要】
Daily conversational English. Talking about hobbies, likes and dislikes.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　Conversational English II
【key words】

【授業概要】
Expanded conversational English for making connections with friends and hospital patients.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　Debate English I
【key words】

【授業概要】
Picking the pros and cons of various issues and arguing both sides to an issue.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　Debate English II
【key words】

【授業概要】
Identifying pros and cons of various medical decisions and helping patients to decide on what course of treatment to undergo.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　Review Lesson<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Human anatomy, injuries and diseases.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　Review Lesson<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Interviewing patients for entry into the hospital and discerning the nature of their injuries.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　Free speaking practice<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Students will practice 5 minute free speaking conversations on any topic they choose in preparation for the interview part of their final exam.<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　Final Exam Review<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Review all aspects of the written final exam.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　Final Exam Review and Free Speaking Practice.<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Do final preparation for the written portion and verbal portion of their final exams.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。<br>〔受講のルール〕<br>・授業をよく聞いて、ノートをとる。<br>・ペアーワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。<br>・英和･和英辞典が入っている携帯電話は、単語を調べる場合のみ使用可能。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。<br>・分からない単語があれば、調べておくこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分は対応可能 |
| 評価方法 | 筆記試験と面接試験　９０％　、授業参加度･授業態度等　１０％ |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>　□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>　□PBL(課題解決型学習) |

| | |
|---|---|
| | □ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード：R20191F133

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 金 暎姫 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ハングル（ 文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。<br>韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。<br>〔到達目標〕<br>1)ハングル文字が書けて正しく読める。<br>2)挨拶・生活の基本会話を身に付ける。<br>3)韓国語で自己紹介が出来る。<br>4)パソコンで韓国語の入力が出来る。 |
| 授業の概要 | ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。<br>ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴<br>【key words】<br>ハングル・仕組み・語順<br>【授業概要】<br>ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ14～17<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ハングルの仕組みを理解して次の授業に備える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | ハングルの母音、出会いの挨拶<br>【key words】<br>母音・組み合わせ・挨拶<br><br>【授業概要】<br>ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。<br>出会いの時の挨拶を口に出して練習させる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ20～24 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
母音10個の読み書きを復習して覚えること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶

【key words】
子音・平音・激音・有声音化
【授業概要】
ハングルの基本子音14個の形と発音の読み書きを復習して覚える。基本母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にコツがあることを教える。別れる時の会話を口に出して繰り返して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ26～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子音14個の読み書きを復習して覚えること。であいと別れの時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　ハングルの子音（ 平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話

【key words】
濃音・感謝・謝罪
【授業概要】
ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音)を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝と謝罪の時の会話を口に出して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ38～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平音・激音・濃音の違いを理解して書けるように復習すること。教科書48ｐ49ｐ課題を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話

【key words】
複合母音・組み合わせ
【授業概要】
基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音)を書けて読めるように練習させる。
食事の時の会話を何度も口に出して練習して、ペアで発表する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ50～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　ハングルのパッチム、出かける時の会話

【key words】
パッチム・有声音パッチム・連音化
【授業概要】
パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を覚えて発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい)を何度も口に出してペアで練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ58～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パッチムのある単語の読み書きを復習して覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話

【key words】
二重パッチム・無声音パッチム
【授業概要】
パッチムは有声音パッチムと無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p62～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
無声音パッチムの読み書きを復習して覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ハングルの発音の法則

【key words】
有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化
【授業概要】
ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化)があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p66～69　付録ｐ204～207
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書67ｐ69ｐ練習ドリルをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

| | | |
|---|---|---|
| | 第９回 | ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記<br>【key words】<br>人名・地名・住所<br>【授業概要】<br>日本語の人名・地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ25<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>日本の都道府県名をハングルで書いてみること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１０回 | パソコンでのハングルの入力の仕方<br>【key words】<br>ハングルのキーボード<br>【授業概要】<br>パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ102<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１１回 | ～は～ですの文型、自己紹介<br>【key words】<br>人称代名詞・職業<br>【授業概要】<br>人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ75～77<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>人称代名詞を復習して暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１２回 | ～は～ですか？の文型<br>【key words】<br>国名・何人(日本人、韓国人、中国人、イギリス人、アメリカ人)<br>【授業概要】<br>国名を韓国語で覚えてあなたは何人ですか、私は～人ですの文型を国の名前を入れ替えながら練習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ78～79<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書80ｐ課題を書いて提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１３回 | 疑これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞<br>【key words】<br>指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語<br>【授業概要】<br>指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又ペアで単語を入れ替えながら読む練習をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ83～85<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>指示代名詞を復習して暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１４回 | 助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム<br>【key words】<br>教室の中のもの・野菜・果物・動物の名前動物の名前をゲーム形式<br>【授業概要】<br>教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ86～87<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書88ｐ課題を書いて提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回 | 読み書きのまとめ、日常会話の復習<br>【key words】<br>まとめ・基礎会話<br>【授業概要】<br>ハングル文字が書けて発音の変化の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>プリント |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テストに備えての復習用のプリントを書いて提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。<br>文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。<br>韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。 |
| オフィスアワー | 授業の15 分前、授業後の30 分は対応可能。 |
| 評価方法 | 定期試験60%、宿題及びレポート40%。 |
| 教科書 | 李昌圭著『韓国語へ旅しよう（初級）』　朝日出版社 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード：R20191S134

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 金 暎姫 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。<br>〔到達目標〕<br>1)基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。<br>2)月・日・番号・値段が言える。<br>3)韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。<br>4)簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。<br>5)韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。 |
| 授業の概要 | 韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4 機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、この人は誰ですか、助詞～の<br>【key words】<br>家族の呼び名・性別・三人称<br>【授業概要】<br>韓国語では性別によって呼び名が違うことを知って呼び名を覚える。三人称代名詞この方、その方、あの方どの方を覚える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ97<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>家族の呼び名を覚えて暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 指示代名詞 （事物・場所）、これは誰のものですかの文型<br>【key words】<br>この、その、あの、どの、省略<br>【授業概要】<br>この人は～です、この～は～の物ですの文型に物や人物の名を入れ替えながら練習する。助詞～のは会話の中でほとんど省略されることは日本語との相違点である事を知る。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ91～96<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

この～は～の物ですの文を10個作って宿題として提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第３回　助詞（も）、否定形、家族の呼び名、指示代名詞の復習
【key words】
まとめ・復習
【授業概要】
人称代名詞、家族の名称、身の回りの単語を用いて今まで習った文型に書き入れる練習をして復習ししっかり覚えたかを確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ98～101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞、身の回りの単語、家族の名称を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　助詞（と）、位置関係の言葉
【key words】
前後・左右・上下・パッチムある単語、ない単語
【授業概要】
位置関係の言葉を口に出して練習して覚える。助詞～もはパッチムある単語とない単語のあとに形で接続を理解してそれぞれの形を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ103～105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
位置関係の言葉を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　助詞（に）、～に～があります、ありませんの文型
【key words】
居る・ある・場所
【授業概要】
位置関係の言葉と場所の言葉を用いて～に～があります、ありませんの文型を練習して覚えて行く。居る・あるを区別しない事もと日本語との相違点である事を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ106～110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～に～がありますの文を10個作って次回に宿題として提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　用言の「です・ます形」、助詞（を）
【key words】
基本形・語幹・語尾・活用
【授業概要】
生活の中でよく使う動詞、形容詞の基本形から語尾を変えて～です、ます形の会話体にすることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ111～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校、教室の中でよく使う動詞、形容詞を20個覚えること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　～で～をしますの文型、助詞（で）
【key words】
丁寧な会話体
【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を丁寧な会話体に書き換える練習をして～で～をしますの文型を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ116～117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
113ｐのドリルをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第８回　映像（韓国映画）で学ぶハングル
【key words】
映画・聴き取り・感想文
【授業概要】
映像（韓国映画）を通して文化を知って、今まで教科書で学んだ会話文の聴き取り能力を確かめる。
【教科書ページ・参考文献】
DVD
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国映画の感想文を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　否定の表現、体の名称
【key words】
後置否定形
【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を語尾を変えて、否定形（～しません、～くありません）の文型を覚える。体の名称を覚える。
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | ｐ118～120<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>体の名称を復習して暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分<br>第１０回　曜日の言い方、尊敬会話体<br>【key words】<br>何曜日・いつ・尊敬補助語幹<br>【授業概要】<br>一週間の曜日の言い方を練習して覚える。尊敬補助語幹を用いて尊敬会話体の文章作りの練習をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ121～125<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>曜日の言い方を復習して暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１１回　不規則活用、連結語尾～しにの文型<br>【key words】<br>脱落・連結語尾<br>【授業概要】<br>用言を尊敬会話体に活用する際に不規則活用の用言があることを説明して覚える。連結語尾～しにを用いて文作りの練習をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ126～129<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>～しにの語尾を用いて5個の文作りをして提出する事。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第１２回　疑問詞<br>【key words】<br>誰・いつ・どこ・なぜ・何・いくら・どうやって<br>【授業概要】<br>疑問詞を用いての疑問文を単語を入れ替えながら練習して覚える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>疑問詞7個を復習して暗記して来ること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分<br>第１３回　過去形、過去尊敬形<br>【key words】<br>過去時制補助語幹<br>【授業概要】<br>用言の基本形の過去補助語幹と尊敬補助語幹を用いて過去形、過去尊敬形の会話文を復習して覚える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ135～137、ｐ140～141<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>138ｐ139ｐのドリルで復習して提出する事。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～90分<br>第１４回　連結語尾～て、して、連結語尾～けれとも、が<br>【key words】<br>動作の継続・順序・内容の対立<br>【授業概要】<br>動作の継続と順序の連結語尾～で、～してと内容の対立の連結語尾～けれともを用いて会話文作りの練習をして覚える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ｐ142～144<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書145ｐの課題をやって提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　まとめて復習<br>【key words】<br>助詞・活用・不規則活用<br>【授業概要】<br>今までの助詞、活用した会話文、単語、文型をまとめて復習して日常会話、教室会話を二人ペアで発表させる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>日常生活会話、教室会話を復習してテストに備える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分～90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |

| | |
|---|---|
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。 |
| オフィスアワー | 授業の15分前、授業後の30分は対応可能。 |
| 評価方法 | 定期試験60%、宿題及びレポート40%。 |
| 教科書 | 李昌圭著『韓国語へ旅しよう（ 初級）』　朝日出版社 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：R20191F135

英文科目名称： *ChineseⅠ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。<br>・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。<br>〔到達目標〕<br>・ピンインを見て発音ができるようになる。<br>・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。 |
| 授業の概要 | 中国語は声調（ 音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（ 予習・復習）の筋道をつける。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう<br>【key words】<br>受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン<br>【授業概要】<br>みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P2<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>10分 |
| | 第２回 | 発音の決まりごと（１）<br>【key words】<br>ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音<br>【授業概要】<br>中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音練習していきます。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | P2・P3<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第３回 | 発音の決まりごと（２）<br>【key words】<br>声調　併音<br>【授業概要】<br>前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P4～P7<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第４回 | 第０課　你好！（こんにちは　その1）<br>【key words】<br>你好　併音<br>【授業概要】<br>外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P4・P5<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第５回 | 第０課　你好！（こんにちは　その2）<br>【key words】<br>你好　併音　名前の尋ねかた<br>【授業概要】<br>今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P4・P5<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第６回 | 第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１）<br>【key words】<br>是構文（名詞述語文）<br>【授業概要】<br>この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P10・P11<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第７回 | 第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その２）<br>【key words】<br>是　不是　也　吗<br>【授業概要】<br>前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P10～P13<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第８回 | 第２課　这是什么？（これは何ですか　その１）<br>【key words】<br>这个 那个 哪个<br>【授業概要】<br>この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | P14・P15<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第９回 | 第２課　这是什么？（これは何ですか　その２）<br>【key words】<br>什么 谁 哪里 的<br>【授業概要】<br>前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P14～P17<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>15分 |
| | 第１０回 | 第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１）<br>【key words】<br>曜日の言い方<br>【授業概要】<br>日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P18・P19<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１１回 | 第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２）<br>【key words】<br>動詞文　S+V+O<br>【授業概要】<br>前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動<br>詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P18～P21<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１２回 | 第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１）<br>【key words】<br>年齢の尋ね方<br>【授業概要】<br>年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P22・P23<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１３回 | 第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２）<br>【key words】<br>年の言い方　数の数え方<br>【授業概要】<br>小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P22～P25<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１４回 | 第５課　现在几点？（いま何時）<br>【key words】<br>時間<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P26～P29<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分<br>第１５回　前期総復習<br>【key words】<br>総復習　発音　併音の綴り方<br>【授業概要】<br>前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P3～P29<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、小テスト30%。 |
| 教科書 | 川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月 |
| 参考書 | 相原茂『はじめての中国語』　講談社現代新書、1990 年2 月 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：R20191S136

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 岡野康幸 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。<br>・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。<br>・語学学習を通して、異文化理解を深めます。<br>〔到達目標〕<br>・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4 級のレベルになります。 |
| 授業の概要 | 中国語は声調（ 音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（ 予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１）<br>【key words】<br>你家　几<br>【授業概要】<br>数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P30・P31<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第２回 | 第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２）<br>【key words】<br>動詞“有”<br>【授業概要】<br>所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P30～P33 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１）
【key words】
動詞“在”所在・在所を表す
【授業概要】
所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34・P35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２）
【key words】
連動文
【授業概要】
動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34～P37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１）
【key words】
100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文）
【授業概要】
この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P38・P39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２）
【key words】
电话 番号として言うときの“一”の発音
【授業概要】
電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P38～P41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１）
【key words】
Ｓ+Ｖ+Ｏ　喜欢
【授業概要】
中国語の基本構文はＳ+Ｖ+Ｏ（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P42・P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２）
【key words】
喜欢　動詞
【授業概要】
“喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P42～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第９回 | 第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１）<br>【key words】<br>副詞　很 真<br>【授業概要】<br>形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P46・P47<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１０回 | 第10課 你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２）<br>【key words】<br>主述述語文　吧<br>【授業概要】<br>主述述語文（～は～が～だ、例として「象は鼻が長い」）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P46～P47<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１１回 | 第11課 您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１）<br>【key words】<br>助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください）<br>【授業概要】<br>助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P50・P51<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１２回 | 第11課 您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２）<br>【key words】<br>金額の数え方<br>【授業概要】<br>お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P50～P53<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１３回 | 第12課 你打羽毛球打得很好！<br>【key words】<br>様態補語　得<br>【授業概要】<br>様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P54・P55<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>20分 |
| | 第１４回 | 第12課 你打羽毛球打得很好！<br>【key words】<br>助動詞　会<br>【授業概要】<br>助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P54～P57<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Ｐ57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第１５回 | ドリル　総復習中国語のまとめ |

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>復習　外国語を学ぶ意義<br>【授業概要】<br>ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P58～P69<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。<br>・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。<br>・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。 |
| オフィスアワー | 毎週火曜14 時～ 16 時。 |
| 評価方法 | 期末試験70%、小テスト30%。 |
| 教科書 | 川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月 |
| 参考書 | 相原茂他『why？にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996 年9 月<br>倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973 年1 月 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： スポーツレクリエーション実技　　授業コード：R20191A140

英文科目名称： Sports and RecreationPractical Skill Training

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | | レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 「授業の目的」<br>レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、幼児・学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。<br>［到達目標］<br>1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。<br>2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている<br>3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている<br>4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている<br>5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている |
| 授業の概要 | レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。<br><br>アリーナでの身体的活動が中心となるが、教室で実施した場合でもコミュニケーションゲーム、脳トレ、体操などの実技活動を必ず取り入れる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　科目オリエンテーション・レクリエーションの理解<br>【key words】<br>レクリエーション<br><br>【授業概要】<br>余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P8 学習課題の概要を確認しておくこと<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第２回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　コミュニケーションゲーム　実技　レクリエーション支援のためのゲーム<br>【key words】<br>アイスブレーキング<br><br>【授業概要】<br>集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P57　アイスブレーキングの意味を説明できるようにしておくこと<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第３回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム　実技<br>【key words】<br>レク財　アレンジ　アクティビティ<br>【授業概要】<br>新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム・遊びができることを確認する。子どもから高齢者まで楽しめるアクティビティについて知る。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>高齢者、障がい者、子どもにどのような形でレクリエーションが提供できるか、またその効果がどのようなものか考える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第４回 | レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　「子ども・高齢者と遊ぼう」企画実践活動に向けてグループワーク<br>【key words】<br>子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション支援　生きがいづくり　企画書　計画書<br>【授業概要】<br>子ども・高齢者と遊ぼう」 をテーマにレクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動の企画を行う。グループを編成し、自分たちにどんな活動ができるかを検討する。また企画書などの提出方法について確認しする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストまたは図書館にある資料を参考にする。インターネットを利用して資料を集めることも可<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで計画を立て話し合いを進めておくこと。ブレインストーミングを利用して意見を出し合う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第５回 | レクリエーション支援の方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用　バウンドボールバレー実技①<br>【key words】<br>アレンジの方法　ニュースポーツ<br>【授業概要】<br>アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　P74～P77<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アレンジ方法を用いて幼児向け又は中高年向けの身体活動などを検討してみる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第６回 | レクリエーション支援の方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用　バウンドボールバレー実技②<br>【key words】<br>アレンジの方法　ニュースポーツ<br>【授業概要】<br>アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書　P74～P77<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>アレンジ方法を用いて幼児向け又は中高年向けの身体活動などを検討してみる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第７回 | レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮<br>【key words】<br>ホスピタリティ、コミュニケーションワーク<br>【授業概要】<br>レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P38～P55<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの |

取り方を実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　キンボール実技①
【key words】
キンボール　ニュースポーツ
【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 ニュースポーツ　キンボールを体験する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
風船ボールは様々な用途がある。どのような形で提供できるか検討してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　「子ども・高齢者と遊ぼう」企画実践活動に向けてグループワーク
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション支援　生きがいづくり　企画書　計画書
【授業概要】
「子ども・高齢者と遊ぼう」 をテーマにレクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動の企画を行う。グループを編成し、自分たちにどんな活動ができるかを検討する。また企画書などの提出方法について確認しする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストまたは図書館にある資料を参考にする。インターネットを利用して資料を集めることも可
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループで計画を立て話し合いを進めておくこと。ブレインストーミングを利用して意見を出し合う。
【予習復習に必要な想定時間】
2jikann
2jiknn
２時間

第１０回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施1ー①　（実践）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P66～P73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１１回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価１－②　（フィードバック）
【key words】
ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術
【key words】
ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム
【授業概要】
対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施2ー①（実践）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス

【授業概要】
学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P66～P73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１４回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価2－②（フィードバック）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル　　前期の振り返り　まとめ
【key words】
アイスブレーキオグモデル　レクリエーション支援
【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。
前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期レポート指示を確認し振りを行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　健康長寿のためのスポートロジー
【key words】
スポートロジー
【授業概要】
健康長寿のためのスポートロジーについて理解を深め、介護予防の観点と照らし合わせながらスポーツにおける身体的、心理的効果について知る。放送大学が提供している映像をもとに講義を進める
【教科書ページ・参考文献】
放送大学　第01回　健康長寿のためのスポートロジー
https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1710133p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スポートロジーは比較的新しい新しい言葉である。講義前にどのような意味を持つものか事前に調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　音楽合わせたレクリエーション　リズム　ダンス
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
教科書P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割　基本的人権としてのレクリエーション
【key words】
生きがい、基本的人権、良循環
【授業概要】
余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7
【課題・予習・復習・授業準備指示】
これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

| | | |
|---|---|---|
| | 第１９回 | レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施３ー①（実践）<br>【key words】<br>子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書<br>ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス<br>【授業概要】<br>学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P66～P73<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第２０回 | レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価3ー②（フィードバック）<br>【key words】<br>子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書<br>ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス<br>【授業概要】<br>学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２１回 | レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ユニバーサルホッケー実技①<br>【key words】<br>ユニバーサルホッケー　ニュースポーツ<br>【授業概要】<br>ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２２回 | レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ユニバーサルホッケー実技②<br>【key words】<br>ユニバーサルホッケー　ニュースポーツ<br>【授業概要】<br>ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２３回 | レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施4ー①（実践）<br>【key words】<br>子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書<br>ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス<br>【授業概要】<br>学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>2時間 |
| | 第２４回 | レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価4ー②（フィードバック）<br>【key words】<br>子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書<br>ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス |

【授業概要】
学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ボッチャ　実技
【key words】
ボッチャ　パラスポーツ
【授業概要】
ボッチャとは、イタリア語で「ボール」を意味し、重度脳性まひ者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたヨーロッパ発祥のスポーツである。パラスポーツを実践し競技内容についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
日本ボッチャ協会
https://japan-boccia.com/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パラスポーツについての理解を深め、普及にはどのようなことが必要となるか検討しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P38～P55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施5－①（実践）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２８回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価5－②（フィードバック）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌　手遊び　体操
【key words】
歌　手遊び　体操　二重課題　デュアルタスク　脳トレ
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。歌を歌いながら体を動かす、運動しながら計算するなど2重課題活動の支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３０回　1年間の振り返り　まとめ

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>レクリエーション支援<br>【授業概要】<br>1年の授業の振り返りと確認テストを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>紹介した活動の中で、子ども、高齢者に対しどのよう活動が提供できるか考えてみる。次回、本講義の確認テストを行うのでノート、テキストを見直しておくこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。<br>・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。<br>・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること<br>・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。<br>・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。<br>・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更時は掲示する) |
| 評価方法 | 評価の基準：到達目標の達成度を評価する。<br>評価の方法：筆記試験40%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)10%　実技50%　として総合的に評価する。 |
| 教科書 | スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト - スポレク活動で健康寿命を延伸<br>(財)日本レクリエーション協会編 |
| 参考書 | レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>介護予防運動指導員（東京都健康長寿医療センター）、福祉レクリエーションワーカー（日本レクリエーション協会）として地域の介護予防・フレイル予防活動に取り組んでいる。また地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導の経験があり、障がい者スポーツ指導員養成研修講師としてパラスポーツ活動にも取り組んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： レクリエーション活動援助法　　授業コード：R20191A141

英文科目名称： Assistance method of recreational activities

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | | レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動の場面における適切なレクリエーション支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター） として、実践できるようになることを目的とする。また医療、福祉を学ぶ者として虚弱(フレイル) 高齢者を対象とした運動機能向上トレーニングの方法について理解を深める。<br>[到達目標]<br>1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。<br>2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている<br>3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている<br>4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている<br>5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている<br>6.虚弱(フレイル) 高齢者の身体的側面、精神的側面、社会的側面にアプローチすることができる。 |
| 授業の概要 | 年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに身体的、知的、社会的活動（脳トレ、体操等）を通して介護予防運動が実践できる指導技術を身につける。<br>※教室で実施る講義でも脳トレ、体操、手遊び、歌遊びなどの実技活動を必ず取り入れる |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　科目オリエンテーション　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割<br>【key words】<br>生きがい、基本的人権、良循環<br>【授業概要】<br>余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの |

在り方について考えてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２回　レクリエーション概論　　レクリエーションという言葉の主旨
【key words】
RE-CREATE
【授業概要】
レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　レクリエーション概論　　レクリエーション支援　　日常生活援助の実践的アプローチ
【key words】
生活の快論　（垣内理論）心身と生活の活性化
【授業概要】
日常生活援助の実践的アプローチについての概念を学ぶ。今までの健康な人のみにしか想像できないレクリエーションの考え方から、レクリエーションがすべての人が享有すべきものであり、権利でなくてはならない考え方に基づいたレクリエーションへの考え方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
レクリエーション支援を学ぶ上で重要な考え方を学んだ。日常生活の中で本講義で学んだ概念をどのように活かせるか考えておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　レクリエーション概論　レクリエーション支援
【key words】
生活者　支援者　人を支える　基本的人権
【授業概要】
生活者、支援者という2つの視点から日常のレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。”心が動く”とはどのようなことかを映画【レナードの朝】から学習する。

【教科書ページ・参考文献】
映画　レナードの朝https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%89%E3%81%AE%E6%9C%9D
【課題・予習・復習・授業準備指示】
映画鑑賞のレポート提出
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　日常生活援助を支えるもの　コミュニケーション
【key words】
聞く（hear）　聴く(listen)　訊く(ask)
【授業概要】
福祉サービスの利用者が「生活の快」を感じ、「心身と生活の活性化」を手に入れるには、援助者とのコミュニケーションをうまく成立させることが最低限の条件であることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
高齢者の方と同じステージに立てる人材になるためにはどのような情報が必要になるか。80代の方とコミュニケーションを取り、その対象者の心を動かす支援をするにはどうすれば良いか考えておくこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　余暇時間と余暇時間の概念
【key words】
余暇時間
【授業概要】
福祉施設入所者の余暇時間について整理し、日常のレクリエーションについて考え方を深める
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身における日常・非日常のレクリエーションが何かを整理する
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　基礎理論　生活のレクリエーション化　社会福祉の理念から見たレクリエーション
【key words】
生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】

| | | |
|---|---|---|
| | | 1時間 |
| | 第８回 | 基礎理論　レクリエーションの生活化<br>【key words】<br>レクリエーションの生活化<br>【授業概要】<br>日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第９回 | 介護予防評価学　筋力向上トレーニング　実技<br>【key words】<br>おたしゃ21　老研式活動能力指標　SF-36　SF-8　MFS<br>【授業概要】<br>質問紙を使った調査、運動機能検査などの実施方法についてポイントを押させ、正確・厳密にかつ対象者にストレスなく実施する必要がある。また筋力向上トレーニングの実施方法についてに理解<br>【教科書ページ・参考文献】<br>東京都健康長寿医療センター　https://www.tmghig.jp/research/team/shiencenter/<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>いくつかの質問紙を紹介する。質問項目を聴取する時の注意点をまとめておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１０回 | 日常生活におけるレクリエーションの捉え方<br>【key words】<br>基礎生活　社会生活　　余暇生活<br><br>【授業概要】<br>近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１１回 | 日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係<br>【key words】<br>基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求<br>【授業概要】<br>福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１２回 | レクリエーションワーカーとしての資質<br>【key words】<br>レクリエーションインストラクター　日本レクリエーション協会<br><br>【授業概要】<br>インストラクターが計画されたプログラムを実施するためには、専門的な知識、技術、豊かな経験持っているだけでなく、その人の人間性が重要でることを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>日本レクリエーション協会　ホームページ　https://shikaku.recreation.or.jp/<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１３回 | レクリエーション支援のためのゲーム　実技<br>【key words】<br>フレイル　身体機能、社会性、認知機能向上トレーニング<br>【授業概要】<br>歌遊び、手遊び、ニュースポーツなどを行う。対象者に応じたレクリエーション財や素材などについて理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>歌遊び、手遊び、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂについて調べ、実技を体得すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| | 第１４回 | 介護予防概論、地域づくりによる介護予防 |

【key words】
健康寿命　老年症候群　ハイリスクアプローチ　ポピュレーションアプローチ　エイシズム
【授業概要】
身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。健康度を見ると身体機能のみならず、社会的側面に注目することも重要であり、その基盤は「外出」と「交流」の促進であることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P142～157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけることができる課題についてあげてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１６回　行動科学特論
【key words】
トランスセオレティカルモデル　セルフエフィカシー　バンデューラ　スキナー
【授業概要】
健康行動はきっかけとなる刺激(先行刺激）やその行動によって生じた結果によって大きく影響を受ける。バンディーラによって提唱されたセルフィエフィカシーが健康行動と深い関係があることを理
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行動変容の定着を促す具体的な方法として、いくつかの行動変容技法がある。技法について整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１７回　フレイル・サルコペニアについて①　特論
【key words】
フレイル　サルコペニア
【授業概要】
フレイルの概念、定義について理解する。フレイル予防の具体策は基礎体力を維持する運動の実践、多様な食品摂取による十分な栄養摂取、社会とのかかわりを持ち続けることに集約されることを理
【教科書ページ・参考文献】
東京都健康長寿医療センター　補助資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フレイル、サルコペニアの概念的義について説明できるようにしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１８回　フレイル・サルコペニアについて②　予防　-実技-
【key words】
フレイル・サルコペニア
【授業概要】
力低下などの身体的要素、認知症やうつなど精神的・心理的要素、独居や経済的困窮などの社会的要素で構成されます。これらのことを理解し、フレイルを予防するための取組、方法について理解する。　　健康長寿ネット　https://search.yahoo.co.jp/search?ei=UTF-8&fr=mcafeess1&p=%E3%83%95%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%81%A8%E3%81%AF
【教科書ページ・参考文献】
東京都医師会　https://www.tokyo.med.or.jp/citizen/frailty
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の資料、動画等を事前に確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１９回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス①
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規）　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２０回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　セラピューティックレクリエーションサービス②

【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション　フロー　チクセントミハイ
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法

【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。また、目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　歌　体操　実技

【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。今回、紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２３回　転倒予防　失禁予防　実技

【key words】
転倒予防　大腿頸部骨折　失禁予防　腹圧性失禁　切迫性失禁
【授業概要】
地域在住高齢者における過去1年間の転倒率は10％～20％である。転倒には内的要因と外的要因があることを理解する。失禁は、加齢に伴う心身機能低下によって生活機能障害を生じる老年症候群であることを理解する。これらの予防には運動指導が効果があることを知り、実施できるようになる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
トレーニングメニューについて整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは

【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～

【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める事例に基づき支援計画の作成方法を理解する。。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

| | |
|---|---|
| | 第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～<br>【key words】<br>レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス<br>【授業概要】<br>福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２７回　レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践<br>【key words】<br>レクリエーションプログラム総合計画<br>【授業概要】<br>福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む)<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P162～P195<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実際に自分たちが将来活躍するであろう福祉施設や病院等をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２８回　レクリエーション支援のプログラム　リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～<br>【key words】<br>リスクマネジメント<br>【授業概要】<br>レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める。対象者の持病の悪化、転倒、外傷、意識障害など事前のメディカルチェックで睡眠、生活歴などの問診、バイタルサインなどの確認が必須であることを理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第２９回　認知症予防運動プログラム　コグニサイズ　実技<br>【key words】<br>コグニサイズ　国立長寿医療研究センター<br>【授業概要】<br>認知症を患う人数は、今後大きく増えることが予想され、2025年には700万人を超えるとされてる。このような背景の中で、国立長寿医療研究センターでは、ＭＣＩ（認知症ではないが正常とも言えない状態）の段階で、運動と認知トレーニングを組み合わせた「コグニサイズ」の実施が、認知機能の低下を抑制することを明らかにした。講義ではこのコグニサイズを取り上げ実施する。<br>国立長寿医療研究センターは、認知症になる方を少しでも減らすことを目指して「コグニサイズ」の普及をしている。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>国立長寿医療研究センター<br>https://www.ncgg.go.jp/hospital/kenshu/kenshu/27-4.html<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>認知機能と身体機能を使用した運動を行う。実践後は活動内容を忘れないように整理しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間<br>第３０回　一年間のまとめ（評価・ふりかえり）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。　また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。<br>・授業シラバスを必ず確認すること。<br>・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。<br>・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状 | コメントカード方式 |

| | |
|---|---|
| 況の確認方法 | |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　（変更時は掲示する） |
| 評価方法 | 筆記試験70%　　レポート30%<br>（詳細な評価基準は授業シラバス参照） |
| 教科書 | スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト － スポレク活動で健康寿命を延伸<br>(財)日本レクリエーション協会編 |
| 参考書 | 参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規) |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>介護予防運動指導員（東京都健康長寿医療センター）、福祉レクリエーションワーカー（日本レクリエーション協会）として地域の介護予防・フレイル予防活動に取り組んでいる。また地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導の経験があり、障がい者スポーツ指導員養成研修講師としてパラスポーツ活動にも取り組んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 障害者スポーツ　　授業コード： R20191A142

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 櫻井秀雄 | | | |
| 基礎科目 | | 初級障がい者スポーツ指導員指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援･援助できる知識･技能を習得することを目的とする。<br>【到達目標】<br>①障がい者スポーツの意味、特性、支援･援助方法を理解できる。<br>②障がい区分に応じた基本的な支援･援助技法を身に身につけることができる。<br>③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。 |
| 授業の概要 | 【求められる指導者像】<br>①障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。<br>②プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。<br>③地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。<br>④中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなど自己研鑽を積むようにする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質<br>【key words】<br>【key words】 スポーツ　インテグリティ　資質・能力<br>【授業概要】<br>【授業概要】スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p2～4　日本障がい者スポーツ協会編<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの意義・理念について学んでおく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 障がい者スポーツの意義と理念<br>【key words】<br>【key words】スポーツ　障がい者　意義　理念<br>【授業概要】<br>【授業概要】障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p10～11日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】全国障がい者スポーツ大会について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　全国障がい者スポーツ大会の概要
【key words】
【key words】障がい者スポーツ大会　障がい者福祉法
【授業概要】
【授業概要】全国障がい者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p156～158日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障害のある人たちのグループ、行事等を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　障がいの人との交流（第１回目）
【key words】
【key words】　障がい者　コミュニケーション
【授業概要】
【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしぉう会社とのふれあいを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p22～23日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　障がいの人との交流（第２回目）
【key words】
【key words】　障がい者　コミュニケーション
【授業概要】
【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしぉう会社とのふれあいを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p22～23日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　障がい者スポーツ推進の取り組み
【key words】
【key words】障がい者スポーツ指導員　スポーツ基本法
【授業概要】
【授業概要】資格を取得したのちに、地域で行われている教室や大会へ積極的にかかわれるよう、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p30～33日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの振興についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　障がい者スポーツに関する諸施策
【key words】
【key words】 障がい者福祉法 スポーツ基本法　スポーツ振興計画　総合型地域スポーツクラブ
【授業概要】
【授業概要】我が国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ振興計画など）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p26～29日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】地域で行っている障がい者スポーツについて調べてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　安全管理
【key words】
【key words】 スポーツ　安全　救急法
【授業概要】
【授業概要】スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、ＡＥＤ、応急手当など）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p42～43日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】身近な活動場所を点検して安全性を確認してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　各障がいの理解：身体障害（肢体不自由）
【key words】
【key words】 身体障がい
【授業概要】
【授業概要】身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～65日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】肢体不自由者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　各障がいの理解：身体障がい（視覚障がい　聴覚障がい　内部障がい）
【key words】
【key words】 身体障がい
【授業概要】
【授業概要】身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～65日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】視覚・聴覚・内部障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　各障がいの理解：知的障がい
【key words】
【key words】 知的障がい
【授業概要】
【授業概要】知的障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、知的障がいに関する知識と指
導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p66～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】知的障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　各障がいの理解：精神障がい
【key words】
【key words】 精神障がい
【授業概要】
【授業概要】精神障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で生かせる、精神障がいに関する知識と指導上の配慮店を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p66～日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】精神障がい者の特性をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　各障がいのスポーツ指導上の留意点1 ：（身体障がい）
【key words】
【key words】障がい　特性　指導
【授業概要】
【授業概要】障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p108～113日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流のまとめを熟読しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　各障がいのスポーツ指導上の留意点2：（知的・精神障がい）
【key words】
【key words】障がい　特性　指導
【授業概要】
【授業概要】障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p108-113日本障がい者スポーツ協会編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流のまとめとともに整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

| | |
|---|---|
| | 第１５回　　まとめ：コミュニケーションスキルの基礎<br>【key words】<br>【key words】　コミュニケーション<br>【授業概要】<br>【授業概要】障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p16～21日本障がい者スポーツ協会編<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツ指導員として学んだことをまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講者に関する情報〕<br>・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。<br>・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。<br>・ｗｅｂ授業の時は資料・コメント等はスレッドを使用する。<br>〔受講のルール〕<br>・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。<br>・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。 |
| オフィスアワー | 講義終了後30分間　　他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく |
| 評価方法 | 筆記試験･レポート試験（70%）　実技試験（30%）の総合評価 |
| 教科書 | 日本パラスポーツ協会編：障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）：ぎょうせい：令和4年 |
| 参考書 | 井田朋宏：NO　LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2022（年4回発刊） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐6年（生涯スポーツ、障がいスポーツ）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）群馬県社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障がい者スポーツ指導、障がい者スポーツ行政）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 医療･福祉･教育の基礎　　授業コード：R20191A143

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 2単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・中山洋子・時田詠子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。<br>【到達目標】<br>①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。<br>②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割ついて理解・説明できる。<br>③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。<br>④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。<br>また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | △ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | △ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」（中越）<br>【key words】<br>建学の精神、ボランティア活動、サービスラーニング<br>【授業概要】<br>本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 生命と倫理について考える　（岡野・半田）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>科学の進展は人間の生命の誕生や死も、ある程度の管理を可能としました。人間の誕生と死から生命と倫理の関係を考えます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　苦痛の回避・軽減とアクティビティ・サービス（清水）
【key words】

【授業概要】
苦痛が回避され、軽減していく快さの意義をアクティビティ・サービスの視点から学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　病院窓口の仕組み　～あなたの知らない診療報酬の世界～（下村）
【key words】

【授業概要】
私達が病院に行くと最初に接するのが窓口です。カルテ、領収書や明細書、処方箋の実際を学んでみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　心の不調への気づきと対処（成田）
【key words】

【授業概要】
目に見えにくいストレスによる心の不調に気がつき、上手にストレスと付き合う方法を学びましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　子どもの成長と発達（原田）
【key words】

【授業概要】
子どもはどのように大きくなるのでしょう。子どもの成長と発達の特徴について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　暮らしを支える在宅看護について（塚越）
【key words】

【授業概要】
地域でその人らしい暮らしを実現するために、その人自身の力を引き出す支援をする在宅看護について学びましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　リハビリテーションの基礎と専門職の役割（小林昭）
【key words】
リハビリテーション、役割、理学療法、作業療法
【授業概要】
リハビリテーションの意味を正しく理解し、実際に関わるリハビリ専門職種が果たす役割について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第9回　理学療法士の仕事とその実際（小林雄）
【key words】
リハビリテーション、理学療法士、役割

【授業概要】
医療・福祉、スポーツなど、それぞれの領域で理学療法士がどのような役割を担っているのかを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　（事前に配布します）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　作業療法士の仕事とその実際（高坂）

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>リハビリテーション、作業療法士、役割<br>【授業概要】<br>今までの生活が上手くいかなくなった人を支援する作業療法。様々な場で活躍する作業療法士を紹介します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第11回　現代医療に貢献する臨床検査技師について（菅野）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>現代の高度多様化した医療に臨床検査は不可欠です。臨床検査を担う検査のプロ、臨床検査技師について学びましょう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第12回　時代が求める医療職、臨床工学技士とは（秋山）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>技術革新する先端医療、最新医療を担う臨床工学技士について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第13回　高度医療を支える医療機器（立原）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>新型コロナウィルス感染症の治療でも用いられる高度医療機器について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第14回　保護者に求められる力 ～子どもの発達に合わせた遊びの展開～（田中）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>子どもたちの発達に合わせた遊びや絵本、環境設定の工夫について、実演を通しながら具体的に学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第15回　特別支援教育について知ろう（小林義）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>特別な支援を必要とする子どもたちの学びの場は？　学びの内容は？　先生たちの支援は？　これらについて学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第16回　心と心理学　　～こころを科学する視点～（大島）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>「心」の「理（ことわり）」の「学」問である心理学について、医療・福祉・教育の場面を例に学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。<br>・授業形態は、COVID-19の感染拡大状況に応じ、対面またはオンデマンド（Youtube）となる。<br>・オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。<br>・予習復習をしっかりすること。<br>・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加するこ |

| | |
|---|---|
| | と。<br>・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。<br>・対面講義は、専門分野についての学びを深めるために、3キャンパスで実施する。第1～4、14～16回は川曲キャンパス、第5～7回は藤岡キャンパス、第8～10回は本町キャンパスで行う。<br>〔受講のルール〕<br>・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。<br>・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。<br>・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。<br>また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。 |
| オフィスアワー | 講義時に指示する。 |
| 評価方法 | 各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%） |
| 教科書 | 事前にすべての授業資料を冊子で配布する。 |
| 参考書 | 講義内で適時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>各学部に所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 対人関係論　　授業コード： 20R1L0A181

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 漆畑典子 | | | |
| 基礎科目 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させ、心と心の通い合いによって生まれる暖かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。<br>【到達目標】<br>・自己理解を深め、自己肯定感を高めるための取り組みを自ら実践できる。<br>・対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解し、コミュニケーションスキルを習得し向上させる具体的な方法について説明、実践できる。<br>・感情に関する基本を理解し，自分の感情をコントロールする取り組みができる。<br>・自分も相手も大切にした伝え方(アイメッセージ)や自己主張(アサーティブネス)の基本を理解し、方法について説明できる。 |
| 授業の概要 | 本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要なコミュニケーションスキルを学んでいく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | ガイダンス<br>【key words】<br>対人援助職<br>【授業概要】<br>授業概要、シラバス（内容・評価法など）、授業方式と注意点などを理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書 pⅢ～ⅩⅥ、ｐ2～5<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。配布資料、教科書 pⅢ～pⅩⅥ、ｐ2～5を読む。<br>教科書、筆記用具、A4程度の白い紙（罫線がはいっていないもの）持っていればカラーペンや色鉛筆など。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第2回 | 自己理解Ⅰ<br>【key words】<br>自己概念<br>【授業概要】<br>ワークシートを通して自己理解に取り組む。 |

【教科書ページ・参考文献】
教科書　ｐ5～8、p13～14、p21～25 を読む
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書、配布資料を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第3回　自己理解Ⅱ
【key words】
エゴグラム

【授業概要】
ワークシートを通して自己理解に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p26～33
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ26～33 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第4回　態度とコミュニケーション
【key words】
リフレーミング、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション
【授業概要】
態度とコミュニケーションに関する基本的知識を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
教科書p8～12、ｐ34～45、p179～183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ34～45を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第5回　コミュニケーション力を育もう　伝える力１
【key words】
アイメッセージ
【授業概要】
自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」や感情に関する基本を理解し、ワークシートを交えて伝わる伝え方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ60～65
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：教科書p60～65、配布資料を読む
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第6回　コミュニケーション力を育もう　伝える力２
【key words】
アサーティブネス、アサーティブ、ノン・アサーティブ、アグレッシブ
【授業概要】
自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、ワークシート、ペアワークを通して方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ65～68
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ65～68を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第7回　コミュニケーション力を育もう　伝える力３
【key words】
ＤＥＳＣ法
【授業概要】
ワークシート、ペアワークを通して、アサーショントレーニングのひとつであるＤＥＳＣ法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：配布資料を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第8回　自己管理Ⅰ　感情管理
【key words】
感情管理、アンガーマネジメント
【授業概要】
感情管理の方法を学び、ワークシートを交えて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

教科書ｐ78～81
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ78～81を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第9回　レポート課題解説
【key words】
DESC法、ABC理論、認知行動療法
【授業概要】
ABC理論、認知行動療法の概要を理解し、伝える力１～３、感情管理で学んだ内容を応用してレポート課題に取り組む。
レポート課題の詳細は授業内で解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
180分
教科書、筆記用具持参。

第10回　コミュニケーション力を育もう　みる力
【key words】
ＫＹＴ（危険予知トレーニング）
【授業概要】
観察することと観察した内容を活用することの重要性を学ぶ。
ワークシートを用いて危険に対する感受性を高める方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ46～50
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：配布資料、教科書ｐ46～50 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第11回　コミュニケーション力を育もう　　きく力１
【key words】
聞く、聴く、訊く
【授業概要】
聴くことの重要性について、ペアワークも交えて体験的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ50～60, ｐ165～170
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ50～60, ｐ165～170 を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第12回　自己管理Ⅱ　時間管理・健康管理
【key words】
時間管理
【授業概要】
ワークシートを通して医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めるきっかけにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐ69～78
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ69～78を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第13回　コミュニケーション力を育もう　きく力２
【key words】
傾聴
【授業概要】
傾聴の基本的知識を理解し、ペアワークを通して傾聴の方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
料教科書ｐ147～155
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書ｐ147～155を読む。
教科書、筆記用具。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第14回　キャリア
【key words】
キャリア、キャリア発達、キャリアプラン

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>キャリアに関する基礎的知識を学び、ワークシートを通して自身のキャリアプラン、身につけるべき社会人基礎力について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書ｐ92～101<br>配布資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習・復習：教科書ｐ92～101を読む。<br>教科書、筆記用具。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分<br>第15回　まとめ<br>【key words】<br>コミュニケーション・スキル<br>【授業概要】<br>授業全体のふりかえり、全体を通した感想（学んだこと、身についたこと、今後にどう活かすかなど）を全体でシェアする。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：教科書、配布資料に目を通す。<br>教科書、筆記用具。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・本講義ではセルフワーク・ペアワークを実施する予定となっています。状況をみながら、可能であれば数名でのグループワークも実施する予定です。ペアワーク、グループワークは、教室内でのディスカッションになるため、マスクを着用して受講してください。<br>・時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください。<br>・本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい情況にある人は、遠慮、無理、我慢をせずに申し出てください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード・Googleフォーム・授業掲示板・メール |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書該当ページと配布資料を、予習として各自読んでおく。配布資料と教科書を用いて復習する。 |
| オフィスアワー | 授業時間前後（水曜）を予定している。 |
| 評価方法 | 授業内での積極的・意欲的取り組み5%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカード、確認小テストなどのの提出物の提出状況とその内容75%、レポートの提出とその内容20% |
| 教科書 | 山口 美和　PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド(第2版)　医学書院　2016 |
| 参考書 | 講義の際に適宜指定する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>教育相談、労働相談、職業相談などの相談員として、対人援助や心理的支援を、職場内外との協働と連携をしながら行った。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：R20191A180

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 集中 | 1年～4年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。 |
| 授業の概要 | 研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　2022年8月24日～9月3日　ただしコロナウィルスの感染状況により中止となる場合もある。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要<br>【key words】<br><br>【授業概要】 |

訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class )プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について
【key words】

【授業概要】
カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
【key words】

【授業概要】
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②

【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class )プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第３０回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話<br>し合い、同意を得る。<br>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。<br>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。<br>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。<br>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。<br>⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい<br>⑦本講義は10人以上により開講する |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する) |
| 評価方法 | 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。<br>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。<br>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。<br>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。<br>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。<br>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 |
| 教科書 | 担当教員が適宜指示する。 |
| 参考書 | 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 海外医療福祉研修（ﾌｨﾘﾋﾟﾝ）　　授業コード：R20191A598

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 集中 | 1年次～3年次 | 2単位(60) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 田口敦彦・小林洋子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。 |
| 授業の概要 | 研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。<br>研修期間　2023年3月中旬を予定　コロナウィルスの感染状況により中止となる場合もある。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方<br>【key words】<br>(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。<br>【授業概要】<br>グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 |

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について

【key words】

【授業概要】
フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて

【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項

【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について

【key words】

【授業概要】
海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話

【key words】

【授業概要】
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し

【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション

【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイ

を行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Adult day care services　高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Kaisaka　Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験
【key words】

【授業概要】
″マニラおよび近郊の文化、観光施設

″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 第２４回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>″マニラおよび近郊の文化、観光施設<br><br>″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２５回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>″マニラおよび近郊の文化、観光施設<br><br>″現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２６回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２７回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２８回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>CHILD HAUS　children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２９回　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３０回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。<br>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。<br>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 |

| | |
|---|---|
| | ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。<br>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。<br>⑥本講義は10人以上により |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。 |
| オフィスアワー | 火曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する) |
| 評価方法 | 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。<br>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。<br>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。<br>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。<br>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。<br>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 |
| 教科書 | 担当教員が適宜指示する。 |
| 参考書 | 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎演習Ⅰ(OT)　　授業コード：020191A170

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理する力を育む。<br>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。<br>②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。<br>③レポートを形式に則って作成できる。<br>④グループワークを円滑に実施できる。<br>⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。<br>⑥実際の場面において自らの健康を管理し、適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。<br>⑦データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理することができる。 |
| 授業の概要 | 本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

授業計画

（第１回　建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、建学の精神、基礎学士力の育成、目標の立案、ポートフォリオについて

【key words】
建学の精神、基礎学士力、ポ-トフォリオ

【授業概要】
基礎学士力とは何か。また、基礎演習Ⅰにおいて建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。
ポ-トフォリオについて概要、制作方法について説明する。
修学ポートフォリオ（webポータルサイト）を用いて、1年次の目標を立てる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：本学の建学の精神について調べ、資料を印刷してくること
課題：基礎学士力を培うために、4年間の目標および1年次の目標をたて、ポートフォリオにまとめておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第２回　建学の精神と実践教育プログラム②、進路・資格取得プログラム①：学び方、ノ-トの取り方について

【key words】
基礎学士力、学び方、ノ-トの取り方
【授業概要】
国家試験の概要を知ることで、1年次の学びに対する意識付けを明確にする。高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を再確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題①：日々の学習計画（方法、内容、ノートの取り方など）を具体的に立て、webポータルサイトのレポート登録に提出すること。提出期限は後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第３回　建学の精神と実践教育プログラム③、心身の健康プログラム：学び方（アウトプットの重要性）
【key words】
基礎学士力、学び方、心身の健康、学生相談室
【授業概要】
覚えた知識は、繰り返し学習しないと忘れてしまう。知識の丸暗記ではなく、自分の言葉で説明できるようになれば、理解が深まったと言える。そのために、日々の学習にアウトプットの機会を取り入れることが重要となるが、その方法を身に付ける。
また、心身の健康についてセルフモニタリングを実施することで、学生生活を送る上で健康なこころと身体を維持することの重要性について再確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、ホワイトボード（A4サイズ以上）、ホワイトボード用マーカー（3色以上）、ホワイトボード用イレーザーを準備すること
課題：アウトプットの方法をポートフォリオにまとめ、日々、実践すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム④：図書館の利用について、研究倫理（ねつ造、改ざん、盗用）
【key words】
建学の精神、基礎学士力、図書館の利用、データベース、文献検索、情報リテラシー
【授業概要】
図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。
レポートや課題に取り組む際は、ねつ造、改ざん、盗用を行ってはならない。１年次から必要となる研究倫理に関する内容を理解する。
授業後、契約電子資料を用い興味を持った文献を1点以上印刷し、要点にアンダーラインを引きポートフォリオに綴じること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題②：契約電子資料を用いて印刷した文献を適切に表記し、webポータルサイトのレポート登録に提出すること。提出期限は後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第５回　建学の精神と実践教育プログラム⑤：グループワーク手法、礼儀、挨拶の実践
【key words】
建学の精神、グループワーク手法、礼儀、挨拶

【授業概要】
グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、事前学習の内容（他者から好感をもたれる礼儀・挨拶）について、グループワークを行い、まとめる。
また、電話のかけ方、メールの受信・送信についてまとめ、実践できるようにする。
第1回～第4回までに作成したポートフォリオを互いに確認し合い、ポートフォリオの作成方法を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：他者から好感が持たれる礼儀・挨拶について調べてくること。
課題③：担当教員に対して適切なメールを作成し、送信すること。期限は後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第６回　建学の精神と実践教育プログラム⑥：個人情報保護について
【key words】
建学の精神、個人情報保護、情報リテラシー

【授業概要】
医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、群馬県警察から講師を招き、サイバーテロやインターネットの利用について講義を受ける。遠隔授業やネットショッピングなどでPCを使用する機会が急増している今、今後の生活に役立てる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：個人情報の漏えいに関する記事を集め、要点にアンダーラインを引くこと。
また、漏えい防止のために行うべきことをまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第７回　学士力育成プログラム①：　レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて
【key words】
学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー
【授業概要】
レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱いについても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表用レジュメ（A4用紙2枚、パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日提示する。また、時間内に分かりやすく発表できるよう準備すること。

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第８回　学士力育成プログラム②：レポートの書き方②発表
【key words】
学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー
【授業概要】

グループ毎に発表を行い、医学教育におけるレポートの書き方について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：図書館及び契約電子資料を用いて文献を検索し、各自1点以上の文献を印刷したうえで、事実（現象や結果など）、著者の考え、引用部分をそれぞれ色分けし、ポートフォリオにファイリングしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第９回　建学の精神と実践教育プログラム⑦：環境美化について　グループワーク
【key words】
建学の精神、環境美化

【授業概要】
学生生活や臨床場面において環境美化の必要性は誰しも理解しているが、臨床場面(病院での環境衛生）においてのその重要性を考える。「清掃」、「整理整頓」だけでなく、「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。
【レポート課題】前期を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質に必要な礼儀、挨拶、環境美化についてまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「環境整備」とする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート課題あり
ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。
提出期限は、後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第１０回　建学の精神と実践教育プログラム⑧：身だしなみの実践
【key words】
建学の精神、礼儀、身だしなみ

【授業概要】
臨床の場面を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記し、ポートフォリオにまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第１１回　学士力育成プログラム③：前期の学びの振り返り、レポートの書き方③
【key words】
建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、身だしなみ、個人情報、ポートフォリオ、レポートの書き方
【授業概要】
前期に学んだ内容についてポートフォリオをもとに振り返る。また、ポートフォリオについて他者評価を受ける。礼儀・挨拶・環境美化のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。
用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。
また、建学の精神に基づく道徳・倫理について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ポートフォリオを持参すること。
課題：他者評価の結果をもとにポートフォリオを作成し直すこと、適切なレポートの書き方に基づき、修正をすること

【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第１２回　進路・資格取得プログラム②：卒業生講話
【key words】
進路、理学療法士、作業療法士

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>卒業生講話を通して学生時代の学びや臨床での経験を知ることで、将来、専門職に就くための意識を高め、日々の学生生活を見直す機会を持つ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題④：入学後の大学での学びや学生生活における課題を挙げ、今後の取り組みについて具体的に自身の考えを示すこと。webポータルサイトのレポート登録に提出すること。提出期限は後日提示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１３回　学士力育成プログラム④：【事前学習：命の大切さ】<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>1985年8月12日に起こった日航機墜落事故について、何故事故が起こったのかその原因と共に理解する。データベースを用いて調べた後、正確な情報とは何か、情報の分析について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：日航機墜落事故について調べ、資料を印刷し、要点にアンダーラインを引くこと。<br>課題：グループで話し合った内容をまとめておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１４回　学士力育成プログラム⑤：【講演：命の大切さ】<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>命の大切さについて、いのちを織る会代表の美谷島氏の講演を聴講する。遺族の思いや安全面について考える機会を持つ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：講演内容をまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１５回　学士力育成プログラム⑥：【まとめ：命の大切さ】1年間のまとめ<br>【key words】<br>命の大切さ、安全性、情報リテラシー<br><br>【授業概要】<br>聴講した内容を基に、事前学習内容を整理する。当事者の思い、遺族の思いについて考える。<br>また、事故や災害などで甚大な影響が及ばないよう安全面について考える。<br>最後に、修学ポートフォリオ（webポータルサイト）を用いて1年次の学びの振り返りを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>レポート課題：日航機墜落事故や「いのちの大切さ」の講演についてまとめ、突然発症した患者と向き合いながらPT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ。<br>提出期限は、後日提示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。<br>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。<br>③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。<br>④内容が類似した課題は受け付けないため、自己の努力で作成すること。<br>⑤提出物等が基準を満たさない場合は、再提出とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回、課題が提示されるので、シラバスを確認すること。<br>提出期限があるものについては、厳守すること。<br>全ての回で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。<br>また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。 |
| オフィスアワー | 木曜日16：00～17：00 |
| 評価方法 | ◆レポート（前期・後期）30%◆発表18%◆ポートフォリオ40%◆課題①～④12%<br><br>＜レポート採点基準＞<br>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点）　必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点）<br>②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点）<br>③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点）<br>④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点）<br>⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点）<br>⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点） |

| | |
|---|---|
| | ＜発表評価基準＞<br>①内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分発表できた（5点）。所々不十分（3点）。不十分（1点）<br>②態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切で聞き取りやすい発表ができた（5点）　所々不十分（2点）　不十分（1点）<br>③時間：4分30秒以上5分以内（5点）　4分以上4分30秒未満（3点）　4分未満、5分超え（1点）<br>④レジュメ：見やすさ・内容共に十分（3点）　所々不十分（2点）　不十分（1点）<br><br>＜ポートフォリオ評価基準＞<br>①ポートフォリオの基本事項が守られている<br>1)全ての資料に日付が記載されている（5点）<br>2)日付順にファイリングしてある（5点）<br>3)全ての資料に出典が記載されている（5点）<br>4)全ての資料に考察が書かれている（10点）<br>②資料<br>1)各回の全ての配布資料がファイリングされている（5点）<br>2)自ら収集した資料（授業中にメモした資料も含む）がファイリングされている（10点）<br><br>＜課題①～④評価基準＞<br>①提出期限が守られている（5点）<br>②氏名の記載がある（2点）<br>③内容：適切に十分記載できた（5点）所々不十分（3点）不十分（1点） |
| 教科書 | 知へのステップ、学生生活HAND BOOK |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、老人保健施設にて身体障害領域・老年期障害領域の作業療法士として10年ほど勤務し、現在、群馬県東吾妻町、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： ボランティア活動Ⅰ(OT)　　授業コード：020191A174

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子・小林雄斗 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。<br>②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。<br>③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。<br>④グループボランティア等の企画・実施を通して、協調性・コミュニケーションについて振り返り、修正することができる。 |
| 授業の概要 | 医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度<br>【key words】<br>学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア<br>【授業概要】<br>学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア、学士力とボランティアの関わりについて説明する。目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明、及びボランティアの種類及び参加方法について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①感染対策を考慮し、また大学生として実施可能なボランティア活動について調べ、ポートフォリオを作成する。<br>②目標シートを完成させて提出する。（提出期限は後日提示）<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | ボランティア活動を考える①：ボランティア講和、非対面のボランティア活動<br>【key words】<br>ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア、対面を伴わないボランティア活動、対象者<br>【授業概要】<br>上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、ボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。また、ボランティアの申し込み方法を学ぶ。さらに、課題で調べたボランティア活動について、グループ（5～6人）で情報を共有する。ボランティアを必要とする対象者について話し合い、感染症対策を考慮し、グループボランティア活動として実施可能な内容についてグループで話し合い検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | 事例検討①<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 情報収集、状況把握、ニーズ、グループワーク<br>【授業概要】<br>事例について小グループで話し合い、事例の背景・現状について調査を行い、考えられるボランティア活動について検討を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②事例検討の発表用のPP資料を作成し、発表準備をする。レジュメの提出期限は後日提示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | 事例検討②：発表<br>【key words】<br>発表、発表態度、レジュメ、情報収集、状況把握、ニーズ、グループワーク<br>【授業概要】<br>事例についてグループでまとめた内容について発表を行う。また、発表技法についても他グループから学ぶ。当日は両専攻合同で2教室を設定し行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | ボランティア活動を考える②：グループボランティアの企画<br>【key words】<br>企画、グループボランティア、情報共有、役割分担<br>【授業概要】<br>実施可能な活動内容を話し合い、実際に活動するフィールドを決めていく。企画書（予算書を含む）を作成する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②企画書を作成し提出する。（提出期限は後日提示）<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | 車椅子体験①<br>【key words】<br>車椅子、介助者、注意点、体験、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、グループワーク<br>【授業概要】<br>車椅子の構造・使用方法を学び、3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験する。また、街中のバリアフリー、ユニバーサルデザインにも着目し、それぞれの体験や観察で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、対象者の心理面に配慮した適切な介助方法について考える。<br><br>注意点<br>①車椅子体験に適した服装で参加。屋外に出ることを考慮すること<br>②メモを用意すること<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②車椅子体験の発表用のPP資料を作成し、発表準備をする。レジュメの提出期限は後日提示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | 車椅子体験②：発表<br>【key words】<br>発表、発表者の態度、レジュメ<br>【授業概要】<br>車椅子体験の発表をグループごとに行う。他グループの発表を聞き、体験内容から感じたことや介助方法について情報を共有する。また、発表技法についても他グループから学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②グループボランティアの企画の発表の練習をする。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | グループボランティアの企画発表会<br>【key words】<br>企画、グループワーク、運営<br>【授業概要】<br><br>グループボランティアの企画の発表会を行う。他グループの発表を参考に、修正点・改善点について話し合う。<br><br>注意点<br>グループボランティアは企画書の許可後に開始すること。また、予算取得後に物品を購入し、領収書・出納帳で管理すること。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②夏期休暇中にグループボランティアを実施し、中間報告会の資料作成、発表準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　グループボランティアの振り返りと後期の計画

【key words】
グループボランティア、中間振返り、計画
【授業概要】
前期および夏期休暇中に行ったグループボランティアの振り返りを行い、各自の反省点や今後の課題を明確にし、中間振り返り票を作成する。また、グループボランティアの進捗状況を確認し、今後の予定・計画を明確に話し合う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②中間報告会の発表用のPP資料を作成し、発表準備をする。レジュメの提出期限は後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　グループボランティアの中間報告会

【key words】
グループボランティア、中間振返り、計画、報告会、発表
【授業概要】
グループボランティアの実施状況、今後の予定について各班発表を行う。当日は両専攻合同で2教室を設定し行う。他専攻や他グループの発表を参考に、自らのグループの活動の振り返りを行い、企画の修正点および反省点や今後の課題を明確にする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　ボランティア活動の意義・目的①

【key words】
ボランティア活動の目的、建学の精神、KJ法、文献検索、根拠論文
【授業概要】
本学におけるボランティア活動の目的・意義を、グループで話しあう。基礎演習で学んだKJ法を用いて意見をまとめる。また、感想や考えと言った抽象的なまとめ方ではなく、先行研究や文献を使用して根拠のあるまとめを行う。文献の検索方法や根拠論文の使用について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②発表用のPP資料を作成する。提出期限・提出方法等は後日提示します。
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　ボランティア活動の意義・目的②：発表

【key words】
発表、ボランティア活動の目的、ボランティア活動の意義、建学の精神
【授業概要】
ボランティア活動の意義・目的についてグループで話し合い、まとめたことを発表する。他グループの発表を聞き、本学におけるボランティア活動と建学精神について学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　グループボランティアの個人での省察

【key words】
グループボランティア、省察
【授業概要】
各グループでグループボランティアの企画から実施におけるグループへの貢献度、また情報共有ができたかなどの振り返りを行う。振り返りを通して、各自の反省点や今後の課題を明確にする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
①ポートフォリオを作成する。
②グループボランティアの報告会用のPP資料を作成し、発表準備をする。レジュメの提出期限は後日提示する。
【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　グループボランティアの報告会

【key words】
報告会、発表
【授業概要】
グループボランティアの報告会を行う。各グループの活動報告を聞き、情報を共有し、ボランティア活動の意味・目的について考える。
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①ポートフォリオを作成する。<br>②2分間スピーチの準備をする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　1年間のボランティア活動の発表<br>【key words】<br>２分間スピーチ、発表<br>【授業概要】<br>1年間のボランティア活動・講義を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>①1年間のボランティア活動・講義の経験を振り返って、成長報告書を記載し、ポートフォリオにファイルする。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意し、毎回講義終了後に資料等をファイリングすること。<br><br>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめていきます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。<br>依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。<br>また、様々な提出物に関し、期限が過ぎた場合は未提出とみなします。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回オリエンテーション時、講義内で詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | 木曜15：00～17：00 |
| 評価方法 | ポートフォリオ60%　　ボランティア参加状況10%　　授業内発表30%<br><br>＜ポートフォリオ採点基準＞<br>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（5点）<br>②中間振り返り票：後期の活動計画、自己の課題・行動目標を具体的かつ現実的にあげられている（5点）<br>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（5点）<br>④資料：事前および事後に調べた資料・グループボランティア活動資料（7点）、授業メモ（3点）、配布資料（5点）がファイリングされている<br>⑤日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点）<br>⑥活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（10点）。ボランティア参加後に速やか（1週間以内）に提出できている（5点）<br><br>＜ボランティア参加状況評価基準＞<br>①依頼ボランティア・継続ボランティア（グループボランティアは含まない）に参加（2点）ただし、活動後1週間以内に活動記録簿を提出した物のみとし、上限は10点とする<br><br>＜授業内発表評価基準＞（参考）<br>①態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線、声の大きさ・明瞭度<br>②発表内容：必要な項目・内容についてわかりやすく発表できている<br>③発表の工夫：わかりやすい工夫がされている<br>④時間：指定時間±30秒以内<br>⑤発表用資料：書式・内容ともに十分でわかりやすい |
| 教科書 | ボランティアハンドブック |
| 参考書 | 鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略!，医学書院，2006 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、介護老人保健施設にて身体障害領域、高齢期障害領域の作業療法士として勤務。現在群馬県吾妻郡、埼玉県本庄市の地域支援にかかわっている。また、リハビリテーション学部ボランティア委員としてボランティア教育・活動にかかわっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育 |

| | |
|---|---|
| | ■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎演習Ⅱ(OT)　　授業コード：020192A171

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林昭博・新谷益巳 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>本学の建学の精神・教育目的に基づき，基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う．基礎演習Ⅱにおいては，礼儀・挨拶，ボランティア活動，環境美化活動に自主的に取り組み，工夫できることを目指し，人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする．読書力，コミュニケーション能力，問題解決能力などを高め，専門演習への橋渡しとする．<br>【到達目標】<br>①自身が考える理学療法士像と作業療法士像について説明することができる．<br>②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる．<br>③国際福祉機器展を通して，最新の福祉機器について学ぶとともに，グループ活用および発表を通して伝達力を養う． |
| 授業の概要 | 基礎演習Ⅱでは，①建学の精神と実践教育，②学士力育成，③進路・資格取得，④地域貢献，⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し，建学の精神に則り，ボランティア活動，環境美化活動，挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する．また，読書力，問題解決能力，コミュニケーション能力を高め，学士力の向上を図る． |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる． | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | １．建学の精神と実践教育プログラム　科目オリエンテーション<br>【key words】<br>学士力，社会人基礎力，建学の精神．<br>【授業概要】<br>・学士力，建学の精神基礎．学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ．<br>・第1回から第15回までのシラバス内容について説明する．<br>・前期は計8回，後期は計7回の実施予定．<br>・SA制度について．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>基礎演習テキスト、学生生活GUIDE<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基礎演習Ⅰの振り返りをしておくこと．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | ２．学士力育成プログラム　教育支援（学習の進め方について）<br>【key words】<br>予習，授業の受け方，復習<br>【授業概要】<br>理学療法士および作業療法士は，臨床で働くためには様々な知識を身に付ける必要がある．学習をどのように効率的かつ自分自身のスタイルに合った方法があるのかについて学ぶ．<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自が取り組んでいる学習方法について説明が出来る様に．計画～実施～反省<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | ３．進路資格取得プログラム　2022年度の国家試験について<br>【key words】<br>国家試験，合格率<br>【授業概要】<br>理学療法士および作業療法士の2022年度の国家試験結果について知る．また，前年度の担任を通してどのような取り組みがされていたか学ぶ．<br>【教科書ページ・参考文献】 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
理学療法士および作業療法士の国家試験合格率を調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第４回　２．学士力育成プログラム　研究倫理について
【key words】
レポート，文章作成，卒業論文
【授業概要】
研究倫理に関わることとして，課題レポートや卒業論文などの作成の注意点について理解する．これまでの取り組みを踏まえて今後どのように取り組んだら良いかについて考える．
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
研究倫理について調べる．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　３．進路・資格取得プログラム―1　将来の理学療法士像および作業療法士像について考える
【key words】
情報収集，将来の計画
【授業概要】
理学療法専攻の教員1～2名と作業療法専攻の教員1～2名から，「なぜこの職業を選んだのか」，「職業としての魅力とやりがい」，「どのような仕事をしていたか」，自身の経験を踏まえて説明する．その後に，各自が考えている理学療法士像，作業療法士像をまとめる．
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身がなりたい理学療法士像および作業療法士像を考えてくる．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　３．進路・資格取得プログラム―2　将来の理学療法士像および作業療法士像について考える
【key words】
情報収集，将来の計画
【授業概要】
理学療法専攻の教員1～2名と作業療法専攻の教員1～2名から，「なぜこの職業を選んだのか」，「職業としての魅力とやりがい」，「どのような仕事をしていたか」，自身の経験を踏まえて説明する．その後に，各自が考えている理学療法士像，作業療法士像をまとめる．
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身がなりたい理学療法士像および作業療法士像を考えてくる．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第７回　１．建学の精神と実践教育プログラム　大学生としての身だしなみ
【key words】
身だしなみ，服装，髪型，化粧
【授業概要】
普段の身だしなみを振り返り，これから行う予定の，ボランティア活動，後期の国際福祉機器展，基礎評価実習における身だしなみの必要性について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期の身だしなみを振り返るため，自身の身だしなみについて考えてくる．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第８回　１．建学の精神と実践教育プログラム　アルコール依存・薬物中毒防止について
【key words】
アルコール，薬物，中毒
【授業概要】
群馬県警の担当者より，アルコール依存，薬物中毒に関する講話を行う．

聴講した内容を基に，事前学習してきた内容を踏まえて整理する．また，当事者の思いについて考える．
【教科書ページ・参考文献】
・資料を配布する．
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アルコール依存，薬物中毒について事前に個別学習をすること．授業後に，講話を聴いて自身の考えをまとめる．
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第９回　２．学士力育成プログラム：倫理的思考力について，１）国際福祉機器展2023の事前学習・説明後期オリエンテーション
【key words】
生活支援，環境調整，福祉機器．
【授業概要】
・倫理的思考力
　情報や知識を複眼的，論理的に分析する方法について学ぶ．
・グループ分けを行ない，事前学習・説明を行なう．
・各グループで取り組む課題を決める．
【教科書ページ・参考文献】
国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各グループで担当するカテゴリーについて確認し，調べたい企業の情報収集を行う．

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１０回　２．学士力育成プログラム：２）国際福祉機器展2023への参加（学外学習）<br>【key words】<br>生活支援、環境調整、福祉機器.<br>【授業概要】<br>「国際福祉機器展2023」へ参加し，実際の福祉機器を確認，情報収集を行う.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで取り組む課題について「国際福祉機器展Web2023」から情報収集をする.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１１回　２．学士力育成プログラム：３）国際福祉機器展2023への参加（学外学習）<br>【key words】<br>生活支援、環境調整、福祉機器.<br>【授業概要】<br>「国際福祉機器展2023」へ参加し，実際の福祉機器を確認，情報収集を行う.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>国際福祉機器展．ホームページ　https://www.hcr.or.jp/<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで取り組む課題について「国際福祉機器展Web2023」から情報収集をする.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１２回　２．学士力育成プログラム：４）国際福祉機器展2023　グループ発表<br>【key words】<br>生活支援、環境調整、福祉機器.<br>【授業概要】<br>各グループで課題をまとめたものを発表する．2会場にわかれて発表．国際福祉機器展での学外学習を通じて，「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする．グループ学習の成果をプレゼンテーションする.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>国際福祉機器展ホームページ　https://www.hcr.or.jp/<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで発表用のパワーポイントの作成や予行練習等の準備を行い，聴講者にわかりやすいプレゼンテーションができるように取り組むこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分程度<br>第１３回　３．進路・資格取得プログラム：在学生講話　１．建学の精神と実践教育プログラム：１）児童虐待，高齢者虐待防止講話（事前学習）<br>【key words】<br>情報収集，振り返り，行動計画，児童虐待，高齢者虐待，防止対策.<br>【授業概要】<br>・在学生からの講話を聴講し，今後の学習や大学生活を振り返り，改善の一助とする.<br>・我が国の児童虐待、高齢者虐待について調べ，どの様な防止対策が実施されているか事前学習を行う.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自分自身のこれまでの学習や大学生活を振り返る.<br>復習：自身の今後の改善計画を立案し，実行する.<br>課題：児童虐待，高齢者虐待防止については事前の調べ学習を行ない，ポートフォリオへ入れる.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習復習各60分程度<br>第１４回　１．建学の精神と実践教育プログラム：２）児童虐待，高齢者虐待防止講話（講演とまとめ）<br>【key words】<br>児童虐待，高齢者虐待，防止対策.<br>【授業概要】<br>群馬県警の担当者より，児童虐待、高齢者虐待に対する防止対策について聴講する.<br><br>聴講した内容を基に，事前学習内容を整理する．当事者の思いについて考える.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：児童虐待防止，高齢者虐待防止について自身の考えをまとめ，ポートフォリオへ入れる.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１５回　２．学士力育成プログラム：接遇，身だしなみの見直し<br>【key words】<br>接遇，身だしなみ<br>【授業概要】<br>実習に向けた接遇や身だしなみ（頭髪，服飾品，昌賢スーツ，ケーシーの着用）を改めて見直す.<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：自分の接遇や身だしなみの状態を振り返り，実習に向けてどのように改善をしてゆくか計画を立案し，実行する.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・ポートフォリオの作成については，自身が見るだけでなく，成績評価として採点者が見ることとなるため，丁寧に整理した物を作成して下さい．誰のポートフォリオなのか？いつの資料なのか？など |

| | |
|---|---|
| | わからない様なものは作らないように気を付けてください.<br>・グループ学習も含まれるため，何もしない事が無いように役割を決めて進めて下さい．なお，均等になるように配慮してください.<br>・授業中は，指示した以外に携帯電話を操作しないでください．調べ学習などで使用する時には指示をします.<br>・授業に関係ない私語は控えてください.<br>・授業中に寝ている人がいる場合には，中断することがあります. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式．新型コロナウイルスの状況によっては，Googleフォームを使ったコメントカードを提出することもある. |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各回のシラバスを確認した上で予習と復習を行うこと.<br><br>・前期においては，ディベートに関する内容が中心となるため，資料は各自で整理してまとめること．そのため，予習として60分程度必要となる.<br><br>・後期は、国際福祉機器展についての見学から発表をグループで活動することとなる。そのため、企業情報の収集、パワーポイントの作成、発表の準備を行うため60～90分程度の準備が必要となる。 |
| オフィスアワー | [新谷]木曜日の午後．事前相談にて別日に行うことも可能.<br>[小林]月曜日の16時30分～17時30分．事前相談にて別日に行うことも可能. |
| 評価方法 | 前期<br>・第1回～第8回で使用した資料や自己学習したものをポートフォリオにまとめ，前期終了時に提出（提出期日は後日提示）.<br><br>後期<br>・第9回～第15回で使用した資料と自己学習したものをポートフォリオにまとめる．後期終了後に提出（提出期日は後日提示）.<br>評価に含まれる事項：①表紙に科目名と名前の記載がある．②日付順に資料がまとめられている．③各回の授業後に学んだ事についてまとめられている．④自己学習がされている．⑤配布した資料に必要事項が記入されている.<br>上記を踏まえて総合評価を行う。<br>提出期日が守れない場合，評価ができないので注意が必要.<br>＊ポートフォリオの内容に不備がある場合には，再提出を指示する. |
| 教科書 | ・指定の教科書は無いが，資料などを配布する. |
| 参考書 | ・学生生活HAND BOOk．また、参考書については授業内で適宜紹介する. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>・アクティブラーニングを含めた学習の進め方について，3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している.<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： ボランティア活動Ⅱ(OT)　　授業コード：020192A175

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・榊原清 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。<br>〔到達目標〕<br>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。<br>②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。<br>③計画、準備、実行、評価、振り返り・改善を含めた一連のボランティア実践ができる。<br>④グループメンバーとの建設的な交流、意見交換を通じ、課題解決の手立てを提案することができる。 |
| 授業の概要 | 医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション/ボランティア実践に向けて①<br>【key words】<br>ボランティア、目標、学士力、ポートフォリオ<br><br>【授業概要】<br>ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、配布資料(穴埋め方式)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。ワークシートについて授業時間内に終えられなかった者は、授業時間外にまとめ終えること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | ボランティア実践に向けて②<br>【key words】<br>礼節、ビジネスマナー、個人情報保護<br><br>【授業概要】<br>ビジネスマナーにおける、敬語、葉書・メール対応、個人情報保護について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、配布資料(穴埋め方式)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ワークシートについて授業時間内に終えられなかった者は、授業時間外にまとめ終え、持参すること。授業内で行ったワークシートはポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | ボランティア実践に向けて③<br>【key words】<br>MDGs、SDGs、17のゴール、UN75<br>【授業概要】<br>SDGsとは、SDGsの17の目標、SDGsとボランティア活動、ボランティア活動の実践例についてお伝えします。<br>指定したグループに分かれて、ボランティア活動の企画を開始します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

SDGsの17のゴールについてインターネットなどで調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第４回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
SDGs、ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第５回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
SDGs、ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。企画書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第６回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
SDGs、ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を作成する。具体的なボランティア活動内容を練り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第７回　グループボランティア活動（企画）
【key words】
SDGs、ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画
【授業概要】
社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
各省庁データ、新聞記事、原著論文等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第８回　グループボランティア（実践準備）
【key words】
SDGs、ボランティア実践、ディスカッション、実践準備
【授業概要】
グループごとにボランティア実践に必要な準備を進める。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの進捗に応じ、ボランティア実践や次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第９回　後期授業の進め方／中間振り返り
【key words】
SDGs、ボランティア実践、振り返り、アセスメント

【授業概要】
後期授業の進め方について概説するとともに、これまでの自身の成長について振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
成長記録について、授業時間内に終えられなかった者は作成し指定の方法で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　グループボランティア活動（分析）
【key words】
ボランティア実践、分析

【授業概要】

| | |
|---|---|
| | これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１１回　グループボランティア活動（分析・資料作成）<br>【key words】<br>ボランティア実践、分析、資料作成<br><br>【授業概要】<br>これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析し、まとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各省庁データ、新聞記事、原著論文等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析・資料作成の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１２回　グループボランティア活動（資料作成）<br>【key words】<br>ボランティア実践、分析、資料作成<br><br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等にまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>各省庁データ、新聞記事、原著論文等<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程<br>第１３回　グループボランティア活動（発表）<br>【key words】<br>ボランティア実践、発表、聴講<br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１４回　グループボランティア報告会（発表）<br>【key words】<br>ボランティア実践、発表、聴講<br><br>【授業概要】<br>年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１５回　学んだことの振り返り<br>【key words】<br>目標、ボランティア実践、振り返り、アセスメント<br><br>【授業概要】<br>第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に係る情報〕<br>・A4クリアブック(40ポケット)を用意すること。<br>・配布資料は原則、紙媒体で配布しない。スレッド上で電子データを送付するため、各自でダウンロードや印刷をすること。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・本科目は、ボランティアを通した自己の成長についてまとめていくため、積極的なボランティア活動の実践が前提となる。<br>・ボランティア実践に関わる計画書や予算等の提出物は必ず提出期限を守ること。 |

| | |
|---|---|
| | ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>・授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机上に出さない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | 各専攻担任より指示 |
| 評価方法 | 以下の基準に則り、60%以上を「可」（合格）と判定します。<br>＜ポートフォリオ　30%＞<br>①提出期限を守ることができた（5点）<br>②学んだ資料が含まれている（目標シート等、配布資料、ワークシート、実践の記録、発表資料）（10点）<br>③日付・感想・考察がすべての保存資料に記載されている。（10点）<br>④得た日付に沿って、資料が整理できている（5点）<br>＜各種目標・振り返りシート（30%）＞<br>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）<br>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）<br>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）<br>＜授業内課題（40%）＞<br>①企画書（15点）<br>②グループメンバーによる他者評価（5点）<br>③グループ学習に対する自己評価（5点）<br>④発表（15点） |
| 教科書 | 特になし。適宜紹介する。 |
| 参考書 | 日能研：SDGs　2030年までのゴール．みくに出版，2020<br>鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略!，医学書院，2006<br>尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解，サンクチュアリ出版，2010 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>施設や病院での臨床経験のある教員が担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合演習Ⅰ(OT)　　授業コード：020193A172

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・村山明彦 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学士力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学士力を養成する。 |
| 授業の概要 | 総合演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」をグループワーク等を通して身につけていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | △ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

授業計画

第１回　建学の精神と実践教育プログラム①： 科目オリエンテーション／学士力について

【key words】
オリエンテーション

【授業概要】
本科目のオリエンテーションを行うとともに、本科目で学ぶべき事項を明らかにする。
評価基準大学生における学士力について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに、「学士力とは何か？どのような力なのか？」という問いについて自分なりに解答できるようにしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1

【key words】
学び、学士力、多様性

【授業概要】
学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。
前回提示された課題の用紙を基に、学士力について理解を深め、自分が今まで学び成長したことを振り返り、今後２年間の課題を見つめなおす機会とする。
視点の多様性について（多文化・多面的視点に関する教材をみる）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
提示された課題の実施
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2

【key words】
グループワーク

【授業概要】
定められた課題に対して、グループで解決していくための取り組みを行う。それらの活動を通し、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸの難しさや課題、メリットなどについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | 提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第４回 | 学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3<br>【key words】<br>多様性、民主主義、自由<br><br>【授業概要】<br>学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第５回 | 学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1<br>【key words】<br>課題解決型学習<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第６回 | 学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第７回 | 学習統合プログラム⑥：問題解決型学習2-1<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第８回 | 学習統合プログラム⑦：問題解決型学習2-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第９回 | 学習統合プログラム⑧：問題解決型学習3-1<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１０回 | 学習統合プログラム⑨：問題解決型学習3-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１１回 | 学習統合プログラム⑩：問題解決型学習4-1<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１２回 | 学習統合プログラム⑪：問題解決型学習4-2<br>【key words】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１３回 | 学習統合プログラム⑫：問題解決型学習5-1<br>【key words】<br>研究倫理、課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第１４回 | 学習統合プログラム⑬：問題解決型学習5-2<br>【key words】<br>臓器移植、課題解決<br><br>【授業概要】<br>各自で事前に調べ学習を進めるとともに、授業の聴講を通じてテーマに関する理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>180分 |
| | 第１５回 | 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ<br>【key words】<br>建学の精神、課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【授業概要】<br>これまでの授業の振り返り<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>課題解決、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>提示された課題の実施<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |

| | |
|---|---|
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>①グループワークが多いので休まないこと。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>〔受講のルール〕<br>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル）<br>初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。 |
| オフィスアワー | 山口・村山　火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） |
| 評価方法 | 授業内課題100％ |
| 教科書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>山口<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。(詳細は以下を参照)<br>https://researchmap.jp/t-yamaguchi<br><br>村山<br>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として7年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。<br>専門理学療法士（基礎・地域・予防・支援工学理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。<br>日本転倒予防学会（理事）、日本精神・心理領域理学療法研究会（評議員）、ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）、健康と福祉の研究会（世話人）なども務める。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合演習Ⅱ(OT)　　授業コード： 020194A173

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔・牛込祐樹 | | | |
| 基礎科目 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身についた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。<br>【到達目標】<br>①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。<br>②社会人としてのマナーを身につける。 |
| 授業の概要 | 総合演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、建学の精神<br>【授業概要】<br>授業の流れと建学の精神について説明を行う。<br>課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>建学の精神について振り返りをしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第２回 | 進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ<br>【key words】<br>就職活動<br>【授業概要】<br>就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P77-81<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座①<br>【key words】<br>就職活動、マナー<br>【授業概要】<br>就職活動に必要となる社会人としてのマナーを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第４回 | 進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座②<br>【key words】<br>就職活動、マナー<br>【授業概要】<br>就職活動に必要となる社会人としてのマナーを学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
P27-36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　進路・資格取得プログラム④：働くときの基礎知識
【key words】
就職活動、求人票
【授業概要】
求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見てみる。
気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。
【教科書ページ・参考文献】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P16-17
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　進路・資格取得プログラム⑤：情報収集①
【key words】
就職活動、情報収集
【授業概要】
興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
就職活動に関する情報収集を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　進路・資格取得プログラム⑥：情報収集②
【key words】
就職活動、情報収集
【授業概要】
興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
就職活動に関する情報収集を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①
【key words】
就職活動、自己分析
【授業概要】
就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P85-88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第９回　進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②
【key words】
就職活動、自己分析
【授業概要】
就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P85-88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①
【key words】
就職活動、履歴書
【授業概要】
就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
P18-19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②
【key words】
就職活動、履歴書
【授業概要】
就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
P18-19

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１２回　進路・資格取得プログラム⑪：面接①<br>【key words】<br>就職活動、面接<br>【授業概要】<br>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１３回　進路・資格取得プログラム⑫：面接②<br>【key words】<br>就職活動、面接<br>【授業概要】<br>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P27-36<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１４回　進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編）<br>【key words】<br>就職活動、卒業生講話<br>【授業概要】<br>卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>卒業生講話を踏まえて、就職活動と国家試験の準備を進める。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分<br>第１５回　進路・資格取得プログラム⑭：まとめ<br>【key words】<br>就職活動、まとめ<br>【授業概要】<br>これまでの振り返りとポートフォリオを用いての自己評価を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>全15回の授業の振り返りを行い、ポートフォリオを作成する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>ポートフォリオ作成180分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。<br>ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習復習を欠かさないこと。<br>科目内で学んだことを踏まえて、計画を立てて就職活動を進めること。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □ポートフォリオ　100％ |
| 教科書 | ・学校法人昌賢学園：進路の手引き<br>・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 基礎医学 2024：医歯薬出版株式会社<br>・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 臨床医学 2024：医歯薬出版株式会社<br>・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　基礎OT学 2024：医歯薬出版株式会社<br>・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　障害別OT治療学 2024：医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | 指定なし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容 |

| | |
|---|---|
| | 授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、役職者として管理運営に携わっていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 解剖学Ⅰ　　授業コード：R20191F201

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 伊東順太 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [　授業の目的　]<br>人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。<br>[　到達目標　]<br>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。<br>②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。<br>③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。<br>④四肢の筋群の起始停止部，支配神経および作用を説明することができる。<br>⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。<br>⑥骨の連結 |
| 授業の概要 | 生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション、運動器の基礎-1　人体の各部の名称と方向用語<br>【key words】<br>授業の進め方、復習の仕方を説明。<br>正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc 人体の部位名等を説明。<br>【授業概要】<br>【講義】<br>・講義の進め方と解剖学を学ぶ意義について解説。<br>・予習内容確認のためのワークを実施。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>解剖学ワークブック　P15～P17<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】解剖学ワークブック　P15～P17<br>【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　運動器の基礎-２　骨の構造<br>【key words】<br>・骨の構造と機能<br>・骨の連結・関節<br>【授業概要】 |

【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・骨の構造について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P18～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P18～P23
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　運動器の基礎-3　骨格筋の形態、運動への作用

【key words】
・骨格筋の作用
・骨格筋の起始と停止
・関節運動の種類
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・骨格筋の形態について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P24～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P24～P27
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　上肢の筋・骨格系-1　上肢の骨

【key words】
・上肢帯の骨
・自由上肢の骨
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・上肢帯・自由上肢の骨について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P58～P65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P58～P65
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　上肢の筋・骨格系-2　上肢の筋

【key words】
・上肢帯の筋
・上腕・前腕・手の筋
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・上肢帯・自由上肢の筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P66～P79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P66～P79
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　上肢の筋・骨格系-3　上肢の骨・筋【演習】

【key words】
・上肢の筋の起始部と停止部
【授業概要】
【講義】
・上肢の筋の起始部と停止部を学修するためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P66～P75
教科書の該当単元部
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P66～P75
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　下肢の筋・骨格系-1　下肢の骨

【key words】
・下肢帯の骨
・大腿・下腿の骨
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・下肢帯・大腿・下腿の骨について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P82～P91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P82～P91
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　下肢の筋・骨格系-2　下肢の筋

【key words】
・下肢帯の筋
・大腿・下腿・足の筋
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・下肢帯・大腿・下腿の筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P92～P101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P92～P101
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　下肢の筋・骨格系-3　下肢の骨・筋【演習】

【key words】
・下肢の筋の起始部と停止部
【授業概要】
【講義】
・下肢の筋の起始部と停止部を学修するためのワークを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P92～P99
教科書の該当単元部
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P92～P199
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　頭部・体幹の筋・骨格筋-1　頭部の骨

【key words】
頭蓋骨（顔面頭蓋・脳頭蓋）
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・頭部の骨について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P30～P37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P30～P37
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　頭部・体幹の筋・骨格系-2　脊柱・胸郭の骨

【key words】
脊柱、仙骨、胸骨、肋骨
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・脊柱・胸郭の骨について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P38～P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P38～P43
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　頭部・体幹の筋・骨格系-3　頭部・頚部の筋

【key words】
表情筋、咀嚼筋、胸鎖乳突筋、斜角筋
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・頭部・頚部の筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P44～P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P44～P47
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　頭部・体幹の筋・骨格系-4　胸部・腹部・背部の筋

【key words】
大胸筋、肋間筋、腹直筋、横隔膜、僧帽筋、広背筋
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・胸部・腹部・背部の筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P48～P55
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 【予習】解剖学ワークブック　P48～P55<br>【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　人体の構造と組織～組織学総論～<br>【key words】<br>上皮組織、結合組織（支持組織）、筋組織、神経組織<br>【授業概要】<br>【講義】<br>・前回の講義後課題のふりかえり<br>・人体を構成する４つの組織について解説。<br>・予習内容確認のためのワークを実施。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>解剖学ワークブック　P4～P11<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】解剖学ワークブック　P4～P11<br>【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　まとめ<br>【key words】<br>前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。<br>予習では、解剖学ワークブックの該当単元のテキスト部を熟読する。<br>復習では、解剖学ワークブックの該当単元のワーク部を実施する。さらに、教科書の該当単元をよく読み知識を深めることを望む。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。 |
| 教科書 | ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学　野村嶬【編】　医学書院<br>・解剖学ワークブック　西川彰・小林直行（著）、野村嶬（監）　医歯薬出版<br>・解剖トレーニングノート　竹内 修二（著）　医学教育出版社 |
| 参考書 | ・カラーイラストで学ぶ　集中講義　解剖学　メジカルビュー社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 解剖学Ⅱ　　授業コード：R20191S202

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 伊東順太 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>人体の構造と分類、特に筋系、関節よび神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。<br>②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。<br>③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。<br>④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。 |
| 授業の概要 | 生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり、神経組織<br>【key words】<br>神経系と筋系との関わりについて<br>神経組織<br>【授業概要】<br>【講義】<br>・科目オリエンテーションとして神経系と筋系の関わりについて解説<br>・神経組織の構造について解説。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>解剖学ワークブック　P10～P11<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】解剖学ワークブック　P10～P11<br>【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 中枢神経系-1　中枢神経の基本構造<br>【key words】<br>中枢神経の全体的な構造(白質・灰白質)、脳室、脳脊髄液<br><br>【授業概要】<br>【講義】<br>・前回の講義後課題のふりかえり<br>・中枢神経の基本構造について解説。<br>・予習内容確認のためのワークを実施。 |

【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P172～P173
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P172～P173
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　中枢神経系-2　脳-1
【key words】
脳の構造について、大脳皮質、脳回、脳溝、機能局在
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・大脳の構造と機能について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P174～P176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P174～P176
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　中枢神経系-3　脳-2
【key words】
大脳辺縁系、大脳基底核、大脳白質、脳梁
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・大脳辺縁系と大脳基底核の構造と機能について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P174～P177
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P174～P177
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　中枢神経-4　間脳・脳幹・小脳・脊髄
【key words】
中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・脳幹部と小脳の構造と機能について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P176～P181
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P176～P181
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　中枢神経-5　伝導路
【key words】
上行性伝導路、下行性伝導路
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・伝導路の種類と機能について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P182～P183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P182～P183
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　中枢神経-6　中枢神経のまとめ【演習】
【key words】
中枢神経系のまとめ
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・中枢神経系に関してまとめのための演習を実施。
【教科書ページ・参考文献】
教科書該当単元解剖学ワークブック　P182～P183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P182～P183
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　末梢神経-1　脊髄神経、頚神経叢
【key words】
脊髄と脊髄神経の構造、頚神経叢の構造
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・脊髄神経の構造と頚神経叢の支配筋について解説。

・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P182～P183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P182～P183
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　末梢神経-2　腕神経叢、胸神経
【key words】
腕神経叢および胸神経の構成とその枝、支配筋について
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・腕神経叢の支配筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P192～P193
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P192～P193
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　末梢神経-3　腰神経叢
【key words】
腰神経叢の構造とその枝、支配筋について
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・腰神経叢の支配筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P194～P195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P194～P195
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　末梢神経-4　仙骨神経叢、坐骨神経
【key words】
仙骨神経叢、坐骨神経の枝、支配筋について
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・仙骨神経叢および坐骨神経の支配筋について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P194～P195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P194～P195
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　末梢神経-5　脳神経
【key words】
脳神経の構成とその枝、支配筋について
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・脳神経の構造と機能について解説。
・予習内容確認のためのワークを実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P186～P189
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P186～P189
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　末梢神経-6　末梢神経のまとめ【演習】
【key words】
末梢神経系のまとめ
【授業概要】
【講義】
・前回の講義後課題のふりかえり
・中枢神経系に関してまとめのための演習を実施。
【教科書ページ・参考文献】
解剖学ワークブック　P186～P195
教科書該当単元
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】解剖学ワークブック　P186～P195
【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）
【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　末梢神経-7　自律神経系
【key words】
自律神経（交感神経、副交感神経）について
【授業概要】
【講義】

| | |
|---|---|
| | ・前回の講義後課題のふりかえり<br>・自律神経の構造と機能について解説。<br>・予習内容確認のためのワークを実施。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>解剖学ワークブック　P196～P197<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】解剖学ワークブック　P196～P197<br>【復習】講義後課題（Microsoft formsを用いた小テスト）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　　まとめ<br>【key words】<br>試験勉強について講義内容すべて<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。<br>予習では、解剖学ワークブックの該当単元のテキスト部を熟読する。<br>復習では、解剖学ワークブックの該当単元のワーク部を実施する。さらに、教科書の該当単元をよく読み知識を深めることを望む。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。 |
| 教科書 | ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学　野村嶬【編】　医学書院<br>・解剖学ワークブック　西川彰・小林直行（著）、野村嶬（監）　医歯薬出版<br>・解剖トレーニングノート　竹内 修二（著）　医学教育出版社 |
| 参考書 | ・カラーイラストで学ぶ　集中講義　解剖学　メジカルビュー社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 体表解剖・触診演習　　授業コード： 20R2P1G182

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 榊原清・小林昭博・平石卓朗 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。<br>[到達目標]<br>①対象者に不快を与えない手技について説明できる。<br>②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。<br>③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。 |
| 授業の概要 | 対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか（どのようにできていないのか）を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体組織を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション<br>【key words】<br>到達目標、触診<br>【授業概要】<br>体表解剖・触診演習での、授業内容、進め方、注意点等の説明を行う。<br>※第1回では服装指定はなし。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>使用教科書に一通り目を通しておく。<br>特に運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢：P10~13「触診を行う際の指のあて方」はよく読み、内容を把握しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分<br>復習：30分 |
| | 第2回 | 骨の触診　頸部・上肢　実技前学習<br>【key words】<br>第7頸椎棘突起、肩峰、肩甲棘、肩甲骨下角、上腕骨外側上顆、橈骨茎状突起、尺骨茎状突起<br>【授業概要】<br>第7頸椎棘突起、肩峰、肩甲棘、肩甲骨下角、上腕骨外側上顆、橈骨茎状突起、尺骨茎状突起の触診についての事前学習を行う。<br>ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P16-26
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P290-294
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第3回　骨の触診　頸部・上肢　実技
【key words】
第7頸椎棘突起、肩峰、肩甲棘、肩甲骨下角、上腕骨外側上顆、橈骨茎状突起、尺骨茎状突起
【授業概要】
教員による第7頸椎棘突起、肩峰、肩甲棘、肩甲骨下角、上腕骨外側上顆、橈骨茎状突起、尺骨茎状突起の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P16-26
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P290-294
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第4回　骨の触診　骨盤・下肢　実技前学習
【key words】
腸骨稜、上前腸骨棘、大転子、大腿骨外側上顆、膝蓋骨外側裂隙、腓骨外果、脛骨内果
【授業概要】
腸骨稜、上前腸骨棘、大転子、大腿骨外側上顆、膝蓋骨外側裂隙、腓骨外果、脛骨内果の触診についての事前学習を行う。
ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢：P2-7、P18-23、P30-46、P54-60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第5回　骨の触診　骨盤・下肢　実技
【key words】
腸骨稜、上前腸骨棘、大転子、大腿骨外側上顆、膝蓋骨外側裂隙、腓骨外果、脛骨内果
【授業概要】
教員による腸骨稜、上前腸骨棘、大転子、大腿骨外側上顆、膝蓋骨外側裂隙、腓骨外果、脛骨内果の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢：P2-7、P18-23、P30-46、P54-60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第4回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第6回　骨の触診　実技テスト
【key words】
上肢・下肢の骨、触診、実技テスト
【授業概要】
ペアごとに実技試験を行う。
試験内容は、授業中にアナウンスを行う。

【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹
【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。
実技試験後は振り返りシートにより振り返りを行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第7回　筋の触診　上肢①　実技前学習
【key words】
三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋
【授業概要】
教員による三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154~161、P162~176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第8回　筋の触診　上肢①　実技
【key words】
三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋
【授業概要】
教員による三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋の触診のデモン

ストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154~161、P162~176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第9回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第9回　筋の触診　上肢②　実技前学習
【key words】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、上腕二頭筋、長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋
【授業概要】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、上腕二頭筋、長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋の触診についての事前学習を行う。
ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202~207、P223~230、P261~272
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第10回　筋の触診　上肢②　実技
【key words】
僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、上腕二頭筋、長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋
【授業概要】
教員による僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、上腕二頭筋、長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202~207、P223~230、P261~272
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第9回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第11回　筋の触診　下肢①　実技前学習
【key words】
大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、大腿直筋
【授業概要】
大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、大腿直筋の触診についての事前学習を行う。
ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・体幹：P5~7、P30~35、P113~117、P146~150、P180~204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第12回　筋の触診　下肢①　実技
【key words】
大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、大腿直筋
【授業概要】
教員による大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、大腿直筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。
解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P151-165、P180-186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第11回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。
動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第13回　筋の触診　下肢②　実技前学習
【key words】
半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋
【授業概要】
半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触診についての事前学習を行う。
ワークシート、動画テキストを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P205~216、P227~231、P236~241
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを実施した上で授業に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習：60分、復習：60分

第14回　筋の触診　下肢②　実技
【key words】
半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋
【授業概要】
教員による半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触

| | |
|---|---|
| | 診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。<br>解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P205~216、P227~231、P236~241<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第13回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。<br>動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分、復習：60分<br>第15回　筋の触診　実技試験<br>【key words】<br>上肢・下肢の筋、触診、実技テスト<br>【授業概要】<br>ペアごとに実技試験を行う。<br>試験内容は、授業中にアナウンスを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢<br>運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。<br>実技試験後は振り返りシートにより振り返りを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習：60分、復習：60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ＜服装指定＞<br>半袖、短パン<br>＜持ち物＞<br>タオル（またはハンカチ）、フェイスシールド（またはゴーグル）、マスク、色鉛筆<br>＜学習方法＞<br>解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Googleフォーム |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。 |
| オフィスアワー | 【榊原清】金曜日16:30～17:30は随時<br>【小林昭博】月曜日16:30～17:30は随時<br>【平石卓朗】木曜日16:30～17:30は随時<br>※変更時は掲示します。その他の曜日においては要予約<br>※都合により対応できない場合もあります。 |
| 評価方法 | 筆記試験60%、実技試験30%、ポートフォリオ10%の割合で総合的に評価を行う。 |
| 教科書 | 林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢，メディカルビュー社，2011<br>林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹，メディカルビュー社，2016<br>林典雄（執筆）：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メディカルビュー社，2016<br>奈良勲ら（監修）：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，第4版，医学書院，2018<br>井樋栄二ら（編集）：標準整形外科学，第14版，医学書院，2020 |
| 参考書 | 小柳磨毅ら（編者）：PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床，金原出版，2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期リハビリテーション病棟、外来（生活期）で作業療法士として従事してきた.<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他 |

| | |
|---|---|
| | その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学Ⅰ　　授業コード：R20191F204

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 笠松哲光 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>① 神経伝達・筋収縮の基礎を簡潔に説明出来るようになる。<br>② 人体の機能を総合的に理解し、実際の活動・運動との関係を意識して説明出来るようになる。<br>③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。 |
| 授業の概要 | 生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 生命現象と人体①<br>【key words】<br>組織と細胞、エネルギー産生<br><br>【授業概要】<br>生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>1-12<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 生命現象と人体②<br>【key words】<br>細胞内液と細胞外液、浸透圧、細胞膜タンパク質、DNAとRNA<br><br>【授業概要】<br>水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

8-16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　細胞の構造と機能
【key words】
細胞小器官、静止電位と活動電位

【授業概要】
細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
15-19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　神経の興奮伝導と末梢神経①
【key words】
神経細胞の構造、興奮の伝導、末梢神経の種類

【授業概要】
神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
21-24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　神経の興奮伝導と末梢神経②
【key words】
自律神経、シナプス、神経伝達物質

【授業概要】
自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
24-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　中枢神経系①
【key words】
自律神経、神経核、脊髄反射、伸張反射

【授業概要】
中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
33-39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　中枢神経系②
【key words】
小脳、間脳、大脳皮質と各種中枢

【授業概要】
小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
40-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　中枢神経系③
【key words】
学習、記憶、睡眠

【授業概要】
脳の高次機能についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upし

ておく。
【教科書ページ・参考文献】
45-48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　中枢神経系④
【key words】
大脳辺縁系、脳脊髄液、血液脳関門

【授業概要】
大脳基底核と脳梁、辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
45-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　筋と骨①
【key words】
興奮収縮連関、筋の収縮メカニズム、骨格筋収縮の種類

【授業概要】
筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
53-60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１１回　筋と骨②
【key words】
筋紡錘とGolgi腱器官、心筋、骨

【授業概要】
平滑筋、骨についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
60-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　感覚①
【key words】
感覚、視覚

【授業概要】
感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
71-77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　感覚②
【key words】
視覚、聴覚、嗅覚、味覚

【授業概要】
内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。
【教科書ページ・参考文献】
77-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　血液①
【key words】
赤血球、白血球

【授業概要】

| | |
|---|---|
| | 血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>86-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１５回　血液②<br>【key words】<br>止血、膠質浸透圧、血液型<br><br>【授業概要】<br>血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。<br>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>95-99<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・予習復習は必ず行うこと。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Google Formによるコメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時または授業掲示板に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、またはメールによる質疑であれば随時対応可能。 |
| 評価方法 | 選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版　岡田　隆夫／鈴木　敦子／長岡　正範著、 医学書院 |
| 参考書 | シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 冨久子、 根来 英雄、南江堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学Ⅱ　　授業コード：R20191S205

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 笠松哲光 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>① 循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。<br>② 人体の機能を総合的に理解し、実際の活動・運動との関係を意識して説明出来るようになる。<br>③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。 |
| 授業の概要 | 生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 心臓と循環①<br>【key words】<br>血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図<br><br>【授業概要】<br>血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>102-108<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 心臓と循環②<br>【key words】<br>血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性<br><br>【授業概要】<br>血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性図について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>109-114<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　心臓と循環③
【key words】
血圧の調節、圧受容器反射、微小循環

【授業概要】
心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
117-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　心臓と循環④
【key words】
静脈還流、ポンプ作用

【授業概要】
静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
123-127
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　呼吸とガスの運搬 ①
【key words】
ガス交換、呼吸筋

【授業概要】
外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
131-135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　呼吸とガスの運搬 ②
【key words】
呼吸気量、ガス交換

【授業概要】
呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
135-139
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　呼吸とガスの運搬 ③
【key words】
呼吸の調節、病的呼吸

【授業概要】
呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
138-142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　尿の生成と排泄①
【key words】
尿の生成、クレアチニンクリアランス

【授業概要】
腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
144-145
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　尿の生成と排泄②、酸塩基平衡①

【key words】
排尿と排尿障害、アシドーシスとアルカローシス

【授業概要】
排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
150-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　酸塩基平衡②、消化と吸収①
【key words】
嚥下、胃による消化

【授業概要】
消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　消化と吸収②
【key words】
各消化器と消化酵素、ホルモンの作用

【授業概要】
十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割、内分泌機能とホルモンについて講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
164-173
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　内分泌①
【key words】
負・正のフィードバック、神経内分泌、内分泌腺とホルモンおよびその異常

【授業概要】
各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
173-181
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　内分泌②、代謝と体温①
【key words】
電解質コルチコイド、糖質コルチコイド、3大栄養素

【授業概要】
内分泌腺とホルモンおよびその異常、栄養素、エネルギー代謝 について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
181-190
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１４回　代謝と体温②、運動生理
【key words】
基礎代謝量と代謝等量、体温の調節、筋収縮のエネルギー源、

【授業概要】
体温、 男性生殖機能、女性生殖機能、について講義・解説を行う。
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
192-198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　生殖と発生、成長と老化、
【key words】
運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、成長と老化

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>受精，着床，胎児の発生、成長と老化、筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化 について講義・解説を行う。<br>教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　生理学を読んで予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>200-211<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・予習復習は必ず行うこと。<br>〔受講のルール〕<br>・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。<br>・出席時間厳守<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Google formによるコメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分程度、またはメールにて随時対応可能。 |
| 評価方法 | 選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版　岡田　隆夫／鈴木　敦子／長岡　正範 著、 医学書院 |
| 参考書 | シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 冨久子、 根来 英雄、南江堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生理学実習　　授業コード： R20191S206

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大竹一男 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。<br>〔到達目標〕<br>①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。<br>②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。<br>③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。 |
| 授業の概要 | 実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　血圧測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第２回　実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第３回　心電図の測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | 実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | 呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | 実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | 体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | 消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第９回 | エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１０回 | 体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１１回 | 神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性<br>【key words】<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の実習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業前後10分程度 |
| 評価方法 | 実習レポート３０％　期末レポート試験７０％ |
| 教科書 | 生理学の講義で使用する教科書を持参すること |
| 参考書 | その都度指示する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） |

| | |
|---|---|
| | ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 運動生理学演習　　授業コード： 20R2P1G183

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 浅野貞美・牛込祐樹 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。<br><br>[到達目標]<br>①運動が循環器系に与える影響を説明できる。<br>②運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。<br>③運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。 |
| 授業の概要 | 運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士・作業療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション・循環器系の解剖生理①<br>【key words】<br>講義の受け方、オリエンテーション、小テスト、心臓、循環、解剖・生理<br>【授業概要】<br>①1年次で学んだ循環系に関する小テストを実施する。<br>②授業概要の説明と導入を行う。<br>③循環器系の構造と機能を理解する。<br>④循環器系の生理学を理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書p.54-75、生理学教科書、各種資料<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>小テストの範囲について学習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分/復習90分 |
| | 第２回 | 循環器系の解剖生理②<br>【key words】<br>心臓、循環、解剖・生理、刺激伝導系 |

【授業概要】
①循環器系の構造と機能を理解する。
②循環器系の生理学を理解する。
③刺激伝導系を理解する。
④心臓の支配神経を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p.54-75、解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を復習すること
小テスト勉強をすること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第３回　循環器系の運動生理①
【key words】
心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷、統計処理
【授業概要】
①心拍数、心拍出量を理解する。
②心拍出量を規定する因子を理解する。
③血圧の定義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.76-90、解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・key wordsに関する内容を復習すること
・動きやすい恰好で参加すること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第４回　循環器系の運動生理②【血圧測定の演習】
【key words】
心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷

【授業概要】
①心拍数、心拍出量を理解する。
②心拍出量を規定する因子を理解する。
③運動負荷と循環応答に関する演習を行う。
　【PT】運動時（歩行等）の血圧調節
　【OT】姿勢変化時の血圧調節
④血圧測定値の観察方法（平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）等）を学ぶ。
⑤血圧を調節する機構を理解する。
⑥平均値の比較、統計解析・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
⑦被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.76-90、その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第５回　循環器系の運動生理③【血圧測定の結果分析】
【key words】
心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷

【授業概要】
①心拍数、心拍出量を理解する。
②心拍出量を規定する因子を理解する。
③演習結果をみて，グループ討議する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.76-90、その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・key wordsに関する内容を予習・復習すること
・自身の演習（測定）データを入力しておくこと.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第６回　循環器系の運動生理④【血圧測定の解説】
【key words】
運動、血流分配、小テスト

【授業概要】
①安静時、運動時、姿勢変化時の血流分配を理解する。
②漸増運動負荷時の変化を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p.76-90、その他の参考教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

key wordsに関する内容を予習・復習すること
小テストの範囲について学習すること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第７回　呼吸器系の解剖生理
【key words】
呼吸器系の構造、呼吸運動
【授業概要】

①呼吸に関連する小テストを実施
②呼吸器系の構造を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.18-40、解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】

key wordsに関する内容を予習・復習すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第８回　呼吸器系の運動生理①
【key words】
呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換

【授業概要】
①呼吸運動、ガス交換を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.42-53、解剖学・生理学・運動学教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第９回　呼吸器系の運動生理②
【key words】
呼吸調節、酸塩基平衡、酸素解離曲線

【授業概要】
①呼吸調節機構を理解する。
②酸塩基平衡、酸素解離曲線を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.42-53、その他の参考教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第１０回　呼吸器系の運動生理③【呼吸機能検査の演習】
【key words】
スパイロメータ、フローボリューム曲線
【授業概要】
①呼吸機能検査を理解する。
②呼吸機能検査の測定値の観察方法（平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）等）を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.18-40、その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・key wordsに関する内容を予習・復習すること
・動きやすい恰好で参加すること
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第１１回　呼吸器系の運動生理④
【key words】
スパイロメータ、フローボリューム曲線、統計処理
【授業概要】

①呼吸を調節する機構を理解する。
②運動時の呼吸状態を理解する。
③平均値の比較、統計解析・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
④被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.18-40、その他の参考教科書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに関する内容を予習・復習すること

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分/復習90分

第１２回　筋の運動生理学

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>筋線維、筋収縮、運動、小テスト<br>【授業概要】<br>①筋に関する小テストを実施する。<br>②筋線維の種類と組成について理解する。<br>③筋の収縮様式と各収縮様式の特徴を理解する。<br>④運動による筋線維組成や筋力の変化を理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書p.2-17、解剖学・生理学・運動学教科書、その他の参考教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>・小テストの範囲を勉強しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分/復習90分<br>第１３回　運動生理学の実践②【運動処方の演習】<br>【key words】<br>筋線維、筋収縮、運動、循環、呼吸、エネルギー供給機構、ATP、運動強度、運動処方<br>【授業概要】<br>①エネルギー供給機構を理解する。<br>②身体活動時のエネルギー供給を理解する。<br>③運動処方に関する演習を行う。<br>【PT】運動強度・トレーニング効果を考慮した運動処方<br>【OT】運動負荷を考慮したADLの実践<br>④運動による各測定値の観察方法（平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）等）を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書p.2-17、186-241、解剖学・生理学・運動学教科書<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・これまでに学習してきた筋、循環、呼吸の解剖生理を復習しておくこと。<br>・動きやすい恰好で参加すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分/復習90分<br>第１４回　運動生理学の実践③<br>【key words】<br>筋線維、筋収縮、運動、循環、呼吸、エネルギー供給機構、ATP、運動強度、運動処方<br>【授業概要】<br>①運動処方を理解する。<br>②運動強度の表し方、計算方法を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書p.186-241、解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分/復習90分<br>第１５回　授業のまとめ<br>【key words】<br>筋の運動生理学、循環の運動生理学、呼吸の運動生理学、運動処方<br><br>【授業概要】<br>①筋、呼吸器、循環器の構造や調節機構を理解して運動処方に関わることの重要性を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書、解剖学・生理学・運動学教科書<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>key wordsに関する内容を予習・復習すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分/復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・講義への出席は必須であり，無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。<br>・実習を行う際は大学指定体操着着用とする。<br>・臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリー・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。<br>・COVID-19感染状況に応じ、対面またはWebのハイブリット形態で行う。形態は大学の方針に準ずる。<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br><br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・シラバスを毎回持参し，各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。<br>・受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。<br>・他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |

| | |
|---|---|
| 授業外時間にかかわる情報 | ①講義終了後，シラバスで次回内容の確認をし，受講の準備計画を立てる。<br>②前回講義内容の復習をし，要点をまとめておく。<br>③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。 |
| オフィスアワー | 浅野：火曜日15時半から17時は随時。それ以外は要予約（金曜を除く）。<br>宮寺：水曜日8時50分～10時20分は随時。それ以外は要予約（金曜を除く）。 |
| 評価方法 | 小テスト20%、課題レポート20%、筆記試験60%<br>総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。 |
| 教科書 | 玉木　彰・監修：リハビリテーション運動生理学，メジカルニュー社 |
| 参考書 | 適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎運動学Ⅰ　　授業コード：20R1P1G184

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・野口直人 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。<br>②運動時の筋収縮様態を説明することができる。<br>③生体力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できる。<br>④各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べることができる。<br>⑤各関節運動の主動作筋を列挙することができる。 |
| 授業の概要 | ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能を力学的な視点で学ぶ。<br>授業を通して理学療法士・作業療法士が対象とする機能障害を把握するために必要な各関節の動作や筋肉の働きをについて理解を深める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/運動学総論・筋の構造・運動力学【野口】<br>【key words】<br>骨格筋、運動の面と軸、ベクトル<br>【授業概要】<br>・運動学の学問的特徴について理解を深め、骨格筋を含めた筋の種類や構造の理解、筋収縮のメカニズム、生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p4～39<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと：内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベーシック物理学・応用物理学　医歯薬出版株式会社<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 筋の構造・運動力学【野口】<br>【key words】<br>ベクトル、モーメント<br>【授業概要】<br>・生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p4～39 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと：内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベーシック物理学・応用物理学　医歯薬出版株式会社
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　筋の構造・運動力学【野口】
【key words】
ベクトル、モーメント、てこの種類、筋収縮
【授業概要】
・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きを説明する。
・身体内で働く3種類のてこについて説明する。
・骨格筋の筋収縮の違いについて理解する。
・骨格筋を理解する上で必要な用語（起始・停止・作用）を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p1～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと：内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベーシック物理学・応用物理学　医歯薬出版株式会社
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　肩関節の構造と運動①/小テスト【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・第1～3回の内容を踏まえた小テストを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p99～120
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　肩関節の構造と運動②【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　肩関節の構造と運動③【野口】
【key words】
上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p98～118
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　肘関節・前腕の構造と運動①/小テスト【野口】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・第4～6回の内容を踏まえた小テストを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p121～145
参考書：p45～79、134～149、223～260
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　肘関節・前腕の構造と運動②【野口】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】

| | | |
|---|---|---|
| | | ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p121～145<br>参考書：p45～79、134～149、223～260<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第９回 | 手関節・手指の構造と運動①/小テスト【野口】<br>【key words】<br>上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨<br>【授業概要】<br>・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・第7・8回の内容を踏まえた小テストを行う<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p146～181<br>参考書：p39～106、150～152、261～341<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１０回 | 手関節・手指の構造と運動②【野口】<br>【key words】<br>上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨<br>【授業概要】<br>・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p144～179<br>参考書：p80～106、150～152、261～341<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１１回 | 骨盤・股関節の運動について【柴】<br>【key words】<br>骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザーネラトン線、腸骨大腿靭帯、坐骨大腿靭帯、恥骨大腿靭帯<br>【授業概要】<br>・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・人の動きを観察したり、自ら行うことで、股関節の運動を説明できるようにする。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p182～185、189～200<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：肩関節に比べて大腿骨頭が関節窩に覆われているが、構造上の特徴と関節窩に広く覆われている理由について説明しなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１２回 | 股関節の運動に作用する筋【柴】<br>【key words】<br>股関節、運動　主動作筋<br>【授業概要】<br>・股関節周囲に付着する筋について、その特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）を理解する。<br>・自らの体や骨格標本にテープを貼ることで、筋の走行を理解する。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p186～189<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：ビジブルボディを用いて股関節の屈曲、伸展、外転の主動作筋をまとめなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１３回 | 膝関節の運動【柴】小テスト①実施<br>【key words】<br>膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA<br>【授業概要】<br>・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・人の動きを観察したり、自ら行うことで、膝関節の運動を説明できるようにする。<br>・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 |

| | |
|---|---|
| | ・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br>・小テスト①（股関節の運動の主動作筋）を実施<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p213～235<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：脛骨大腿関節の屈伸運動時に生じる関節包内の動きについて、図示をしながら説明しなさい。何故、このような動きが起こるのか、その理由についても述べること。<br>授業終了後、ノートを提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１４回　距腿関節の構造、足部の運動について【柴】小テスト②実施<br>【key words】<br>脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨、距腿関節の運動、足部の運動<br>【授業概要】<br>・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・人の動きを観察したり、自ら行うことで、足関節の運動を説明できるようにする。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br>・小テスト②（膝関節の運動の主動作筋）を実施<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p245～262<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：距腿関節の背屈・底屈の運動の時の腓骨の動きについて説明するとともに、底屈時に遊びが生じる理由についても説明しなさい。<br>内返し・外返しの動きを撮影した写真をノートに貼り、運動名を表記すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１５回　頭部、頸部、体幹の運動について【柴】小テスト③実施<br>【key words】<br>頭蓋骨、椎骨、環椎後頭関節、環軸関節、椎間関節<br>【授業概要】<br>・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・人の動きを観察したり、自ら行うことで、頸部や体幹の運動を説明できるようにする。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br>・小テスト③（足関節と足部の運動の主動作筋）を実施<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p270～280、283～308<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：咀嚼筋についてまとめ、これらの筋を支配している神経も説明すること。<br>環軸関節と椎間関節をそれぞれ図示し、運動の特徴をまとめなさい。<br>前期試験終了後、ノートを提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。<br><br>[受講のルール]<br>・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。<br>・他の受講生の迷惑になる行為（担当教員の許可なく携帯電話の使用、私語）は厳禁。<br>・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと（柴）。<br>・課題提出のノートは糸綴じノート（罫線、無地、方眼等可能、A4またはB5サイズ）を使用すること。ルーズリーフは不可とする（柴）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | ・WEBポータルを使用したコメントスレッド、シャトルカード |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。<br>・小テストは、自らの理解度を確認するものである。毎授業後、復習する習慣を付け、知識の定着を図ること。 |
| オフィスアワー | 【柴】木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験60%　小テスト（野口担当分）20%（柴担当分）10%　課題（ノート提出、柴担当分）10% |
| 教科書 | ・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版<br>・林典雄：機能解剖学的触診技術上肢　下肢・体幹．メジカルビュー |
| 参考書 | ・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学．医学書院<br>・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学．第6版，医歯薬出版株式会社<br>・内山靖・藤井浩美・立石雅子編：リハベーシック　物理学・臨床応用物理　医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アク | |

| | |
|---|---|
| ティブラーニング/<br>リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>【柴】急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。<br><br>【野口】急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎運動学Ⅱ　　授業コード： 20R1P1G185

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・平石卓朗 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸、リーチ・把握などについて説明できることを目的とする。また、理学療法士・作業療法士の対象となる疾患を運動学的視点を用いて理解することができる。<br>[到達目標]<br>①重心、姿勢の名称について答えることができる。<br>②歩行周期について説明することができる。<br>③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。<br>④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。<br>⑤リーチ・把握動作や日常生活を運動学的な知識を用いて説明することができる。<br>⑥上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。 |
| 授業の概要 | 授業を通し、理学療法士・作業療法士の対象となる機能障害を把握するうえで必要な身体の構造・機能、力学について学ぶ。また自らの身体を使って各関節や身体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時、リーチ・把握動作に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション/運動力学【柴】<br>【key words】<br>運動の面と軸、ベクトル、モーメント、筋収縮<br>【授業概要】<br>・基礎運動学Ⅰでの復習<br>・生体力学の概念（ベクトル・モーメント）について理解する。<br>・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p1～39<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基礎運動学Ⅰの運動力学について復習をしておくこと<br>予習：スレッドに提示された課題に取り組むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 人体における重心について【柴】<br>【key words】<br>重心、重心線、指標<br>【授業概要】 |

・安静立位における重心位置について、その求め方を含めて理解する。
・実際に重心を通る重心線を確認し、説明できるようにする。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p16～221, 343～347
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：重心を通る線（重心線）について調べ、図示をした上でまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第３回　姿勢・重心【柴】
【key words】
姿勢、円背、アライメント、重心、支持基底面、安定性
【授業概要】
・支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。
・事例検討を通して、姿勢の安定性について考える。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p343-364
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：背臥位と立位の姿勢について安定性が良いのはどちらか。その理由について自らの考えをまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　正常歩行：歩行周期【柴】小テスト①実施
【key words】
歩行、歩行周期、歩行率
【授業概要】
・正常歩行の歩行周期を理解する。
・重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。
・歩行速度や歩行率、歩幅を測定し、個人差がある理由について考える。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
・小テスト①（重心線、姿勢の安定性について）を実施

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p367～385
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：10m歩行の所要時間を測り、歩行速度（m/分、km/時）を求めること。また、歩行率（歩/分）を測ること。
復習：歩行周期を替え歌を用いて表現できるようにすること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動【柴】
【key words】
歩行周期、下肢の関節運動、ロッカー機能
【授業概要】
・各歩行周期で行われる下肢の関節運動を自らの体を使って理解する。
・ヒールロッカー、アンクルロッカー、フォアフットロッカーの機能を理解する。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p367～385
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：歩行周期の中で、膝関節の屈曲と伸展は2回ずつ生じる。膝関節の運動と二重膝作用について説明しなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　正常歩行：歩行時の筋活動について【柴】小テスト②実施
【key words】
歩行周期、筋活動、歩行時の重心移動（矢状面・前額面）
【授業概要】
・下肢のモーメントについて理解する。
・各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。
・歩行時の重心の移動を考える。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
・小テスト②（歩行周期、歩行時の関節運動について）を実施

【教科書ページ・参考文献】
教科書：367～392
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：中殿筋が弱くなると歩行周期のどの時期にどんな現象が起こるか説明しなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第７回　上肢帯・肩関節の運動/運動障害/小テスト【柴】
【key words】

上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・上肢帯・肩関節の代表的な運動障害（腱板断裂、脱臼）について理解する。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p100～120
参考書：p16～59、108～133、154～222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：肩関節腱板について図示をしながらまとめ、腱板断裂時の症状について説明しなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　肘関節・前腕の構造と運動/運動障害/小テスト【柴】
【key words】
上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉
【授業概要】
・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・肘関節・前腕の代表的な運動障害（コーレス骨折・スミス骨折・テニス肘）について理解する。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p121～143
参考書：p39～79、134～149、223～260
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：コーレス骨折とスミス骨折の違いをまとめなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　手関節・手指の構造と運動/運動障害【柴】小テスト③実施
【key words】
上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨・靭帯・筋肉
【授業概要】
・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・手関節・手指の代表的な運動障害（手・手指の変形）について理解する。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
・小テスト③（肩関節・肘関節の運動の主動作筋、ランドマークについて）を実施
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p146～181
参考書：p39～106、150～152、261～341
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：下垂手、猿手、鷲手の特徴をまとめ、原因を説明しなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　骨盤・股関節の構造と運動/運動障害【平石】
【key words】
骨盤・寛骨・仙骨・大腿骨・関節・靭帯・筋肉、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折
【授業概要】
・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・骨盤・股関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・骨盤・股関節の代表的な運動障害（変形性股関節症・大腿骨頸部骨折）について理解する。
・二関節筋の作用について説明できるようにする。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p192～211
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：膝関節を伸展したまま股関節を屈曲する場合と膝関節を屈曲させたまま股関節を屈曲する場合とでは、どちらが関節可動域が小さくなるか、理由とともに説明しなさい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　膝関節の構造と運動/運動障害【平石】
【key words】
大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・関節・靭帯・筋肉、変形性膝関節症、ACL損傷、PCL損傷
【授業概要】
・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。
・膝関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。
・膝関節の代表的な運動障害（変形性膝関節症・ACL損傷・PCL損傷）について理解する。
・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。
・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：213～244
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 予習：ACLとPCLの役割とどのような外力が働くと損傷するか説明しなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１２回　距腿関節・足部の構造と運動/運動障害【平石】小テスト④実施<br>【key words】<br>脛骨・腓骨・距骨・踵骨・関節・靭帯・筋肉、内反捻挫、外反捻挫、内反尖足、下垂足<br>【授業概要】<br>・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。<br>・距腿関節・足部に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・距腿関節・足部の代表的な運動障害（内反捻挫・外反捻挫・内反尖足）について理解する。<br>・捻挫予防に効果的なトレーニングを考える。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br>・小テスト④（股関節・膝関節の運動の主動作筋、二関節筋について）を実施<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p245～269<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：内反捻挫をした時に損傷する靭帯を図示した上で説明しなさい。また、内反捻挫の再発予防目的に強化すべき筋を挙げなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第１３回　呼吸【平石】<br>【key words】<br>呼吸・胸郭・運動・筋肉、肋椎関節、肋骨頭関節、肋横突関節<br>【授業概要】<br>・呼吸時の胸郭の運動を理解する。<br>・呼吸の運動に関与する筋の特徴）構造・騎士・停止・作用・神経支配）について理解する。<br>・自らの予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・事前に動画（約20分）を視聴し、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：546～561<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：吸気時の上位肋骨と下位肋骨の動きの違いを説明しなさい。また、安静吸気時と努力呼気時に働く筋を挙げなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第１４回　上肢の運動学習【柴】<br>【key words】<br>リーチ動作・把握動作<br>【授業概要】<br>・リーチ動作・把握動作の特徴について理解できる。<br>・日常生活動作における各動作についてリーチ動作・把握動作を用いて説明できる。<br>・上肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：リーチ動作について説明し、具体例を挙げた上で各関節の運動について説明しなさい。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１５回　下肢の運動学習【平石】小テスト⑤実施<br>【key words】<br>運動学習、上行路、下行路、覚醒、パフォーマンス、KR<br>【授業概要】<br>・運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解できる。<br>・下肢動作をスム-スに行うために必要な要素について理解できる。<br>・事前に予習課題に取り組み、ノートにまとめておくこと。<br>・授業内容の要点をメモし、授業終了後の復習では要点を図示しまとめておくこと。<br>・小テスト⑤（足関節・足部の運動の主動作筋、呼吸について）を実施<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：p63～79<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：これまでの経験から上達した動作を挙げ、どのようにして上達したのか理由を5個以上考えてくること<br>課題：ノートづくりをすること。練習問題に取り組むこと。後期試験終了後、ノートを提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。<br><br>[受講のルール] |

| | |
|---|---|
| | ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。<br>・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。<br>・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと。<br>・課題提出のノートは糸綴じノート（罫線、無地、方眼等可能、A4またはB5サイズ）を使用すること。ルーズリーフは不可とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード、WEBポータルを使用したコメントスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。<br>・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。<br>・小テストは、自らの理解度を確認するものである。毎授業後、復習する習慣を付け、知識の定着を図ること。 |
| オフィスアワー | 【柴】木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験60%　小テスト20%　課題（ノート提出）20% |
| 教科書 | ・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版<br>・林典雄：機能解剖学的触診技術上肢　下肢・体幹．メジカルビュー |
| 参考書 | ・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学．医学書院<br>・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学．第6版，医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床運動学演習　　授業コード： 20R2P1G186

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林雄斗・宮寺亮輔・小林昭博・新谷益巳 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>人の動きに関して，筋力，角度・位置・速さの変化，重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する．そして，人間の活動のメカニズムを理解し，その動き・昨日を解剖・生理学・運動学，および医学用語を用いて表現できるようになる．<br>【到達目標】<br>1)身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し，結果を適切に評価できる．<br>2)セグメント法により平面上で重心位置を推定し，平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる．<br>3)重心動揺計を用いていわゆる”重心動揺”を測定できる．重心と足圧中心の違い，立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる．<br>4)体重を用いて，この原理で重心の位置を推定することができる．<br>5)運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を説明できる。<br>6)筋機能解析装置を使用し，筋力測定が行える．また肢位・角速度による筋力の違い，筋疲労を理解し，種々の活動における複合筋力を測定できる．<br>7)筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる．<br>8)学習とパフォーマンスの関係を説明できる．反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し，トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する．<br>9)健常者の寝返り・立ち上がり，座位，起立，歩行の動作を観察し，運動学テキストに記載されている運動分析にそって分析ができ，動作分析に必要な表現ができる．<br>10)3次元動作解析装置を利用し，正常動作の動作分析，および解析を学ぶ． |
| 授業の概要 | ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は，姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われる．このひとの動きの基礎となる姿勢，運動，動作について学び，それらを行うために必要な機能について，動作分析の方法や機器を用いて学んでいく． |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる． | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション、体格・筋力・姿勢の測定方法について<br>【key words】<br>到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心、静的バランス、動的バランス、リーチ<br><br>【授業概要】<br>①科目オリエンテーション<br>・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス<br>②体格の測定方法について<br>・肢長、周径、身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測する。 |

・形態計測の結果を適切に評価できる。
③筋力の測定方法について
・肢位の違いによる握力の計測、連続握力測定による筋持久力を評価する。
④姿勢の測定方法について
・姿勢の概念について理解できる
・支持基底面、重心、重心線、身体重心、床反力、圧中心が理解できる
・線画を描くことができる
・支持基底面と重心の関係性を理解できる
・リーチなど運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：P341-344
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・各関節の関節運動について復習して授業に臨むこと
・実習が行える服装で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第2回　姿勢・バランスについて／体格・筋力・姿勢の測定値の分析
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析
【授業概要】
・姿勢・バランスについての解説講義
・第1回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人実習レポートを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第3回　体格・筋力・姿勢の測定値の分析②
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析
【授業概要】
・第2回に引き続き、解析、結果、考察を行う。
・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。
・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析（t検定、相関）の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人実習レポートを提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第4回　個人実習のまとめ
【key words】
到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心

【授業概要】
・体格・筋力・姿勢の測定意義について解説する。
・個人実習レポートの考察点について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からグループ実習のため、グループ実習の手引きをよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第5回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／運動学習
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、学習曲線、熟練
【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける
・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
・座位姿勢の線画を描ける
・座位姿勢を文章化できる
・起立動作を相分けし、線画を描ける
・起立動作を文章化できる
・起立動作における筋活動を考察できる
・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】

運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第6回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／運動学習
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、学習曲線、熟練
【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける
・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
・座位姿勢の線画を描ける
・座位姿勢を文章化できる
・起立動作を相分けし、線画を描ける
・起立動作を文章化できる
・起立動作における筋活動を考察できる
・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／運動学習
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、学習曲線、熟練
【授業概要】
①寝返り、起き上がり動作について
・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける
・寝返り、起き上がり動作を文章化できる
・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる
②座位・起立動作について
・座位姿勢の線画を描ける
・座位姿勢を文章化できる
・起立動作を相分けし、線画を描ける
・起立動作を文章化できる
・起立動作における筋活動を考察できる
・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第8回　動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／運動学習の解析方法について
【key words】
動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、学習曲線、熟練

【授業概要】
・第5～7回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発レポート作成180分）

第9回　筋機能解析装置／筋電図／動作分析（歩行）
【key words】
筋機能解析、筋電図、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション
【授業概要】
①筋機能解析について
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。

・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
②筋電図について
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析する。
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第10回　筋機能解析装置／筋電図／動作分析（歩行）
【key words】
筋機能解析、筋電図、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション

【授業概要】
①筋機能解析について
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。
・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
②筋電図について
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析する。
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第11回　筋機能解析装置／筋電図／動作分析（歩行）
【key words】
筋機能解析、筋電図、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション
【授業概要】
①筋機能解析について
・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。
・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。
②筋電図について
・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析する。
③正常歩行について
・正常歩行の周期について理解できる
・倒立振り子、二重振り子について理解できる
・歩行中の重心移動について理解できる
・ロッカーファンクションについて理解できる
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと
・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第12回　筋機能解析装置／筋電図／動作分析（歩行）の解析方法について
【key words】
筋機能解析、筋電図、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション

【授業概要】
・第9～11回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、歩行；P365-389
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内発レポート作成180分）

第13回　解析方法について/発表準備
【key words】
平均値、標準偏差、t検定、相関分析

【授業概要】
・第5回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。
・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。
・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。
・次回発表できるように発表資料を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。次回発表できるように準備をすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分／復習180分（内発表資料準備180分）<br>第14回　発表<br>【key words】<br>発表、質疑応答<br>【授業概要】<br>・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループレポートの提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第15回　発表<br>【key words】<br>発表、質疑応答<br>【授業概要】<br>・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループレポートの提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実際に体を動かすことが多いため，学校指定のジャージを用意しておくこと.<br>メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと.<br>課題の提出は，原則としてデータ収集，あるいは解析方法の指導後2週間後の17時，担当教員に提出すること. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 解析方法などは授業内で説明するが，解析し，結果・考察を導き出すためには，解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる．グループで協力し，理解を深めること. |
| オフィスアワー | 月曜日8時50分～10時20分は随時（変更時は掲示する）．その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □レポート50%（個人実習レポート）<br>□演習課題50%（発表など） |
| 教科書 | 小柳磨毅ら・編：PT・OTのための運動学テキスト　基礎・実習・臨床第1版，金原出版，2015 |
| 参考書 | 石川朗ら・編：理学療法・作業療法テキスト　臨床運動学第1版，中山書店，2018 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>小林昭博<br>作業療法士経験22年<br>作業療法士養成校教員経験1年<br><br>宮寺亮輔<br>作業療法士経験　17年<br>作業療法士養成校教員経験　13年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

| | |
|---|---|

講義科目名称： 人間発達学　　授業コード：R20191S207

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 榊原清 | | | |
| 人体の構造と機能及び心身の発達 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①発達の諸段階と発達課題について説明できる。<br>②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。<br>③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。<br>④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。 |
| 授業の概要 | ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、人間発達の概念<br>【key words】<br>発達概念・発達と成長・ライフステージ・胎芽期・胎児期<br><br>【授業概要】<br>人間発達期の区分、発達の原則について学ぶ。<br>人体の不思議「生命誕生」の映像を観て、胎芽期から胎児期の発達について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>シラバスを印刷し、ポケットファイルに綴じてくること。<br>授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。<br>授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | 胎芽期から胎児期の発達過程、反射、神経系の発達<br>【key words】<br>胎生期・胚芽期・胎芽期・胎児期<br><br>【授業概要】<br>受精から出生までの成長・発達の流れについて学ぶ。<br>胎生期の発達状況と出生後の発達との関係について学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達
【key words】
新生児期・乳児期・正常運動発達・原始反射

【授業概要】
新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　乳児期の発達、反射、神経系の発達
【key words】
乳児期・正常運動発達・原始反射反応

【授業概要】
乳児期（7か月～12か月）と6歳までの粗大運動の正常発達、原始反射・反応の関係について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　正常運動発達の復習、出生後の成長
【key words】
正常運動発達・在胎期間と出生後の成長

【授業概要】
正常運動発達についての復習テストを行う。
出生後の身長、体重、頭囲、歯の成長について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　姿勢反射／反応
【key words】
原始反射・姿勢反射／反応・出現／消失（統合）

【授業概要】
神経系の成熟と姿勢反射／反応の発達、および運動発達との関連について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　感覚・知覚・認知・社会性の発達
【key words】
感覚・知覚・認知・社会性

【授業概要】
感覚・知覚・認知・社会性の発達について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。
授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学童期・青年期・成人期・高齢期の発達
【key words】
学童期・青年期・成人期・高齢期

【授業概要】
学童期・青年期における行動について学ぶ。
青年期、成人期、高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機

| | |
|---|---|
| | 能）学ぶ。<br>高齢期では、加齢の影響を受けやすいばかりでなく、受けにくい機能もあることを学ぶ。<br>ヒトは生涯発達する生き物であることを学ぶ。<br>期末試験対策について説明する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にシラバスを確認し、わからないkey wordsは調べておくこと。<br>授業終了後は、内容を復習しまとめておくこと。<br>後期試験まで期間が空く場合があるので、復習しまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・教科書、ノート、配布資料を綴じたファイルを持参すること。<br>・配布資料はポケットファイル（20p）に整理して綴じ込むこと。<br>・欠席した場合は、出校後速やかに、授業内容の確認、配布資料の受け取りに来ること。<br>・授業の進行を妨げる行為、雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・授業終了後に、授業内容について復習しまとめておくこと（30分程度）。<br>・次の回のシラバス内容、キーワードについて確認しわからない単語は調べておくこと（30分程度）。 |
| オフィスアワー | 授業終了後 |
| 評価方法 | 筆記試験100% |
| 教科書 | 授業内で適宜紹介する |
| 参考書 | 上杉雅之監修：イラストでわかる人間発達学．医歯薬出版．2015<br>福田恵美子編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学　2版．中外医学社．2012<br>細田多穂監修：小児理学療法学テキスト．南江堂．2018<br>上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>小児領域で常勤として16年間、非常勤として17年間の実務経験を有する。特に、重症心身障害児（者）に対する地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の発達相談・機能訓練事業、園訪問による5歳児発達検診事業にも従事してきた。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容<br>発達段階の様子を示した映像・画像を用いた授業を展開します。 |

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード： R20191S221

英文科目名称： Clinical Psychology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 橋本広信 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国試問題に対処できる基礎知識を習得する。<br>・心の健康や成長を阻害する問題を多面的に理解し、その理解や対処のあり方の基本を臨床心理学的な角度から理解できる。<br>・リハ専門職が出会う「患者」一人ひとりが抱え得る心の問題を理解し、臨床心理学的な見方から心を支えるための基礎知識を習得する。<br>【到達目標】<br>①代表的な心理療法の理論と心理臨床の実際について、その基礎を理解できる。<br>②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。<br>③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。 |
| 授業の概要 | ・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。<br>・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。<br>・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を深く考えられるように、具体的なリハビリ患者の事例や障害当事者の方の実体験を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　リハビリテーションのための臨床心理学：科目オリエンテーション<br>【key words】<br>・臨床心理学、H.S.サリヴァン、関与しながらの観察、身体をきく、臨床心理学の成り立ち<br>【授業概要】<br>・臨床心理学の科目オリエンテーションを行う。「臨床」という言葉や簡単な事例を手掛かりにしながら、解決に向かう答えが簡単に得られない問題と出会う場面について、特にリハビリテーションの現場を想定しながら考え、臨床心理学を学ぶ意義を確認する。また、臨床心理学の誕生の経緯と歴史上の展開について、第10章を基本として、概要を解説する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書2-11、222-242ページ。第10章は必要な項目だけを抜き出して説明するので、あらかじめ全体を読んで、おおまかな理解をしておくと話がわかりやすくなるので、予習をしておくこと。<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書2、3ページの二つの症例を読んで、自分なりにどんなことを大切にして関わって行ったらよいかを考えておくこと。（文章にしておくこと） |

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２回　心理アセスメント

【key words】
面接法、観察法、検査法、構造化面接、半構造化面接、質問紙法、投影法、作業検査法、ジェノグラム、インフォームド・コンセント
【授業概要】
人が心の面で問題を抱え込んだとき、内面的に何が起きているかについて情報を収集し評価をすることが必要になる。心理アセスメントは臨床心理学の入口として、患者（クライエント・相談者）のパーソナリティや外的環境などの情報を収集する手段・方法であるが、そこで必要となる基礎知識を学ぶ。また、アセスメントに関わる倫理面の課題についても解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書14-28ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
範囲が広いので、あらかじめ教科書第2章を読んで授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　心理検査①　知能検査、発達検査

【key words】
・ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査（WPPSI、WISC、WAIS）、K-ABC、レーヴン色彩マトリックス検査、新版K式発達検査、乳幼児精神発達診断法、コース立方体組み合わせテスト
【授業概要】
人が抱える問題のアセスメントには、検査法を用いることが多い。知能や認知面の特徴は、その人の生き方や判断、行動のあり方に大きな影響を及ぼす。一見しただけではわからない個人の特徴を知ることで、何がその人の生きづらさとなっているかを理解することにもつながる。ここでは、こうした知能や認知機能、また発達の状態などの個人的特徴を客観的に検査し、把握するための様々な方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書34-43ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所に出てくるすべての検査を説明することはできないので、自主的に調べておくこと。検査法は国試頻出の項目であるので、予習と復習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　心理検査②：人格検査（質問紙法、神経心理学的検査）

【key words】
東大式エゴグラム、質問紙法、ミネソタ多面人格目録（MMPI）、矢田部ギルフォード性格検査（Y-G検査）、ベンダー・ゲシュタルトテスト、ベントン視覚記銘検査、レイ複雑図形検査、トレイルメイキングテスト他
【授業概要】
心は目に見えるものではなく、行動や態度、表情や語りなど、心の働きが表現されたものを通してしか理解することができない。そうした前提に立ちながら、現状を把握したり、状況の変化を見極めるためにこれまでに開発され実施されてきた多くの心理アセスメントについて学ぶ。心を客観的に理解し、ある人の内面世界を知る手掛かりの一つとして、今回は、質問紙法による人格検査を中心に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書44-45、52-54ページ、204-214ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
大変多くの検査法が出てくるので、あらかじめ予習をよくしておくこと。すべて国家試験に出てくるものであり、現場でもよく使われるものとなるので、一つひとつについてしっかりわかる状態にすること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　心理検査③：人格検査（作業検査法、投影法）

【key words】
内田クレペリン精神作業検査、ブルドン末梢検査、ロールシャッハテスト、文章完成法（ＳＣＴ）、Ｐ－Ｆスタディ、バウムテスト、コーネル・メディカル・インデックス（CMI）他
【授業概要】
前回の続きとして、心の全体や無意識までも含む深い領域の動きをとらえるための投影法の人格検査を中心に学ぶ。また、質問紙でも投影法でもなく、何らかの作業活動を通して人格の一側面を捉えようとする作業検査法やその他さまざまな目的で用いられる検査について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書45-51ページ、55-58ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークや模擬演習などをしながら理解を深めていくので、積極的に取り組むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　無意識の欲望を探る精神分析①

【key words】
ＤＳＭ－５、精神分析、フロイト、自由連想法、抑圧、神経症、防衛機制
【授業概要】
20世紀初頭に登場した、臨床心理学の原点ともいえるフロイトとその基礎理論について学ぶ。さらにその延長に理論化された「防衛機制」について学ぶ。薬も物理療法も用いない、言葉による心理療法としての精神分析のあり方について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書62-68ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
さらに、人が自らの心を気づかないうちに守ろうとする防衛機制について、例を挙げながら学んでいく。
防衛機制は国試頻出であるので、事前によく予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　無意識の欲望を探る精神分析②

【key words】
第一局所論、第二局所論、夢分析、転移、逆転移、ユング、分析心理学、個人的無意識、集合的（普遍的）無意識、個性化、外向性、内向性、タイプ論、アドラー、個人心理学、劣等感、権力への意志、優越コンプレクス
【授業概要】
フロイトの貢献の一つとして、心を視覚化して心の問題を説明するモデルを提示したことがある。フロイトのこの基礎モデルを学び、さらに独自に臨床の問題を説明する心のモデルを提示した、ユングとアドラーの理論について概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書68－84ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理臨床実践において重要なモデルを提示した心理学者たちの理論について学ぶが、一つひとつは非常に複雑で大きな理論になっている。教科書を熟読し、ネットや関連図書なども調べ、理解を深めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　行動や認知の変容・制御を目指す：行動療法・認知行動療法①
【key words】
セルフモニタリング、認知際構成法、心理教育、漸進的（筋）弛緩法、自律訓練法、ホームワーク、アイゼンク、スキナー、ベック、認知療法、エリス、論理情動行動療法
【授業概要】
医療現場で特に実践されている学習理論に基づく行動療法と認知行動療法について、2回に分けて学ぶ。最初は、学習理論の基礎を概観し、認知行動療法が誕生するまでの過程について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書92-100ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期の「心理学」を受講していない学生は、各自で心理学の「学習理論」について学習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　行動や認知の変容・制御を目指す：行動療法・認知行動療法②
【key words】
トークンエコノミー法、レスポンス・コスト法、タイムアウト法、シェイピング、系統的脱感作法、不安階層表、自律訓練法、セルフモニタリング、自動思考、認知再構成法、行動活性化、社会生活技能訓練（ＳＳＴ）
【授業概要】
前回に引き続き、教科書に沿って、行動療法と認知行動療法の各種方法論について学ぶ。強化・弱化・消去などの理論面にも注目しながら、それぞれの療法が何を狙ってどのような原理で行動変容を促そうとするかについて理解できるようにする。また、各種の方法論の特徴を解説していくので、それらの特徴をつかみ、違いについて説明できるようにしていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書101-115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
大変多くの行動療法や認知行動療法の技法が出てくるので、一つひとつについて事前にある程度予習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習1時間

第１０回　人間の実現傾向を重視する：クライエント中心療法
【key words】
ロジャーズ、実現傾向、純粋性、無条件の肯定的配慮、共感的理解、エンカウンターグループ、パーソンセンタード・アプローチ、ジェンドリン、フェルトセンス、フォーカシング、ハンドル
【授業概要】
現代の「カウンセリング」の生みの親ともいうべきロジャーズが提唱したクライエント中心療法を学ぶ。本来人は、ただ苦しみ悩むだけの弱い存在ではなく、すべての人に「自己実現への動機」に向かう強い心が備わっているという独自の自己論を理解できるようにする。そして、そこから心理臨床の場で実践を通して磨き出された彼のカウンセリング理論の基礎を学び、さらにそこから派生したフォーカシングなどの心理療法までを概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書120-138ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
長い範囲を一回で扱うので、予習・復習、特に教科書をしっかり読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　様々な心理療法的アプローチ①　家族療法
【key words】
システム論的家族療法、IP（identified patient）、ジョイニング、リフレーミング、合同的家族画、HTPテスト、構造的家族療法
【授業概要】
心の問題を抱えた人に対して、あえて人と関わる場を作ることで回復を目指す心理療法がある。人の中にいてこそ引き出される回復力を利用する様々な心理療法を学ぶことで、集団のもつ特性や力を活かすあり方を理解する。また、家族のつながりの中で問題が誰かの心に抱え込まれているような場合、家族全体のシステムが病んでいると考えることもできる。後半は、家族システムの回復を目指す家族療法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書100-103ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　様々な心理療法的アプローチ②　森田療法・内観療法
【key words】
内観、身調べ、ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動

【授業概要】
二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。
時として人は、自分の中から生じる「不安」や何らかの「身体症状」にとらわれてしまうことがある。原因がはっきりとしなくても、なぜか自分を認められなくなったり、満たされない思いに振り回されて生きてしまうこともある。こんな、生きづらい状態からどうしたら逃れられるのか。今回は、こうした問題に正面から独自に取り組んだ二人の日本人と彼らから生まれた心理療法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書150-156ページ、168ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「想定書簡法」などの課題を出すことがある。その場合は各自で確実に実施し、ワークシートなどを提出できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１３回　様々な心理療法的アプローチ③　交流分析

【key words】
バーン、デュセイ、ストローク、東大式エゴグラム（TEG）、PAC理論、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析、再決断療法
【授業概要】
・フロイトの精神分析理論を簡略化しつつ、人と人が関わるところで生まれる交流（interaction）に注目し、人の心に抱え込まれた生きる様式（ライフスタイル）を明らかにする交流分析を最後に学ぶ。リハ専門職として、これから多くの患者との交流をしていく上でも、自分の交流パターンを知っておくことは有益であろう。時間があれば、国家試験問題の過去問を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書156-165ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードについて予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１４回　発達と心の問題①　エリクソンの心理社会的発達理論

【key words】
フロイトの心理性的発達理論、エリクソン、心理社会的発達理論、ピジェネティック・チャート、コンピテンシー、アイデンティティ、親密性、ジェネラティビティ
【授業概要】
人は誕生から死に至るまでの間、大枠で決まった発達的な段階を経ていく。これをライフサイクルと呼ぶが、この過程において、生きるための力を蓄えたり、生きづらさを刻み込むようなことも起きてくる。人の発達的な変化のあり方を大きな視点でイメージできることで、今目の前にいる人の背景にある問題も理解することもできる。こうした発達的変化の見取り図のようなものとして、フロイトとエリクソンの発達理論を学ぶ。今回は、エリクソン理論の途中、青年期までについて学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書177-183ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人が「患者」や「障害者」として生きる状況になるとき、身体上や経済上の問題以外に、心理面でどのような難しさと出会うかについて考え、箇条書きにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１５回　発達と心の問題②　エリクソン理論と障害受容　　※ゲスト講師による「リハ患者の心理」を行う場合あり

【key words】
ライフサイクル論、老化、死、臨死体験、スピリチュアル・ケア、お迎え現象
【授業概要】
ゲスト講師による授業を組む場合もあるが、それ以外は、前回の続きとして、人生の総まとめとなる中年期から老年期にかけての発達課題について学び、臨床心理学のまとめを行う。人がある意味でその人らしくなり、個性的になるのが中年期以降である。そして、それぞれの人生で培ってきたこと、通ってきた道の結果などが姿形をとって現れるのが老年期ともいえる。老年期が延長している現在、老いてなお長く生きるという課題に人が向かい合う問題について考える。また、死の瞬間、人はどのような体験をするのか、現在分かっていることについて学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書182-183ページ、216ページ他資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
臨死体験について調べておくこと。ゲスト講師をお呼びする場合は、感想文を書くことになるので、必ず提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・国家試験に関連する科目であるが、それ以上に、医療現場で関わる方々の心の理解や心の回復につながる科目として、真剣に取り組むこと。<br>・毎回の講義の中で、実際の患者と対話をするような姿勢を磨いてもらいたい。そのため、私語が多かったり、関心が薄い態度をとったり、授業の雰囲気を乱したりする行為は慎むこと。<br>・悩みながら生きている人や、心の問題を抱える人に対して、尊厳を持って向き合う姿勢を求める。最低限、自分が人の心の学習に対して誠実に取り組んでいるときちんと言える程度の態度は求める。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業に関する資料をスレッド（掲示板）にて配布する。授業後にこのスレッドにコメントを必ず投稿すること。出席の確認も兼ねるので、コメントがない場合は欠席扱いとする。また、授業の振り返りも兼ねて感じたこと、考えたことを3行以上書くこと。3行以上書かれたコメントは毎回1点の加点扱いとし、総合評価の際、最高15点の加点を行う。また、コメントは、書き込まれた意見をもとに授業の進度や方法を調整するための重要な資料とする。各自積極的に書きこむこと。コメントは、授業のあった日の夜12時までに書き込むこと。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・今年度から使用する教科書は記述が詳細にしてあり分量も多いので、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べておくこと。<br>・受講生の受講の様子によっては、講義の前半部か後半部において、リハビリ患者を代表してゲスト講師をお呼びし、「リハビリ患者の心理」についてご教授をいただく予定。こうした機会が作れたら、患者の方に関する情報を調べ、専門職を目指すものとして誠実に向かい合っていくよう準備を行うこと。 |
| オフィスアワー | ・授業前後に、教室か非常勤講師控え所にて声をかけること。メールでの質問はいつでも受け付ける。積極的に利用すること。hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp |
| 評価方法 | 〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。<br>〈評価割合〉期末試験100点を基本とする。小レポート課題を課した場合は30%の範囲内で評価に組み入れる。 |
| 教科書 | 牧瀬英幹（2021）『はじめての講義　リハビリテーションのための臨床心理学』（南江堂） |
| 参考書 | ・窪内節子・吉武光世（2003）『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館）<br>・松島恭子（2004）『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』（創元社）　その他適宜指示をする。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomを使用して、実際のリハビリ患者の方との双方向的なやりとりを行う機会を設けるように心掛けているので、質問やコミュニケーションを積極的にとることを求める。 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅰ(病理学)　　授業コード：20R2P1H187

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 前島 俊孝 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br>・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。<br>・基本的な疾患の病態について説明できる。 |
| 授業の概要 | 細胞傷害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション、解剖学の復習<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>解剖学、病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。<br>病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 細胞傷害<br>【key words】<br>壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成<br>【授業概要】<br>細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書: p.50-52<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第３回　循環障害

【key words】
出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行、浮腫、ショック
【授業概要】
循環障害に関する用語を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.65-75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第４回　炎症、免疫、アレルギー

【key words】
炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫、免疫細胞、I型～V型アレルギー
【授業概要】
炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。免疫機能、アレルギー反応について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.76-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第５回　代謝異常、糖尿病

【key words】
血糖、インスリン、ヘモグロビンA1c、１型糖尿病、２型糖尿病、診断、合併症、治療
【授業概要】
代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.317-323

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　腫瘍　１　(腫瘍の定義、分類)

【key words】
良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫
【授業概要】
腫瘍の定義、分類について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
また、与えられた課題について、レポートを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
180-240分

第７回　腫瘍　２　(悪性腫瘍の診断、治療)

【key words】
リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移、腫瘍の診断、検査、治療
【授業概要】
腫瘍発生の原因や、転移様式、腫瘍の診断、治療の流れを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書: p.118-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当する部分を読んで復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　まとめ

【key words】
補足、講義のまとめ、試験について
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・春休みに解剖学全般の復習をして、臨床医学Ⅰ(病理学)の講義に臨んで欲しい。<br>・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。<br>・臨床医学Ⅰ(病理学)の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。<br>・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。<br>・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。<br>・読書の習慣を身につける。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義直後の週末に、教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。 |
| オフィスアワー | 講義の前後 |
| 評価方法 | 筆記試験（客観・論述）80%、レポート20% |
| 教科書 | 堤 寛： 新訂版　クイックマスター病理学　第2版，サイオ出版，2018 |
| 参考書 | 解剖学の教科書（臨床医学Ⅰ(病理学)の講義でも使用する） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえ講義を行っている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅱ（画像診断学、救急救命医学）　　授業コード：20R2P1H188

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 土屋篤嗣・多田真和 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ＜画像診断学について＞<br>　単純X線、X線CTおよびMRI等の画像は、疾患の診断および治療に欠かせないものです。理学療法士・作業療法士としてチーム医療を担う皆さんには、これらの画像を理解する力が求められています。臨床上遭遇することが多い疾患および状態について画像を読影、理解し、臨床像と結び付けられるようになることを目標とします。<br><br>＜救急救命医学について＞<br>　リハビリテーションは手術後の方、高齢者や障害を有する方を対象に行われることが多く、状態の急激な変化のリスクは決して少なくありません。現在、急性疾患に対する早期からのリハビリテーション介入の有効性が認識されていますが、全身状態が不安定な状況下でのリハビリテーション中に状態が急変する可能性は否定できません。本講義では、日常遭遇することが多い疾患および状態を取り上げ、その病態を理解し、生じうるリスクが想起でき、救命救急の場において対応できる力を身に付けることを目標とします。 |
| 授業の概要 | ＜画像診断学について＞<br>　日常遭遇することが比較的多い疾患および状態を取り上げ、その単純X線、X線CTおよびMRI等の画像を提示し、解剖学上の変化および臨床像と連携させ解説し、理解を深めて頂きます。<br><br>＜救急救命医学について＞<br>　日常遭遇することが比較的多い疾患および状態について、その病態を理解した上で、リハビリテーションの介入により生じうる全身状態の変化を解説します。その上で、救急処置が必要になった際の対応法を学び、実践できるような知識を習得して頂きます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 画像診断学についてのオリエンテーション、頭部疾患の画像診断（1）<br>【key words】<br>単純X線、X線CT、MRI、脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血<br>【授業概要】<br>オリエンテーションとして、画像診断の必要性と有用性を解説します。その上で、実際の脳梗塞、脳内出血およびくも膜下出血のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p.1-35<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説しま |

す。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第2回　頭部疾患の画像診断（2）、胸部疾患の画像診断
【key words】
頭部外傷、脳腫瘍、認知症、無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤
【授業概要】
頭部外傷、脳腫瘍、認知症、さらに呼吸器、循環器疾患として無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】
p.36-45　p.125-140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第3回　脊柱疾患の画像診断
【key words】
椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折
【授業概要】
脊椎疾患として、椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第4回　上肢・下肢疾患の画像診断
【key words】
鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、変形性股関節症、
大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷
【授業概要】
上肢の疾患として、鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、さらに下肢の疾患として、変形性股関節症、大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前および後十字靭帯損傷等を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第5回　救命救急医学についてのオリエンテーション、　Ⅰ　リハビリテーションにおけるリスク管理（総論）
【key words】
リハビリテーション、リスク管理、安全管理、法的責任
【授業概要】
リハビリテーションにおけるリスク管理の必要性、合併症予防のための情報収集、リスク管理に必要な検査・薬剤の知識、状態変化時の対応、リハビリテーション中に起きたアクシデントと法的責任等について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
テキストの（I）の範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第6回　II　疾患ごとの急変予測　～どのような症例に急変が生じやすいか～
【key words】
脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、糖尿病、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症
【授業概要】
状態の急な変化が比較的生じやすい、脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、糖尿病、深部静脈血栓症および肺血栓塞栓症について、その病態を学び、なぜ急変が生じやすいのか、また急変を予測する手法等について解説します。
【教科書ページ・参考文献】
テキストの（II）の範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第7回　III　どのような急変を生じるか　～遭遇しやすい症状とその対処法～
【key words】
血圧上昇、血圧低下、動悸、不整脈、意識障害、呼吸困難、胸痛、筋骨格系の疼痛、頭痛、腹痛、嘔気・嘔吐、めまい、痙攣・てんかん発作、発熱、浮腫

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>リハビリテーション中に実際に生じやすい（遭遇しやすい）症状および状態について学び、そのような状況が見られた際の対応法について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストの（III）の範囲<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30-60分 |
| | 第8回　IV　急変を生じた場合に　　V　リハビリテーションに関連するその他のリスク<br>【key words】<br>一次救命処置、心肺蘇生、外傷の対処、転倒予測、転倒予防、窒息事故、気道吸引、気管カニューレ、<br>感染管理<br>【授業概要】<br>急な状態の変化が見られた場合の対処法としての一次救命処置、心肺蘇生法、また、リハビリテーションの際に遭遇しやすい外傷およびその対処法について解説します。さらに、転倒の予測、予防方法と転倒後の対応、窒息事故の予測と対応等について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>テキストの（IV）(V)の範囲<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30-60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配意してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 前もってテキストの該当する範囲を熟読し、ご自身がわかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに知識を深められるよう解説していきます。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の30－60分ほど対応可能です。 |
| 評価方法 | 筆記試験（75%）　レポート試験（25%）　の予定です。 |
| 教科書 | PT・OT　基礎から学ぶ画像の読み方　国試画像問題攻略　第3版（医歯薬出版株式会社）<br>豊富な写真でわかる！　骨折　脱臼　捻挫　基本手技バイブル（羊土社）<br>リハビリテーション　リスク管理ハンドブック　第4版　（メジカルビュー社） |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 臨床医学Ⅲ(栄養学,臨床薬学)　　授業コード： 20R2P1H189

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神内伸也・古屋牧子・中里見真紀・大澤吉弘 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を理解し、主な病態又は主な疾患の栄養療法を学ぶ。また必要な薬理学の理解を深め、疾患や障害に対する薬物療法の効果や副作用を分析する能力を修得する。<br>〔到達目標〕<br>① リハビリテーションを実施する上で必要な栄養に関する基礎知識を修得している。<br>② 主な病態の栄養療法について修得している。<br>③ 薬物療法の意義や目的について理解できる。<br>④ 病群ごとの薬物の効果や副作用のリスクについて理解できる。<br>⑤ 理学療法と薬物療法を併用することの効果と注意点につて理解できる。 |
| 授業の概要 | 将来、チーム医療を実践していくにあたり、医学および医療の幅広い知識を持つことが重要である。本講義では、リハビリテーションの実施に必要な解剖学、生理学、生化学等の講義で解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、より高度な医療に対応することを目的に栄養学、薬理学について学ぶ。<br>授業全体を通し、患者さんに対するアプローチの多様性を考える力を高められるような授業を目指す。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 生化学を理解する（大澤）<br>【key words】<br>基礎化学、蛋白質・アミノ酸、酵素・ホルモン、糖質・脂質、ビタミン<br>【授業概要】<br>生物を構成する物質と機能、その合成と分解を理解し、生体の恒常性がどのように維持されているかについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.8-55(CHAPTER 1～6)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第2回 | 栄養学を理解する（大澤）<br>【key words】<br>消化吸収、エネルギー代謝、スポーツ栄養 |

【授業概要】
栄養素の消化と吸収、エネルギーを理解し、運動や活動に必要な栄養素とエネルギーの適切な摂取方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.56-79(CHAPTER 7～9)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第3回　リハビリテーションにおける栄養知識の重要性（中里見）
【key words】
フレイル、低栄養、チーム医療、多職種連携、栄養アセスメント
【授業概要】
低栄養やフレイルにおける栄養管理の重要性や多職種連携・チーム医療について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.80-95(CHAPTER 10～11)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第4回　主な病態の栄養管理（中里見）
【key words】
栄養管理、栄養療法

【授業概要】
主な病態の栄養管理について学ぶ。自分の栄養アセスメントをした結果を、グループディスカッションする。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.96-119(CHAPTER 12～14)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第5回　リハビリテーションにおける薬理学（古屋）
【key words】
薬理学、臨床薬理学
【授業概要】
薬理学・臨床薬理学を学ぶ意義および薬理学の基礎について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.8～39(CAHPTER 1～CAHPTER 4)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第6回　薬物の作用機序、体内動態および相互作用（古屋）
【key words】
薬物の作用機序、薬物の体内動態、薬物の相互作用
【授業概要】
薬物の作用機序、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）および薬物の相互作用（薬物と薬物、薬物と食品）について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.40～71(CAHPTER 5～CAHPTER 8)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第7回　感染、炎症、神経疾患、精神疾患の薬物療法（神内）
【key words】
感染・炎症の制御、神経疾患、精神疾患、薬物療法
【授業概要】
感染と炎症の病態ならびに、主な神経疾患、精神疾患の発症機序を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.72～95(CAHPTER 9～CAHPTER 11)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

| | |
|---|---|
| | 第8回　循環器、疼痛の薬物療法および、薬物の使用にあたり注意すべきこと（神内）<br>【key words】<br>循環器系、疼痛、薬物療法、副作用<br>【授業概要】<br>主な循環器系疾患の発症機序ならびに、疼痛の病態を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p.96～119(CAHPTER 12～CAHPTER 14)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。<br>・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。<br>・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話・スマートフォンの授業に関係ない使用）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。 |
| オフィスアワー | 授業終了後30分程度、対応可能。 |
| 評価方法 | レポート試験100％ |
| 教科書 | リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子<br>リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 |
| 参考書 | PT・OTのための治療薬ガイドブック　リハビリテーション実施時の注意点（株式会社メジカルレビュー社）本間光信（監修）、編集高橋仁美（編集） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 一般臨床医学　　授業コード： R20191F222

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 多田真和・土屋篤嗣・大出景貴 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>将来皆さんが、医師、看護師、薬剤師等の医療専門職と協同でチーム医療を行うにあたり、医療従事者として共通の幅広い医学および医療の知識を備えておく必要があります。本講義では、医学の歴史、近代医学の発展と医の倫理、人体の構造と機能、主要な疾患とその対応、医療保障制度、医療施設の種類と現状、保健医療対策、医療にまつわる法規等について広く解説します。<br>〔到達目標〕<br>医学、医療を広く学ぶことで、チーム医療における理学療法士、作業療法士として果たすべき役割およびその重要性が理解できることを目標の一つとします。また、医療従事者として、患者さんや医療チームの構成員から信頼され、尊敬されるような人間性、倫理観が身につけられることを目標とします。 |
| 授業の概要 | 将来、チーム医療を実践される皆さんにとって必要な医学および医療の幅広い知識を、できる限りわかりやすく、平易に解説します。皆さんが将来遭遇する可能性が高い疾患については、その解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、疾患および障害が生じるメカニズム、さらに基本的な治療法およびその予後等について解説します。1年次で学ぶ、解剖学、生理学、生化学等の講義と並行して学習することで、より深い理解が得られるよう配慮します。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション、医学の定義とその使命（第1章）<br>【key words】<br>医学の定義、医学の使命<br>【授業概要】<br>講義の初めにあたり、授業のオリエンテーションを行います。また、「医学とは何か」「医学の使命」について解説します。将来、医療従事者として必要な生命倫理および医学倫理について熟考します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分 |
| | 第２回 | 医学の歴史（第2章）、近代医学の発展と医の倫理（第3章）<br>【key words】<br>医学の歴史、近代医学、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、脳死、尊厳死<br>【授業概要】 |

「近代医学への道程」「ヒポクラテスの誓い」「20世紀・21世紀の医学」について、さらに「ヘルシンキ宣言」「インフォームドコンセント」「脳死」および「尊厳死」をとり上げ解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
30－60分

第３回　人体の構造と機能　Ⅰ（第4章）・・・　人体の構成、細胞、骨・筋肉、血液、循環器系、呼吸器系
【key words】
細胞、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器
【授業概要】
人体の構造の基本単位である「細胞」、そして「骨」「筋肉」「血液」について解説します。さらに心臓、血管系およびリンパ系からなる「循環器系」を学び、「呼吸器系」では、気道、肺、胸郭・横隔膜の解剖に加え、呼吸運動について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第４回　人体の構造と機能　II（第4章）・・・　消化器系、泌尿器系、内分泌系とホルモン、神経系、生殖器系、皮膚、感覚器
【key words】
消化器、泌尿器、内分泌、ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器
【授業概要】
口腔にはじまり、食道、胃、小腸、大腸までの消化管に加え、肝臓、胆道系および膵臓で構成される「消化器系」の解剖学的構造、さらに生理学的メカニズムについて解説します。また、「泌尿器系」「内分泌系」「神経系」「生殖器系」「皮膚」および眼、耳の「感覚器」について、その解剖学的構造および生理学的メカニズムを解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第５回　臨床医学総論　Ⅰ（第5章）・・・　主要症状からその原因を探る
【key words】
発熱、ショック、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難、胸痛
【授業概要】
臨床の場でみられる、「発熱」「ショック」「浮腫」「悪心」「嘔吐」「下痢」「便秘」「腹痛」「食欲不振」「呼吸困難」および「胸痛」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第６回　臨床医学総論　II（第5章）・・・　主要症状からその原因を探る
【key words】
頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿障害、咳、喀血、血痰、吐血、動悸
【授業概要】
臨床の場でみられる、「頭痛」「めまい」「運動麻痺」「不随意運動」「排尿障害」「咳」「喀血・血痰」「吐血」および「動悸」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第７回　臨床医学各論　Ⅰ　（第6章）・・・　呼吸器疾患、循環器疾患
【key words】
呼吸器疾患、循環器疾患
【授業概要】
日常の臨床の場でみられる代表的な呼吸器および循環器に生じる疾患について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。
【予習復習に必要な想定時間】
60－90分

第８回　臨床医学各論　II　（第6章）・・・　消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患
【key words】

| | | |
|---|---|---|
| | | 消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、泌尿器疾患<br>【授業概要】<br>日常の臨床の場でみられる代表的な消化器に生じる疾患、糖尿病、脂質異常症をはじめとする代謝・内分泌疾患、さらに腎臓および泌尿器に生じる代表的な疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第９回 | 臨床医学各論　III　（第6章）・・・　血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患<br>【key words】<br>血液疾患、造血器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患<br>【授業概要】<br>鉄欠乏性貧血をはじめとする血液疾患、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等の神経疾患、さらに、統合失調症、双極性障害等の精神疾患について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１０回 | 臨床医学各論　IV　（第6章）・・・　アレルギー性疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患<br>【key words】<br>アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患<br>【授業概要】<br>薬物アレルギー、アレルギー性鼻炎等のアレルギー性疾患、関節リウマチ、シェーグレン症候群等の膠原病、食中毒、破傷風等の感染症、さらに一酸化炭素中毒、フグ中毒等の中毒疾患、アトピー性疾患、蕁麻疹および熱傷等の皮膚疾患、さらに更年期障害、子宮筋腫等の婦人科・妊産婦疾患等について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１１回 | 臨床医学各論　V　（第6章）・・・　運動器疾患（整形外科領域）<br>【key words】<br>運動器疾患、整形外科<br>【授業概要】<br>日常の臨床の場で多くみられる腰痛症、変形性膝関節症等の運動器疾患（整形外科疾患）について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１２回 | 臨床医学各論　VI　（第6章）・・・　小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム<br>【key words】<br>小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム<br>【授業概要】<br>小児にみられる疾患、眼精疲労、緑内障等の眼疾患、メニエール病、突発性難聴等の耳鼻咽喉疾患、さらにメタボリックシンドロームについて解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－90分 |
| | 第１３回 | 人口統計と疾病の変化（第7章）、健康状態と受療状況（第8章）、医療保障制度（第9章）<br>【key words】<br>人口静態、世界の人口、人口動態、社会保障制度、医療保障、医療保険、老人医療、介護保険制度、国民医療費<br>【授業概要】<br>さまざまな保健衛生事業を効率よく実施するために必要な人口統計、さらに医療保障制度、社会保障制度として医療保険、老人医療、介護保険制度そして国民医療費について解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分 |
| | 第１４回 | 医療関係の職種（第10章）、医療施設の種類と現状（第11章）、保健医療対策（第12章）、医師 |

| | |
|---|---|
| | 法・薬事法・衛生法規（第13章）<br>【key words】<br>医療関係の職種、医療施設の種類、保健医療対策、医師法、薬事法、衛生法規<br>【授業概要】<br>将来協同してチーム医療を行う医師、歯科医師、看護師等の医療職について解説します。また、病院、診療所等の医療施設について学び、さらに保健医療対策、医療にまつわる法規についても解説します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30－60分<br>第１５回　総まとめ、国家試験対策<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>第14回までの授業で学んだ内容を、問題を解き解説する形式で総復習します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第14回までに学んできた内容の総復習を行います。同時に定期試験対策にもなりますので、知識を確かなものとするよう、自身が修得できていない部分を明らかにして授業に臨んで下さい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60－120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 将来の医療従事者として、だれからも信頼され尊敬されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配意してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 前もってテキストの該当する範囲を熟読し、わかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに深い知識が得られるよう解説します。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の30－60分ほど対応可能です。 |
| 評価方法 | 筆記による期末試験（土屋担当分：30点/100点、大出担当分：30点/100点、多田担当分：40点/100点、） |
| 教科書 | コメディカルのための専門基礎分野テキスト　医学概論　改訂８版　（中外医学社） |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション医学　　授業コード：R20191S223

英文科目名称： Rehabilitation medicine

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神谷誠 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。<br><br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、1年次の知識量ではやや難解である。授業では、第1章から第3章の基礎医学的な内容を取り扱い、各項目について要点のみ簡潔に解説する。4章の臨床医学的事項は、2年次以降に学習する各専門科目および実習時の参考書として頂きたい。授業中に、国家試験問題についても触れる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　リハビリテーション医学・医療の概要Ⅰ<br>【key words】<br>リハビリテーション歴史、概念、急性期、回復期、維持期<br><br>【授業概要】<br>リハビリテーション歴史、概念、急性期、回復期、維持期について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P1-P19<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第２回　リハビリテーション医学・医療の概要Ⅱ<br>【key words】<br>保険、医療、福祉、工学<br><br>【授業概要】<br>保険、医療、福祉、工学について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P20-P30 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　リハビリテーション診療Ⅰ
【key words】
診療手順、ADL

【授業概要】
診療手順、ADLについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P31-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　リハビリテーション診療Ⅱ
【key words】
画像診断、神経伝導検査、筋電図

【授業概要】
画像診断、神経伝導検査、筋電図について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P46-P64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　リハビリテーション診療Ⅲ
【key words】
チーム医療、リハ医、理学療法、作業療法、装具療法

【授業概要】
チーム医療、リハ医、理学療法、作業療法、装具療法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P65-P73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　リハビリテーション診療Ⅳ
【key words】
QOL、障害者心理

【授業概要】
QOL、障害者心理について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P74-P82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　障害の病態生理と評価・治療Ⅰ
【key words】
廃用症候群、運動障害

【授業概要】
廃用症候群、運動障害について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P83-P102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　障害の病態生理と評価・治療Ⅱ
【key words】
歩行障害

【授業概要】
歩行障害について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
最新リハビリテーション医学　第3版　P103-P111
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　障害の病態生理と評価・治療Ⅲ
【key words】
循環障害、呼吸障害

【授業概要】
循環障害、呼吸障害について学習する。

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P112-P128<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１０回　障害の病態生理と評価・治療Ⅳ<br>【key words】<br>摂食嚥下障害、排尿障害<br><br>【授業概要】<br>摂食嚥下障害、排尿障害について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P129-P147<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１１回　障害の病態生理と評価・治療Ⅴ<br>【key words】<br>褥瘡、痙縮・固縮<br><br>【授業概要】<br>褥瘡、痙縮・固縮について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P148-P162<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１２回　障害の病態生理と評価・治療Ⅵ<br>【key words】<br>記憶障害、失行、失認、失語、言語障害<br><br>【授業概要】<br>記憶障害、失行、失認、失語、言語障害について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P163-P176<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１３回　障害の病態生理と評価・治療Ⅶ<br>【key words】<br>注意障害、遂行機能障害、認知症<br><br>【授業概要】<br>注意障害、遂行機能障害、認知症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P177-P187<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１４回　障害の病態生理と評価・治療Ⅷ<br>【key words】<br>フレイル、老年症候群、サルコペニア、発達障害<br><br>【授業概要】<br>フレイル、老年症候群、サルコペニア、発達障害<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P188-P202<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１５回　障害の病態生理と評価・治療Ⅸ<br>【key words】<br>ED、補装具<br><br>【授業概要】<br>ED、補装具について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>最新リハビリテーション医学　第3版　P203-P218<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前にテキストを通読し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する | コメントカード方式 |

| | |
|---|---|
| 質問や学習の進捗状況の確認方法 | |
| 授業外時間にかかわる情報 | 教科書を一読し予習しておくこと。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。 |
| オフィスアワー | 授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験。 |
| 教科書 | 最新リハビリテーション医学　第3版　江藤文夫　理宇明元　監修　　医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | 理学療法士 作業療法士 国家試験問題 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>医師として、総合病院に勤務。<br>スポーツドクターとして、市民スポーツ活動を支援。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 内科・老年医学　　授業コード： 20R2P1H190

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神谷誠 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。<br>〔到達目標〕<br>①発病メカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 内科学では、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。テキストの内容が膨大である為、授業では各項目について要点のみ簡潔に解説する。<br>老年学では、高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を学習する。授業では、テキストの加齢と老化、高齢者へのアプローチ、高齢者をとりまく環境について、要点のみ簡潔に解説する。<br>授業中に、国家試験問題についても触れる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 内科学Ⅰ<br>【key words】<br>内科学とは内科的診断と治療の実際<br>【授業概要】<br>内科学とは何かについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>内科学：第1章内科学とは　第2章内科的診断と治療の実際<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分 |
| | 第２回 | 内科学Ⅱ<br>【key words】<br>症候学<br>【授業概要】<br>症候とは何かについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>内科学：第3章症候学 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　内科学Ⅲ
【key words】
循環器疾患
【授業概要】
循環器疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第4章循環器疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　内科学Ⅳ
【key words】
呼吸器疾患
【授業概要】
呼吸器疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第5章呼吸器疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　内科学Ⅴ
【key words】
消化管疾患
【授業概要】
消化管疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第6章消化管疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　内科学Ⅵ
【key words】
肝胆膵疾患
【授業概要】
肝胆膵疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第7章肝胆膵疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　内科学Ⅶ
【key words】
血液・造血器疾患
【授業概要】
血液・造血器疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第8章血液・造血器疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　内科学Ⅷ
【key words】
代謝性疾患
【授業概要】
代謝性疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第9章代謝性疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　内科学Ⅸ
【key words】
内分泌疾患
【授業概要】
内分泌疾患について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
内科学：第10章内分泌疾患
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

| | |
|---|---|
| | 第１０回　内科学Ⅹ<br>【key words】<br>腎・泌尿器疾患<br>【授業概要】<br>腎・泌尿器疾患について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>内科学：第11章腎・泌尿器疾患<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１１回　内科学Ⅺ<br>【key words】<br>アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症候群<br>【授業概要】<br>アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症候群について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>内科学：第12章アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症候群<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１２回　内科学Ⅻ<br>【key words】<br>感染症<br>【授業概要】<br>感染症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>内科学：第13章感染症<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１３回　老年学Ⅰ<br>【key words】<br>加齢と老化<br>【授業概要】<br>加齢と老化について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>老年学：第Ⅰ部加齢と老化<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１４回　老年学Ⅱ<br>【key words】<br>高齢者へのアプローチ<br>【授業概要】<br>高齢者へのアプローチについて学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>老年学：第Ⅱ部高齢者へのアプローチ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分<br>第１５回　老年学Ⅲ<br>【key words】<br>高齢者をとりまく環境<br>【授業概要】<br>高齢者をとりまく環境について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>老年学：第Ⅳ部高齢者をとりまく環境<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業前に教科書を通覧し、授業後に課題を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 自宅で問題演習と併せ復習を行う。 |
| オフィスアワー | 授業終了後、20分程度対応可能。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で行う。 |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　第4版　医学書院<br>標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学　第5版　医学書院 |
| 参考書 | 理学療法士 作業療法士 国家試験問題 |

| | |
|---|---|
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>医師として、総合病院に勤務。<br>スポーツドクターとして、市民スポーツ活動を支援。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 整形外科学Ⅰ　　授業コード：R20192F226

英文科目名称： *Othopaedics　Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。<br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断においての手順とその所見が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の１分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　骨　Ⅰ：骨の基礎<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>骨の発生、成長、構造について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、プリントや標準整形外科学で確認しておく（予習）。授業後A4のノートの左頁にﾁｪｯｸｼｰﾄの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆく。繰り返しの復習が重要。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第２回 | 骨　Ⅱ：骨疾患、骨折総論①<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 各種骨疾患の症状と特徴を学習。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第３回 | 骨　Ⅲ：骨折総論②<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第４回 | 骨　Ⅳ：骨折各論①　体幹部の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第５回 | 骨　Ⅴ：骨折各論②　　上肢の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第６回 | 骨　Ⅵ：骨折各論③　下肢の骨折<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頚部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第７回 | 関節　Ⅰ：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| | 第８回 | 関節　Ⅱ：変形性関節症総論<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を |

学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

第９回　関節　Ⅲ：変形性関節症各論
【key words】
配布するKeywors　を参照
【授業概要】
変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

第１０回　関節　Ⅳ：関節リウマチ
【key words】
配布するKeywors　を参照
【授業概要】
関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ＡＤＬを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

第１１回　関節　Ⅴ：外傷性疾患①
【key words】
配布するKeywors　を参照
【授業概要】
関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

第１２回　関節　Ⅵ：外傷性疾患②
【key words】
配布するKeywors　を参照
【授業概要】
第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

第１３回　脊椎　Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
【key words】
配布するKeywors　を参照
【授業概要】
脊椎と脊髄の構造を理解した後・１次ニューロン障害　、２次ニューロン障害について理解する。　その後、脊椎疾患の代表である、頚椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度

| | |
|---|---|
| | 第１４回　　脊椎　Ⅱ：脊椎疾患②<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝによる保存的治療で改善することに気付く。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度<br>第１５回　　脊椎　Ⅲ：脊椎疾患③<br>【key words】<br>配布するKeywors　を参照<br>【授業概要】<br>側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。<br>チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。１時間半の集中を要求する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業で配布するチェックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で、６０％以上の得点を得る事が、単位習得の条件である。 |
| 教科書 | １：標準整形外科学　第15版 中村利孝　他編　医学書院<br>２：最新リハビリテーション医学　第３版（医歯薬出版）１年次で使用したテキスト、も適宜使用する。<br>３：　PTOT国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本専門医機構　認定　整形外科専門医<br>日本整形外科学会認定　リウマチ医<br>日本整形外科学会認定　脊椎脊髄病医<br>日本リウマチ学会認定　リウマチ専門医<br>日本リハビリテーション医学会　認定医<br>整形外科臨床経験　25年<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他 |

| | |
|---|---|
| | その他の具体的内容 |

講義科目名称： 整形外科学Ⅱ　　授業コード： R20192S227

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。<br>〔到達目標〕<br>①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。<br>②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。<br>③治療方法の根拠と手順が説明できる。<br>④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。 |
| 授業の概要 | 運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の１分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 脊髄損傷　Ⅰ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| | 第２回 | 脊髄損傷　Ⅱ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第３回　脊髄損傷　Ⅲ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
脊髄損傷におけるﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P253-P268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第４回　末梢神経　Ⅰ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第５回　末梢神経　Ⅱ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
第４講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第６回　神経・筋疾患
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、ＤＶＤにより目で見て確認する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第７回　骨・軟部腫瘍
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第８回　四肢の循環障害と壊死性疾患

【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第９回　切断および離断と義肢　Ⅰ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P297－309
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第１０回　切断および離断と義肢　Ⅱ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P297-309
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第１１回　切断および離断と義肢　Ⅲ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。供覧する義手、義肢の実物に触れながら、第１０講と１１講の重要点を再確認する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P310-318
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第１２回　熱傷、手の外科
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）

第１３回　スポーツ外傷・障害　Ⅰ
【key words】
配布するKeyWords　参照
【授業概要】
スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。
＋最新リハビリテーション医学第３版　P381-392
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの

| | |
|---|---|
| | 該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）<br>第１４回　スポーツ外傷・障害　Ⅱ<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>スポーツ障害の対処方法について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br>＋最新リハビリテーション医学第３版　P381-392<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度）<br>第１５回　整形外科的治療法（人工関節手術の実際とリハビリテーション）<br>【key words】<br>配布するKeyWords　参照<br>【授業概要】<br>代表的な関節手術である人工関節置換術の適応とその実際、後療法であるリハビリテーションについて、現場の第一線の担当者による特別講義を実施する。１年間学習してきたことの総復習も兼ねる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（１４版）の該当頁を指示する。<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習は２０－３０分を繰り返し実施（合計２時間程度） |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。<br>チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。１時間半の集中を要求する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業で配布するチェックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習（PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］を使用）と併せノートの復習を行う。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験で、６０％以上の得点を得る事が、単位習得の絶対条件である。 |
| 教科書 | １：標準整形外科学　第１５中村利孝　他編　医学書院<br>２：最新リハビリテーション医学　第３版（医歯薬出版）（１年次で使用したテキスト）も適宜使用する。<br>３：PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　出たもん［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本専門医機構　整形外科専門医<br>日本整形外科学会認定　脊椎脊髄病医<br>日本整形外科学会認定　スポーツ医<br>日本リウマチ学会　専門医<br>日本リハビリテーション医学会　認定医<br>整形外科臨床経験25年以上<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない |

| | |
|---|---|
| | ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 神経内科学Ⅰ　　授業コード：R20192F230

英文科目名称： *Neurology　Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的・到達目標〕<br>神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。 |
| 授業の概要 | リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容をを繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　中枢神経のしくみ　Ⅰ　中枢神経と末梢神経、大脳①<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>大脳の構造と機能について学習<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P2-p21<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布する神経内科学KeyWordsの項目を予めテキストで確認しておく（予習）。授業後、A4のノートの左頁にチエックシートの各文を短冊状に切って貼り、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| | 第２回 | 中枢神経のしくみ　Ⅱ　大脳②、小脳<br>【key words】<br>配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと<br>【授業概要】<br>前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P22－p31<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第３回　中枢神経のしくみ　Ⅲ　脳幹、脊髄
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P32-P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第４回　中枢神経のしくみ　Ⅳ　脳循環、脳脊髄液循環
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P43-P55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第５回　障害のメカニズム　Ⅰ　意識障害、脳ヘルニア、脳腫瘍
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。最後に脳腫瘍の分離と症状を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P58-P82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第６回　障害のメカニズム　Ⅱ　言語障害、認知症、てんかん
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。最後にてんかんについての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P83-P108
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第７回　障害のメカニズム　Ⅲ　運動麻痺
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P109-P130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第８回　障害のメカニズム　Ⅳ　知覚障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P131-P149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第９回　障害のメカニズム　Ⅴ　脳神経障害①
【key words】

配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳神経障害（ⅠからⅥ）の発症機序ならびにその症状について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P150-P166
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１０回　障害のメカニズム　Ⅵ　脳神経障害　②、摂食嚥下障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳神経障害（ⅦからⅩⅡ）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生の部位とその症状を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P166-P190
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１１回　障害のメカニズム　Ⅶ　小脳の障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
小脳障害の病態を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P191-P194
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１２回　障害のメカニズム　Ⅷ　排尿障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P195-P200
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１３回　障害のメカニズム　Ⅸ　脳血管障害①
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P201-P214
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１４回　障害のメカニズム　Ⅹ　脳血管障害②
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P214-P224
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。

第１５回　障害のメカニズム　？　脳脊髄液障害
【key words】
配布される神経内科学　Key　Words　を参照のこと
【授業概要】
脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
絵で見る脳と神経　しくみと傷害のﾒｶﾆｽﾞﾑ　第４版　P225-P234
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チエックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチエックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチエックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチエックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チエックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　で演習する。（復習）。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、６０％以上の得点を得る事が、単位習得の必須条件である。 |
| 教科書 | ①　JJNブックス　絵でみる脳と神経　しくみと障害のメカニズム第４版　馬場元毅　　著　　医学書院（１年次の解剖学実習で使用したテキストである）<br>②　ベッドサイド神経の診かた　　第１８版　　田崎義昭　著　　南山堂<br>③　PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>藤田保健衛生大学（現　藤田医科大学）　脳神経外科学教室　所属経験あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 神経内科学Ⅱ　　授業コード： R20192S231

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 栗原卓也 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的・到達目標〕<br>神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。 |
| 授業の概要 | リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容をを繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　小児神経疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p316-338<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第２回 | てんかん<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p284ー287<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答 |

| | | |
|---|---|---|
| | | を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第３回 | 筋疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p　288-P301<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第４回 | 脳腫瘍、外傷性脳損傷<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p224-P237<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第５回 | 脳血管障害①<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p173-P203<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第６回 | 脳血管障害②<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>脳血管障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p173-P203<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第７回 | 認知症<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p204-P223<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第８回 | 変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>Parkinson病（症候群）　と　変性、脱髄疾患について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>神経内科学　第5版　p253-p274<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| | 第９回 | 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患<br>【key words】<br>配布されるKeywords　を参照<br>【授業概要】<br>髄膜炎、脳炎を代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。 |

【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p302-P315
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１０回　脊髄疾患、末梢神経疾患
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p238-P252、P275-P283
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１１回　廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性機能障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p339-P362
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１２回　高次脳機能障害①（失語症、失認、失行）
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p107-P151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１３回　高次脳機能障害②（記憶障害、注意障害、遂行機能障害）
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１４回　脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）、構音障害、嚥下障害
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版　p152-P171
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上

第１５回　脳血管障害のリハビリテーションの実際
【key words】
配布されるKeywords　を参照
【授業概要】
リハビリテーション医療の第一線に携わる専門家による、脳血管障害のリハビリテーションについて、特別講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
神経内科学　第5版
ベッドサイド神経の診かた　第１８版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チエックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチエックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチエックシートに従って、学習する。Ａ４のノートの左側にチエックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チエックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、配布するプリント、テキストのでるもんでたもん［臨床医学］で行う（復習）。 |
| オフィスアワー | 木曜日の授業終了後の休憩時間。 |
| 評価方法 | 筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、６０％以上の得点を得る事が、単位習得の必須条件である。 |
| 教科書 | ①　標準理学療法学、作業療法学　専門基礎分野　神経内科学　第5版　川平和美　編集　　医学書院<br>②　ベッドサイド神経の診かた第18版　　田崎義昭　著　南山堂<br>③　PT　OT　国家試験共通問題　でるもん　でたもん　［臨床医学］　医学書院 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>藤田保健衛生大学（現　藤田医科大学）脳神経外科学教室　事績経験あり<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 精神医学　　授業コード： R20192F232

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 渡辺光洋 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br><br>精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。<br>〔達成目標〕<br>①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。<br>②現代社会とストレッサーおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。<br>③“脆弱性―ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。<br>④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。<br>⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。<br>⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。<br>⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。<br>⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要となる、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　オリエンテーション/ 精神医学とは/ 精神障害の成因と分類<br>（村杉）<br><br>【key words】<br>・Impairment/ Activity limitation/ Mental disability　・内因、外因、身体因　・ストレス―脆弱性モデル　・ICD-10<br>【授業概要】<br>日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書第1章・第２章　（Ｐ1～15）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第２回　精神機能の障害と精神症状（１） |

（庄田）

【key words】
・精神機能　・意識　・知能　・記憶
【授業概要】
精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には、精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第3章（Ｐ16～45）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第３回　精神機能の障害と精神症状（２）
（齋藤弘）

【key words】
・幻覚、妄想　・自我意識障害　・気分の障害

【授業概要】
精神機能の障害のうち、知覚、思考および気分の障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第3章（Ｐ16～45）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　精神障害の診断と評価
（堀内）

【key words】
・病歴　・神経学的検査　・心理検査　・社会生活評価尺度

【授業概要】
精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。
（WAIS、kohs立方体テスト、長谷川式簡易知能評価スケール改訂版、BPRS、GAF、Hamiltonうつ病評価尺度、WHO/QOL26など）
【教科書ページ・参考文献】
第4章（Ｐ46～67）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第５回　脳器質性精神障害/ てんかん
（斎藤勝）

【key words】
・認知症　・てんかん

【授業概要】
・認知症の症状には、中核症状（基本症状）と周辺症状があることを学ぶ。
・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。
・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第5章（Ｐ68～93）、第8章（P115～126）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第６回　症状性精神障害/ 精神作用物質による精神および行動の障害
（前田）

【key words】
・症状精神病　・アルコール関連障害
【授業概要】
・精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要であるため、症状精神病の概念と主な症状精神病についてぶ。
・精神作用物質による精神・行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第6章（Ｐ94～99）、第7章（P100～114）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の予習・復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　統合失調症およびその関連障害
（城甲）

【key words】
・陽性症状　・陰性症状　・社会復帰
【授業概要】
・統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーション

| | | |
|---|---|---|
| | | の重要性を認識する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第9章（Ｐ127～148）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第８回<br>（髙橋） | 気分（感情）障害①<br><br>【key words】<br>・うつ病　・躁うつ病<br>【授業概要】<br>・気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第10章（Ｐ149～163）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第９回<br>（渡辺） | 気分（感情）障害②<br><br>【key words】<br>・うつ病　・躁うつ病<br>【授業概要】<br>・気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第10章（Ｐ149～163）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１０回<br>（佐々木） | 神経症性障害<br><br>【key words】<br>・不安　・恐怖　・強迫　・解離　・ストレス　・神経症　・パニック障害<br>【授業概要】<br>・神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。<br>・神経症性障害の治療について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第11章（P164～175）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１１回<br>（佐々木） | 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティー・行動・性の障害<br><br>【key words】<br>・摂食障害　・睡眠障害　・パーソナリティー障害<br>【授業概要】<br>・摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。<br>・睡眠障害の分類と症状について学ぶ。<br>・パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第12章（P176～180）、第13章（P181～187）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１２回<br>（渡辺） | 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学<br><br>【key words】<br>・IQ　・自閉症　・発達障害　・コンサルテーションリエゾン<br>【授業概要】<br>・精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。<br>・精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。<br>・リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第14章（P188～197）、第15章（P198～206）、第16章（P207～211）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| | 第１３回<br>（渡辺） | 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学<br><br>【key words】<br>・心身症　・ライフサイクル　・小児期　・青年期<br>【授業概要】<br>・心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。<br>・ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第17章（P212～214）、第18章（P215～230） |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第１４回　精神障害の治療とリハビリテーション<br>（岩井）<br>【key words】<br>・インフォームドコンセント　・治療の目標　・向精神薬　・副作用<br>【授業概要】<br>・精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第19章（P231～253）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分<br>第１５回　精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス<br>（岩井）<br>【key words】<br>・精神保健福祉法　・社会とメンタルヘルス<br>【授業概要】<br>・精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。<br>・社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>第20章（P254 ～272）、第21章（P273～279）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書の予習・復習<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分～60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]<br>極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。<br>[受講のルール]<br>携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞄にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。″ |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってくること。また、授業終了後に復習をすること。 |
| オフィスアワー | 授業終了後20分対応可能 |
| 評価方法 | 出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100％で判断。 |
| 教科書 | 上野武治　編：標準理学療法・作業療法学　精神医学　（第4版　増補版）．医学書院，2021 |
| 参考書 | 上島国利　立山萬里　編：精神医学テキスト　改訂第３版．南江堂，2012 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>精神科医として病院勤務<br>医学部講義、臨床実習<br>看護学校講義<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。 |

講義科目名称： 疾患学インテグレート　　授業コード： 20R3P1H191

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷忠彦・高坂駿・新谷益巳・浅野貞美 | | | |
| 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>理学療法・作業療法の主要な対象疾患に焦点を当て、2年次までに学修した基礎医学・臨床医学の知識と理学療法学・作業療法学の知識とをインテグレート（統合）することにより、臨床実践で求められる知識、思考力、判断力を修得する。<br><br>〔到達目標〕<br>①理学療法・作業療法の主要な対象疾患の種類と特徴を説明できる。<br>②理学療法・作業療法の主要な対象疾患に対する評価と介入の過程を説明できる。<br>③理学療法・作業療法の対象者における生活機能、障害、健康状態を包括的に把握し、評価と介入のプログラムを立案できる。 |
| 授業の概要 | 本授業では、理学療法・作業療法の主要な対象疾患（運動器疾患、中枢神経疾患、内部障害、精神疾患）に焦点を当て、2年次までに学修した基礎医学・臨床医学の知識と理学療法学・作業療法学の知識とをインテグレート（統合）することにより、臨床実践で求められる知識、思考力、判断力を修得する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション，脳血管障害のリハビリテーション①（亀ヶ谷）<br>【key words】<br>脳血管障害　リハビリテーション<br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション（当科目の内容、進め方と成績評価について）<br>・脳血管障害の概要<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・脳血管障害の概要について予習する<br>・復習の内容は授業時間内に説明される<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分、復習30分 |
| | 第2回 | 脳血管障害のリハビリテーション②（亀ヶ谷）<br>【key words】<br>脳血管障害　急性期　回復期　機能訓練<br>【授業概要】<br>・急性期のリハビリテーション、リスク管理<br>・回復期のリハビリテーション |

【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・脳血管障害患者の急性期・回復期リハビリテーション（機能訓練、日常生活動作訓練等）について予習する
・リハビリテーションにおけるリスク管理について予習する
・復習の内容は授業時間内に説明される
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分、復習30分

第3回　脳血管障害のリハビリテーション③（亀ヶ谷）
【key words】
脳血管障害　回復期　維持期　自宅復帰　地域生活
【授業概要】
・回復期のリハビリテーション
・維持期のリハビリテーション、自宅退院と地域生活の支援
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・脳血管障害の回復期・維持期リハビリテーション（機能訓練、日常生活動作訓練、自宅退院と地域生活の支援等）について予習する
・復習の内容は授業時間内に説明される
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分、復習30分

第4回　脳血管障害のリハビリテーション④（亀ヶ谷）
【key words】
脳血管障害　事例検討
【授業概要】
・脳血管障害患者の事例検討
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・理学療法・作業療法の事例検討の実施方法について予習する
・復習の内容は授業時間内に説明される
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分、復習30分

第5回　肩関節疾患の治療の考え方について①（新谷）
【key words】
肩関節，手関節，評価，治療
【授業概要】
運動器
・肩関節疾患に対する評価結果から，治療プログラム立案の考え方について.
＊動画を用いて進めるため，個人のノートも用意してください.

【教科書ページ・参考文献】
医学映像教育センター：リハビリテーション医学第2版，vol.20 運動器のリハビリテーション2
2年次に使用した評価，運動療法，物理療法，義肢装具に関する教科書を用意.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肩関節の疾患（肩関節周囲炎，腱板損傷など）について事前学習をする.
授業後は，肩関節疾患に必要な評価項目から問題点を整理した上で，治療プログラムを再考する.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第6回　肩関節疾患の治療の考え方について②（新谷）
【key words】
肩関節，手関節，評価，治療
【授業概要】
運動器
・肩関節疾患に対する評価結果から，治療プログラム立案の考え方について.
＊動画を用いて進めるため，個人のノートも用意してください.

【教科書ページ・参考文献】
医学映像教育センター：リハビリテーション医学第2版，vol.20 運動器のリハビリテーション2
2年次に使用した評価，運動療法，物理療法，義肢装具に関する教科書を用意.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肩関節の疾患（肩関節周囲炎，腱板損傷など），肘関節の疾患（野球肘，テニス肘などなど）について事前学習をする.
授業後は，肩関節疾患に必要な評価項目から問題点を整理した上で，治療プログラムを再考する.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第7回　腰部疾患の治療の考え方について①（新谷）
【key words】
運動器，評価，治療
【授業概要】
運動器
・腰部の疾患に対する評価結果から，治療プログラム立案の考え方について.
＊動画を用いて進めるため，個人のノートも用意してください.
【教科書ページ・参考文献】
医学映像教育センター：リハビリテーション医学第2版，vol.19 運動器のリハビリテーション1
2年次に使用した評価，運動療法，物理療法，義肢装具に関する教科書を用意.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
腰部の疾患（腰椎椎間板ヘルニア，筋筋膜性腰痛，腰椎分離症など）について事前学習をする.
腰部の疾患に必要な評価項目から問題点を整理した上で，治療プログラムを再考する.

【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第8回　腰部疾患の治療の考え方について②（新谷）

【key words】
運動器，評価，治療
【授業概要】
運動器
・腰部の疾患に対する評価結果から，治療プログラム立案の考え方について.
＊動画を用いて進めるため，個人のノートも用意してください.
【教科書ページ・参考文献】
医学映像教育センター：リハビリテーション医学第2版，vol.19 運動器のリハビリテーション1
2年次に使用した評価，運動療法，物理療法，義肢装具に関する教科書を用意.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
腰部の疾患（腰椎椎間板ヘルニア，筋筋膜性腰痛，腰椎分離症など）について事前学習をする.
腰部の疾患に必要な評価項目から問題点を整理した上で，治療プログラムを再考する.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第9回　統合失調症をもつ人に対する作業療法評価と治療・指導・援助①（高坂）

【key words】
統合失調症、生活機能障害、地域生活、水中毒
【授業概要】
・統合失調症をもつ人の生活機能障害と理学・作業療法評価、治療・指導・援助
・環境因子・個人因子と生活機能障害との関連について
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、精神医学で習った上記の統合失調症の症状について復習しておくこと。
精神医学の教科書を持参すると調べ物がしやすい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第10回　統合失調症をもつ人に対する作業療法評価と治療・指導・援助②（高坂）

【key words】
統合失調症、生活機能障害、地域生活、水中毒
【授業概要】
・統合失調症の事例紹介
・理学療法・作業療法の視点で統合失調症のアセスメント（病期や生活機能障害等）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、精神医学で習った上記の統合失調症の症状について復習しておくこと。
精神医学の教科書を持参すると調べ物がしやすい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第11回　統合失調症をもつ人に対する作業療法評価と治療・指導・援助③（高坂）

【key words】
統合失調症、生活機能障害、地域生活、水中毒
【授業概要】
・理学療法・作業療法の視点で統合失調症のアセスメント（背景因子等）を行う。
・生活課題の焦点化と合意目標の設定を行う。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、精神医学で習った上記の統合失調症の症状について復習しておくこと。
精神医学の教科書を持参すると調べ物がしやすい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第12回　統合失調症をもつ人に対する作業療法評価と治療・指導・援助④（高坂）

【key words】
統合失調症、生活機能障害、地域生活、水中毒
【授業概要】
・理学療法・作業療法の視点から治療プランを設定する。
・治療プランの例について提示する。

【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、精神医学で習った上記の統合失調症の症状について復習しておくこと。
精神医学の教科書を持参すると調べ物がしやすい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第13回　糖尿病理学療法（浅野）

【key words】
糖尿病、合併症、足病変、リハビリテーション
【授業概要】
・病態理解に必要な解剖学、生理学の復習
・糖尿病の評価
・運動療法
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に課題シートを配布するので、各自で取り組むこと。課題シートは授業終了時に回収する。
（本課題が浅野担当分の課題となる）

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分<br>第14回　腎臓リハビリテーション（浅野）<br>【key words】<br>腎臓、CKD、リハビリテーション<br>【授業概要】<br>・病態理解に必要な解剖学、生理学の復習<br>・慢性腎臓病の評価<br>・運動療法<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に課題シートを配布するので、各自で取り組むこと。課題シートは授業終了時に回収する。<br>（本課題が浅野担当分の課題となる）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分、復習に30分<br>第15回　心臓リハビリテーション（浅野）<br>【key words】<br>心臓、循環、リハビリテーション<br>【授業概要】<br>・病態理解に必要な解剖学、生理学の復習<br>・心不全の評価<br>・運動療法<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に課題シートを配布するので、各自で取り組むこと。課題シートは授業終了時に回収する。<br>（本課題が浅野担当分の課題となる）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分、復習に30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・COVID-19感染状況に応じ、対面またはWebのハイブリット形態で行う。形態は大学の方針に準ずる。<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式。但し、担当教員より特別な指示があった場合はそれに従うこと。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。<br>分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておくこと。 |
| オフィスアワー | 各担当教員より指示する。 |
| 評価方法 | □筆記試験（定期試験期間）　60%（各教員15%で分割）<br>□授業内課題　40%（各教員10%で分割） |
| 教科書 | なし。各教員が資料を配布する。 |
| 参考書 | なし。各教員が資料を配布する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>理学療法士国家資格・作業療法士国家資格を有し、病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業等における実務に長く従事した教員らが授業を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用 |

| | |
|---|---|
| | ■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード：20R1P1I595

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 柴ひとみ・悴田敦子 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」<br>目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。<br>〔目標〕<br>1) 自己の職種について他者に伝えることができる。<br>2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。<br>3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。<br>4) 他職種との連携について関心が持てる。 |
| 授業の概要 | 保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、4学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 1. 科目のオリエンテーション　2. なぜ、いま連携なのか　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア<br>【授業概要】<br>なぜ、いま連携なのか　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：多職種連携やﾁｰﾑケアについてまとめている論文をメデイカルオンライン等を用いて調べ、要点にラインを引いたうえで持参すること。<br>復習：ﾎﾟｰﾄフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第２回 | チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 多職種、連携、チームケア、職種理解<br>【授業概要】<br>チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自己の職種をまとめるうえで必要な文献や資料を準備すること。<br>課題：自己の職種調べシートを提出すること。担当教員からフィードバックを受けた後、完成版をGoogleドライブに提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第３回 | チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、自職種の役割、事例検討<br>【授業概要】<br>チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>今回は、事例の疾患の特徴などをまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>課題：事例の疾患の特徴などをまとめておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90～120分 |
| | 第４回 | チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、グループワーク、自職種の役割、事例検討<br>【授業概要】<br>チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>今回は、事例に対する自己が目指す職種の支援内容をまとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：文献や本等を用いて、事例に対する支援内容を調べておくこと。<br>復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>　　事例に対する支援内容をまとめておくこと。<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第５回 | チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、ディスカッション、自職種の役割、事例検討<br>【授業概要】<br>チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。<br>今回は、学部内において事例に対する自己が目指す職種の支援内容を発表することで、リハビリテーション職種間における情報共有を図る。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：ポートフォリオ作成（講義内容について考察すること）<br>課題：事例に対する支援内容をまとめ担当教員のフィードバックを受けた後、完成版をGoogleスライドに提出すること（提出日は講義内で提示）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第６回 | チームケアにおける多職種の役割、連携についての合同討議【合同演習：前橋キャンパス】<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、<br>【授業概要】<br>チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容や異なる内容を挙げる。チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容を話し合う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：自己の職種に関する発表や事例に対して行う支援内容の発表の準備をすること<br>復習：自己の職種と多職種の共通点や異なる点について整理しておくこと<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第７回 | チームケアにおける多職種の役割、連携についての合同討議・報告会【合同演習：前橋キャンパス】<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア、ディスカッション、発表<br>【授業概要】<br>また、事例（小児・高齢者）に対する各職種の支援内容について、共通する項目を挙げる。その |

| | |
|---|---|
| | 後、連携を行う意義について考え、意見をまとめる。<br>連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：事例に対する支援内容について共通項目をまとめておく。<br>他のグループの発表内容も含め連携の意義について整理しておくこと。<br>ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| | 第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。<br>【key words】<br>多職種、連携、チームケア<br>【授業概要】<br>学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）<br>課題：後日、ポートフォリオを提出すること（期限については授業内で提示する）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60～90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。<br>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。<br>〔受講のルール〕<br>①積極的に取り組む事。<br>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。<br>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード・その他（ポートフォリオ） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 課題に積極的に取り組む。 |
| オフィスアワー | 木曜日の15:30～17:30 |
| 評価方法 | ①グループワークでの取り組み50%　②ポートフォリオ評価50% |
| 教科書 | 資料配布 |
| 参考書 | 1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.<br>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：20R2P1I596

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷忠彦・小林雄斗・平石卓朗 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアを展開するための基礎知識・技術・態度について学び、多職種連携のあり方を修得すること。<br>事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を経験すること。<br>〔到達目標〕<br>1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。<br>2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解できる。<br>3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 |
| 授業の概要 | 保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを抱える対象者が増加しており、保健・医療・福祉・教育の専門職に求められる取り組みも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。本授業では、保健・医療・福祉・教育の専門職が連携を取り合うことの意義・必要性と、多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の医療・福祉系の学部を有する大学としての特色を活かし、4学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　合同演習　(1) 授業オリエンテーション<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>・授業オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景、各職種の役割等に関する講義を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第２回　合同演習　(2) 多専攻グループワーク（事例の情報）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>・グループに分かれ、事例検討を開始する（4専攻の学生によるグループワーク）。<br>・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景、各職種の役割等をグループで学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 専攻別グループワーク（作業療法専攻）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>①作業療法士が提供できる支援について、互いに説明する（小グループ）<br>②作業療法士以外の職種等との連携が必要な支援について話し合い（小グループ）、報告する（全体）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第４回 | 学部別グループワーク（リハビリテーション学部）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>①作業療法士・理学療法士それぞれが提供できる支援について、互いに説明する（小グループ）<br>②作業療法士・理学療法士が連携して提供する支援について話し合い（小グループ）、報告する（全体）<br>③作業療法士・理学療法士以外の職種等との連携が必要な支援について話し合い（小グループ）、報告する（全体）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第５回 | 合同演習　(3) 多専攻グループワーク（各職種の役割）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>各自で事例の情報を整理、問題点を明確化し、各職種の役割についてグループで討議する（4専攻の学生によるグループワーク）<br>発表準備（スライド作成等）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第６回 | 合同演習　(4) 多専攻グループワーク（多職種連携によるチームケア）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>事例に対する、多職種連携によるチームケアについてグループで討議する（4専攻の学生によるグループワーク）<br>発表準備（スライド作成等）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第７回 | 合同演習　(5) 多専攻グループワーク（発表）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>全グループ・全教員が集合し、各グループで討議した内容をグループごとに発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第８回 | 合同演習　(6) 多専攻グループワーク（学習内容の振り返りと自己評価）<br>【key words】<br>チームケア、多職種連携<br>【授業概要】<br>学習内容を振り返り、自己評価を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | |
|---|---|
| | 配布資料(事前に配布)<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>チームケア入門Ⅱ資料集の内容を十分確認した上で参加すること。自分の専門領域で支援できる内容を検討し、地域の社会資源について調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①予習：事前学習の課題を整理し、授業時に活用する。<br>②復習：授業で配布したプリント・資料を整理し内容を確認する。<br><br>【受講のルール】<br>①積極的に授業やグループワークへ取り組むこと。<br>②レポート等の課題は提出期限を厳守すること。<br>③授業で学んだ内容を必ず記載し、表現力を培うこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業に関する質問は、担当教員、グループワーク担当教員へ適宜問い合わせること。<br>学習の進捗状況は、ポートフォリオ（事前に配布されるワークシートを含む）を用いて確認する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 関連文献、新聞等の報道に関心を持ち、情報収集することを期待する。 |
| オフィスアワー | 亀ヶ谷：月曜日の16:00～17:30<br>小林：木曜日の16:00～17:30<br>平石：金曜日の16:00～17:30 |
| 評価方法 | ポートフォリオ評価：100% |
| 教科書 | 資料を配布する。 |
| 参考書 | 1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版, 2008.<br>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>理学療法士・作業療法士として病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業等でチームケアを実践し、大学等の教育機関における多職種連携教育に従事した経験を持つ教員が演習を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 保健医療福祉論　　授業コード： 20R1P1I192

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大竹一男・大竹勤 | | | |
| 保健医療とリハビリテーションの理念 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【福祉分野】<br>[授業の目的・到達目標]<br>多くのリハビリテーションサービスは、社会保障の枠組みの中で展開されことから、スキルを展開する過程における社会保障の主な制度（主に医療保障）を理解する。また、社会保障が国民の生活上の諸事故（病気･ケガ・死亡・出産・死亡等）に対するセーフティーネットであること、とりわけ、生活や人生に困難を抱える人達への福祉の役割について理解する。<br><br>【公衆衛生分野】<br>[授業の目的・到達目標]<br>公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会 |
| 授業の概要 | 【福祉分野】講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。<br>【公衆衛生分野】人々の基本的生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、　自己紹介カード　〔担当：大竹勤〕<br>【key words】<br>授業の進め方　自己紹介<br>【授業概要】<br>授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する<br>コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>自己紹介カードを配付<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| | 第２回 | 障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について）　〔担当：大竹勤〕<br>【key words】 |

障害者の自立　筋ジストロフィー　難病
【授業概要】
障害者の自立　筋ジストロフィー　難病
【教科書ページ・参考文献】
筋ジストロフィーに関する資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　対人援助技術の原則　〔担当：大竹勤〕
【key words】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　コミュニケーションスキルを磨こう　DVD 視聴　〔担当：大竹勤〕
【key words】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク
【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　情報を共有し合意するということ　〔担当：大竹勤〕
【key words】
コンセンサス
【授業概要】
グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ
演習を通して学んだことをレポートにまとめる
【教科書ページ・参考文献】
演習（ゲーム）の資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　リハビリテーションを通しての援助支援について考える　DVD 視聴　〔担当：大竹勤〕
【key words】
スポーツ　リハビリテーション
【授業概要】
ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
感想文を提出していただきます
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　人の一生と社会福祉 事例検討・援助の基本原則　まとめ　〔担当：大竹勤〕
【key words】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護　バイスティックの７原則
【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学ぶ。評価の方法について再度説明
ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習

【教科書ページ・参考文献】
評価試験内容についての詳細を配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近でおきている問題について考えてみよう。レポート試験の準備をしよう。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ　〔担当：大竹一男〕
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第９回　家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第10回　公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第11回　疫学的方法による健康の理解について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第12回　人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第13回　母子保健統計について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第14回　地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第15回　ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ　〔担当：大竹一男〕<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【福祉分野】対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。<br>【公衆衛生分野】配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。<br><br>15回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。<br>演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。 |

| | |
|---|---|
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時に指示する。 |
| オフィスアワー | 授業前後10分～20分程度 |
| 評価方法 | 【福祉分野】筆記試験（レポート試験）80％と授業中に出すレポート課題等の提出物20％により評価する。<br>【公衆衛生分野】講義中の輪読や簡単な口頭試問を行い(10%)、最終筆記試験(90%)で評価する。 |
| 教科書 | 【福祉分野】使用しない<br>【公衆衛生分野】みるみるナーシング最新版 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>□実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法概論Ⅰ　　授業コード：2001P2J193

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>医療分野でのリハビリテーションの理念と現代社会におけるリハビリテーションのニーズを知り、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につける。作業療法の基本的な概念と歴史的な変遷を知り、チーム医療の中での作業療法士の果たすべき役割と期待される姿勢を理解する。また、作業療法が実践される対象や領域を知り、実践過程の一連の流れについて理解する。<br>〔到達目標〕<br>①リハビリテーションと作業療法の基本的な概念と定義を説明することができる。<br>②リハビリテーションと作業療法の歴史的な変遷を説明することができる。<br>③WHO分類におけるICFモデルを理解し、説明することができる。また、各種項目をICFモデルに類別することができる。<br>④作業療法の実践過程を具体的に列挙し、説明することができる。<br>⑤作業療法の倫理基準やEBM・EBOTの重要性を理解し、説明することができる。<br>⑥作業療法の教育体系を理解し、説明することができる。<br>⑦日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟の役割について、説明することができる。<br>⑧作業療法を取り巻く社会情勢と社会保障制度を理解し、説明することができる。 |
| 授業の概要 | 本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、リハビリテーションの理念と概要を知り、専門性の核となる「作業（occupation）」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学習する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／リハビリテーションおよび作業療法の定義・理念・対象領域<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、作業療法、リハビリテーション、定義、業務独占、名称独占、作業療法の対象領域<br>【授業概要】<br>作業療法概論Ⅰの科目の概要を説明する。<br>リハビリテーションおよび作業療法の概念と定義、原理について知り、作業療法士の対象と領域について講義を通して学習していく。<br>授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅰ-1 「作業」の意味<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第2回 | リハビリテーションと作業療法の歴史<br>【key words】<br>リハビリテーションと作業療法の歴史<br>【授業概要】<br>リハビリテーションの歴史と作業療法の歴史を関連づけながら学ぶ。<br>第1回の内容について、小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅰ-2 作業療法の歴史と原理<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内でグループ学習した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第3回 | WHO分類　ICFモデル<br>【key words】<br>WHO分類、国際生活機能分類（ICFモデル）、障害分類（ICIDHモデル）<br>【授業概要】<br>国際生活機能分類（ICF）の概要について講義と演習課題を通して学ぶ。<br>授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅰ-1 作業療法に関連する予備知識<br>②国際生活機能分類（ICF）ー国際障害分類改訂版ー<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第4回 | 作業療法の実践過程<br>【key words】<br>作業療法の実践過程、情報収集、作業療法評価（再評価）、全体像のまとめ、利点・問題点の抽出、目標設定、作業療法実施計画、治療・指導・援助、フォローアップ<br>【授業概要】<br>作業療法の実践過程を学び、作業療法実践の流れを理解する。<br>授業内にて確認テストを行い、知識の整理と復習を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅳ 作業療法の実践過程<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第5回 | 作業療法士に求められる倫理<br>【key words】<br>倫理、職業倫理<br>【授業概要】<br>作業療法士に備えておくべき知識・技術・態度を理解し、作業療法士に求められる職業倫理の重要性について学ぶ。<br>第3～4回の内容について、小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅲ-1 作業療法士に求められる資質と倫理<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第6回 | 作業療法士の養成と教育<br>【key words】<br>作業療法の教育体系、理学療法士及び作業療法士法、養成校教育、卒後教育、生涯教育制度、作業療法士職業倫理、EBM、EBOT<br>【授業概要】<br>作業療法の教育体系について学び、自身が作業療法士となるための課程と資格取得後の教育についても理解する。<br>授業内にて作業療法士職業倫理とEBM・EBOTの概要について説明し、職業倫理とEBM・EBOTについて理解を深める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅲ-2 作業療法士の教育<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第7回 | 日本作業療法士協会・世界作業療法士連盟の役割<br>【key words】<br>日本作業療法士協会、世界作業療法連盟<br>【授業概要】<br>日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟の役割を理解し、職能団体・学術研究団体としての重要性を説明することができる。<br>授業終了後にレポート課題を提示する。レポート課題の内容は授業内で指示する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　Ⅲ-4 日本作業療法士協会とその役割、Ⅲ-5 世界作業療法士連盟とその役割<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第8回 | 社会保障制度と作業療法<br>【key words】<br>作業療法、社会保障制度、診療報酬<br>【授業概要】<br>作業療法に関連する社会保障制度について学び、医療保険、介護保険、診療報酬、介護報酬について理解する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論 Ⅵ-1 社会保障制度の理解<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | |
|---|---|
| | 予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容と確認テストで実施した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について適宜復習を実施すること。<br>・作業療法の実践モデルについて、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・医療福祉制度について、グループワーク（PBL学習）を通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・筆記試験については、授業内で実施する確認テストを主体とするためよく復習をしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験　60%<br>□小テスト　20%<br>□レポート　20%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする。<br>＊ただし、筆記試験60%のうち36%に到達してない場合は、合計の基準を満たしたとしても単位付与の基準に到達していないものとみなす。 |
| 教科書 | ①能登真一　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法学概論　第4版．医学書院<br>②障害者福祉研究会　編：国際生活機能分類（ICF）ー国際障害分類改訂版ー．中央法規 |
| 参考書 | 栢森良二 著：学生のためのリハビリテーション医学概論 第2版．医歯薬出版株式会社．2015<br>吉川ひろみ 著：作業って何だろう 第1版．医歯薬出版株式会社．2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として作業療法を実践した経験や役職者として管理運営に携わった経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法概論Ⅱ　　授業コード：2001P2J194

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林昭博 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法概論Ⅰで学んだ作業療法士として必要な知識や技能について，実際の現場を通してそれらを学ぶ.<br>【到達目標】<br>①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる.<br>②見学を通して作業療法に興味を持ち，その実践過程を見学してくることができる.<br>③実際の臨床現場の見学を通し，作業療法の実践過程，業務内容，対象の特性などをまとめて報告することができる. |
| 授業の概要 | 作業療法士が働いている医療機関（身体障害領域を中心とした病院）での1日間の見学を通して，作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容，作業療法士の対象者などについて学ぶ. |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／臨床実習の目的，見学実習の内容<br>【key words】<br>身体障害領域の作業療法，臨床実習の目的<br><br>【授業概要】<br>臨床実習手引きや教科書を参照しながら，臨床実習の目的や，見学実習の内容を考える．身体障害領域の作業療法業務内容を紹介する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp2,4，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>臨床実習手引き，教科書をよく読んで参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 守秘義務について／個人情報保護／挨拶・自己紹介<br>【key words】<br>守秘義務，個人情報，挨拶<br><br>【授業概要】<br>個人情報，守秘義務個人情報保護の観点から医療職の守秘義務のあり方を考える．またその具体的な方法を説明する．また個人情報保護に留意し，挨拶や自己紹介方法を学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第4回の自己紹介シート記入を想定し，自身の長所・短所，作業療法士を目指した動機等を考えておく.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第3回 | リスク管理（感染症対策など）<br>【key words】<br>リスク管理，健康管理，感染症対策<br><br>【授業概要】<br>医療従事者として必要不可欠な感染症対策について具体的に説明する．大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版．医学書院　スタンダードプリコーションについて学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>感染症対策マニュアルを良く読んで参加すること．自己の抗体検査結果を確認して参加するこ |

と.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第4回　守秘義務，リスク管理に関するまとめ
【key words】
守秘義務，リスク管理，感染症対策

【授業概要】
大野義一朗：感染症対策マニュアル第2版．医学書院の内容を確認しておくこと.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2,3回の内容をよく復習して参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第5回　職業人としての態度・習慣
【key words】
態度的サービス，身だしなみ，コミュニケーション

【授業概要】
職業人としての態度・習慣を身につける（時間を守る，服装や身だしなみに気をつける，他職種ともコミュニケーションが取れるなど）．身だしなみチェックリストを使用して，お互いの身だしなみを確認する.
守秘義務，感染症対策に関する小テストを行い，知識の確認を行う.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp20，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
職業人としての身だしなみを考えて，各自適切と思う服装で参加すること.
小テストの勉強をしてくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分（小テストの勉強含む）／復習180分

第6回　実習記録について①　メモの取り方
【key words】
メモ，承諾，個人情報保護

【授業概要】
メモをとる承諾の方法，メモの取り方，メモの取り扱いについて学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自メモを持参し参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　実習記録について②　デイリーノート
【key words】
デイリーノート，客観的事実，考察

【授業概要】
実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第6回で使用したメモを持参し参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第8回　実習記録について③　デイリーノート
【key words】
デイリーノート，客観的事実，考察

【授業概要】
実習記録の形式や書き方について学ぶ．第6回でメモをした内容をデイリーノートの書き写す練習を行う.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp22-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第6回で使用したメモを持参し参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第9回　実習施設の予備知識の収集
【key words】
実習生の心構え，作業療法士の業務説明

【授業概要】
実習施設の概要に関する情報を，施設パンフレットやホームページ等を参照して収集する．また，実習場所の確認など実習施設の地域での役割や実習施設におけるリハビリテーション関連職種の人数，対象疾患などを調べる.
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp22-24，実習施設環境情報（配布資料）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ホームページ検索できる準備（パソコン，タブレット端末）をして参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】

予習90分／復習90分

第10回　病院見学指導／課題発表の準備

【key words】
実習生の心構え，作業療法士の業務説明

【授業概要】
病院見学へ向けての準備，心構えについて学ぶ．また，作業療法士がどのような専門職であるのかを他者（家族，友人，地域住民，中高生など）に説明することを想定して，資料を作成し発表する準備を行う．各自実習施設への事前連絡．
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp19-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第9回で収集した実習施設に関する資料を整理して参加すること．実習施設に事前連絡する内容をまとめておくこと．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第11回　病院見学

【key words】
実習生の心構え，見学実習，作業療法士の業務説明

【授業概要】
グループに分かれて病院見学を行う．作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて，具体的に（どのような対象者に，どのような場所で，どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする．教科書②p2-41　「第1章　見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと．
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間に余裕をもって行動すること．身だしなみを整えて参加すること．実習中は実習指導者の指導に従うこと．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第12回　病院見学

【key words】
実習生の心構え，見学実習，作業療法士の業務説明

【授業概要】
グループに分かれて病院見学を行う．作業療法士とは実際にどのような仕事をする専門職なのかについて，具体的に（どのような対象者に，どのような場所で，どういった内容が行われているか）学ぶことを目的とする．教科書②p2-41　「第1章　見直そう感染対策の基本」をよく確認しておくこと．
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間に余裕をもって行動すること．身だしなみを整えて参加すること．実習中は実習指導者の指導に従うこと．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第13回　実習記録の作成

【key words】
実習生の心構え，見学実習，デイリーノート

【授業概要】
各自実習施設にお礼状を作成し送付する．見学実習でメモした内容をデイリーノート，実習レポートに記載する．
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp19-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自見学実習で使用したメモを持参し参加すること．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第14回　課題発表準備（グループワーク）

【key words】
見学実習，実習施設の概要，作業療法士の業務説明

【授業概要】
実習施設で得られた情報をグループ内で共有する．課題発表の準備を行う．
【教科書ページ・参考文献】
臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自見学実習で使用したメモ，第13回で作成した資料を持参し参加すること．次回の授業の前日までに発表資料を1部印刷して提出すること．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第15回　課題発表　作業療法士の仕事

【key words】
見学実習，実習施設の概要，作業療法士の業務説明

【授業概要】
資料作成と発表を通して作業療法がどのような専門職なのかを学ぶ．各グループの発表を聞き，施設による作業療法士の業務内容の違いについて意見交換をする．
【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 臨床実習手引きp2,4,19-24，資料は随時指定<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自見学実習で使用したメモ，第13回で作成した資料を持参し参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・発表や見学は出席が前提となるので，体調管理をしっかりすること．〔受講のルール〕<br>・見学先の病院や日時については，決定次第連絡する.<br>・OTSとしての立場をよく理解し，それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること.<br>・実習に不適切な身だしなみや態度で臨む場合は，その場で実習を取りやめさせるため，十分注意すること.<br>・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと.<br>・授業の流れや雰囲気を乱したり，他の受講生の迷惑になる行為（私語，携帯電話の使用）は厳禁.<br>・授業資料の再発行はしない．授業を休んだ場合は，クラスメイトからコピーを取ること. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Googleフォームによる授業アンケート，小テスト |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・実習前にオリエンテーションを行う.<br>・実習の手引きをよく確認しておくこと.<br>・見学前に，見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと.<br>・グループによる発表を行うため，時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること.<br>・学習内容については科目オリエンテーションにて説明する. |
| オフィスアワー | 月曜日16時30分～17時30分は随時．事前相談にて別日に行うことも可能. |
| 評価方法 | □筆記試験60%<br>□発表20%<br>□レポート20% |
| 教科書 | ①二木淑子ら：標準作業療法学　作業療法概論　第3版．医学書院<br>②大野義一朗：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | 吉川ひろみ　著：作業って何だろう　第1版．医歯薬出版株式会社 2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期リハビリテーション病棟，外来（生活期）の病院で作業療法士として務める中で，脳血管疾患患者に対する作業療法を展開してきた実務経験を活かし，作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する.<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎作業学　　授業コード： 2001P2J195

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・小林昭博 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。<br>②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。<br>③作業分析の概要を理解・説明することができる。<br>④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション/作業とは（高坂）<br>【key words】<br>作業、occupation<br><br>【授業概要】<br>・作業療法の仕事に関する動画視聴<br>・作業（療法）の定義<br>・生活の中の作業<br>【教科書ページ・参考文献】<br>吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2－20，2017.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。<br>動画「作業療法との出会い」を観て、次回の授業の前日17:30までに感想文をWebポータル指定スレッドにアップロードすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第2回 | 作業科学の誕生（高坂）<br>【key words】<br>作業の分類、PEOモデル、作業科学<br><br>【授業概要】<br>・作業の分類<br>・作業の意味<br>・作業科学の歴史<br>【教科書ページ・参考文献】<br>吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2－20，2017.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第3回 | 作業の意味①（高坂）<br>【key words】<br>作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学<br><br>【授業概要】<br>・作業と健康との関連性<br>・作業の社会的意味 |

・作業の類型化
・作業と感情
・作業と世界との繋がり
・作業とアイデンティティ
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第4回　作業の意味②（高坂）
【key words】
作業と健康、作業と感情、アイデンティティ、役割、現象学

【授業概要】
・作業と健康との関連性
・作業の社会的意味
・作業の類型化
・作業と感情
・作業と世界との繋がり
・作業とアイデンティティ
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.22-43，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第5回　作業科学の諸概念①（高坂）
【key words】
作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正

【授業概要】
・作業の階層
・人の進化と作業
・occupational-being、occupational rights
・作業的公正、作業的不公正
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第6回　作業科学の諸概念②（高坂）
【key words】
作業の階層、occupational-being、作業的公正・不公正

【授業概要】
・作業の階層
・人の進化と作業
・occupational-being、occupational rights
・作業的公正、作業的不公正
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.46-69，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第7回　多様な文化とひとの作業①（高坂）
【key words】
作業、文化、社会、風習、価値観

【授業概要】
・これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業についてグループで調べる。
・収集した情報に基づいてグループごとに意見交換を行い、発表資料を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
これまで自身が触れたことのない国内外の文化や風習、作業について個人で調べ、資料を持参する。
グループで少なくとも1台ノートPCを持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第8回　多様な文化とひとの作業②（高坂）
【key words】
作業、文化、社会、風習、価値観

【授業概要】
・前回まとめた資料に基づき地域の文化や風習、ひとの作業についてプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

様々な文化や風習、ひとの作業について復習し理解を深めること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第9回　作業科学と作業療法（高坂）

【key words】
健康、作業療法、疾病予防、ヘルスプロモーション

【授業概要】
・作業療法の対象と定義の変遷
・疾病予防とヘルスプロモーション
・作業と健康に関する学術論文の紹介
【教科書ページ・参考文献】
吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.72-99，2017.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第10回　作業療法の中核理論①（高坂）

【key words】
MOHO、CMOP-E

【授業概要】
・作業療法に関わる理論と枠組み
・作業療法からみた評価・治療の視点
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、概要を理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第11回　作業療法の中核理論②（高坂）

【key words】
MOHO、CMOP-E

【授業概要】
・作業療法に関わる理論と枠組み
・作業療法からみた評価・治療の視点
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、概要を理解しておくこと。
授業終了後、1週間以内にワークシートを提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第12回　作業分析とは（小林）

【key words】
作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・包括的作業分析
・限定的作業分析について
・適応と段階づけとは
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【参考】中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第13回　作業分析とは（小林）

【key words】
作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・身体、精神、発達、作業遂行の視点からみた作業分析に関わる理論と分析方法
・作業分析に関わる概念や用語について解説する
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に上記キーワードについて調べ、理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第14回　作業分析について体験する・考える(マクラメ体験)（小林）

【key words】
包括的作業分析、adaptation、grading

【授業概要】
・マクラメの作品を作る・運動、感覚機能、精神、認知機能に及ぼす効果・場の特性について配布資料を参考にしながら、理解する
【教科書ページ・参考文献】
山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 次回までに、「包括的作業分析チェックリスト」の指定部分を仕上げて、持参すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第15回　学んだことの振り返り（高坂・小林）<br>【key words】<br>作業科学、作業、健康、作業分析<br><br>【授業概要】<br>・包括的作業分析チェックリストの確認<br>・第1回から14回までのまとめ<br>・試験範囲の伝達<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，pp.132-159，2017（配布資料）．<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>「包括的作業分析チェックリスト」の提出。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・原則、授業で提示するスライド資料は印刷しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必要に応じて各自でプリントアウトすること。<br>・授業中の必要事項は配布資料やノートなどに、記録しておくこと。<br>・作業療法の基礎となる授業のため、各回のキーワードを中心に予習復習をしっかりすること。<br>・グループワークの進捗状況により若干スケジュールが変更される場合もある。その際は、随時連絡する。<br>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 木曜日15:00～17:30は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □筆記試験　30%<br>□提出課題　10%（「作業療法との出会い」感想文。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）<br>□提出課題　10%（MOHOワークシート。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）<br>□プレゼンテーション資料・発表態度（多様な文化）　30%<br>□チェックリスト　20%　（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。） |
| 教科書 | 吉川ひろみ：「作業」って何だろう，第2版．医歯薬出版株式会社，2017 |
| 参考書 | ①中村隆一他：基礎運動学，第6版．医歯薬出版，2003.<br>②山根寛（著）：ひとと作業・作業活動，新版．三輪書店，2017. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び精神科・高齢期・身体障害領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 基礎作業学実習　　授業コード：2001P2J196

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(45) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小林昭博・悴田敦子 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法の治療で用いられることの多い作業活動の技法を習得し，それらを各種障害に対して治療的に応用していくための実践方法について学習します.<br><br>〔到達目標〕<br>①作業活動の基礎技法を用いて作品を制作できる.<br>②作業活動の特性を治療場面への応用について説明できる.<br>③作業活動を提供するために必要な準備や道具の管理・提供方法を述べることができる.<br>④作業の特徴を理解し、対象者に合わせて作業活動を選択することができる. |
| 授業の概要 | ・作業療法概論や基礎作業療法学で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ.<br>・作業活動を体験し，それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める. |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／木工①<br>【key words】<br>木工，製図<br><br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション．授業目的と各回の授業の進行について説明する.<br>・個人作業。木工（製図）.<br>・集成材を用いた作品の木取り図および完成図を方眼紙に書き出す.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・教科書：pp.52-57<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>製図が終わらなかった者は次回までに提出すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 木工②<br>【key words】<br>木工，製図，木取り，墨付け<br><br>【授業概要】<br>・木工作業で使用する道具およびその使用方法，手順等に関する説明.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・教科書：pp.52-57<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 木工③<br>【key words】<br>木工，製図，木取り，墨付け，切断<br><br>【授業概要】<br>・デザインに基づき，木取り，墨つけ，木材の切断をする.<br>・木工における適応・段階づけの説明.<br>【教科書ページ・参考文献】 |

・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　木工④
【key words】
木工，木取り，墨付け，切断

【授業概要】
・デザインに基づき，木取り，墨つけ，木材の切断をする．
・木工における適応・段階づけの説明．
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　木工⑤
【key words】
木工，加工，仮組，くぎ打ち

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工，組み立て，仕上げを行う．
・木工における適応・段階づけの説明．
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　木工⑥
【key words】
木工，加工，塗装，仕上げ

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工，組み立て，塗装，仕上げを行う．
・木工における適応・段階づけの説明．
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　木工⑦
【key words】
木工，加工，塗装，仕上げ

【授業概要】
・切断し終えた部材の加工，組み立て，塗装，仕上げを行う．
・木工における適応・段階づけの説明．
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
切断作業に入っていくため，木片や木くずを扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．組み立てまで終わらなかった者は次回までに終わらせておく．
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　作業特性の分析（木工）
【key words】

【授業概要】
・完成作品を互いに鑑賞する．
・木工作業における包括的作業分析チェックリストの作成．
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.52-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回，エプロン・ジャージ・タオル持参，陶芸のデザインを考えてくる．次回までに，包括的作業分析チェックリストを作成しておく．
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第９回　陶芸①
【key words】
陶芸，形成，土練り

【授業概要】
・個人作業．陶芸を開始．
・陶芸の進行の概要説明，用いられる道具や技法に関する説明．

【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　陶芸②

【key words】
陶芸，高台作り，装飾，乾燥，素焼き

【授業概要】
・各工程（土練り～形成）での作成方法.
・作成のポイントについての説明、形成作業.
・高台作り，装飾，修正について説明.
・台作り，装飾，修正を行う.
・素焼きをする上での注意点を説明する
・陶芸における適応・段階づけの説明。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン、ジャージ）で参加すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　モザイク①

【key words】

【授業概要】
・モザイクに関する道具・材料・作成方法の説明.
・モザイクの作品をデザインする.
・タイルのカット.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１２回　モザイク②

【key words】

【授業概要】
・デザインに基づき，割ったタイルを接着剤で固定.
・石膏を流し，作品を仕上げる.
・モザイクにおける適応・段階づけの方法について説明.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１３回　陶芸③

【key words】
陶芸，釉掛け，本焼き

【授業概要】
・釉掛けについての説明と釉掛け.
・本焼きについての説明.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
粘土を扱うことを想定した服装（エプロン，ジャージ）で参加すること．修正に使用する布巾を用意すること．素焼きと本焼きの際の温度管理について事前学習しておくこと.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　作業特性の分析（陶芸）

【key words】

【授業概要】
・完成作品を互いに鑑賞する.
・陶芸作業における包括的作業分析チェックリストの作成.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる.
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第１５回　作業特性の分析（モザイク）

【key words】

【授業概要】
・モザイクにおける包括的作業分析チェックリストの作成.
・モザイクにおける適応・段階づけの方法について補足説明.
【教科書ページ・参考文献】

・教科書：pp.116-120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる.
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第１６回　革細工①
【key words】

【授業概要】
・道具，材料，工程，デザイン.
・革細工の道具やその使用方法，材料の説明
・本のデザインを参考にし，作品(ハンコ入れ)のデザインをする.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１７回　革細工②
【key words】

【授業概要】
・本のデザインを参考にし，作品(ハンコ入れ)のデザインをする.
・デザインを元に型紙づくりを行う.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１８回　革細工③
【key words】

【授業概要】
・前回作成したデザインを元にトレーシング，カービング，スタンピング，モデリングを行ってみる.
・作品に染色，穴あけ，金具付け，レーシングを施す.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】参考書として運動学の教科書を持参すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１９回　作業特性の分析（革細工）
【key words】

【授業概要】
・革細工における包括的作業分析チェックリストの作成.
・革細工における適応・段階づけの方法について補足説明.

【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.34-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる.
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第２０回　織物の紹介，エコクラフト①
【key words】

【授業概要】
・織物に用いる道具や織り機(織美絵)の使用方法について.
・エコクラフト，籐細工に用いる道具・手順.
・編み方の説明・クラフトテープの計測とカット.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
・教科書：pp.86-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第２１回　エコクラフト②
【key words】

【授業概要】
・かごの底をねじり編みで編む.
・かごのサイドを素編み，追いかけ編み，よろい編みで編む.
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
・教科書：pp.86-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

予習90分／復習90分

第２２回　エコクラフト③，作業特性の分析（エコクラフト）

【key words】

【授業概要】
・かごの底をねじり編みで編む.
・かごのサイドを素編み，追いかけ編み，よろい編みで編む.
・エコクラフトにおける包括的作業分析チェックリストの作成
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：pp.143-145
・教科書：pp.86-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに包括的作業分析チェックリストを完成させてくる.
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分／復習180分（内包括的作業分析チェックリスト作成180分）

第２３回　授業のまとめ

【key words】

【授業概要】
・これまで授業で行なった種目のまとめ

【教科書ページ・参考文献】
・配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる.<br>・各種作業における作業工程や特性，治療的適応等について予習復習しておく.<br>・作業中は周囲に十分注意を払い，服に汚れが付くこともある（学生ジャージ推奨）.<br>・肩より髪の毛が長い場合はまとめる．アクセサリーは禁止．その他，汚れて困るものはロッカーなどへしまうこと.<br>・毎回掃除を行い，道具の整理・管理を必ず行うこと. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | Webポータルを使用したコメントスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること.<br>・分からない箇所はそのままにせず，次の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく. |
| オフィスアワー | 月曜日16:30～17:30は随時．事前相談にて別日に行うことも可能.<br>※都合により対応できない場合もあります. |
| 評価方法 | 筆記試験（論述・客観）60%，包括的作業分析チェックリスト30%，作品点10%，総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提. |
| 教科書 | 古川宏　監修：つくる・あそぶを治療にいかす　作業活動実習マニュアル　第2版．医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | ①長崎重信　監修：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　作業学（第3版）．メジカルビュー社<br>②中村隆一，他：基礎運動学　第6版．医歯薬出版<br>③山根寛（著）：ひとと作業・作業活動　新版．三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期リハビリテーション病棟，外来（生活期）の病院で作業療法士として務める中で，脳血管疾患患者に対する作業療法を展開してきた実務経験を活かし，作業活動を用いADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する.<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業分析論　　授業コード： 2002P2J197

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>基本動作・ADL・IADLの評価・介入の方法を学ぶ。<br>［到達目標］<br>①基本動作・ADL・IADLの動作を工程に分けることができる。<br>②基本動作・ADL・IADLの評価の視点を理解し、その介助方法、作業療法の介入ポイント・方法を説明することができる。<br>③動作改善のために必要な問題点・改善点を理解し、対象者に合わせた介入方法を考えることができる。 |
| 授業の概要 | 基本動作やADL・IADLを改善・向上するためには、心身機能と動作・活動の関係に留意した評価が必要となり、その後機能の改善・回復または代償動作・手段の検討が必要となります。本講義では基本動作やADL・IADLの動作分析や障害別の評価をもとに、対象者にとって必要な治療・介入について学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／ADLの評価と治療<br>【key words】<br>作業療法の流れ、目標設定、治療理論、活動・参加、<br>【授業概要】<br>ADL評価から治療の流れを確認し、ADL治療理論を機能、活動、学習の視点で学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P15～25, P48～56<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：作業療法の流れについて調べておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 整容動作の評価・支援①<br>【key words】<br>動作分析、整容動作、ICF<br>【授業概要】<br>整容動作の手洗いについて動作分析の例を説明します。その後、グループでその他整容動作について動作分析を行います。整容動作の工程を、大項目から中項目、小項目と分け、それぞれの工程で必要となる機能・活動をICFを使用し書き出します。動作の特徴や各工程で必要となる機能・活動について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題：動作分析のまとめを次回までにグループで完成し、提出する。提出期限・方法については授業内で説明します。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | 整容動作の評価・支援②<br>【key words】<br>動作分析、整容動作、ICF<br>【授業概要】<br>整容動作（洗顔、髭剃り、化粧、整髪、歯磨き）のグループ発表を行います。各動作で必要となる機能・活動について理解し、その治療・支援について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回準備：昼食および飲み物を各自用意すること。箸・スプーン・水筒などの使用道具は、普段使用しているものを準備すること。 |

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　食事動作の評価・支援①

【key words】
動作分析、食事動作、ICF
【授業概要】
食事動作をグループで分析する。食形態や使用道具による上肢の操作性や頭頸部・体幹についても分析する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回までに動作分析のまとめをグループごとに完成し、提出する。提出期限・方法については授業内で説明します。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　食事動作の評価・支援②

【key words】
動作分析、食事動作、ICF、道具、上肢機能、食形態、咀嚼・嚥下機能
【授業概要】
動作分析の結果のグループ発表を行います。食形態や使用道具による上肢の操作性や頭頸部・体幹についてまとめ、その治療・支援についても学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備：前開きの上衣（シャツ・パーカー・ジャンバー等）、かぶりの上衣（Tシャツ、トレーナー等）、ジャージの下衣（脱げるように重ね履き）を着用し、受講してください。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　更衣動作の評価・支援①

【key words】
動作分析、ICF、更衣動作、上衣、下衣

【授業概要】
更衣動作をグループで分析します。上衣・下衣の動作の特徴や衣服の形状による動作の違いについて分析します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回までに動作分析のまとめをグループごとに完成し、提出する。提出期限・方法については授業内で説明します。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　更衣動作の評価・支援②

【key words】
動作分析、ICF、更衣動作、上衣、下衣、衣服の形状、素材
【授業概要】
更衣動作のグループ発表を行います。上衣・下衣の着脱動作、衣服の形状や素材・サイズによる動作の違いについてまとめます。またその治療・支援について学びます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　入浴動作の評価・支援

【key words】
動作分析、ICF、入浴動作、福祉用具
【授業概要】
入浴動作の動作分析を行います。手すりやシャワーチェアなどの福祉用具の紹介やその利用について説明します。2グループに分け、別の日程で講義を行う場合があります。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　IADLの評価・支援

【key words】
IADL、買い物、掃除、洗濯、調理
【授業概要】
IADLの代表的な活動をグループで分析します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回までに動作分析のまとめをグループごとに完成し、提出する。提出期限・方法については授業内で説明します
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　基本動作（寝返り・起き上がり動作）の評価・支援①

【key words】
寝返り、起き上がり、工程分析、心身機能・身体構造、活動、参加
【授業概要】
寝返り動作の動作分析を行います。グループにて代表者の寝返り・起き上がり動作を工程に分け、各工程を説明します。2グループに分け、別の日程で行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　基本動作（寝返り・起き上がり動作）の評価・支援②<br>【key words】<br>心身機能・身体構造、活動、参加、筋緊張、介助<br>【授業概要】<br>脳血管障害の寝返り・起き上がり動作の動作分析を行います。疾患の特性を踏まえた指導・支援の方法を学びます。感染症対策として2グループに分け講義を行う場合があります。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　基本動作（立ち上がり・移乗動作）の評価・支援①<br>【key words】<br>立ち上がり、移乗、工程分析、心身機能・身体構造、活動<br>【授業概要】<br>立ち上がり・移乗動作の動作分析を行います。グループにて代表者の立ち上がり・移乗動作を工程に分け、各工程を説明します。<br>グループに1台の車椅子を準備する。<br>感染症対策として2グループに分け講義を行う場合があります。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　基本動作（立ち上がり・移乗動作）の評価・支援②<br>【key words】<br>立ち上がり、移乗、工程分析、心身機能・身体構造、活動、介助<br><br>【授業概要】<br>脳血管障害の立ち上がり・移乗動作の動作分析を行います。疾患の特性を踏まえた指導・支援の方法を学びます。2グループに分け、別日程で行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　移動動作（車椅子）<br>【key words】<br>車椅子、駆動動作<br>【授業概要】<br>車椅子の種類やその特徴を説明します。また、駆動動作および操作について動作分析を行います。その治療・支援についても学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　移動動作（杖歩行）<br>【key words】<br>歩行補助具、歩行分析<br>【授業概要】<br>各種歩行補助具を使用した動作分析を行います。片麻痺の特徴とその治療・支援についても学びます。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：正常歩行の歩行周期について調べ、まとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実技を行う講義の際には、大学指定のジャージの着用、身だしなみに留意し受講すること。また、メモの際使用するクリップボートを用意することをお勧めします。<br>動画を撮ることがあるため、スマホ・デジカメ・タブレット等の機器を用意してください。<br>ADL室を使用する際は、2班に分け実施するため、時間割と異なった日程になることがあります。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 動作分析のまとめをグループまたは個人で作成する。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 筆記60％　発表・提出物40％ |
| 教科書 | 濱口豊太編：標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学　第2版．医学書院，2022.<br>WHO：ICF　国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－．中央法規，2008. |
| 参考書 | 伊藤利之，江藤文夫編：新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際．医歯薬出版，2011.<br>畠中康彦：PT・OTビジュアルテキスト　姿勢・動作・歩行分析（第１版）．羊土社，2021<br>隈元庸夫：症例動作分析　動画から学ぶ姿勢と動作．ヒューマンプレス，2017 |
| 実務者経験/アク | |

| | |
|---|---|
| ティブラーニング/<br>リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等にて身体障害領域、老年期障害領域の作業療法士として勤務。現在、群馬県吾妻郡、埼玉県本庄市の地域支援に関わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 研究法　　授業コード： 20R3P2J198

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 村山明彦・山口智晴 | | | |
| 基礎作業療法学/基礎理学療法学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>理学療法・作業療法関連研究の基本的な考え方、研究倫理を学び、それらを他者に説明できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①理学療法・作業療法関連研究の意義と意味を説明できる。<br>②研究デザインの基本的な考え方を説明できる。<br>③研究倫理について説明できる。 |
| 授業の概要 | 理学療法士・作業療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。この授業では、研究の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力などを身につけることを目的とする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション～なぜ研究をするのか？～<br>【key words】<br>科学的根拠に基づく理学療法・作業療法<br>【授業概要】<br>理学療法・作業療法関連研究に必要なポイントを理解する。<br>日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル<br>http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/<br>日本作業療法士協会　学術・研究<br>https://www.jaot.or.jp/academic_committee/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと） |
| | 第２回 | 作業療法分野における研究の意義と目的<br>【key words】<br>作業療法研究<br>【授業概要】<br>作業療法分野における研究の意義と目的を理解する。また、具体的な実践から　その意義を学ぶ。<br>日本作業療法士協会　学術・研究 |

https://www.jaot.or.jp/academic_committee/
上記のURLを参考にして予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第３回　理学療法分野における研究の意義と目的
【key words】
理学療法研究
【授業概要】
理学療法分野における研究の意義と目的を理解する。
日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル
http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/
上記のURLを参考にして予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第４回　研究デザインの種類
【key words】
研究デザイン
【授業概要】
研究デザインの種類を理解する。
日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル
http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/
日本作業療法士協会　学術・研究
https://www.jaot.or.jp/academic_committee/
上記のURLを参考にして予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第５回　研究に必要な基礎知識
【key words】
研究に必要な基礎知識
【授業概要】
研究に必要な基礎知識について理解する。
日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル
http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/
日本作業療法士協会　学術・研究
https://www.jaot.or.jp/academic_committee/
上記のURLを参考にして予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第６回　臨床研究の進め方①
【key words】
臨床研究の進め方
【授業概要】
臨床研究の進め方について理解する。
グループワーク
授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。
学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。
日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル
http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/
日本作業療法士協会　学術・研究
https://www.jaot.or.jp/academic_committee/
上記のURLを参考にして予習しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第７回　臨床研究の進め方②
【key words】
臨床研究の進め方

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>臨床研究の進め方について理解する。<br>グループワーク<br>授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。<br>学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。<br>日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル<br>http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/<br>日本作業療法士協会　学術・研究<br>https://www.jaot.or.jp/academic_committee/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分<br>第８回　研究倫理と授業のまとめ<br>【key words】<br>研究倫理<br>【授業概要】<br>研究倫理について理解を深める。<br>文部科学省ライフサイエンスの広場　生命倫理・安全に対する取組<br>https://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/seimeikagaku_igaku.html<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。<br>予習や課題の実施を前提に講義を進める。<br>本科目の理解が滞ると、卒業研究の進捗にも影響を及ぼす可能性がある。<br>この点を踏まえて、授業に臨んでほしい。 |
| オフィスアワー | 山口：水曜日16:30～17:30　その他は随時、応相談（できれば事前にアポイントお願いします）<br>村山：火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） |
| 評価方法 | レポート60%、授業内で提示した課題（8回）40% |
| 教科書 | 山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社 |
| 参考書 | 山田　実／編，浅井　剛，土井剛彦／編集協力：メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法「目的」と「データの種類」で簡単検索！適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる．羊土社<br>白戸亮吉，鈴木研太：ていねいな保健統計学．羊土社<br>対馬栄輝　編著：最新理学療法学講座　理学療法研究法．医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>山口：日本OT協会制度対策部認知症班長、群馬県OT会副会長、前橋市認知症初期集中支援チームリーダー、NPO法人ノーサイド理事、認定NPO法人じゃんけんぽん理事、群馬県自立支援型ケアマネジメント推進事業アドバイザー、岐阜県認知症初期集中支援事業アドバイザーなど、職能運営と地域リハ実践の経験。県内外各地の行政・各職能団体の教育講座の講師を務める。<br><br>村山：日本転倒予防学会誌（編集委員・査読者）、理学療法群馬（編集委員長・査読者）、理学療法教育（査読委員）、地域理学療法学、Journal of Clinical Medicine、International Journal of Environmental Research and Public Health、Sustainability、Healthcare、Nursing Open、Geriatric Nursing、Journal of physical therapy scienceなどの査読も担当している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク |

| | |
|---|---|
| | □アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 研究法演習　　授業コード： 20R3P2J199

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 村山明彦・亀ヶ谷忠彦 | | | |
| 基礎作業療法学/基礎理学療法学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>理学療法・作業療法関連のガイドラインの考え方（活用の仕方）、および統計解析の基礎を学び、それらを他者に説明できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①理学療法・作業療法関連のガイドラインの基本的な考え方を説明できる。<br>②文献検索の方法（和文・英文）について説明できる。<br>③統計解析の基礎を説明できる。 |
| 授業の概要 | 理学療法士・作業療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。研究法演習では、理学療法・作業療法関連のガイドラインの考え方（活用の仕方）、および統計解析の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、統計解析能力などを身につけることを目的とする。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション～研究法演習で学ぶこと～<br>【key words】<br>科学的根拠に基づく理学療法、科学的根拠に基づく作業療法<br>【授業概要】<br>理学療法学（巻号一覧）<br>https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rigaku/list/-char/ja<br>作業療法（巻号一覧）<br>https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jotr/list/-char/ja<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと） |
| | 第２回 | 文献（和文・英文）を効率よく検索する<br>【key words】<br>文献レビュー<br>【授業概要】<br>文献（和文・英文）を効率よく検索するために必要なポイントを理解する。<br>Minds（マインズ）ガイドラインライブラリー<br>https://minds.jcqhc.or.jp/ |

| | | |
|---|---|---|
| | | 群馬医療福祉大学図書館<br>http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第３回 | 理学療法ガイドラインの意義と目的<br>【key words】<br>理学療法ガイドライン<br>【授業概要】<br>理学療法分野におけるガイドラインの意義と目的を理解する。<br>日本理学療法士協会　理学療法ガイドライン<br>http://jspt.japanpt.or.jp/guideline/<br>Minds（マインズ）ガイドラインライブラリー<br>https://minds.jcqhc.or.jp/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>日本理学療法士協会　理学療法ガイドライン　http://jspt.japanpt.or.jp/guideline/<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第４回 | 作業療法ガイドラインの意義と目的<br>【key words】<br>作業療法ガイドライン<br>【授業概要】<br>研究デザインの種類を理解する。<br>日本作業療法士協会　学術・研究<br>https://www.jaot.or.jp/academic_committee/<br>Minds（マインズ）ガイドラインライブラリー<br>https://minds.jcqhc.or.jp/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>日本作業療法士協会　作業療法ガイドライン　https://www.jaot.or.jp/academic_committee/<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第５回 | 統計解析の基礎①～記述統計～<br>【key words】<br>記述統計、平均、中央値<br>【授業概要】<br>記述統計を学び、統計系解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第６回 | 統計解析の基礎②～パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定～<br>【key words】<br>パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定<br>【授業概要】<br>パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定の基礎を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第７回 | 統計解析の基礎③～対応のあるt検定、ウィルコクソンの符号付順位検定～<br>【key words】<br>対応のあるt検定、ウィルコクソンの符号付順位検定<br>【授業概要】<br>対応のあるt検定、ウィルコクソンの符号付順位検定を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第８回 | 統計解析の基礎④～対応のないt検定、マンホイットニーのU検定～<br>【key words】<br>対応のないt検定、マンホイットニーのU検定<br>【授業概要】<br>対応のないt検定、マンホイットニーのU検定を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第９回 | 統計解析の基礎⑤～分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定～<br>【key words】<br>分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定<br>【授業概要】<br>分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第１０回 | 統計解析の基礎⑥～カイ二乗検定、フィッシャーの正確確率検定～<br>【key words】<br>カイ二乗検定、フィッシャーの正確確率検定<br>【授業概要】<br>カイ二乗検定、フィッシャーの正確確率検定を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第１１回 | 統計解析の基礎⑦～ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数～<br>【key words】<br>ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数<br>【授業概要】<br>ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |
| | 第１２回 | 統計解析の基礎⑧～重回帰分析、ロジスティック回帰分析～<br>【key words】<br>重回帰分析、ロジスティック回帰分析<br>【授業概要】<br>重回帰分析、ロジスティック回帰分析を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分 |

| | |
|---|---|
| | 第１３回　統計解析の基礎⑨～感度、特異度、カットオフ値～<br>【key words】<br>感度、特異度、カットオフ値<br>【授業概要】<br>感度、特異度、カットオフ値を学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>石川朗，種村留美　総編集　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分<br>第１４回　統計解析の基礎⑩～システマティックレビュー、メタアナリシス～<br>【key words】<br>システマティックレビュー、メタアナリシス<br>【授業概要】<br>システマティックレビュー、メタアナリシスを学び、統計解析に必要なポイントを理解する。<br>統計WEB<br>https://bellcurve.jp/statistics/<br>上記のURLを参考にして予習しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分・復習60分<br>第１５回　まとめ～学会抄録・投稿論文の査読者の視点から～<br>【key words】<br>研究計画、研究倫理審査<br>【授業概要】<br>研究計画書と研究倫理審査申請書の作成の概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。<br>1～14回目までの内容を復習し、自らの卒業研究計画（案）に反映できるように準備しておくこと。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習120分・復習60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。<br>予習や課題の実施を前提に講義を進める。<br>本科目で取り扱う内容は、理学療法士・作業療法士国家試験において出題頻度が高くなっている。<br>また、本科目の理解が滞ると、卒業研究の進捗にも影響を及ぼす可能性がある。<br>この点を踏まえて、授業に臨んでほしい。 |
| オフィスアワー | 村山：火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）<br>亀ヶ谷：月曜日16時30分～17時30分 |
| 評価方法 | 授業内で提示した課題（15回）30％、定期試験70％ |
| 教科書 | 山田実　編著，土井剛彦，浅井剛　著：PT・OTのための臨床研究はじめの一歩～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社<br>石川朗，種村留美　総編集　対馬栄輝，木村雅彦　責任編集：15レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学．中山書店 |
| 参考書 | 山田　実／編，浅井　剛，土井剛彦／編集協力：メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法「目的」と「データの種類」で簡単検索！適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる．羊土社<br>白戸亮吉，鈴木研太：ていねいな保健統計学．羊土社<br>対馬栄輝　編著：最新理学療法学講座　理学療法研究法．医歯薬出版株式会社 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>村山：日本転倒予防学会誌（編集委員・査読者）、理学療法群馬（編集委員長・査読者）、理学療法教育（査読委員）、地域理学療法学、Journal of Clinical Medicine、International Journal of Environmental Research and Public Health、Sustainability、Healthcare、Nursing Open、Geriatric Nursing、Journal of physical therapy scienceなどの査読も担当し |

| | |
|---|---|
| | ている。<br>亀ヶ谷：車椅子シーティング研究編集委員長、一般社団法人日本褥瘡学会学会誌編集委員。国内外の学術誌で査読を担当している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法研究計画演習　　授業コード： 2003P2J200

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・OT教員全員 | | | |
| 基礎作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>研究計画の立案に向けた議論と演習を重ね、研究計画立案に対する理解を深めるとともに、卒業研究に向けた研究計画立案の手がかりとなることを目的とする。<br><br>【到達目標】<br>・論文の分類を理解し適切に論文を検索することができる。<br>・批判的な視点も含めて適切に論文を読むことができるようになる。<br>・自分の意見を理論的に発言できるようになる。<br>・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。<br>・研究計画立案に必要な手順や方法を理解する。 |
| 授業の概要 | 卒業研究担当教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。また、ディスカッションした内容をもとに、研究計画を立案し、倫理審査を申請する。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、文献検索の方法について、学術論文の分類について<br>【key words】<br>文献検索，文献データベース、原著論文と総説論文<br><br>【授業概要】<br>オリエンテーション今後の授業の進め方について説明する。<br>特に、医学中央雑誌、CiNii Articles、J-STAGE、Google Scholar、PubMedなどについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各自で文献を調べる<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 文献の読み方、検索の仕方、発表に向けた準備<br>【key words】<br>批判的吟味、文献抄読<br>【授業概要】<br>文献検索の基本的な方法やマナー、論文の分類について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料プレゼン準備<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 原著論文の抄読と理解、発表①<br>【key words】<br>プレゼンテーション<br><br>【授業概要】<br>各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。 |

【教科書ページ・参考文献】
各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッションから得た学びをまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分（発表者は＋120分）

第４回　原著論文の抄読と理解、発表②
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッションから得た学びをまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分（発表者は＋120分）

第５回　原著論文の抄読と理解、発表③
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
各自資料準備（文献）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッションから得た学びをまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分（発表者は＋120分）

第６回　原著論文の抄読と理解、発表④
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
各自資料準備（文献）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッションから得た学びをまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分（発表者は＋120分）

第７回　原著論文の抄読と理解、発表⑤
【key words】
批判的文献レビュー，文献要約，ディスカッション

【授業概要】
各自が興味を持った文献について、研究の目的や方法、結果、考察などの概要を分かりやすくプレゼンテーションする。また、単にその論文を報告するに留まらず、多面的視点で自分の考えについても言及し、最終的にはそれを元にしたディスカッションとなるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
各自資料準備（文献）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ディスカッションから得た学びをまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分（発表者は＋120分）

第８回　研究計画実践①
【key words】
研究疑問の設定
【授業概要】
研究疑問をフォーカスしていく方法について学ぶ。
研究初心者にありがちな研究疑問について議論。
また、最低限の研究倫理的配慮や個人情報保護などの事項を学ぶ。また、剽窃や捏造など科学論文に携わる者としての基本的立場を改めて理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
復習90分

第９回　研究計画実践②
【key words】
先行研究、論文の構成
【授業概要】
タイトル、要旨、はじめに(背景)、方法、結果、考察、文献といった論文の基本的公正を再度理解するとともに、各項目で起債するべき事項やその注意点を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習90分<br>第１０回　研究計画実践③<br>【key words】<br>研究発表<br>【授業概要】<br>研究発表に向けた基本的な事項を学ぶ<br>また研究発表を行うことの意義を改めて理解する<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習90分<br>第１１回　研究活動に向けた具体的な分野の検討<br>【key words】<br>ゼミ<br>【授業概要】<br>各自が研究を進めていきたいと考えている分野を明確にするための　ディスカッションと計画建てを行う<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分（発表者は＋120分）<br>第１２回　卒業研究発表について①<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>具体的な卒業研究発表の聴講から理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習90分<br>第１３回　卒業研究発表について②<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>具体的な卒業研究発表の聴講から理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各学生の準備資料を用いる各自で発表の準備をするとともに、議論の記録をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習90分<br>第１４回　卒業研究発表について③<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>具体的な卒業研究発表の聴講から理解を深める<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>学生作成資料各自で発表の準備をすること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習90分<br>第１５回　科目のまとめ<br>【key words】<br>まとめ<br>【授業概要】<br>本科目のまとめを行う<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>本科目で学んだことをまとめるこれまでまとめた学習成果を提出<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>演習科目であるため、積極的･主体的な参加が望まれる<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカードなどで随時対応 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。 |

| | |
|---|---|
| オフィスアワー | 水曜日16～17時の外にも随時対応（可能であれば事前予約が望ましい） |
| 評価方法 | 各ワークへの取り組み50%、発表50% |
| 教科書 | 特になし。配布資料あり。 |
| 参考書 | 鎌倉矩子ほか　著　『作業療法士のための研究法入門』　三輪書店　第1版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>日本作業療法士協会　制度対策部認知症班長、<br>群馬県作業療法士会　副会長、<br>群馬県　自立支援型ケアマネジメント推進事業アドバイザー、<br>群馬県　オレンジチューター、<br>前橋市　認知症初期集中支援チーム　リーダー<br>認定NPO法人じゃんけんぽん・NPO法人ノーサイドの理事など<br>養成校教員の傍らで職能団体の活動や地域リハの推進に向けた貢献等をしている<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>文献データベースを活用 |

講義科目名称： リハビリテーション管理学　　授業コード： 20R3P2K201

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 小島俊文・亀ヶ谷忠彦・牛込祐樹・榊原清 | | | |
| 作業療法管理学/理学療法管理学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>将来、リハビリテーション部門の管理者として活躍できるようになるため、組織・チームの在り方や目的を理解する。また、そこで必要となる業務管理、教育システム、キャリアデザイン、地域マネジメントなどの基本的な管理運営について学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>・リハビリテーション部門の位置づけや組織・チームの管理者としての役割を説明できる。<br>・リハビリテーション部門の管理者として、必要となる業務管理について説明できる。<br>・医療専門職として必須となる継続教育・生涯教育について、その重要性と方法、具体的な教育システムについて説明できる。<br>・理学療法士・作業療法士の地域の中での役割を理解し、地域の課題を解決するためのマネジメントについて説明できる。<br>・理学療法士・作業療法士のキャリア・デザインを理解し、マネジメントの在り方を説明できる。<br>・リハビリテーション部門の管理者として、求められる課題を発見し、解決策を考える姿勢を身につける。 |
| 授業の概要 | 理学療法士・作業療法士が一人で行えることには限界があり、組織およびチームの一員として役割を果たし、活動していくことが求められる。組織やチームの能力を最大限に発揮させるためには、具体的な管理・教育について系統的に学び、実践していくことが大切である。将来、リハビリテーション部門の管理者として活躍できるようになるだけではなく、さまざまなキャリア・デザインの在り方について学ぶ。<br>科目内では、業務管理、教育システム、地域マネジメント、キャリア・デザインなどについて学ぶとともに、PBL学習を通して、課題を解決する力をつけるだけでなく、課題を発見する力も養っていく。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／リハビリテーションにおける管理運営とは／業務管理について①<br>【key words】<br>管理運営、マネジメント、リーダーシップ、フォロワーシップ、<br>収益管理、施設・設備管理、リスク管理、労務管理、労働衛生管理、書類管理、書類管理、人員管理<br>【授業概要】<br>講義担当：牛込<br>科目の概要について実施する。<br>リハビリテーションにおける管理運営、マネジメントの基本について学ぶ。また、組織・チームの運営で必要となるリーダーシップ・フォロワーシップについて学ぶ。 |

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。
復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第2回　業務管理について②／診療記録の記載方法
【key words】
収益管理、施設・設備管理、リスク管理、労務管理、労働衛生管理、書類管理、書類管理、人員管理、
問題指向型システム（POS）／問題指向型診療記録（POMR）／SOAP
【授業概要】
講義担当：牛込
リハビリテーションの組織運営のために必要となる業務管理について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。
復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第3回　リハビリテーションにおける教育システム①
【key words】
教育、教育システム、医療プロフェッショナリズム概念、Kolbの学習サイクル、ティーチング、コーチング
【授業概要】
講義担当：榊原
医療専門職として必須となる継続教育・生涯教育について、その必要性や教育システムについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。
復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第4回　リハビリテーションにおける教育システム②
【key words】
OJT、off-JT、プリセプター制度、クリニカルラダー、臨床実習指導、CCS
【授業概要】
講義担当：榊原
医療専門職として必須となる継続教育・生涯教育について、その必要性や教育システムについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。
復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第5回　地域におけるリハビリテーション職種の役割とマネジメント①
【key words】
通所介護施設、デイサービス、管理経営
【授業概要】
講義担当：小島
実際に桐生市で運営されているデイサービスにおける、セラピストの関りと役割について知る。
さらにデイサービスの立ち上げから運営まで実際の経営者からお話を伺い、経営者としての可能性を考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。
復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習150分

第6回　地域におけるリハビリテーション職種の役割とマネジメント②
【key words】
通所介護施設、デイサービス、管理経営
【授業概要】
講義担当：小島

講義担当：小島
実際に桐生市で運営されているデイサービスにおける、セラピストの関りと役割について知る。
さらにデイサービスの立ち上げから運営まで実際の経営者からお話を伺い、経営者としての可能性を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習内容については、講義担当者から適宜指示する。

| | | |
|---|---|---|
| | | 復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第7回 | リハビリテーション職種のキャリア・デザイン①<br>【key words】<br>キャリア・デザイン、内的・外的キャリア、キャリア垂直方向展開・水平方向展開、ジェネラリスト、スペシャリスト<br>【授業概要】<br>講義担当：亀ヶ谷<br>リハビリテーション職種として業務経験を積むことで得られるさまざまなキャリアについて理解し、キャリア・デザインや必要となる経験、報酬等について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習内容があれば、講義担当者から適宜指示する。<br>復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第8回 | リハビリテーション職種のキャリア・デザイン②<br>【key words】<br>リハビリテーション職種のロールモデル、リハビリテーション職種の報酬<br>【授業概要】<br>講義担当：亀ヶ谷<br>リハビリテーション職種として業務経験を積むことで得られるさまざまなキャリアについて理解し、キャリア・デザインや必要となる経験、報酬等について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習内容については、講義担当者から適宜指示する。<br>復習として、授業内で学習した内容について確認をしておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| | 第9回 | PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討①<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、個人学習<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>PBL学習を実施する。SWOT分析について説明する。提示された施設情報について、SWOT分析を用いて課題分析を行う。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>SWOT分析の内容をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第10回 | PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討②<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、学習目標の決定<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>PBL学習を実施する。提示された施設情報について、SWOT分析を用いて課題分析を行う。問題点・疑問点・学習すべき点の抽出を行い、学習目標を決定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>SWOT分析と学習目標の内容をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第11回 | PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討③<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、個人学習<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>グループで決定された学習目標について個人学習を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習では個人学習の内容をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第12回 | PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討④<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、個人学習、グループ学習<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>PBL学習を実施する。個人学習内容を集約し、グループで学習内容を共有する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | |
|---|---|
| | 予習では、個人学習した内容をグループで共有できる準備をしておく。<br>復習では、グループで共有した内容をまとめる。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分<br>第13回　PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討⑤<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、グループ学習<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>PBL学習を実施する。グループで共有された学習内容を取りまとめ、プレゼンテーションの準備を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループ学習について内容をまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分<br>第14回　PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討⑥<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、グループ学習<br>【授業概要】<br>講義担当：全員（主担当：牛込）<br>PBL学習を実施する。グループで共有された学習内容を取りまとめ、プレゼンテーションの準備を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループ学習について内容をまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分<br>第15回　PBL学習：SWOT分析を用いての課題分析　施設の課題発見と解決策の検討⑦<br>【key words】<br>PBL学習、SWOT分析、プレゼンテーション<br>【授業概要】<br>講義担当：全員<br>グループ学習の内容をプレゼンテーションとして発表する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし　授業資料については、講義担当者より適宜指示する<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習ではプレゼンテーション資料の確認を行い、復習では発表された内容の振り返りとまとめを行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・グループワークを行う際には、グループの一員として役割を果たすために積極的に参加し、他者の意見も尊重する姿勢を大切にする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 複数名の教員がオムニバス形式で講義を行うため、コメントカード等の利用は、各教員より指示する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について適宜復習を実施すること。<br>・医療福祉制度について、グループワーク（PBL学習）を通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・筆記試験については、授業内で実施する確認テストを主体とするためよく復習をしておくこと。 |
| オフィスアワー | 複数名の教員がオムニバス形式で講義を行うため、オフィスアワーについては、各教員より指示する。 |
| 評価方法 | □筆記試験　40%<br>□グループワーク　PBL学習:施設の課題発見と解決策の検討　60%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする（ただし、各項目単独でも60%以上であること）。 |
| 教科書 | 指定なし<br>授業資料については、各教員より指示する。 |
| 参考書 | ・金谷さとみ,高橋仁美　編：リハビリテーション管理・運営　実践ガイドブック　第1版. メジカルビュー社<br>・大町かおり，高木綾一 編：リハビリテーション職種のキャリア・デザイン 第1版. シービーアール<br>・高木綾一 著：リハビリテーション職種のマネジメント 第1版. シービーアール<br>・澤田辰徳:作業で結ぶマネジメント 第1版.医学書院 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容 |

| | |
|---|---|
| | 担当する教員は、臨床での十分な経験を有する。<br>担当教員の中には、臨床にて役職者として管理・運営業務に携わった経験を有する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 評価学概論　　授業コード： 2001P2L202

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法における評価の意味を理解し、様々な対象者に作業療法評価を実践するための基本的知識と技能が修得できる。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法過程における評価の意味を説明できる。<br>②作業療法における評価の目的と主眼について理解する。<br>③作業療法における評価の手順について理解する。<br>④作業療法における評価を構成する、観察・面接・検査・測定について理解する。<br>⑤作業療法における観察やそのための環境設定の重要性を学ぶ。<br>⑥面接の各手法とメリットデメリットが説明できる。<br>⑦再評価と作業療法の効果判定における意義を説明できる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、作業療法の過程における評価の意味を理解し、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶととに、各領域ごとで学ぶ各評価指標の基本となる力を修得することが目的となる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。<br>【key words】<br>オリエンテーション、作業療法、評価<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーション<br>作業療法における評価について理解するために、まず、医療行為における評価の重要性について学ぶ。そして、作業療法を実施するうえでのエビデンスとその重要性を理解する。また、評価の意味assessmentとevaluationの違いから解釈というプロセスを理解する。<br>また、医師が行う「診断」との違いから、 作業療法士が必要とする情報の視点について学ぶ。<br>その後、ICFの用語や人の作業を評価する視点などについて学ぶ。<br>【予習】<br>１．教科書①を事前に熟読し、分からない単語など調べた事柄等をノートに記載。<br>２．「診断」という言葉について国語辞書で調べたことをノートに記載。また、インターネットでどのように記載されているかを調べる。必要に応じて調べてプリントアウトしノートに貼付。<br>（ウィキペディアなどのインターネットの情報は文献として引用するには不適切だが、情報の信頼性を精査した上で閲覧するには便利である）<br>教科書は①と②を持参する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書①作業療法評価学のP.3～7,<br>指定教科書②ICFのP.3～23<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>復習：講義内容の振り返り。　次回1回目小テストの準備。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 作業療法過程と評価について①<br>【key words】<br>作業療法過程、第1回小テスト<br>【授業概要】<br>第1回目小テストの実施（第1回講義内容）<br>作業療法過程における評価の位置づけやその意味合いについて理解するため、作業療法の実践課程について改めて学び、情報収集・面接・観察についての概要と意味について理解する。また、作業療法における評価の目的と主眼について理解する。 |

【予習】
指定教科書①P7(B)作業療法の過程から　P13(D)評価の目的と主眼（P15(E)評価の手順の前）までを事前に熟読し、分からない項目について、ノートに記載をしておく。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.7～15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
１．講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。
２．「なぜ再評価をするのか？」について講義を踏まえてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
150分

第３回　作業療法過程と評価について②
【key words】
評価の手順と手段、評価計画、信頼性、妥当性、尺度、感度･特異度、カットオフ値、クリニカルリーズニング
【授業概要】
評価の手順と評価の手段について学ぶ。特に評価の尺度や信頼性妥当性などについて理解することで、評価結果の解釈ができるようになる。また、得られた評価結果を基に、治療目標の設定や治療計画の立案に至るまでのプロセスを理解する。
【予習】
指定教科書①のP15(E)の評価の手順からP22までを事前に熟読し、
１．分からない項目やキーワードについて、ノートに記載をしておく。
２．「信頼性と妥当性」「感度と特異度」について各自で調べる（インターネットで信頼できるサイトの情報を参考にすると分かり易い）
３．余力があれば、メディカルオンラインにて「感度　特異度　作業療法」のキーワードで文献検索をする
【復習】
１．講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。
２．「感度と特異度」「信頼性と妥当性」「名義･順序･感覚･比例尺度」について、もう一度　講義を踏まえて自分なりに分かり易くノートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.15～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　再評価と作業療法の効果判定
【key words】
効果判定、再評価、記録・報告
【授業概要】
前回授業の復習を行う。「信頼性と妥当性」「感度と特異度」「名義･順序･感覚･比例尺度」について
作業療法における効果判定はどのように行うべきか。作業療法の再評価と効果判定についてその考え方を学び、作業療法における再評価の意味や適切なアウトカム指標について理解する。
また、作業療法における、記録・報告の意義についても学ぶ
【予習】
１．前回授業の「信頼性と妥当性」「感度と特異度」について　他人に分かり易く説明出来るように理解を深めて、まとめをしておく。白紙とペンを準備する（実際にその場に図を書いて、他者に説明をする）
２．教科書指定頁を読み「なぜ、再評価が必要なのか？」「なぜ、作業療法の効果は示しにくいのか？」「なぜ、記録が重要なのか？」の3つの問いについて自分なりの答えをノートに記載し、講義に臨むこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.23～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
講義で触れたキーワードについてノートにまとめておく。自分の授業の振り返りをしておく
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　面接について
【key words】
面接、COPM、環境設定
【授業概要】
面接の目的や環境設定の工夫、位置関係やコミュニケーション手法について学ぶ。面接における一般的注意事項についても学ぶ。
【予習】
教科書指定ページを熟読し、面接やコミュニケーションにおいて自分が気になったスキルをメモしてまとめる、分からないキーワードを書き出す、熟読した感想とコメントを記載するなど、学習の記録を書き込んでおく。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書①作業療法評価学のP.36～46（B.観察の前まで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復習】
講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　情報収集と観察について
【key words】
情報収集、観察
【授業概要】
情報収集と観察の目的と手法について考える。
【予習】
教科書指定ページを読み込み、分からないキーワードを書き出して調べ、熟読した感想とコメン

| | |
|---|---|
| | トを記載するなど、学習の記録を書き込んでおく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書①作業療法評価学のP.9～11，P.46～52、配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第７回　精神機能の評価：意欲、思考、ICFで構造的にとらえる<br>【key words】<br>ICF<br>【授業概要】<br>ICFの策定経緯やICFの趣旨や構成について理解する。分類項目を用いて人の生活機能など、目に見えにくい障害も含め、ひとの生活機能にかかわる要素を構造的に捉えることの重要性を理解する。また、自分自身や周囲の人について、実際にICFの項目に当てはめて考えてみる。<br>【予習】<br>指定教科書②の「まえがき～P.23まで」を読んでおき、分からないことがあればノートに記載をしておくこと。特になければ、読んだ日付とページを記録しておくだけでも良い。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書②<br>世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類．中央法規．2002<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>講義を受講した感想や、復習した内容を記録する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>150分<br>第８回　まとめ<br>【key words】<br>まとめ、小テスト<br>【授業概要】<br>第4回小テスト（第7回講義内容）<br>本科目で学んだ事の総まとめ。作業療法における評価とは？について、再度振り返り考える。今までの資料をまとめる今までの資料をまとめる<br>【教科書ページ・参考文献】<br>これまでの講義内容と資料をまとめ、期末提出に向けた準備を行う。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で提示する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法学生としてふさわしい受講態度で臨むこと。<br>アクティブラーニングを用いた学生主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。<br>授業用のノートを1冊用意すること。一般的な糸綴じノートであることが条件だが、サイズはA4でもB5でも可(大学からの資料はA4サイズが多い）。方眼や罫線、無地など中身は自由で、各自が利用しやすいものを準備すること。ただし、ルーズリーフは不可。100円ショップ等で購入可能なもので充分。<br>全8回の講義において、<br>①予習、　②講義内容のメモ・記録、　③復習<br>について、日付と共に記録していくこと。配布資料がある場合は、それらを貼りつけていくことも可能。<br>全8回分の講義における①予習②記録③復習を記録した講義ノートを　最終講義後に提出（提出時期は最終講義時に伝達）することで、評価の一部とする（詳細はシラバスの【評価方法】の欄を参照）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式（WEBで実施する場合はWEBポータル上のスレッドを利用） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各講義は予習を前提に進める。また、講義を受講するだけでは理解が難しい。単元ごとに小テストを実施するので一つずつしっかりと理解を積み重ねること。 |
| オフィスアワー | 水曜日16時半～17時半は随時　その他の曜日においては要予約<br>授業終了後など、随時質疑は対応 |
| 評価方法 | 期末でのノート提出75%、小テスト・授業内課題等25% |
| 教科書 | ①岩崎テル子ほか編：標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院<br>②世界保健機関（WHO）：ICF国際生活機能分類．中央法規．2002 |
| 参考書 | ・澤俊二編：作業療法ケースブック　作業療法評価のエッセンス．医歯薬出版<br>・日本作業療法士協会監修：作業療法学全書改訂第3版　作業療法評価学．協同医書出版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク |

| | |
|---|---|
| | □プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 運動機能評価学　　授業コード： 2002P2L203

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・小林昭博 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>・作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解する。<br>・運動機能の評価について、各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につける。<br>・グループワークによる発表を通して、他者と協働して課題に取り組み、発信・議論する力を身につける。<br>[到達目標]<br>①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを説明することができる。<br>②運動機能に関する評価について、評価項目とその意義と目的を述べることができる。<br>③各評価項目の基本的な方法を説明することができる。<br>④各評価項目の基本的な方法に沿って、評価を実施することができる。<br>⑤身体障害領域の各疾患における評価を示し、説明することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、作業療法評価の中で、生活の基盤となるう運動機能の評価について各評価項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。本科目を修了した際には、運動機能に関する評価を実施可能となる。<br>基本的な授業構成として、運動機能の各評価について意義と目的・基礎知識について講義を行い、方法を教員がデモンストレーションを行いながら見本を提示し、学生はそれを学生同士で模倣・実施して学んでいく。上肢機能の評価と身体障害における疾患別の評価については、グループワークを実施した上で、発表を通してディスカッションを行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／意識の評価およびバイタルサイン測定、臨床検査値の読み方<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、意識レベル、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、臨床検査<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価学の科目の概要を説明する。<br>作業療法評価において、対象者の全身状態を把握できるようになるために、意識およびバイタルサイン、フィジカルアセスメント、臨床検査値に関する知識、技能を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：２-Ⅱ　意識の評価およびバイタルサインの測定、臨床検査値の読み方<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第2回 | 関節可動域測定<br>【key words】<br>関節可動域(ROM)、角度計（ゴニオメーター）、基本軸・移動軸、参考可動域、最終域感、TAM法<br>【授業概要】<br>主担当教員：牛込<br>運動機能評価における関節可動域測定の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>実際に、実技を通して関節可動域測定を実技を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：2-Ⅳ 関節可動域測定 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第3回　筋力検査：徒手筋力検査（MMT）

【key words】
筋力、徒手筋力検査（MMT）、代償動作、握力・ピンチ力
【授業概要】
主担当教員：牛込
運動機能評価における筋力検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
徒手筋力検査（MMT）の基本的な知識・技能を学び、実技を通して徒手筋力検査（MMT）を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：2-V 筋力検査
②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第4回　感覚検査：簡易感覚検査・深部感覚検査

【key words】
感覚、表在感覚、深部感覚、受容器、デルマトーム、簡易感覚検査、深部感覚検査
【授業概要】
主担当教員：牛込
運動機能評価における感覚検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
感覚検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して簡易感覚検査および深部感覚検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：２-Ⅵ 感覚検査
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第5回　感覚検査：識別感覚検査

【key words】
感覚、表在感覚、深部感覚、受容器、デルマトーム、セメスワインスタインモノフィラメントテスト、二点識別検査、局在の検査、立体感覚検査
【授業概要】
主担当教員：牛込
運動機能評価における感覚検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
感覚検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して識別感覚検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：２-Ⅵ 感覚検査
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第6回　痛みの評価／小テスト

【key words】
痛み、痛みの生物・心理・社会モデル、痛みの恐怖・回避モデル、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛、中枢神経障害性疼痛
【授業概要】
主担当教員：牛込
運動機能評価における痛みの評価の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
第1～5回の授業を出題範囲として小テストを実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書の指定範囲なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、小テストを実施するため、授業の振り返りを行っておくこと。
復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習・実技練習90分

第7回　反射検査

【key words】
反射、腱反射、表在反射、病的反射
【授業概要】
主担当教員：小林
運動機能評価における反射検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。
反射検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して反射検査を経験する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P130-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。

| | | |
|---|---|---|
| | | 復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第8回 | 筋緊張検査<br>【key words】<br>筋緊張、痙縮、固縮<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>運動機能評価における筋緊張検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>筋緊張検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して筋緊張検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P151-159<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第9回 | 運動麻痺の評価：片麻痺機能検査<br>【key words】<br>運動麻痺（片麻痺）、ブルンストロームステージ、上田による片麻痺機能テスト<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>脳血管障害などにより中枢神経が損傷された際に発生する運動麻痺（片麻痺）について、片麻痺機能検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>片麻痺機能検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して片麻痺機能検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-299<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第10回 | 姿勢反射検査／バランス機能検査<br>【key words】<br>姿勢反射、座位・立位バランス、静的・動的バランス、FBS、FR、TUG<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>運動機能評価における座位・立位の姿勢を保つバランス能力検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。<br>姿勢反射検査・バランス機能検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して姿勢反射検査・バランス機能検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P138-150<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第11回 | 脳神経検査<br>【key words】<br>脳神経、脳神経の機能的分類<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>運動機能評価における脳神経検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。<br>脳神経検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して脳神経検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P168-183<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第12回 | 協調性検査<br>【key words】<br>協調運動、運動失調、運動検査（鼻指鼻試験など）、机上検査（線引き検査）<br>【授業概要】<br>主担当教員：小林<br>運動機能評価における協調性検査の意義と目的・基礎知識・方法を学ぶ。<br>協調性検査の基本的な知識・技能を学び、実技を通して協調性検査を経験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P160-167<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書内のポイントを示すので、確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |

| | |
|---|---|
| | 第13回　上肢機能検査<br>【key words】<br>上肢機能検査、STEF、脳卒中上肢機能検査（MFT）、パーデューペグボードテスト<br>【授業概要】<br>担当教員：牛込、小林<br>上肢機能検査の意義と目的、基礎知識、方法を学ぶ。<br>STEF、脳卒中上肢機能検査（MFT）を実際に体験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学：2-ⅩⅣ 上肢機能検査<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、事前に教科書の内容を確認をしておくこと。<br>復習として、評価の目的・基礎知識、方法の確認を行い、実習に向けて実技練習を実施すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習150分<br>第14回　グループワーク　身体障害における疾患別の評価について：グループ学習<br>【key words】<br>グループワーク、グループ学習、脳血管障害、脊髄損傷、上肢の末梢神経損傷、関節リウマチ、神経変性疾患（パーキンソン病）<br>【授業概要】<br>グループワークとして身体障害における疾患別の評価について調べ、発表する。<br>発表を通して、身体障害における疾患別の評価について理解し、評価を選択・実施できるように学ぶ。<br>脳血管障害、脊髄損傷、上肢の末梢神経損傷、神経変性疾患（パーキンソン病）について発表を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法評価学：3-Ⅰ 脳血管障害・頭部外傷の評価、3-Ⅱ 脊髄損傷の評価、3-Ⅲ 上肢の末梢神経損傷の評価、3-４ 関節リウマチの評価、3-Ⅴ その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで協働して学習を行い、発表に向けての準備を行うこと。<br>グループワーク中に不明な点等があれば、担当教員に適宜相談すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習・発表準備180分<br>第15回　グループワーク　身体障害における疾患別の評価について：発表（プレゼンテーション）<br>【key words】<br>グループワーク、発表（プレゼンテーション）、脳血管障害、脊髄損傷、上肢の末梢神経損傷、関節リウマチ、神経変性疾患（パーキンソン病）<br>【授業概要】<br>グループワークとして身体障害における疾患別の評価について発表する。<br>発表を通して、身体障害における疾患別の評価について理解し、評価を選択・実施できるように学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法評価学：3-Ⅰ 脳血管障害・頭部外傷の評価、3-Ⅱ 脊髄損傷の評価、3-Ⅲ 上肢の末梢神経損傷の評価、3-４ 関節リウマチの評価、3-Ⅴ その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループで協働して学習を行い、発表に向けての準備を行うこと。<br>発表後に、身体障害における疾患別の評価について復習をすること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習・発表準備90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。また、小テストを実施する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。<br>・関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査の実技試験があるので、各自実技練習を実施して試験に備えること。<br>・上肢機能および協調動作の評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。<br>・疾患別の運動機能評価について、グループワークを通して発表を行うので、発表に向けてグループで協働して課題に向けて準備すること。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>〔小林〕月曜日16時30分～17時30分は随時．事前相談にて別日に行うことも可能． |
| 評価方法 | □筆記試験　60％<br>□小テスト　20％<br>□グループワーク　身体障害における疾患別の評価について　20%<br>＊合計で60％以上を単位付与の基準とする。<br>＊ただし、筆記試験60％のうち36％に到達してない場合は、合計の基準を満たしたとしても単位付与の基準に到達していないものとみなす。 |
| 教科書 | ①能登真一他　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第３版．医学書院<br>②齋藤慶一郎：臨床での検査精度を高める！　MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御　第１ |

| | |
|---|---|
| | 版．株式会社メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①Helen J.Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著：新・徒手筋力検査法　原著第10版．協同医書出版社<br>②田崎義昭，斎藤佳雄　著：ベッドサイド神経の診かた　第18版．南山堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 認知心理評価学　　授業コード： 2002P2L204

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・高坂駿 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法における評価の中でも、特に認知機能や精神･心理機能に関する評価の意味を理解し、高次脳機能障害や認知症、精神障害など、認知機能や精神･心理機能の障害が人びとの作業遂行に与える影響について理解することができる。また、認知機能や精神･心理機能を評価するために必要となる基本的知識と技能が修得できる。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法過程における評価の意味を改めて理解し、その必要性を説明できる。<br>②認知機能や精神･心理機能面における評価の目的と主眼について理解する。<br>③認知機能は、DSM-5に示される･ Complex attention、･ Executive function、･ Learning & memory、･ Language、･ Perceptual-motor、･ Social cognition という6つの認知領域について、既に学修した基礎医学系科目の知識と並行して説明することができる。<br>④③の各認知機能が、人の作業遂行（特に生活行為）に与える影響について説明することができるとともに、それらの機能を評価する手段としての検査方法を列挙することができる。<br>⑤人の作業に関連する意欲、行動、行動制御機能、思考といった精神機能とその評価法について理解・説明することができる。<br>⑥人の社会適応と適応的行動とその評価法について理解・説明することができる。<br>⑦人間作業モデル（MOHO）における心理的評価を含む評価方法について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。しかし、認知機能や精神･心理機能は、運動機能と比べて視覚化されにくいため、障害されてもそれがどの様に作業遂行に影響を及ぼすかが見えにくく、適切な評価が実施されないと、不適切な目標設定や介入となるリスクもある。まずは、脳の働き（認知精神心理機能）をよく学ぶとともに、それらをどの様にアセスメントするべきかを理解し、そこから生活行為における躓きと結びつけて捉えることが重要になる。本科目では、個別の認知機能や精神機能面の検査ではなく、それら評価の視点を中心に学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション。作業療法における評価と、認知機能や精神機能をみるということ。(山口)<br>【key words】<br>認知機能、精神機能、神経内科学、解剖学、生理学、基礎作業学<br>【授業概要】<br>本科目の学習目的と進行方法、成績評価の基準などを説明する。<br>目に見えにくい認知･精神･心理機能を評価するために必要な知識と、それを基に評価する視点、そしてそれをどの様に治療介入として結びつけていくかを考える。<br>その後、脳の発達と高次脳機能障害について理解を深める。<br>【予習】<br>教科書の指定ページを熟読し、読んだ日時をノートに記録する。また、分からなかった用語や自分で調べたりまとめた事項はノートに記載する。<br>【復習】<br>自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。次回、今回学んだないようについて授業最初に理解度の確認試問をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定教科書P.3-13, 26-38<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第２回 | Complex attentionとExecutive functionについて(山口) |

【key words】
注意、遂行機能
【授業概要】
前回のないようについて復習した後に、注意機能と遂行機能について学ぶ
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②注意機能の分類について(P.47-49) 、③遂行機能の構成要素(P.129-130)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。教科書の動画21を視聴する。
次回、特に「注意機能の分類(P.47-49) 」、「遂行機能の構成要素(P.129-130)」「注意と遂行機能の各評価指標」について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
注意についてP.47-52
遂行機能についてP.128-136, 140-141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第３回　Learning & memory(山口)
【key words】
記憶
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に記憶について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②記憶の内容による分類と保持時間による分類(P.56-57) について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「記憶の分類(P.47-49) 」、「記憶の各評価方法(P.59-62)」について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.56-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　Language(山口)
【key words】
言語機能、失語
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に言語機能及び失語症について学ぶ。
【予習】
①特に教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「２．失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別」(P.68)と「1. タイプ分類」(P.73-74)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画2, 3, 4, 5を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「２．失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別」(P.68)と「1. タイプ分類」(P.73-74)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.68-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第５回　Perceptual-motor①(山口)
【key words】
失行症、失認
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に失行症および失認について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-b. 失行の分類」(P.82-84)と「2-a. 認知の分類」(P.97-98)、「2-b. 失認の分類」(P.91-101)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画6,7,8,9,10,11,13,14を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-b. 失行の分類」(P.82-84)と「2-a. 認知の分類」(P.97-98)、「2-b. 失認の分類」(P.91-101)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
失行症はP.81-90
失認はP.97-105, バリントと病態失認はP.109-111

【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　Perceptual-motor②(山口)

【key words】
半側空間無視、unilateral spatial neglect; USN
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に半側空間無視について学ぶ（ここではPerceptual-motorの領域で扱うが、半側空間無視はattentionの問題でもある）。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-a. 症状」(P.113)と「2-b. 発症率」(P.113)、「D-1-a～ｃ. 評価前の留意事項」(P.116-117)について自分なりにノートにまとめる
③教科書の動画15,16,17,18,19,20,12(Pusher)を事前に視聴する。
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回②教科書の「1-a.～c.空間と注意機能」(P.112-113)と「2-a. 症状」、「2-b. 発症率」、「D-1-a～ｃ. 評価前の留意事項」、「2. 半側無視の評価」(P.118-121)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書
半側空間無視はP.112-121, PusherはP.95-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　Social cognition(山口)

【key words】
社会的行動障害、社会脳、こころの理論、表情認知
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に社会的行動障害について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②教科書の「2-a.意志と意欲、発動性と自発性」「2-b.情動のコントロール」「2-c.対人関係の技法(P.142-145)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-a.意志と意欲、発動性と自発性」「2-b.情動のコントロール」「2-c.対人関係の技法(P.142-145)に加えて「2-d. 社会的行動障害の分類」(P.145-146)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.142-149, 153-154
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第８回　認知症について(山口)

【key words】
DSM-5、major neurocognitive disorder、BPSD
【授業概要】
前回内容の復習として口頭試問を実施し、その後に認知症について、基本的な事項を学ぶ。認知症に関しては、他の科目でも学ぶため、ここでは、代表的な認知症疾患の基本的な知識と、についておおよその評価名称について学ぶ。
【予習】
①教科書指定ページについて熟読する。分からない所や自分で学ぶためにまとめたところはノートに日付とともに記述。教科書を読んだ日付も記述。
②特に教科書の「2-a-2). 行動心理的症状(BPSD)」(P.157-158) と「2-b. 認知症をもたらす疾患」(P.158-159)について自分なりにノートにまとめる
【復習】
自分で学んだ事項を日時とともにノートにまとめて記載する。
次回、特に「2-a-2). 行動心理的症状(BPSD)」(P.157-158) と「2-b. 認知症をもたらす疾患」(P.158-159)「D.評価」(P.160-165)について、口頭試問をするので、しっかりと自分の言葉で説明出来るようにノートにまとめて準備しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
指定教科書P.155-165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第9回　統合失調症の病態と精神機能評価（高坂）

【key words】
陽性症状・陰性症状、ドパミン・セロトニン仮説、ストレス―脆弱性―対処技能モデル、フィルター障害仮説
【授業概要】
グループワークを通して、統合失調症の発生機序や症状等について学び、精神障害作業療法評価の基本的視点を身につける。

【教科書ページ・参考文献】
なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | | |
|---|---|---|
| | | 国際生活機能分類（中央法規）の教科書を持参すること。<br>【予習】<br>調べ学習にてワークシートの1～5を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第10回 | 意欲と行動の機能①（高坂）<br>【key words】<br>意欲（欲動、欲求、意志）、動機、行動、行動変容法<br>【授業概要】<br>グループワークを通して、意欲、動機、行動について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 pp.263-266<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】<br>調べ学習と併せ、ワークシートの8～11を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第11回 | 意欲と行動の機能②（高坂）<br>【key words】<br>意欲（欲動、欲求、意志）、動機、行動、行動変容法<br>【授業概要】<br>グループワークを通して、意欲、動機、行動とその評価法について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料pp.266-269<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】<br>調べ学習と併せ、ワークシートの15～17を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第12回 | 行動の制御機能（高坂）<br>【key words】<br>ストレス、ストレッサー、生体恒常性維持、HPA軸、自律神経<br>【授業概要】<br>グループワークを通して、行動の制御機能とその評価法について学ぶ。<br>第9～11回の範囲に関して確認テストを実施する。QRコードを読み込めるスマートフォンまたはタブレットを持参すること。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 pp.275-282<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】<br>調べ学習と併せ、ワークシートの20～24を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第13回 | 思考の機能とその測定・評価（高坂）<br>【key words】<br>思考機能、思考障害、社会的適応・不適応<br>【授業概要】<br>グループワークを通して、思考機能と統合失調症の思考障害について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料 pp.282-296<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】<br>調べ学習と併せ、ワークシートの27～34を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第14回 | 社会適応と適応的行動の習得／作業療法における心理評価（高坂）<br>【key words】<br>社会的適応・不適応、健康、健康関連QOL、リカバリー<br>【授業概要】<br>社会的適応・不適応の評価法について学ぶ。<br>グループワークを通して、健康関連QOL、リカバリーの評価を中心に心理面の評価について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【予習】<br>調べ学習と併せ、ワークシートの43～45を行う。<br>【復習】<br>グループワークで学んだことを自身のワークシートに色文字で追記しておく。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>配布資料<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第15回 | 作業療法理論に基づいた評価／まとめ（高坂） |

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>MOHOST、OSA-Ⅱ、VQ<br>【授業概要】<br>人間作業モデルの一部の評価測定法について概要について、学ぶ。<br>後半の授業を通し、理解が不十分な点を整理し、グループで学び直す。<br>第12～14回の範囲に関して確認テストを実施する。QRコードを読み込めるスマートフォンまたはタブレットを持参すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>Gary Kielhofner（編著），山田孝（監訳）：人間作業モデル，改訂第5版<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】<br>上記参考書や基礎作業学の配布資料を参考に予習すること。<br>これまでのワークを通し、理解が不十分な点を個人でまとめておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。<br>・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため、極力休まないこと。<br><br>【山口の授業1～8回における注意事項】<br>アクティブラーニングを用いた学生主体の講義であるため、休まず参加すること。受講に際し、授業用のノートを1冊用意すること。一般的な糸綴じノートであることが条件だが、サイズはA4でもB5でも可。方眼や罫線、無地など中身は自由で、各自が利用しやすいもので良いが、ルーズリーフは不可。100円ショップ等で購入可能なもので良い。全8回分の講義における①予習②記録③復習を記録した講義ノートを提出（提出時期は最終講義時に伝達）することで、評価の一部とする（詳細はシラバスの【評価方法】の欄を参照）。<br><br>【高坂の授業9～15回における注意事項】<br>原則、授業で提示するスライド資料は印刷配布しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必要に応じて各自でプリントアウトすること。授業中の必要事項はノートなどを使用し、記録しておくこと。<br>個人・グループでのワークが主となるため、休まずに参加すること。また、授業内容の理解促進とグループワークの円滑な進行のため、必ずワークシートに沿って事前学習をした上で授業に臨むこと。ワークシートは、最終的に電子データでWebフォルダにアップロードし提出する。グループワークで学んだことは、色文字で追記する、コメント機能を使うなどし、電子データに追記しておくこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 【山口】シャトルカード方式（WEB実施時はWEBポータル上の授業スレッドにコメントを記載）<br>【高坂】コメントカード方式（QRコードを読みWebにコメントをする） |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 金曜日13:00～14:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | 山口担当分50%(授業内ノート30%・授業内口頭試問や課題、小テスト20%）、<br>高坂担当分50%(ワークシート30%・確認テスト20%) |
| 教科書 | 【山口】能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学，第2版，医学書院<br>【高坂】配布資料<br>WHO：国際生活機能分類，中央法規 |
| 参考書 | 随時紹介 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び高齢期領域、精神障害領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他 |

| | |
|---|---|
| | その他の具体的内容 |

講義科目名称： 社会・生活機能評価学　　授業コード： 2002P2L205

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子・遠藤真史 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法士として必要なADL・IADLを評価する方法と、動作の分析方法を身につけることを目的とする。<br><br>〔到達目標〕<br>①代表的なADL・IADL評価法の特徴とその使用方法を説明することができる。<br>②ADL各項目の観察ポイントを挙げることができる。<br>③AMPSを用いた動作の観察ポイントを挙げ、動作をまとめることができる。<br>④福祉用具の種類とその活用方法を説明することができる。<br>⑤住宅改修のポイントとサービス利用について説明することができる。 |
| 授業の概要 | ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。主観的な評価ではなく、客観的な評価として、さまざまなADL・IADLの評価法について学びます。<br>また、外部講師による講義から、医療保健福祉をふまえた、地域づくり、体制整備について考えます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／ADLとは<br>【key words】<br>運動、動作、行動、活動、行為、BADL、IADL<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーションで科目の位置づけとシラバスの説明を行います。ADL・IADLの定義について学ぶ。確認テストを実施します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P1～28<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | ADLの評価とは<br>【key words】<br>作業療法の流れ、ICF<br><br>【授業概要】<br>評価と作業療法計画について学びます。また、代表的なADL評価法を学びます。<br>確認テストを実施します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P15～28<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | ADL評価法 (Barthel Index, FIM)<br>【key words】<br>Barthel Index、FIM<br><br>【授業概要】<br>できるADLの評価法として代表的なBarthel Indexの評価項目、採点について具体的に学ぶ。ま |

た、FIMの評価尺度についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P29～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：トップダウン・ボトムアップアプローチについて各自調べておく。Barthel IndexとFIMの違いを調べる
復習：各項目の点数の違いを整理する

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　ADL評価法（FIM　運動項目）
【key words】
FIM（運動項目）

【授業概要】
FIMの運動項目であるセルフケアについて評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
FIM：P90～110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書を使用し、採点課題を解いておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　ADL評価法（FIM　運動項目）
【key words】
FIM（運動項目）

【授業概要】
FIMの運動項目である排泄コントロール、移乗について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書を使用し、採点課題を解いておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　ADL評価法（FIM　運動項目、認知項目）
【key words】
FIM（認知項目）
【授業概要】
FIMの運動項目である移乗、移動、認知項目の理解、表出について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書を使用し、採点課題を解いておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　小テスト，FIM（認知項目）
【key words】
老研式、FAI、寝たきり度、AMPS

【授業概要】
第6回までの範囲の小テストを行う。
またFIMの認知項目について評価尺度に合わせた採点ポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
小テストの解説は授業時間外で行います。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　IADL評価法（老研式，FAI，AMPS）
【key words】
COPM、CMOP、老研式、FAI、寝たきり度

【授業概要】
Barthel Index，FIM以外のADL・IADLの評価法について概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　AMPS（運動技能）
【key words】
身体の位置、物の獲得と把持、自己と物の移動、遂行の維持

【授業概要】
AMPSの運動技能の身体の位置（Body Position）、物の獲得と把持（Obtaining and Holding Objects）、自己と物の移動（Moving Self Objects）、遂行の維持（Sustaining Performance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　AMPS（プロセス技能）
【key words】

| | |
|---|---|
| | 遂行の維持、知識の適用、空間と物の組織化、遂行の適応<br>【授業概要】<br>AMPSのプロセス技能の、遂行の維持（Sustaining Performance）、知識の適用（Applying Knowledge）、空間と物の組織化（Organizing Apace and Objects）、遂行の適応（Adapting Paeformance）の各項目の評価ポイントを学び、動画を通して確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１１回　福祉用具<br>【key words】<br>装具、義肢、歩行補助具、車椅子<br>【授業概要】<br>福祉用具の移動補助具に分類される車椅子、杖等について名称及び使用方法、適応について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１２回　地域まちづくりマップ演習①<br>【key words】<br>体制整備・地域包括ケアシステム・地域生活支援<br><br>【授業概要】<br>まちづくりマップ演習を行い、医療保健福祉の観点から地域づくり、体制整備について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１３回　地域まちづくりマップ演習②<br>【key words】<br>体制整備・地域包括ケアシステム・地域生活支援<br>【授業概要】<br>まちづくりマップ演習を行い、医療保健福祉の観点から地域づくり、体制整備について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１４回　精神障害者の地域生活支援<br>【key words】<br>事例検討・地域生活支援・就労支援<br>【授業概要】<br>入院生活から、地域生活を送る当事者の暮らし生活についてふれ、地域生活支援における評価、アセスメントの視点について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第１５回　住宅改修<br>【key words】<br>住宅改修、福祉用具貸与、福祉用具購入<br>【授業概要】<br>介護保険制度における住宅改修、福祉用具貸与・購入の物品を学び、使用場所やADLによる福祉用具について種類や使用方法・適応について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：介護保険制度の福祉用具貸与と購入の違いを調べておく<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業に関係のないものの持ち込みを禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | FIMは事前に教科書を読み、練習問題を解いてきてください。また授業終了後は課題問題を行い、理解を深めてください。<br>授業内の説明では十分理解できない場合は、自由参加のFIMの補講を行いますので参加してください。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 小テスト20%　筆記80% |
| 教科書 | 濱口豊太編：標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学　第2版．医学書院，2022.<br>標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学<br>千野直一他：脳卒中の機能評価ーSIASとFIM〔基礎編〕．金原出版，2015. |

| | |
|---|---|
| 参考書 | 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド．医学書院，2013 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等の身体障害領域、高齢期障害領域に勤務。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 評価学演習Ⅰ　　授業コード： 2002P2L206

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・宮寺亮輔・柳井明子 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>臨床場面で運動機能評価を基本的な方法・手順に沿って準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①運動機能評価における基本的な知識・技術を身につけて、実践できる。<br>②評価に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。<br>③評価で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。<br>④評価を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。<br>⑤臨床場面を想定し、評価を具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。<br>⑥グループで協働して知識・技術を身につけていこうとする姿勢を身につける。 |
| 授業の概要 | 運動機能評価であるROM測定・MMT・片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）について、グループワークを実施する。グループワークでは、アクティブラーニングとして、メンバー間で実技練習を行い、運動機能評価を実践できるように学ぶ。学習を通して、グループで協働して知識・技術を身につけていこうとする姿勢を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／グループワーク ROM実技練習：担当グループ検討<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、ROM、実技練習、担当グループ検討<br>【授業概要】<br>評価学演習Ⅰの科目の概要を説明する。<br>第2～5回 「グループワーク：ROM実技練習」を実施するために担当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、担当グループで実技練習回の運営準備をしておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第2回 | グループワーク ROM実技練習①<br>【key words】<br>ROM、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第3回 | グループワーク ROM実技練習② |

【key words】
ROM、実技練習
【授業概要】
実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。
実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。
授業開始時に予習確認テストを実施する。
授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。
復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。
実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第4回　グループワーク ROM実技練習③

【key words】
ROM、実技練習
【授業概要】
実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。
実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。
授業開始時に予習確認テストを実施する。
授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。
復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。
実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第5回　グループワーク ROM実技練習④

【key words】
ROM、実技練習
【授業概要】
実技練習グループに分かれて、指定された領域についてROM実技練習を実施する。
実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。
授業開始時に予習確認テストを実施する。
授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、ROMの基本的な評価方法を確認をしておくこと。
復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。
実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第6回　ROM実技試験

【key words】
ROM、実技試験
【授業概要】
ROMについて実技試験を実施する。
実技試験の実施方法については、授業内で指示する。
再試験については、授業時間外で実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P72-95

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、ROMの実技練習を実施しておくこと。
実技試験は、ケーシーを着用して実習と同様の身だしなみで臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習180分

第7回　グループワーク MMT実技練習：グループ検討

【key words】
MMT、実技練習、担当グループ検討
【授業概要】
第8～11回 「グループワーク：MMT実技練習」を実施するために担当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。
授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113
②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。
復習として、担当グループで実技練習回の運営準備をしておくこと。
実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分／復習・実技練習150分

第8回　グループワーク MMT実技練習①

【key words】
MMT、実技練習
【授業概要】
実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。

| | | |
|---|---|---|
| | | 実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第9回 | グループワーク MMT実技練習②<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第10回 | グループワーク MMT実技練習③<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第11回 | グループワーク MMT実技練習④<br>【key words】<br>MMT、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域についてMMT実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習を実施しておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分 |
| | 第12回 | MMT実技試験<br>【key words】<br>MMT、実技試験<br>【授業概要】<br>MMTについて実技試験を実施する。<br>実技試験の実施方法については、授業内で指示する。<br>再試験については、授業時間外で実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P96-113<br>②MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、MMTの実技練習を実施しておくこと。<br>実技試験は、ケーシーを着用して実習と同様の身だしなみで臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分 |
| | 第13回 | グループワーク 片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習：担当グループ検討<br>【key words】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）、実技練習、担当グループ検討<br>【授業概要】<br>第14回 「グループワーク：片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習」を実施するために担 |

| | |
|---|---|
| | 当グループで実技練習方法の検討や実技練習を実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-295<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、片麻痺機能検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、担当グループで実技練習回の運営準備をしておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第14回　グループワーク 片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習<br>【key words】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）、実技練習<br>【授業概要】<br>実技練習グループに分かれて、指定された領域について片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技練習を実施する。<br>実技練習は担当グループのメンバーが中心となり進める。<br>授業開始時に予習確認テストを実施する。<br>授業後半に自己レビュー・ピアレビューを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-295<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、片麻痺機能検査の基本的な評価方法を確認をしておくこと。<br>復習として、授業内で学習した内容について実技練習をしておくこと。<br>実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習30分／復習・実技練習150分<br>第15回　片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）実技試験<br>【key words】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）、実技試験<br>【授業概要】<br>片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）に実技試験を実施する。<br>実技試験の実施方法については、授業内で指示する。<br>再試験については、授業時間外で実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　P283-295<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）の実技練習を実施しておくこと。<br>実技試験は、ケーシーを着用して実習と同様の身だしなみで臨むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。<br>・実技試験は、ケーシーを着用して実習と同様の身だしなみで臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 授業スレッドにコメント用のgoogle formのURLを掲示するので、そこから入力する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。<br>・予習確認テストがあるので、指定の領域について学習しておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>〔宮寺〕月曜日8時50分～10時20分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □ROM実技試験　30%<br>□MMT実技試験　30%<br>□片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）　15%<br>□ROM小テスト　10%<br>□MMT小テスト　10%<br>□片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）小テスト　5% |
| 教科書 | ①能登真一他　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第３版．医学書院<br>②齋藤慶一郎：臨床での検査精度を高める！　MMT　適切な検査肢位の設定と代償運動の制御　第１版．株式会社メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①Helen J.Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著：新・徒手筋力検査法　原著第10版．協同医書出版社<br>②田崎義昭，斎藤佳雄　著：ベッドサイド神経の診かた　第18版．南山堂 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされてい |

| | |
|---|---|
| | る。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 評価学演習Ⅱ　　授業コード： 2003P2L207

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・山口智晴・北爪浩美 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法における評価の中でも、特に認知機能や精神･心理機能に関する評価法について実践方法を身に付け、高次脳機能障害や認知症、発達障害、精神障害など、認知機能や精神･心理機能の障害が人びとの作業遂行に与える影響に結び付けて理解することができる。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法過程で使用される精神・心理機能の評価法（主に検査法）について評価目的や方法を理解し、実践することができる。<br>②認知機能は、DSM-5に示される･ Complex attention、･ Executive function、･ Learning & memory、･ Language、･ Perceptual-motor、･ Social cognition という6つの認知領域について、既に学修した基礎医学系科目や評価学の知識と結び付け、実際の検査バッテリーを用いて検査することができる。<br>また人間の発達過程に着目した視点で、子供の発育に対する具体的な評価手法も学ぶ<br>③意欲、行動、行動制御機能、思考に関連する評価法について、既に学修した基礎医学系科目や評価学の知識と結び付け、検査することができる。<br>④人の社会適応と適応的行動とその評価法について、既に学修した基礎医学系科目や評価学の知識と結び付け、検査することができる。<br>⑤②・③の評価結果が、人の作業遂行（特に生活行為）に与える影響について説明することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法士は、対象者の生活行為の実現のため、身体機能に加え、外観からは捉えづらい精神・心理機能を評価するとともに、適切な支援に繋げている。これらの評価には検査法が用いられることが多く、評価結果により対象者の目に見えづらい状態像を視覚化し、明確にすることができる。本科目では、2年次に学んだ認知心理評価学の基本的知識を基に、精神・心理面の作業療法評価で扱われている個別の検査法等について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | complex attentionに対する評価（山口）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Trail making task(TMT)、Clinical Assessment for Attention and Spontaneity (CATS) 、かなひろいテストなどの注意に関する検査バッテリーを実際に体験する<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第2回 | executive functionに対する評価（山口）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome(BADS)、Frontal Assessment Battery (FAB)などの遂行機能や前頭葉機能に関する検査バッテリーを実際に体験する<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第3回 | learning & memoryに対する評価（山口）<br>【key words】 |

【授業概要】
WMSR、BVRT、RBMT、三宅式記銘力検査、ROCFTなどの記憶に関する検査バッテリーを実際に体験する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。
【予習復習に必要な想定時間】
第4回　language、social cognition に対する評価（山口）
【key words】

【授業概要】
Standard Language Test of Aphasiaなどの言語に関する検査と
Theory of Mindなどsocial cognitionに関する検査バッテリーを実際に体験する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。
【予習復習に必要な想定時間】
第5回　perceptual-motorに対する評価（山口）
【key words】

【授業概要】
BIT 行動性無視検査 日本版、VPTA 標準高次視知覚検査、SPTA標準高次動作性検査などの
perceptual-motorに関する検査バッテリーを実際に体験する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。
【予習復習に必要な想定時間】
第6回　general cognition、その他の検査（山口）
【key words】
WAIS、MMSE、SDSA
【授業概要】
Wechsler Adult Intelligence Scale－Fourth Edition、Mini Mental Stateなどのgeneral cognitionに関する検査を実施すると共に、Drivers’ Screening Assessment Japanese Versionなどの認知機能と活動参加レベルの課題を結びつけるテストバッテリーを実際に体験する
【教科書ページ・参考文献】
事前配布資料等に目を通すこと
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種検査の実施方法について配布資料や教科書から事前に学ぶこと。
【予習復習に必要な想定時間】
第7回　発達領域における評価法①（北爪）
【key words】

【授業概要】
遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、GAFM、PEDI,K-ABC,WeeFIM、MACS、WISCなど発達領域で特異的に用いられる評価手法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
随時紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
90分
第8回　発達領域における評価法②（北爪）
【key words】

【授業概要】
遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、GAFM、PEDI,K-ABC,WeeFIM、MACS、WISCなど発達領域で特異的に用いられる評価手法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
90分
第9回　発達領域における評価法③（北爪）
【key words】

【授業概要】
遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、GAFM、PEDI,K-ABC,WeeFIM、MACS、WISCなど発達領域で特異的に用いられる評価手法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　社会生活機能評価①（作業遂行関連評価）（高坂）
【key words】
作業遂行、COPM、SOPI、CAOD
【授業概要】
・カナダ作業遂行測定（COPM）、補足的に自記式作業遂行指標（SOPI）、臨床における作業機能

| | | |
|---|---|---|
| | | 障害の種類と評価（CAOD）をペアにて実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料やインターネット検索から学んでくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第11回 | 社会生活機能評価②（高坂）<br>【key words】<br>LASMI、GAF、JAOT版精神障害者ケアアセスメント、FAI<br>【授業概要】<br>・精神障害者社会生活評価尺度（LASMI）をペア学習にて実施する。<br>・機能の全体的評定（GAF）の採点演習<br>・JAOT版精神障害者ケアアセスメントとFAIについて解説する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料やインターネット検索から学んでくること。<br>【持参】ICFの教科書を持参すること<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第12回 | 認知・行為・構成検査（高坂）<br>【key words】<br>箱づくり法<br>【授業概要】<br>・検者・被検者・タイムキーパー役に分かれ、3人一組で箱づくり法を部分的に実施する。<br>・結果の解釈などについて補足的に解説する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【持参】スマホとシャーペンまたは鉛筆と消しゴムを持参してください。その他、授業開始前に大学の木工室から液状糊、ハサミ、30cm定規を準備してください。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第13回 | 精神症状検査（高坂）<br>【key words】<br>BPRS、PANSS、SAPS、SANS、SDS<br>【授業概要】<br>・BPRS、PANSSについて解説、一部実施する。<br>・Self-rating Depression Scale（SDS）を自分自身で行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料やインターネット検索から学んでくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第14回 | その他の検査法①（高坂）<br>【key words】<br>職業レディネステスト、新職業性ストレス簡易評価票<br>【授業概要】<br>グループにて、職業レディネステスト、新職業性ストレス簡易評価票を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>各種検査の実施方法について配布資料やインターネット検索から学んでくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第15回 | その他の検査法②（高坂）<br>【key words】<br>SF-36v2、WHODAS 2.0、SMSF、ISDA<br>【授業概要】<br>・ペアにて、SF-36v2を実施する。<br>・ペアにて、気分と疲労のチェックリスト(SMSF)、入院生活チェックリスト（ISDA）を実施する。<br>・補足的にHOWDAS2.0について補足的に解説する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．pp,486-497<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前にインターネットからSMSF、ISDAの評価用紙をダウンロードしておくこと。<br>各種検査の実施方法について配布資料やインターネット検索から学んでくること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |

| | |
|---|---|
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・COVID-19感染状況に応じ、対面またはWebのハイブリット形態で行う。形態は大学の方針に準ずる。<br>・遠隔授業はPCでの受講を推奨する。また、有線LAN、Wi-fi使用下での受講を推奨する。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・遠隔授業は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>・演習や課題作成があるため、積極的に参加すること。<br>【高坂】<br>・原則、授業で提示するスライド資料は印刷しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必要に応じて各自でプリントアウトすること。<br>・授業中の必要事項はノートなどを使用し、記録しておくこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 【山口】コメントカード方式（WEB実施時はWEBポータル上の授業スレッドにコメントを記載）<br>【高坂】コメントカード方式（遠隔・対面に関わらずQRコードを読みWebにコメントをする）<br>【北爪】コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。<br>分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。<br>特に、具体的な評価の実施を |
| オフィスアワー | 【山口】水曜日14:30～16:10は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。<br>【高坂】月曜日14:30～16:10は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | 小テスト及び各種検査実施方法のファイリング、小テスト及び各種検査実施方法のファイリング・本科目を通して学んだことに関するレポートについて、総合的に判断する。課題については山口と高坂から提示する。 |
| 教科書 | 【山口・高坂・北爪】能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院，2017．その他、配布資料<br>【山口】能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学，第2版，医学書院<br>【北爪】田村良子(編):作業療法学全書，改訂第3版，第6巻作業治療学３発達障害，協同医書出版 |
| 参考書 | なし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション画像評価学　　授業コード：20R3P2L208

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・牛込祐樹・新谷益巳・浅野貞美 | | | |
| 作業療法評価学/理学療法評価学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | リハビリテーション治療を効果的かつ安全に根拠に基づいて実践するために画像診断が重要となることを理解できる<br>・画像検査方法の選択として、単純X線やCT、MRI、PRT、骨シンチグラフィーなどの基本メカニズムを説明できる<br>・画像所見から、正常解剖と結びつけて、異常所見を説明できる<br>・中枢神経系疾患と画像所見を結びつけて理解し、予測される症状について説明できる<br>・運動器疾患の異常画像所見から、解剖学や運動学の知識を基に、疾患の背景にある原因や症状を推察できる<br>・呼吸循環器疾患系の異常画像所見から、背景の原因や症状を推察できる |
| 授業の概要 | 医療の現場で用いられる医用画像は，代表的なX線・CT・MRIだけでなくさまざまな種類（モダリティ）がある．それらの機器に関する開発も進んでおり，理学療法士・作業療法士などリハビリテーション専門職にも、画像診断で用いられる情報（画像）を読み解く能力の必要性が問われてきている。<br>本科目では，中枢神経系（第1～2回）・運動器系（第3～6回）・循環呼吸内臓系（第7～8回）に分け、各領域に造詣の深い教員から、画像を理解するための知識とリハビリテーションの実施上知っておくべき事項について、実践的な画像等を用いて理解する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーションと中枢神経系<br>【key words】<br>オリエンテーション、シラバス、画像評価、画像検査法、正常解剖－脳、中枢神経系①CVA<br>【授業概要】<br>・画像評価の必要性（P.2～6）<br>・画像検査法（P.7～13）<br>・正常解剖「脳」（P.16～31）<br>・CVA（P.62～76）<br>以上について学ぶ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>上記の通り<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習では必ず　画像評価の必要性（P.2～6）、画像検査法（P.7～13）、正常解剖「脳」（P.16～31）について　理解をしておくこと。上記内容の確認小テストを講義後に行う<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第2回 | 中枢神経系② |

【key words】
中枢神経系
【授業概要】
頭部外傷、硬膜下血腫、正常圧水頭症、脳腫瘍、感染症、神経変性疾患、認知症、脱髄疾患、脳性麻痺（P.77～111）について学ぶ
上記内容の確認小テストを行う
【教科書ページ・参考文献】
上記の通り
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習と復習が必須となる。特に小テストで得点を取るには予習も必要。
期末筆記試験は、国家試験の過去問題と講義内容から出題する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第3回　運動器系（脊椎・上肢　正常解剖画像）
【key words】
運動器の画像評価、画像検査法、正常解剖-脊椎・上肢
【授業概要】
・画像検査法（P.7～13）
・正常解剖「脊椎」（P.32～37）
・正常解剖「上肢」（P.38～44）
以上について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
上記の通り
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習では必ず　画像評価の必要性（P.2～6）、画像検査法（P.7～13）について　理解をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第4回　運動器系（脊椎・上肢　運動器系疾患画像）
【key words】
運動器の画像評価、画像検査法、運動器系疾患-脊椎・上肢
【授業概要】
・画像検査法（P.7～13）
・運動器系疾患-脊椎（P.１１４～１３９）
・運動器系疾患-上肢（P.１41～１76）
以上について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
上記の通り
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習では必ず　画像評価の必要性（P.2～6）、画像検査法（P.7～13）について　理解をしておくこと。「脊椎・上肢の正常解剖画像」に関する小テストを講義内で実施する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第5回　運動器疾患の画像（下肢）
【key words】
骨折，脱臼，靭帯損傷，壊死
【授業概要】
骨盤を含めた下肢の運動器疾患の画像について理解する.
①変形性股関節症・大腿骨頭壊死
②大腿骨近位部骨折
③膝関節靭帯損傷・半月板損傷
④変形性膝関節症・特発性膝骨壊死
⑤下腿・足関節骨折
上記の①～⑤の画像の見かたから予後との関係，更にリスク管理に加えてどのように練習を進めるかについて説明をします.
授業終了10分前に小テストを行います.
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p177～p221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疾患の基本については事前に予習をして下さい．わからなかった語句などを調べておく必要があります．復習は，講義で話した内容を，ノートを使ってまとめて下さい.
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分程度，復習30分程度.

第6回　運動器系疾患（その他）
【key words】
骨転移，リウマチ，関節炎
【授業概要】
その他の運動器疾患の画像について理解する.
①関節リウマチ
②結晶誘発性関節炎
③可能性関節炎
④異所性骨化
⑤スポーツ障害
上記の①～⑤の画像の見かたから予後との関係，更にリスク管理に加えてどのように練習を進めるかについて説明をします.
授業終了10分前に小テストを行います.
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p224～ｐ227
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疾患の基本については事前に予習をして下さい．わからなかった語句などを調べておく必要があります．復習は，講義で話した内容を，ノートを使ってまとめて下さい.
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分程度，復習30分程度.

| | |
|---|---|
| | 第7回　呼吸器・循環器系①<br>【key words】<br>解剖学、胸部エックス線、CT<br>【授業概要】<br>・読影のファーストステップとして、解剖学（胸部）との対比を学ぶ。<br>・正常と異常所見の違いを学習する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書250～271ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習では呼吸器・循環器系の解剖学について、必ず理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分間<br>第8回　呼吸器・循環器系②<br>【key words】<br>胸部エックス線、CT、画像所見<br>【授業概要】<br>・各疾患の画像読影（間質性肺炎、COPD、気胸、心不全）について学ぶ。<br>・講義後に上記内容の小テストを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書250～271ページ<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習では各疾患の病態について、必ず理解しておくこと。<br>小テストの得点を取るには予習が必要です。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習、復習各30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 本科目は1～2年次の解剖学や神経内科学、臨床医学Ⅱ、一般臨床医学などの知識を基礎として展開される。<br>当然それらの科目について理解できていないと、授業の進度についていくことが難しくなる。<br>受講にあたり、分からない用語などがある場合は、そのままにせずに、自ら主体的に学ぶことが求められる。そのうえで分からない事項があれば、教員に対する質問は随時受け付けているため、積極的に学んでいただきたい。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカードを用いる予定だが、感染状況等でWEBとなった場合、別途の対応を検討する |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各担当教員からの指示に従い、予習復習を勧めること |
| オフィスアワー | 原則は水曜日　16:30～17:30、それ以外は各教員に直接問い合わせれば随時対応可能 |
| 評価方法 | ・授業内課題や小テスト40%（山口・牛込・新谷・浅野で各10%）<br>・期末筆記試験60%(各教員の担当分野から15%)<br>・上記成績が6割を満たさない場合は、出席条件を満たしている場合のみ再試験を設定する |
| 教科書 | 宮越浩一(編)：画像評価，標準PT学･OT学･ST学 別巻，医学書院，2021（ISBN：978-4-260-04267-3） |
| 参考書 | 各教員から随時紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>リハビリテーションで必要となる画像評価について、十分な臨床経験を有する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>■アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法総合評価演習　　授業コード： 2003P2L209

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔・牛込祐樹・小林昭博・柳井明子 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法評価の過程を理解し、対象者理解に必要な情報を入手・整理できるようにする。<br>〔到達目標〕<br>①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。<br>②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。<br>③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。<br>④対象者理解に必要な観察および検査測定の目的が説明でき、計画・実施環境の手配ができる。<br>⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。<br>⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法評価の実施から対象者の全体像理解に至るまでのプロセスを模擬的に経験するために、事例検討に必要な情報が入手できるように働きかけながら学習する主体的学習方法（アクティブラーニング）を用いる。課題提示からグループにて実施方法を検討し、適宜、グループ毎に指導・助言を行う。またクラス全体での発表を通じて、全体的指導を行う。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | コースオリエンテーション／第1事例（作業療法依頼内容）の提示<br>【key words】<br>ICF, COPM, 作業療法評価過程<br><br>【授業概要】<br>・オリエンテーション、ICF、COPM、作業療法介入プロセスモデル本科目で学習することを明らかにする。<br>・作業療法における評価の位置づけについて理解を深める。<br>・作業療法評価を構造的に捉えるための視点について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①配付資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>PPTによる講義、グループ分け。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 対象者理解のための手立てを検討・実施<br>【key words】<br>作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション<br><br>【授業概要】<br>・事例（作業療法依頼内容）の提示。<br>・依頼内容から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①随時必要資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。<br>【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 対象者理解のための手立てを検討・実施<br>【key words】<br>作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション<br><br>【授業概要】<br>・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。 |

【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　対象者の全体像を作成
【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第2回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　対象者の全体像を発表／フィードバック
【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，事例報告

【授業概要】
・グループでまとめた全体像を発表する。
・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　第2事例の提示：対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，評価計画，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・事例の提示。
・事例から必要な情報を読み取り、評価計画を立案する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。グループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第９回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集を進める。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献を用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１０回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴内容を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１１回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１２回　対象者理解のための手立てを検討・実施
【key words】
作業療法評価過程，情報収集，検査測定，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。
【課題】対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１３回　対象者の全体像を作成
【key words】
作業療法評価過程，全体像，模擬事例，ディスカッション

【授業概要】
・第8回で立案した評価計画に基づき、各グループで情報収集、検査測定を進める。
・必要に応じて評価計画を修正する。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。動画視聴を元にグループによるディスカッション。対象者理解のための手立てを検討し、随時指導者（教員）へ報告・相談を行う。次回の発表準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第１４回　対象者の全体像を発表／フィードバックおよび総括
【key words】
作業療法評価過程，模擬事例，事例報告，ディスカッション

【授業概要】
・グループでまとめた全体像を発表する。
・発表に関して意見交換を行い、情報共有を行う。
・指導者（教員）より総括。
【教科書ページ・参考文献】
・随時必要資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【授業準備】事例検討に必要な文献や評価マニュアルを用意する。発表、質疑応答、期末課題レ

| | |
|---|---|
| | ポートについて説明<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１５回　口頭試問<br>【key words】<br>作業療法評価過程，模擬事例，事例報告，ディスカッション<br><br>【授業概要】<br>・第1、2事例を通して得られた内容について口頭試問を行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・授業資料の持ち込み可。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【授業準備】各自グループで共有した資料を整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォン（調べ学習以外の用途）は机上に出さない。<br>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | グループ内での役割分担を遂行できるよう、各自学習が必要となる。対象者理解のために必要な情報、知識は、これまでに学んだことの復習だけでなく、新たな知識、学内で教わっていない部分も多々あるので、自ら積極的な学習が求められる。 |
| オフィスアワー | 月曜日の8時50分～10時20分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。 |
| 評価方法 | レポート・口頭試問(60%)、演習課題(40%)により総合的に評価する。 |
| 教科書 | なし。随時必要資料を配布する。 |
| 参考書 | 随時紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士経験　17年<br>作業療法士養成校教員経験　13年<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>■その他<br>その他の具体的内容<br>ビデオ演習を活用した自主学習支援 |

講義科目名称： Basic OSCE (OT)　　授業コード：2203P2L263

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(45) | 自由選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小林昭博　作業療法専攻教員 | | | |
| 作業療法評価学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>・客観的臨床能力試験（OSCE）で求められるスキルを獲得し、臨床実習で必要な能力を体験的に習得する。<br>・作業療法実施時の知識と技術の習得状況を確認し、作業療法学の臨床レベルを保証する。<br>[到達目標]<br>①実習を含めた臨床場面に要求されているコミュニケーション能力や評価技術を獲得できる。<br>②これまでに修得した検査測定技術を高め、結果を解釈することができる。<br>③動作の問題点と評価結果のつながりについて考えることができる。<br>④対象者を尊重し、共感的態度を持ち、より良い人間関係を構築できる。 |
| 授業の概要 | ・臨床実習に向け、コミュニケーション能力を含めた評価技術や医療人としての態度を学ぶ。<br>・各評価におけるリスクと安全に評価を習得し、疾患に応じた各評価、介助法、面談方法等のOSCEを実施する。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション・リスク管理①標準予防策（スタンダードプリコーション）、患者誤認防止<br>【key words】<br>OSCE、標準予防策、患者誤認防止<br>【授業概要】<br>OSCEの概要、実施方法、標準予防策（スタンダードプリコーション）、患者誤認防止について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp2－14、pp16－20、pp21<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、OSCE、標準予防策、患者誤認防止について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第2回 | リスク管理②（転倒予防）<br>【key words】<br>転倒予防<br>【授業概要】<br>リスク管理（転倒予防）について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp22－26<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、転倒予防について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第3回 | リスク管理③（点滴、カテーテル管理）・コミュニケーション技法<br>【key words】<br>点滴、カテーテル管理、位置関係、視線の高さ、傾聴<br>【授業概要】<br>リスク管理（点滴、カテーテル管理）、コミュニケーション技法について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp27－34、pp35－43<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、点滴、カテーテル管理、コミュニケーション技法について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第4回 | 寝返り、起き上がり評価<br>【key words】<br>寝返り、起き上がり<br>【授業概要】<br>寝返り、起き上がり方法について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp66－69<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、寝返り、起き上がりについて十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第5回 | 車椅子の駆動・移乗介助<br>【key words】<br>車椅子、駆動、移乗介助<br>【授業概要】<br>車椅子駆動、移乗介助について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp81－118<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、車椅子駆動・移乗介助について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第6回 | ROM測定<br>【key words】<br>ROM<br>【授業概要】<br>ROM測定について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp172－193<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、ROM測定について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第7回 | MMT測定<br>【key words】<br>MMT<br>【授業概要】<br>MMT測定について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp194－226<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、MMT測定について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第8回 | 脳卒中の麻痺側運動機能の評価<br>【key words】<br>Brunnstrom　stage、SIAS<br>【授業概要】<br>麻痺側運動機能の評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp312－330<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、麻痺側運動機能の評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第9回 | 感覚検査<br>【key words】<br>表在感覚、深部感覚、複合感覚<br>【授業概要】<br>感覚検査について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp275－290<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、感覚検査について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第10回 | バイタルサイン（脈拍と血圧測定）<br>【key words】<br>バイタルサイン、脈拍、血圧<br>【授業概要】<br>脈拍と血圧測定について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp140－156<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、脈拍と血圧測定について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第11回 | HDS-R＆MMSE<br>【key words】<br>HDS-R、MMSE<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | HDS-R&MMSEについて症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書①pp446－447<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、HDS-R&MMSEについて十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第12回 | 療法士面接<br>【key words】<br>面接、コミュニケーション<br>【授業概要】<br>療法士面接について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp120－127<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、療法士面接、コミュニケーション技能について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第13回 | ADL評価（更衣）<br>【key words】<br>ADL、更衣<br>【授業概要】<br>更衣評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp121－138<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、更衣評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第14回 | 実技試験<br>【key words】<br>実技テスト<br>【授業概要】<br>実技試験を行なう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第1回～第13回までの復習を行なっておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第15回 | 実技試験<br>【key words】<br>実技テスト<br>【授業概要】<br>実技試験を行なう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第1回～第13回までの復習を行なっておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第16回 | 坐位バランスの評価<br>【key words】<br>バランス、静的姿勢保持、支持基底面、外乱<br>【授業概要】<br>坐位バランスの評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書①pp144－150<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、坐位バランス評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第17回 | 立位バランスの評価<br>【key words】<br>バランス、静的姿勢保持、支持基底面、外乱<br>【授業概要】<br>立位バランスの評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書pp370－381<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、立位バランス評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| | 第18回 | 立ち上がり・着座評価<br>【key words】<br>立ち上がり、着座<br>【授業概要】<br>立ち上がり、着座評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp70－73<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書を読み、立ち上がり、着座評価について十分に理解すること。 |

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第19回　反射検査（腱反射・病的反射）

【key words】
腱反射、病的反射
【授業概要】
腱反射、病的反射について症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp291－301
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読み、反射検査について十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第20回　運動失調検査

【key words】
小脳性運動失調、脊髄性運動失調
【授業概要】
運動失調検査について症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp356－369
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読み、運動失調評価について十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第21回　STEF、MFT

【key words】
STEF、MFT
【授業概要】
STEF、MFTについて症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書①pp205－208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書を読み、STEF、MFTについて十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第22回　BIT

【key words】
BIT
【授業概要】
BITについて症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書pp460
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書を読み、BITについて十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第23回　コース立方体組み合わせテスト

【key words】
コース立方体組み合わせテスト
【授業概要】
コース立方体組み合わせテストについて症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書①pp493
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書を読み、コース立方体組み合わせテストについて十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第24回　ADL評価（食事）

【key words】
ADL、食事
【授業概要】
食事評価について症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書③pp83－103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書を読み、食事評価について十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第25回　ADL評価（整容）

【key words】
ADL、整容
【授業概要】
整容評価について症例を通じて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考書③pp104－120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書を読み、整容評価について十分に理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分/復習60分

第26回　ADL評価（排泄）

【key words】

| | |
|---|---|
| | ADL、排泄<br>【授業概要】<br>排泄評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp139－157<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、排泄評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分<br>第27回　ADL評価（入浴）<br>【key words】<br>ADL、入浴<br>【授業概要】<br>入浴評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp158－170<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、入浴評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分<br>第28回　APDL評価（調理）<br>【key words】<br>APDL、調理<br>【授業概要】<br>調理評価について症例を通じて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>参考書③pp181－194<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>参考書を読み、調理評価について十分に理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分<br>第29回　実技試験<br>【key words】<br>実技テスト<br>【授業概要】<br>実技試験を行なう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第16回～第28回までの復習を行なっておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分<br>第30回　実技試験<br>【key words】<br>実技テスト<br>【授業概要】<br>実技試験を行なう。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>第16回～第28回までの復習を行なっておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習60分/復習60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・実技を主とする科目のため、これまでに学習してきた知識を復習した上で参加すること。<br>・予習及び復習を行なうこと。<br>・実習に出られる身だしなみ、感染対策をしっかりすること（ケーシー着用、手洗い、フェイスガード）。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメント・カードの用紙を配布するか、コメント用のgoogleフォームのURLを掲示するので、記載する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行なうこと。 |
| オフィスアワー | [小林]月曜日16時30分～17時30分は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 実技試験100％ |
| 教科書 | 才藤栄一監修　PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編．第2版補訂版　金原出版 |
| 参考書 | ①能登真一他　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版．医学書院<br>②濱口豊太　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法　臨床実習とケーススタディ　第3版．医学書院<br>③濱口豊太　編：標準作業療法学　専門分野　作業療法　日常生活活動・社会生活行為学　第1版．医学書院<br>④岡田慎一郎　他：理学療法　臨床実習サポートブック．医学書院 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。 |

| | |
|---|---|
| | アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 治療学演習Ⅰ　　授業コード： 2003P2M210

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・遠藤真史 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①各疾患における生活課題と作業療法の目的について理解・説明できる。<br>②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。<br>③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。<br>④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。<br>⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。<br>⑥精神障害者に対する生活移行（定着）支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション／精神障害に対する作業療法①（高坂）<br>【key words】<br>疾患別作業療法、精神障害<br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション<br>・グループに分かれ、精神障害者に対する作業療法介入法等について、調べる、考える、まとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>香山明美他（編著）：生活を支援する精神障害作業療法 第2版，pp,260-305<br>医療情報科学研究所（編集）：クエスチョン・バンク作業療法士　国家試験問題解説　2023専門問題<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>＜準備＞Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること。疾患の特性、作業療法場面でみられる行動特徴、対応、治療・指導・援助例を十分に調べること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第２回 | 精神障害に対する作業療法②（高坂）<br>【key words】<br>疾患別作業療法、精神障害<br>【授業概要】<br>・グループに分かれ、精神障害者に対する作業療法介入法等について、調べる、考える、まとめる。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>香山明美他（編著）：生活を支援する精神障害作業療法 第2版，pp,260-305<br>医療情報科学研究所（編集）：クエスチョン・バンク作業療法士　国家試験問題解説　2023専門問題<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>＜準備＞Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること。疾患の特性、作業療法場面でみられる行動特徴、対応、治療・指導・援助例を十分に調べること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第３回 | 精神障害に対する作業療法③（高坂）<br>【key words】<br>統合失調症、薬物依存症、摂食障害、パーソナリティ障害 |

【授業概要】
・グループごとに、精神障害者に対する作業療法介入法等について発表する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜提出物＞各グループとも次回の授業の2日前17時30分までに発表資料をWebポータルへ提出すること。
＜復習＞国家試験や臨床実習に直結する内容であるため、十分に復習しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第４回　精神障害に対する作業療法④（高坂）
【key words】
気分障害、不安症（強迫症、解離症、転換症）、てんかん
【授業概要】
・グループごとに、精神障害者に対する作業療法介入法等について発表する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜復習＞国家試験や臨床実習に直結する内容であるため、十分に復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第５回　作業療法理論を基盤にした介入（高坂）
【key words】
OTIPM、CMCE、可能化の技能、コーチング、ティーチング
【授業概要】
・作業療法プロセス、可能化の技能について学ぶ。
・コーチングとティーチングについて学ぶ・実演する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書や各種関連書、文献を参考にする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに、グループとして得たい情報（質問事項）をすべてまとめてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　作業療法に関連する介入法①（高坂）
【key words】
ストレス、基本的生活習慣（食事・睡眠・運動）、ストレスコーピング、マインドフルネス
【授業概要】
・情動焦点型、問題解決型のストレスコーピング方法について学ぶ・実演する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜予習＞上記キーワードの概要について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第７回　作業療法に関連する介入法②（高坂）
【key words】
認知行動療法、社会生活スキルトレーニング（SST）、アンガーマネジメント、アサーション
【授業概要】
・認知行動療法を基盤とした治療法について学ぶ・実演する。
・アサーションについて学ぶ・実演する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜予習＞上記キーワードの概要について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第８回　作業療法に関連する介入法③（高坂）
【key words】
認知リハビリテーション、MCT、SCIT、NEAR、VCAT-J
【授業概要】
・認知リハビリテーション及びMCT-Jの概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜予習＞上記キーワードの概要について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第９回　精神障がい者に対する就労支援（高坂）
【key words】
障害者総合支援法、就労移行支援、就労継続支援、職業準備性、Assertive Community Treatment、Individual Placement and Support
【授業概要】
・就労支援の流れと事例に基づく支援方法、環境設定について学ぶ。
・ACTとIPSの取り組みについて概要を知る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
＜予習＞上記キーワードの概要について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第１０回　地域における精神障害リハビリテーション（高坂）

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>オープンダイアローグ、セルフヘルプグループ、ピアサポート、自殺予防<br><br>【授業概要】<br>・オープンダイアローグの取り組みの概要について<br>・ピアサポートの概要について<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１１回　精神障害領域における作業療法介入・研究（高坂）<br>【key words】<br>健康、作業、MTDLP、統合失調症、個別的作業療法<br>【授業概要】<br>・統合失調症者に対する個別的作業療法の効果について先行研究に基づき学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>介入研究に関わる用語等で不明な点は調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１２回　司法精神医療における作業療法（外部講師）<br>【key words】<br>医療観察法、指定入（通）院医療、anger management、MDT<br><br>【授業概要】<br>・医療観察法の概要と指定入院(通院)医療について<br>・指定入院(通院)医療機関の役割とOTプログラムについて<br>・司法精神医療に関する動画の視聴<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：上記キーワードについて調べて理解しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１３回　精神障害者の地域移行支援、定着支援①（遠藤）<br>【key words】<br>ケアマネジメント、長期入院者<br>【授業概要】<br>・精神障害者を取り巻く動向<br>・事例検討会<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事前課題：精神障害者に関わる前橋市の社会資源（制度、各種事業所等）についてまとめてくること。<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１４回　精神障害者の地域移行支援、定着支援②（遠藤）<br>【key words】<br>長期入院者、地域移行、地域定着<br>【授業概要】<br>・仮想事例Aに対するケアマネジメント<br>・退院準備<br>・退院後支援<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第１５回　精神障害者のケアマネジメント（遠藤）<br>【key words】<br>ケアマネジメント<br>【授業概要】<br>長期入院者に対するケアマネジメント<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>精神障害者の地域移行支援やその方法について、よく復習しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・原則、授業で提示するスライド資料は印刷配布しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必要に応じて各自でプリントアウトすること。<br>・授業中の必要事項はノートや配布資料などに記録しておくこと。<br>・予習復習をしっかりする。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。 |

| | |
|---|---|
| | ・遠藤先生及び外部講師の先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤～終盤で実施予定である。<br>・外部講師との日程調整上、授業の順序が入れ替わる場合がある。<br>〔受講のルール〕<br>・講義は極力欠席のないようにする。<br>・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。<br>・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 月曜日17:00～18:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □疾患別発表資料　20%　発表　20%<br>□ペーパー試験　60% |
| 教科書 | ①香山明美他：生活を支援する　精神障害作業療法―急性期から地域実践まで―，第2版，医歯薬出版，2014. |
| 参考書 | ①医療情報科学研究所（編集）：クエスチョン・バンク作業療法士　国家試験問題解説　2023専門問題．メディックメディア，2022<br>②日本行動医学会（編）：行動医学テキスト，2015.<br>③諏訪茂樹：コミュニケーション・トレーニング 改訂新版，2012<br>④Ann G. Fisher(著)，斎藤さわ子，吉川ひろみ（監訳）：作業療法介入プロセスモデル<br>⑤John Whitmore（著），清川幸美（訳）：はじめてのコーチング 本物の「やる気を引き出すコミュニケーションスキル」，2003<br>⑥Elizabeth Townsend他（編著），吉川ひろみ他（監訳）：作業療法の視点 続 作業を通しての健康と公正，2011<br>⑦芳賀大輔他（編集）：ゼロから始める就労支援ガイドブック，2022 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 治療学演習Ⅱ　　授業コード： 2003P2M211

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷忠彦 | | | |
| 作業療法評価学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修科目 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>身体障害領域の作業療法で実施される応用的で実践的な評価・介入を演習形式で学び、臨床実践で求められる知識、技術、思考力、判断力を修得する。<br>〔到達目標〕<br>①身体障害領域の作業療法で実施される応用的で実践的な評価・介入の種類と特徴を説明できる。<br>②身体障害領域の作業療法で実施される応用的で実践的な評価・介入の手技と手法を実施できる。<br>③身体障害領域における作業療法の対象者の特性を理解し説明できる。<br>④身体障害領域における作業療法の専門性を理解し説明できる。 |
| 授業の概要 | 身体障害領域の作業療法で実施される応用的で実践的な評価・介入を演習形式で学び、臨床実践で求められる知識、技術、思考力、判断力を修得する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 授業オリエンテーション、姿勢の評価と訓練への応用　(1)姿勢評価と訓練の概論<br>【key words】<br>姿勢　評価<br>【授業概要】<br>姿勢評価の基礎知識と手技・手法を学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第1回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第2回 | 姿勢の評価と訓練への応用　(2)背臥位<br>【key words】<br>背臥位姿勢　評価<br>【授業概要】<br>背臥位姿勢を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第2回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第3回 | 姿勢の評価と訓練への応用　(3)座位<br>【key words】<br>座位姿勢　評価<br>【授業概要】<br>座位姿勢を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。 |

【復習】
第3回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第4回　姿勢の評価と訓練への応用　(4)立位
【key words】
立位姿勢　評価
【授業概要】
立位姿勢を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第4回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第5回　基本動作の評価と訓練への応用　(1)寝返り動作
【key words】
基本動作　動作分析
【授業概要】
寝返り動作を評価する手技・手法と座位訓練への応用について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第5回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第6回　基本動作の評価と訓練への応用　(2)起き上がり動作
【key words】
基本動作　動作分析
【授業概要】
起き上がり動作を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第6回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第7回　基本動作の評価と訓練への応用　(3)座位保持、座位訓練
【key words】
基本動作　動作分析
【授業概要】
座位保持能力を評価する手技・手法と座位訓練への応用について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第7回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第8回　基本動作の評価と訓練への応用　(4)立ち上がり動作
【key words】
基本動作　動作分析
【授業概要】
立ち上がり動作を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第8回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

| | | |
|---|---|---|
| | 第9回 | 基本動作の評価と訓練への応用　(5)立位保持・立位訓練<br>【key words】<br>基本動作　動作分析<br>【授業概要】<br>立位保持能力を評価する手技・手法と立位訓練への応用について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第9回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第10回 | 基本動作の評価と訓練への応用　(6)床からの立ち上がり動作<br>【key words】<br>基本動作　動作分析<br>【授業概要】<br>床からの立ち上がり動作を評価する手技・手法と訓練への応用について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第10回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第11回 | 基本動作の評価と訓練への応用　(7)歩行<br>【key words】<br>基本動作　動作分析<br>【授業概要】<br>歩行を評価する手技・手法と歩行訓練への応用について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第11回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第12回 | 脳血管障害患者の姿勢・動作の評価と治療　(1)姿勢・動作の特徴と障害像<br>【key words】<br>脳血管障害　姿勢　動作分析<br>【授業概要】<br>脳血管障害患者の特徴的な姿勢・動作と障害像について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第12回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第13回 | 脳血管障害患者の姿勢・動作の評価と治療　(2)姿勢・動作の評価と治療<br>【key words】<br>脳血管障害　姿勢　動作分析<br>【授業概要】<br>脳血管障害患者の姿勢・動作の評価と治療について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第13回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第14回 | 上肢機能の評価と介入　(1)上肢の構造、機能、役割<br>【key words】<br>上肢機能<br>【授業概要】<br>上肢の構造、機能、役割と上肢機能訓練の基礎知識を学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。 |

| | |
|---|---|
| | 【復習】<br>第14回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第15回　上肢機能の評価と介入　(2)上肢機能訓練<br>【key words】<br>上肢機能<br>【授業概要】<br>上肢機能訓練の種類と特徴、具体的な手技・手法について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第15回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 身体障害領域の作業療法に関する学びを深めるため、演習のなかで理解が難しかった内容や疑問に思った内容は積極的に教員へ質問してください。<br>治療学演習Ⅱは全ての演習（第1回～第15回）へ出席することが原則です。やむを得ない事由によって欠席する場合は、演習の開始前に担当教員へ必ず連絡してください。事前の連絡が困難な状況においては、できる限り速やかに連絡してください。欠席の事由が正当と判断された場合のみ，欠席した授業の内容を補習や追加課題によって学ぶことができるよう配慮します。無断で欠席をした場合や，欠席の事由が正当でないと判断された場合は、期末試験の受験を認めません。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード、WEBポータルのスレッド、googleフォームなどのWEBシステムを活用し、毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況を確認します。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業で，次回の授業へ向けた準備と予習のポイントについて具体的に説明します。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：00～17：30 |
| 評価方法 | 授業内小テスト･課題･発表など50％、期末試験50％ |
| 教科書 | 毎回の授業で資料を配付します。 |
| 参考書 | 毎回の授業で適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士として病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業等における実務に長く従事した教員が演習を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 運動器障害作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M212

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>作業療法士として必要な、運動器障害に対する基本的な知識や作業療法の流れについて学ぶ。<br>〔到達目標〕<br>①運動器障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。<br>②治療上使用する運動療法や物理療法について、基本的な知識を習得できる。<br>③運動器障害における各種疾患や障害に対して、具体的な作業療法を実践できる。 |
| 授業の概要 | 本講義では身体障害領域における運動器障害に対する作業療法を実践するために必要な知識･技術を学習する。<br>運動器障害に対して行われる作業療法の基本的な治療・支援（関節可動域訓練、筋力増強訓練、知覚再教育、物理療法等）について学ぶ。<br>また、各種運動器障害（骨折、腱板損傷、腱損傷、末梢神経障害、関節リウマチ、熱傷、CRPS等）における評価から治療・支援について、実際に行われる作業療法学習する。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／（治療・支援の基礎）関節可動域訓練　拘縮の鑑別<br>【key words】<br>科目オリエンテーション、関節可動域訓練、拘縮の鑑別<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーションと科目の位置づけ、シラバスの説明を行う。<br>治療・支援の基礎として、関節可動域訓練の基礎を学ぶ。<br>また、関節可動域訓練を実施するにあたり、必要となる拘縮の鑑別について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：１-3 治療学概論　身体障害における治療・援助<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | （治療・支援の基礎）関節可動域訓練／物理療法<br>【key words】<br>関節可動域訓練、物理療法<br>【授業概要】<br>治療・支援の基礎として、関節可動域訓練の基礎と実践を学ぶ。<br>治療・支援の基礎として、物理療法の基礎と実践を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：１-3 治療学概論　身体障害における治療・援助<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | （治療・支援の基礎）筋力増強訓練<br>【key words】<br>筋力増強訓練<br>【授業概要】<br>治療・支援の基礎として、筋力増強訓練の基礎と実践を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：１-3 治療学概論　身体障害における治療・援助<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第４回 | （治療・支援の基礎）知覚再教育<br>【key words】<br>作業療法、知覚再教育<br>【授業概要】<br>治療・支援の基礎として、知覚再教育の基礎と実践を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：１-3 治療学概論　身体障害における治療・援助<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第５回 | （運動器障害各論）骨折における作業療法の基礎<br>【key words】<br>作業療法、骨折<br>【授業概要】<br>骨折における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br>第1～4回の授業内容について、小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-3 疾患別作業療法（整形外科系）　手の骨折<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第６回 | （運動器障害各論）肩甲帯・肩関節の骨折／腱板損傷における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、鎖骨骨折、上腕骨近位部骨折、上腕骨骨幹部骨折、腱板損傷<br>【授業概要】<br>肩甲帯・上腕骨の骨折／腱板損傷における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-3 疾患別作業療法（整形外科系）　手の骨折<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第７回 | （運動器障害各論）肘関節の骨折／手指の骨折における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、上腕骨顆上骨折、肘頭骨折、橈骨頭骨折、手指骨折<br>【授業概要】<br>肘関節の骨折における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-3 疾患別作業療法（整形外科系）　手の骨折<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第８回 | （運動器障害各論）手関節の骨折における作業療法　事例検討<br>【key words】<br>作業療法、橈骨遠位骨折、事例検討<br>【授業概要】<br>手関節・手指の骨折における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>事例検討を実施し、手関節骨折のプログラムについて検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-3 疾患別作業療法（整形外科系）　手の骨折<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第９回 | （運動器障害各論）大腿骨頸部骨折／腰椎圧迫骨折における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折<br>【授業概要】<br>大腿骨頸部骨折／腰椎圧迫骨折における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>指定なし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第１０回 | （運動器障害各論）腱損傷における作業療法の基礎<br>【key words】<br>作業療法、腱損傷 |

| | |
|---|---|
| | 【授業概要】<br>腱損傷における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br>第５～９回の授業内容について、小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-4 疾患別作業療法（整形外科系）　手指屈筋腱損傷<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１１回　（運動器障害各論）腱損傷における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、腱損傷、事例検討<br>【授業概要】<br>腱損傷における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-4 疾患別作業療法（整形外科系）　手指屈筋腱損傷<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１２回　（運動器障害各論）末梢神経障害における作業療法の基礎<br>【key words】<br>作業療法、知覚再教育、末梢神経障害<br>【授業概要】<br>末梢神経障害における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-5 疾患別作業療法（整形外科系）　手の末梢神経損傷<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１３回　（運動器障害各論）末梢神経障害における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、末梢神経障害<br>【授業概要】<br>末梢神経障害における作業療法として、治療・支援の実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-5 疾患別作業療法（整形外科系）　手の末梢神経損傷<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１４回　（運動器障害各論）関節リウマチにおける作業療法<br>【key words】<br>作業療法、関節リウマチ<br>【授業概要】<br>関節リウマチにおける作業療法として、評価から治療・支援の基礎と実践について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：4-3 疾患別作業療法（循環器・呼吸器疾患・膠原病）　関節リウマチ（rheumatoid arthritis：RA）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１５回　（運動器障害各論）熱傷における作業療法<br>【key words】<br>作業療法、熱傷<br>【授業概要】<br>熱傷における作業療法として、評価から治療・支援の基礎と実践について学ぶ。<br>第10～14回の授業内容について、小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：3-8 疾患別作業療法（整形外科系）　熱傷<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する | シャトルカード方式 |

| | |
|---|---|
| 質問や学習の進捗状況の確認方法 | |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について理解できるように復習しておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験 60%<br>□小テスト 30%<br>□事例検討 １0%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする。<br>＊ただし、筆記試験60%のうち36%に到達してない場合は、合計の基準を満たしたとしても単位付与の基準に到達していないものとみなす。 |
| 教科書 | 長﨑重信　編　『作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　身体障害作業療法学』　メジカルビュー社(第3版) |
| 参考書 | 菅原洋子　編　『作業療法全書　作業療法治療学1　身体障害』　協同医書出版社<br>山口昇／玉垣努　編　『標準作業療法学　身体機能作業療法学』　医学書院　（第3版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 内部障害作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M213

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・非常勤講師 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>内部障害について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①内部障害の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。<br>②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。<br>③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。<br>④喀痰吸引の方法と理解し、実技として実践できる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の対象となる内部障害について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション／内部障害における作業療法の基礎<br>【key words】<br>内部障害、作業療法、治療・支援<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーションと科目の位置づけ、シラバスの説明を行う。<br>内部障害における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：４疾患別作業療法（循環器・呼吸器疾患・膠原病）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 心疾患における作業療法<br>【key words】<br>心疾患、作業療法、治療・支援<br>【授業概要】<br>心疾患における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：４疾患別作業療法（循環器・呼吸器疾患・膠原病）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 呼吸器疾患における作業療法<br>【key words】<br>呼吸器疾患、作業療法、治療・支援<br>【授業概要】<br>呼吸器疾患における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：４疾患別作業療法（循環器・呼吸器疾患・膠原病）<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 |

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第４回　がんにおける作業療法

【key words】
がん、作業療法、治療・支援
【授業概要】
がんにおける作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：４疾患別作業療法（変性疾患・難病・ターミナルケア・廃用症候群）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
授業終了後にレポート課題を提示する。

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第５回　腎疾患における作業療法

【key words】
腎疾患、作業療法、治療・支援
【授業概要】
腎疾患における作業療法として、評価から治療・支援の基礎について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第６回　内部障害における作業療法　事例検討

【key words】
内部障害、作業療法、治療・支援、事例検討
【授業概要】
内部障害における作業療法として、評価から治療・支援について、事例検討を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学：４疾患別作業療法（循環器・呼吸器疾患・膠原病）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第７回　喀痰吸引①

【key words】
喀痰吸引

【授業概要】
喀痰吸引について、実技を通して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第８回　喀痰吸引②

【key words】
喀痰吸引
【授業概要】
喀痰吸引について、実技を通して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
指定なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・実技を行う際は、学校指定のジャージを着用して授業に臨むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について理解できるように復習しておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験 50%<br>□事例検討 25%<br>□レポート 25% |
| 教科書 | ①長崎重信　監：作業療法学 ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学　第2版．メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①標準作業療法学専門分野　身体機能作業療法学　第3版．医学書院，2018<br>②菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br><br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として運動機能評価を行っていた経験が科目内で活かされている。<br><br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等)<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 精神機能作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M214

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿・遠藤真史 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| 学籍番号_精神機能作業療法治療学ワークシート.docx | 予復習に必要なワークシート。使用するPCなどにDLしておきましょう。 | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。<br>②精神科領域における作業療法評価（情報収集・観察・面接・集団）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。<br>③精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。<br>④精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。<br>⑤地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。 |
| 授業の概要 | 精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要となる基礎知識に関して学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション／精神保健医療福祉の動向<br>【key words】<br>癲狂院、私宅監置、宇都宮事件、精神保健福祉法、障害者自立支援法<br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション<br>・精神保健医療福祉の動向<br>【教科書ページ・参考文献】<br>香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.2-6<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】上記キーワードについて調べ、概要を理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第2回 | 早期退院・退院支援と地域生活支援<br>【key words】<br>脱施設化、精神科救急、病床の機能分化、在院長期化防止、退院促進、ACT<br>【授業概要】<br>早期退院・退院支援と地域生活支援<br>【教科書ページ・参考文献】<br>香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.7-11<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第3回 | 作業療法士の役割と課題<br>【key words】<br>保護者制度、回復モデル、リカバリー・モデル、エンパワメント・アプローチ、ストレングスモデル<br>【授業概要】<br>・作業療法士の役割と課題<br>・その人らしい生活を支援する視点<br>・個別性と主体性<br>【教科書ページ・参考文献】 |

香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.12-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第4回　急性期の作業療法①
【key words】
病期、早期介入、（亜）急性期の状態像
【授業概要】
・疾病とその回復過程
・早期介入の考え方
・急性期の状態像の理解

【教科書ページ・参考文献】
香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.31-35,60-69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第5回　急性期の作業療法②
【key words】
（亜）急性期の作業療法の目的、評価指標、心理教育、多職種連携、家族教育
【授業概要】
・急性期の作業療法
・回復状態の評価指標
・急性期の心理教育
・急性期の連携のポイント
【教科書ページ・参考文献】
香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.70-131
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第6回　回復期・維持期の作業療法
【key words】
回復期・維持期の作業療法の目的、ケアマネジメント、退院促進プログラム、家族支援
【授業概要】
・回復期・維持期の状態像
・退院支援の基本的な考え方とアプローチの留意点
・退院促進と退院支援の実際
・退院支援における家族支援
【教科書ページ・参考文献】
香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.134-166
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第7回　精神機能作業療法評価の基礎(情報収集)
【key words】
情報収集、量・質的評価、横・縦断的評価、トップダウンアプローチ
【授業概要】
・OT評価の目的
・OT評価時の留意点
・OT評価の方法
・OT評価の流れ
・OT評価で扱う情報
・情報収集の方法
【教科書ページ・参考文献】
標準 OT評価学（第3版）pp.474-477
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第8回　精神機能作業療法評価の基礎(観察法)
【key words】
作業観察、自然観察法、実験観察法
【授業概要】
・観察の目的と留意点
・観察の方法
・作業観察を行ってみる
【教科書ページ・参考文献】
標準OT評価学（第3版）pp.478-482
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。
※次回講義時に、スマホとイヤホンを持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第9回　精神機能作業療法評価の基礎(面接法)①
【key words】
構造化面接、面接の手順、面接事項、環境設定
【授業概要】
・面接の目的と留意点

| | |
|---|---|
| | ・面接の実施方式について<br>・面接の手順について<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>標準OT評価学（第3版）　pp.482-485<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 第10回 | 精神機能作業療法評価の基礎(面接法)②<br>【key words】<br>うなずき・相づち、繰り返し、傾聴姿勢、要約、共感<br>【授業概要】<br>支援者のための面接やコミュニケーション技法について演習を交えて学ぶ・体験する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】上記キーワードについて、不明な用語等は調べ、理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 第11回 | 精神機能作業療法評価の基礎(集団評価法)<br>【key words】<br>集団評価、集団構造、集団レベル、集団適応、集団凝集性、集団力動<br>【授業概要】<br>・集団とは<br>・集団構造・評価<br>・評価に活用するデータ<br>【教科書ページ・参考文献】<br>標準OT評価法（第3版）pp.498-504<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 第12回 | 地域生活支援の在り方と実際<br>【key words】<br>地域生活支援、再発予防、ケアマネジメント、多職種連携<br>【授業概要】<br>・地域生活支援における再発予防のためのかかわり方<br>・地域におけるケアマネジメントの展開<br>・地域生活支援における連携のポイント<br>【教科書ページ・参考文献】<br>香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法，第2版．医歯薬出版株式会社，pp.174-187<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習】ワークシートの予習部分を行い、不明な用語等は調べ、理解すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 第13回 | 障害者の地域生活支援における地域分析の方法と見方（遠藤）<br>【key words】<br>地域生活支援、地域分析、まちづくり<br>【授業概要】<br>社会資源の整理と分析方法について触れ、地域生活支援に必要な視点について学ぶ。講義および演習<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>なし<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 第14回 | 障害者の自立支援に必要なまちづくり（遠藤）<br>【key words】<br>まちづくり、参加<br>【授業概要】<br>支え合いまちづくりマップの作成<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>なし<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 第15回 | 精神障害者の地域生活支援とまちづくり（遠藤）<br>【key words】<br>支え合いマップ、参加<br>【授業概要】<br>グループワーク発表、事例に触れ生活支援について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>フォーマル、インフォーマルの資源を活用した多様な暮らし、生活を考える。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・原則、授業で提示するスライド資料は印刷しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必 |

| | |
|---|---|
| | 要に応じて各自でプリントアウトすること。<br>・ワークシートはダウンロードし、使用するPCやタブレットに保存しておくこと。<br>・授業の際は、PCまたはタブレットを持参し、ワークシートに学習の記録を打ち込んでおくこと。<br>ワークシートは授業終了時に提出する。<br>・授業中の説明はノートや配布資料などに記録しておくこと。<br>・作業療法実践の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。<br>・成績評価の方法はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・必ずワークシートを用いて予習を行い、グループワークに主体的に参加すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため、極力休まないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。<br>分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておくこと。 |
| オフィスアワー | 月曜日14:40～16:10は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □筆記試験　40%<br>□提出課題　40%（ワークシート。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）<br>□グループワーク参加（自己評価、他者評価）　20% |
| 教科書 | 香山明美他：生活を支援する精神障害作業療法　第2版，医歯薬出版株式会社，2014.<br>能登真一他：標準作業療法学　作業療法評価学　第3版，医学書院，2017.<br>WHO：国際生活機能分類，中央法規，2002. |
| 参考書 | 冨岡詔子他：作業療法学全書　改訂第3版　精神障害，協同医書出版社，2010.<br>井上新平他：精神科退院支援ハンドブック，ガイドラインと実践的アプローチ，医学書院，2011.<br>日本作業療法士協会：作業療法マニュアル41 精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム，2011. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 発達過程作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M215

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 北爪浩美・六本木温子・柳井明子 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることがで出来るようになる事を目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①発達過程作業療法の対象疾患、対象児、実践の場について理解する。<br>②発達過程における作業療法の役割や目的を理解し説明できる。<br>③発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し実施できる。<br>④各検査バッテリーから得られた結果を評価、解釈し作業療法で取り組む内容を抽出できる。<br>⑤作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。<br>⑥発達過程作業療法において、子どもを取り囲む環境や教育制度を理解する。 |
| 授業の概要 | 発達過程にある対象者の評価と解釈、考察から対象者の全体像を把握し、治療プログラム立案までの過程を学ぶ。<br>また、実践現場の例や環境、支援の制度の面からも対象者を取り巻く治療的支援の概観を理解する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | 科目オリエンテーション/ 発達過程における作業療法の理念と役割　【柳井】<br>【key words】<br>発達段階、発達過程作業療法の役割<br>【授業概要】<br>オリエンテーションをシラバスに沿って実施する。<br>発達過程における作業療法の理念と役割、一生涯における発達過程と各発達段階での「作業」の役割と意義を学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①pp1～36②pp1～12、13～80、317～314<br>・参考図書：作業治療学3「発達障害」pp１～15/標準作業療法学 発達過程作業療法学第3版　医学書院pp3～49<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・指定教科書①pp1～5と教科書②pp2～3を事前に読むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第２回 | 発達過程の作業療法における評価、治療、援助のための基礎知識1　【柳井】<br>【key words】<br>発達過程の作業療法フォローアップ<br>【授業概要】<br>発達過程の作業療法における評価と治療の実践過程についての基礎知識を学ぶ。<br>発達過程における対象児の評価、作業療法計画、実施方法、効果判定、フォローアップの流れについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①pp13～36、223～232/②pp13～80、110、317～334<br>・参考図書：発達障害pp27～47<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：指定教科書②pp13～14“1.はじめに 2.主訴と問題点の考え方”の章、pp30～36“5.主訴と問題点の整理”の章、pp42“7.本章のまとめ”の章を事前に読むこと。復習：随時、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第３回 | 発達過程の作業療法における評価、治療、援助のための基礎知識2　【柳井】<br>【key words】<br>発達過程の活動・参加<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 各発達段階における評価、治療、援助のための基礎知識として、各発達段階と運動機能、感覚知覚認知機能、心理社会機能が日常生活活動、遊び・余暇活動、教育関連活動などとの相互関連性について学ぶ。<br>また社会参加としての集団活動、就学と作業療法との関わりについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①pp13～36、39～60、223～232/②pp13～80、84～267、270～316<br>・参考図書：作業治療学3 発達障pp49～68、69～85<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>指定教科書①pp21（表5“日常生活活動とその他の諸能力”）、pp22（表6“ピアジェの認知的発達段階”、表7“遊びの類型”）に目を通し、発達過程にある諸能力を概観する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第４回 | 発達過程の作業療法における評価、治療、援助のための基礎知識3　【柳井】<br>【key words】<br>運動発達、認知機能の発達、感覚統合<br>【授業概要】<br>運動発達の評価として作業療法場面で用いる評価について概要と実施方法と治療過程を学ぶ。<br>運動発達、姿勢、筋緊張、反射、反応、運動年齢検査、エアハルト発達学的把握能力評価等を中心に評価方法と評価の考察について学ぶ。<br>感覚・認知面の評価として感覚統合理論と認知機能の発達についての理解、感覚統合機能についての概要と評価、解釈を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：pp13～36、41～78/②pp13～80、179～267<br>・参考図書：作業治療学3 発達障害pp27-47/上杉雅之 監修 イラストでわかる人間発達学pp41～59<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：指定教科書①pp30（表8）、31（表9）に目をとおし評価項目を概観する。<br>復習：随時、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第５回 | 作業療法評価に必要な運動発達の視点1（0～12か月）　【柳井】<br>【key words】<br>心身機能の発達、運動機能の発達、月齢指標、あそびの発達<br>【授業概要】<br>0～12か月の運動発達を中心に、月齢指標から筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性等を学び、作業療法の評価、治療過程との関連性を理解する。<br>月齢指標と運動発達から遊びの発達についての関連性を考察し提供する作業（あそび）について提案する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①pp39～60<br>・参考図書：上杉雅之 監修 イラストでわかる人間発達学pp63～138、179～201、203～211<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・予習：指定教科書①pp5（図2 児の発達と作業遂行課題と作業遂行要素）を読む。<br>・復習：随時、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第６回 | 作業療法評価に必要な運動発達の視点2（1歳～6歳）　【柳井】<br>【key words】<br>心身機能の発達、運動機能の発達、月齢指標、あそびの発達<br>【授業概要】<br>1歳～6歳の運動発達を中心に、月齢指標から筋活動とそれを促す感覚入力についての関連性を学び、作業療法の評価、治療過程と関連性を理解する。<br>月齢指標と運動発達から遊びの発達についての関連性を考察し提供する作業（あそび）について提案する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①pp39～60<br>・参考図書：上杉雅之 監修 イラストでわかる人間発達学pp63～138、 179～201、203～211<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・予習と復習については随時、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第７回 | 障害別の作業療法の実際1：対応行動の発達と注意機能①　【北爪】<br>【key words】<br>社会性の発達、注意機能、障害別作業療法の実際<br>【授業概要】<br>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障害pp60～67<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第８回 | 障害別の作業療法の実際 2：対応行動の発達と注意機能②　【北爪】<br>【key words】<br>社会性の発達、注意機能、障害別作業療法の実際<br>【授業概要】<br>模倣活動から始まる社会性の発達について知り、発達段階での活動と参加について考察する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学３発達障害pp60-67<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第９回 | 障害の別作業療法の実際 3：脳性麻痺　【六本木】<br>【key words】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 脳性麻痺、障害別の作業療法の実際<br>【授業概要】<br>対象疾患として最も多い脳性麻痺についてを中心に臨床像の把握、作業療法評価と治療について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学３発達障害pp91～105<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１０回 | 障害別の作業療法の実際4：重症心身障害、知的障害、ダウン症　【六本木】<br>【key words】<br>重症心身障害、知的障害、ダウン症、障害別の作業療法の実際<br>【授業概要】<br>作業療法の対象となる重症心身障害、知的障害、ダウン症等を中心に臨床像の把握、作業療法評価と治療の実際について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障pp106～118、PP160～164<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１１回 | 障害別の作業療法の実際5：神経筋疾患　【六本木】<br>【key words】<br>神経筋疾患、障害別の作業療法の実際<br>【授業概要】<br>作業療法の対象疾患としてみられる神経筋疾患を中心に、臨床像の把握、作業療法評価と治療の実際について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障pp118～124<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１２回 | 障害別の作業療法の実際6：小児整形疾患　【六本木】<br>【key words】<br>小児整形疾患、骨形成不全、障害別の作業療法の実際<br>【授業概要】<br>作業療法の対象疾患としてみられる骨形成不全症などの小児の整形疾患等を中心に、臨床像の把握、作業療法評価と治療の実際について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学３「発達障」pp124～128<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１３回 | 障害別の作業療法の実際7：学習と社会性の発達と評価　【北爪】<br>【key words】<br>学習と社会性の発達、障害別作業療法の実際<br>【授業概要】<br>発達障害、知的発達障害の学習と社会性の発達との関連を例に、子どもの学習、社会性の発達について考察する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障害pp60～67<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>・予習と復習については適宜、指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１４回 | 障害別の作業療法の実際8：発達障害　【北爪】<br>【key words】<br>発達障害の臨床像、障害別作業療法の実際<br>【授業概要】<br>作業療法の対象疾患として近年、増加傾向となっている発達障害について学ぶ。発達障害の臨床像を把握し、作業療法評価と治療の実際について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障害pp129～159<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第１５回 | 地域における発達支援と特別支援教育の実際9　【北爪】<br>【key words】<br>地域、特別支援教育、地域での作業療法支援の実際<br>【授業概要】<br>発達過程において作業療法の実践の場は常に地域生活の中にある。地域における作業療法支援の考え方や子どもを取り囲む環境や特別支援教育の実際について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>・指定教科書：①、② ＊ページ数等は適宜、指示する。<br>・参考図書：作業治療学3 発達障害pp197～211、69～85<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】 |

| | |
|---|---|
| | ・予習と復習については適宜、指示する<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。<br>・シラバスを確認し授業に臨むこと。<br>・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・授業時に適宜、指示します。 |
| オフィスアワー | 北爪、六本木：授業後20分程度（変更時は掲示する。）<br>柳井：月、水、金曜15：00～17：30随時、それ以外の曜日は要相談。各曜日17：30以降は要予約。（変更時は掲示する。） |
| 評価方法 | 筆記試験80%、レポート20%にて総合的に評価する。 |
| 教科書 | ①上杉雅之 監修、辛島千恵子編集、「イラストでわかる　発達障害の作業療法」医歯薬出版株式会社（2016）<br>②小西紀一、小松則登、酒井康年「子どもの能力から考える発達領域の作業療法アプローチ」改訂第２版、メディカルビュー（2018） |
| 参考書 | ・土田玲子監修、「感覚統合Q&A」協同医書出版(2013)<br>・作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 「作業治療学3 発達障害」日本作業療法士協会監修、協同医書出版(2010)<br>・上杉雅之 監修「イラストでわかる人間発達学」、医歯薬出版株式会社（2015）<br>・標準作業療法学 発達過程作業療法学第3版　医学書院（2020）<br>・作業療法評価学全書改訂第３版 第3巻 「作業療法評価学」日本作業療法士協会監修、協同医書出版(2017)<br>・ A.Jean Ayres著、佐藤剛（監訳）、「子どもの発達と感覚統合」、協同医書出版（1982） |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>現在、施設にて発達障害の子ども・家族支援を行っている。また、自治体の保健センターやクリニック、県立小児医療センターで作業療法、及び群馬県内の小学校への訪問指導や教員研修の講師なども数多く担当している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容<br>・授業内容を確認し、事前と事後の学習を行うこと。 |

講義科目名称： 認知機能作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M216

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷忠彦・山口智晴 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［授業の目的］<br>認知機能の低下に対する作業療法の治療的戦略、特に認知症や高次脳機能障害に対する作業療法について理解を深めることを目的とする。また、加齢に伴い生じる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。<br>［到達目標］<br>①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。<br>②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。<br>③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。<br>④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。<br>⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。<br>⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。 |
| 授業の概要 | 高次脳機能障害や認知症などの認知機能の低下に対する作業療法の基本について学ぶ。<br>高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション、人口の高齢化と高齢者リハビリテーション<br>【key words】<br>高齢者、加齢、老化、老年学<br>【授業概要】<br>わが国における人口の高齢化、高齢者リハビリテーション、高齢社会、高齢期の課題について学ぶ。<br>【予習】<br>以下に示された教科書の指定ページを読む。<br>【復習】<br>・第1回授業で復習の課題が提示される<br>・次回（第2回）の教科書指定ページを読む（予習）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学. 第3版，医学書院　p.8～11<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第２回 | 人口の高齢化と社会施策の変遷<br>【key words】<br>社会保障制度、高齢期作業療法<br>【授業概要】<br>人口の高齢化と社会施策の変遷、高齢期作業療法について学ぶ。<br>【予習】<br>以下に示された教科書の指定ページを読む。<br>【復習】<br>・第2回授業で復習の課題が提示される<br>・次回（第3回）の教科書指定ページを読む（予習）<br>【教科書ページ・参考文献】<br>標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学. 第3版，医学書院　p.11～16<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

120分

第３回　高齢期の生理的・身体的特徴
【key words】
自律機能、感覚機能、運動機能、高次脳機能
【授業概要】
高齢期の生理的・身体的特徴について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
・第3回授業で復習の課題が提示される
・次回（第4回）の教科書指定ページを読む（予習）
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.39～43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　高齢者に多い症候と老年症候群
【key words】
老年症候群
【授業概要】
高齢者に多い症候と老年症候群について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
・第4回授業で復習の課題が提示される
・次回（第5回）の教科書指定ページを読む（予習）
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.43～48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　高齢者に多い疾患（1）循環器疾患，呼吸器疾患，神経疾患
【key words】
循環器疾患，呼吸器疾患，神経疾患
【授業概要】
高齢者に多くみられる循環器疾患，呼吸器疾患，神経疾患について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
・第5回授業で復習の課題が提示される
・次回（第4回）の教科書指定ページを読む（予習）
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.51～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第６回　高齢者に多い疾患（2）運動器疾患，内分泌代謝疾患，精神疾患
【key words】
運動器疾患，内分泌代謝疾患，精神疾患
【授業概要】
高齢者に多くみられる運動器疾患，内分泌代謝疾患，精神疾患について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
・第6回授業で復習の課題が提示される
・次回（第7回）の教科書指定ページを読む（予習）
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.57～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　高齢期作業療法の実践過程（1）評価、目標設定、計画立案
【key words】
評価、目標設定、計画立案
【授業概要】
高齢期作業療法の実践過程における評価、目標設定、計画立案について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
・第7回授業で復習の課題が提示される
・次回（第8回）の教科書指定ページを読む（予習）
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.87～94
【課題・予習・復習・授業準備指示】

上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第８回　高齢期作業療法の過程（2）病期，実施場所に応じた治療と援助内容
【key words】
病期、施設サービス、在宅サービス、医療保険、介護保険
【授業概要】
病期と実施場所に応じた高齢期作業療法について学ぶ。
【予習】
以下に示された教科書の指定ページを読む。
【復習】
第8回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学．第3版，医学書院　p.95～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第９回　高次脳機能障害に対する作業療法①
【key words】
注意障害、記憶障害、失語、失行、視覚失認
【授業概要】
注意障害、記憶障害、失語、失行、視覚失認に対する作業療法の治療的考え方について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学，第2版，医学書院
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書P174-222の事例を読む
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　高次脳機能障害に対する作業療法②
【key words】
半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害
【授業概要】
半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害に対する作業療法の治療的考え方について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学，第2版，医学書院
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・復習：教科書P223-257の事例を読む

【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１１回　認知症の定義、認知症の分類・症状❶
【key words】
若年性認知症、アルツハイマー型認知症、
【授業概要】
第1回小テスト、対象範囲は第9～10回
①認知症とはなにか？その定義と疫学について学ぶ。
②若年性認知症の定義と疫学について学んだ後に、③アルツハイマー型認知症の基本的な疫学や原疾患、症状の特性などについて学ぶ
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り
【教科書ページ・参考文献】
P.64～73，P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　認知症の分類と症状❷
【key words】
DLB、VD、FTD、
【授業概要】
④レビー小体型認知症、⑤血管性認知症、⑥前頭側頭型認知症(意味性認知症を含む)について、基本的な疫学や疾患の特徴、診断基準、特異的な症状などについて、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。
【予習】
・各自で発表の準備
【復習】
・講義内容の振り返り
【教科書ページ・参考文献】
P.64～73，P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　認知症の分類と症状❸
【key words】
Treatable dementia、iNPH、BPSD、AGD、CBD、PSP
【授業概要】

| | |
|---|---|
| | ⑦正常圧水頭症、⑧嗜銀顆粒性認知症･大脳皮質基底核変性症･進行性格上麻痺⑨treatable dementia(正常圧水頭症を除く)について、基本的な疫学や疾患の特徴、診断基準、特異的な症状などについて、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。<br>【予習】<br>・各自で発表の準備<br>【復習】<br>・講義内容の振り返り<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回発表者は準備をして、事前に資料を担当教員に提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１４回　BPSDと薬物療法･非薬物療法について<br>【key words】<br>アルツハイマー型認知症<br>【授業概要】<br>⑩BPSD、⑪薬物療法・非薬物療法について、学生の発表と教員からの補足説明を基に理解を深める。<br>認知症に関する評価指標について学ぶ<br>アルツハイマー型認知症に関するドキュメントなどを見て、症状や進行についての実際について学ぶ。<br>【予習】<br>・各自で発表の準備<br>【復習】<br>・講義内容の振り返り、次回小テストを実施<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P.64～73, P.130～145、その他はメディカルオンライン等で文献を検索<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第１５回　認知症の人に対する作業療法，まとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>山口：第2回目の小テストを実施する。出題範囲は第11～14回の講義内容。<br>認知症に対する作業療法について、実践からその基本的な考え方を学ぶ。<br>【予習】<br>小テストの準備<br>【復習】<br>小テストと授業内容の振り返り<br>【教科書ページ・参考文献】<br>高齢期：P130～145、配布プリント<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください<br>小テストを実施するため、こまめに学習の振り返りなどを実施してください<br>1回の講義で学ぶ内容は多岐にわたります。　できる限り欠席がないようにしてください。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式、またはWEBポータルのスレッド、googleフォームなどのWEBシステム等を活用 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 小テストや課題など授業の進行で指示のある各課題等に対して積極的に取り組んでください。<br>本科目は、認知神経心理評価学や神経内科学、内科老年学等の基礎的な医学知識に基づいた内容になっております。 |
| オフィスアワー | 亀ヶ谷：月曜日16：00～17：30<br>山口：水曜日16：10～17：30 |
| 評価方法 | 授業内小テスト･課題･発表等50％(亀ヶ谷・山口で25％ずつ)、期末筆記試験50％ |
| 教科書 | 松房利憲・新井健五(編)：標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学. 第3版, 医学書院<br>能登真一(編)：標準作業療法学-専門分野-高次脳機能障害学, 第2版, 医学書院 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>高齢期作業療法領域・高次脳機能障害作業療法領域において臨床実践経験が長い教員が担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない |

| | |
|---|---|
| | 情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 神経障害作業療法治療学　　授業コード： 2003P2M217

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 宮寺亮輔・小林昭博・芦原大・柳井明子 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。<br>[到達目標]<br>①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。<br>②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。<br>③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | オリエンテーション／脳血管障害・脳外傷における作業療法実践①【小林】<br>【key words】<br>オリエンテーション，脳血管障害，脳外傷，補助的手段，作業療法評価<br>【授業概要】<br>本科目の概要を説明する．脳血管障害・脳外傷における作業療法のアプローチを作業遂行の連続性概念に基づいた作業療法介入について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp20-33，43-49，78-99，100-114<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>脳血管障害に関する評価法を復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第２回 | 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践②【小林】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，準備活動，作業療法評価<br>【授業概要】<br>脳血管障害・脳外傷における作業療法のアプローチを作業遂行の連続性概念に基づいた作業療法介入について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp20-33，43-49，78-99，100-114<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>脳血管障害に関する評価法を復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第３回 | 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践③【宮寺】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，目的活動，作業療法評価，環境設定，アクティビティ，ADL<br>【授業概要】<br>脳血管障害・脳外傷における作業療法のアプローチを作業遂行の連続性概念に基づいた作業療法介入について学ぶ。また，アクティビティを活用して，第1,2回で学んだ補助的手段，準備活動を効果的に目的活動や作業遂行につなげていく環境適応（環境設定）の方法についても学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書：pp43-49（復習）,pp92-98<br>配布プリントあり<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基本的な補助的手段，準備活動について復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第４回 | 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践④【宮寺】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，作業遂行，作業療法評価，環境設定，アクティビティ，ADL<br>【授業概要】<br>脳血管障害・脳外傷における作業療法のアプローチを作業遂行の連続性概念に基づいた作業療法介入について学ぶ．また，アクティビティを活用して，第1,2回で学んだ補助的手段，準備活動を効果的に目的活動や作業遂行につなげていく環境適応（環境設定）の方法についても学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp43-49（復習）,pp92-98，pp105-113<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>基本的な補助的手段，準備活動について復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習180分／復習180分（内発表準備180分） |
| | 第５回 | 脊髄損傷における作業療法実践①【小林】<br>【key words】<br>脊髄損傷，残存機能，福祉機器<br>【授業概要】<br>脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp116-134<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>解剖学や運動学で学んだ脊髄レベルで支配されている筋や表在感覚について復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第６回 | 脊髄損傷における作業療法実践②【小林】<br>【key words】<br>脊髄損傷，残存機能，福祉機器<br>【授業概要】<br>脊髄損傷における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp116-134<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>解剖学や運動学で学んだ脊髄レベルで支配されている筋や表在感覚について復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第７回 | 筋ジストロフィー【小林】<br>【key words】<br>神経・筋疾患，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>筋ジストロフィーにおける評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp424-435<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>徒手筋力テスト，関節可動域テストの方法を復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第８回 | ギラン・バレー症候群／重症筋無力症【宮寺】<br>【key words】<br>神経・筋疾患，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>神経・筋疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp364-373<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書をよく読んで参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第９回 | 多発性硬化症・筋炎【柳井】<br>【key words】<br>神経・筋疾患，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>神経・筋疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp392-408<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書をよく読んで参加すること.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１０回 | 筋萎縮性側索硬化症【宮寺】<br>【key words】<br>神経変性疾患，環境設定，意思伝達装置，自助具<br>【授業概要】<br>神経変性疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ．また，言語等の表出が困難な事例に対する意思伝達の方法について，機器体験を通して学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp410-423<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>教科書をよく読んで参加すること．意思伝達装置が何かを調べておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１１回 | 脊髄小脳変性症【柳井】<br>【key words】<br>神経変性疾患，姿勢調節，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>神経変性疾患における評価と治療計画の枠組みを理解し、病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ。姿勢調節が困難となった場合の環境設定についても学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp374-389<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>姿勢調節に関する作業療法評価をよく復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１２回 | パーキンソン病【小林】<br>【key words】<br>神経変性疾患，環境設定，自助具<br>【授業概要】<br>パーキンソン病における評価と治療計画の枠組みを理解し，病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ.<br>また，模擬事例を通して具体的な作業療法評価・治療・支援の手立てを理解する.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp350-363<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>神経変性疾患の病態について今までの授業で習った事を復習しておくこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１３回 | 廃用症候群，科目のまとめ【宮寺】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，脊髄損傷，神経・筋疾患，神経変性疾患，廃用症候群<br>【授業概要】<br>これまで学んできた脳血管障害，脳外傷，脊髄損傷，神経・筋疾患，神経変性疾患についての総括を行なう．また，廃用症候群など二次的予防に関しても学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp467-479<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまで学んだことの総括．試験範囲の伝達を行う.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第１４回 | 脳血管障害・脳外傷における作業療法実践⑤【芦原】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，補助的手段，準備活動，介助法<br>【授業概要】<br>脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し，実際の介助体験を通して病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ．安全な動作を獲得するために，他職種と協働する方法についても学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp92-98<br>配布プリントあり |

| | |
|---|---|
| | 参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ペアで実際の介助体験を行う．他職種と協働する方法についてディスカッションを行う．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分<br>第１５回　脳血管障害・脳外傷における作業療法実践⑥【芦原】<br>【key words】<br>脳血管障害，脳外傷，補助的手段，準備活動，介助法<br>【授業概要】<br>脳血管障害・脳外傷における評価と治療計画の枠組みを理解し，実際の介助体験を通して病期・実施場所・ライフサイクルに応じた作業療法実践について学ぶ．安全な動作を獲得するために，他職種と協働する方法についても学ぶ．<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書：pp92-98<br>配布プリントあり<br>参考書：菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版、協同医書出版社、2008<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ペアで実際の介助体験を行う．他職種と協働する方法についてディスカッションを行う．<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 予習復習は欠かさないこと。<br>授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメイトからコピーを取ること。<br>授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 予習復習を欠かさないこと<br>初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。 |
| オフィスアワー | [宮寺]月曜日8時50分～10時20分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約<br>[小林]月曜日16時30分～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験 60%　ポートフォリオ20%　確認テスト20% |
| 教科書 | 長崎重信　監修・編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　身体障害作業療法学　改訂第3版．メジカルビュー社，2018 |
| 参考書 | 菅原洋子　編集：作業療法学全書　第4巻　作業治療学1　身体障害　第3版，協同医書出版社，2008 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>[宮寺]身体障害領域で作業療法士として勤務する中で、脳血管障害患者、整形外科疾患患者、神経・筋疾患患者に対する作業療法（利き手交換訓練、生活動作訓練、環境調整など）を展開してきた実務経験を活かし、作業活動や環境を利用しADLや趣味活動を支援する手法について実演・講演する。<br>[小林]急性期及び回復期リハビリテーション病棟，外来（生活期）の病院で作業療法士として勤務する中で，脳血管疾患等の患者に対する作業療法を展開してきた実務経験を活かした作業療法介入の実演・講演を行なう．<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 義肢装具学　　授業コード： 2003P2M218

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>義肢装具の概要と、作業療法で義肢装具を活用するための基本的な事項について学ぶ。また、主な義肢の分類や名称、基本的な構造、機能を理解し、疾患・障害における適応を学び、臨床で活用できるように学ぶ。<br>[到達目標]<br>①義肢の適応となる切断について学ぶ。<br>②義手の分類とその特徴を説明できる。<br>③義手の基本構造と各パーツの名称と機能を説明することができる。<br>④義手のチェックアウトの方法と基本的な訓練の流れについて説明できる。<br>⑤義足の分類とその特徴、基本構造、機能について説明できる。 |
| 授業の概要 | 義肢装具の概要と、作業療法で義肢を活用するための基本的な事項と臨床での活用について学ぶ。座学で基本的な事項を学ぶとともに、義肢装具を実際に触れながら学習していく。また、国家試験で求められる内容についても確認する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション／義肢装具学総論<br>【key words】<br>義肢、装具、スプリント<br>【授業概要】<br>義肢、装具、スプリントの定義と基本的な特徴について学ぶ。<br>切断・離断の概要と分類、断端長や義肢の長さの計算方法、切断レベルと機能障害について学ぶ。<br>義手の基本的な分類について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学<br>1-1義肢総論①義手の歴史<br>２義肢総論②義手総論<br>５義手を学ぶ上で必要な医学的知識①基礎医学<br>6義手を学ぶ上で必要な医学的知識②臨床医学<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 義手の分類・名称・構造・機能について①<br>【key words】<br>義手の分類、義手の基本構造<br>【授業概要】<br>義手の分類と基本構造について学ぶ。<br>義手の各部位、パーツの名称と特徴、機能、適応について学ぶ。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学<br>1-２義肢総論②義手総論<br>1-７前腕切断と義手<br>1-８上腕切断と義手<br>1-９その他の上肢切断と義手<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業後は復習を行うこと。 |

【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第3回　義手の分類・名称・構造・機能について②

【key words】
義手の操作、ケーブルコントロールシステム、能動義手、筋電義手
【授業概要】
能動義手におけるケーブルコントロールシステムの構造と機能、義手の操作について学ぶ。
筋電義手における基本的な構造と機能、義手の操作について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学
1-２義肢総論②義手総論
1-７前腕切断と義手
1-８上腕切断と義手
1-９その他の上肢切断と義手
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第4回　義手のチェックアウト

【key words】
義手のチェックアウト
【授業概要】
前腕義手、上腕義手の適合のポイントを知り、義手のチェックアウトについて学ぶ。
授業内で、第1～3回の内容について小テストを実施する。

【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学
1-１０義手のチェックアウト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第5回　能動義手の訓練

【key words】
能動義手の訓練
【授業概要】
能動義手の基本的な訓練について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
1-7前腕切断と義手
1-８上腕切断と義手
1-９その他の上腕切断と義手
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第6回　筋電義手の訓練

【key words】
筋電義手の訓練
【授業概要】
筋電義手の基本的な訓練について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
1-7前腕切断と義手
1-８上腕切断と義手
1-９その他の上腕切断と義手
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　下肢切断と義足

【key words】
下肢切断、義足
【授業概要】
下肢の切断、離断について学ぶ。
義足の分類と特徴、基本構造、機能、適応について学ぶ。
下肢切断における作業療法について学ぶ。
授業内で、第4～6回の内容について小テストを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学
1-3義肢総論③義足総論
1-11下腿義足
1-１２大腿義足
1-13下肢切断に対する作業療法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第8回　事例検討（前腕・上腕切断）：グループワーク

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>前腕切断、上腕切断、義手、事例検討、グループワーク<br>【授業概要】<br>前腕切断の対象者について、義手の適応と作業療法をグループワークを通して検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>1-7前腕切断と義手<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカードを利用する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | 筆記試験　50%<br>小テスト 30%<br>事例検討 20%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする。<br>＊ただし、筆記試験50%のうち30%に到達してない場合は、合計の基準を満たしたとしても単位付与の基準に到達していないものとみなす。 |
| 教科書 | ①長崎重信　監：作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学　第１版．メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①社団法人　日本作業療法士協会　監修：作業療法学全書　改訂第3版　第9巻　作業療法技術学1　義肢装具学，協同医書出版社<br>②やさききよし　著：手のスプリントのすべて　第4版．三輪書店<br>③義肢装具のチェックポイント　第8版．医学書院 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として装具療法を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 義肢装具学演習　　授業コード： 2003P2M219

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・奥村修也 | | | |
| 作業療法治療学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | [授業の目的]<br>対象となる疾患に対して、装具の適応を考え、作業療法の治療手段の一つとして装具の活用について学ぶ。作業療法士が実施する装具療法について、装具を作製するための基礎知識と作製方法について学ぶ。<br>[到達目標]<br>①装具の適応となる対象者について、装具の適応を考え、作業療法士が行う訓練と生活支援について説明できる。<br>②装具作製のために必要となる基礎知識や作製方法を説明できる。<br>③実技として装具作製を経験する。 |
| 授業の概要 | 作業療法で装具を活用するために、演習としてグループワークを行い、対象となる疾患に対して装具の適応と具体的な作業療法について学ぶ。また、実際に基本的な装具の作製方法を実技を通して学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 装具作製のための基礎知識①<br>【key words】<br>装具、解剖学・運動学・生理学的知識、力学<br>【授業概要】<br>装具作製のために必要となる解剖学・運動学・生理学の基本的知識と力学的な知識について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-2装具の作製<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第2回 | 装具作製のための基礎知識②<br>【key words】<br>装具、解剖学・運動学・生理学的知識、力学<br>【授業概要】<br>装具作製のために必要となる解剖学・運動学・生理学の基本的知識と力学的な知識について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-2装具の作製<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| | 第3回 | 装具作製の流れ①<br>【key words】<br>装具、作製手順・道具・材料<br>【授業概要】<br>装具を作製するための基本的な手順と使用する道具・材料について学ぶ。<br>第1～2回の授業内容について小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-2装具の作製 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第4回　装具作製の流れ②
【key words】
装具、作製手順・道具・材料
【授業概要】
装具を作製するための基本的な手順と使用する道具・材料について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第5回　装具作製：実技①
【key words】
装具、装具作製実技、カックアップ装具
【授業概要】
カックアップ装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第6回　装具作製：実技②
【key words】
装具、装具作製実技、カックアップ装具
【授業概要】
カックアップ装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第7回　装具作製：実技③
【key words】
装具、装具作製実技、カックアップ装具
【授業概要】
カックアップ装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第8回　装具作製：実技④
【key words】
装具、装具作製実技、カックアップ装具
【授業概要】
カックアップ装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第9回　装具作製：実技⑤
【key words】
装具、装具作製実技、ダイナミック装具
【授業概要】
ダイナミック装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学
2-2装具の作製
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習90分

第10回　装具作製：実技⑥

| | |
|---|---|
| | 【key words】<br>装具、装具作製実技、ダイナミック装具<br>【授業概要】<br>ダイナミック装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-2装具の作製<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 第11回 | 装具作製：実技⑦<br>【key words】<br>装具、装具作製実技、ダイナミック装具<br>【授業概要】<br>ダイナミック装具を実技を通して作製し、作製方法と適応、作製後のチェックアウトについて学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-2装具の作製<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 第12回 | 上肢装具について<br>【key words】<br>装具、上肢装具<br>【授業概要】<br>装具・スプリントの分類とその特徴、目的、機能について学ぶ。<br>上肢装具について、名称と特徴、構造、目的、適応について学ぶ。<br>第3～11回の授業内容について小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学<br>2-１装具総論<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 第13回 | 頸部・体幹・下肢装具について<br>【key words】<br>装具、頸部・体幹・下肢装具<br>【授業概要】<br>装具・スプリントの分類とその特徴、目的、機能について学ぶ。<br>頸部・体幹・下肢装具について、名称と特徴、構造、目的、適応について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学<br>2-1装具総論<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 第14回 | 事例検討（骨折）：グループワーク<br>【key words】<br>骨折、装具、事例検討、グループワーク<br>【授業概要】<br>骨折の対象者について、装具の適応と作業療法をグループワークを通して検討する。<br>第12～13回の授業内容について小テストを実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-6疾患・障害別装具：手外科疾患<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 第15回 | 事例検討（末梢神経障害）：グループワーク<br>【key words】<br>末梢神経障害、装具、事例検討、グループワーク<br>【授業概要】<br>末梢神経障害の対象者について、装具の適応と作業療法をグループワークを通して検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>①作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学<br>2-6疾患・障害別装具：手外科疾患<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習90分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・対面授業、オンライン授業にかかわらず、Zoom等のICTを活用することがあるためインターネット |

| | |
|---|---|
| | 端末を準備しておく。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・各種装具を装着することが多く、また、後半は装具製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。<br>・装具製作では各自タオルを用意すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカードを利用する。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | ・予習、復習を行うこと。特に復習は重要であり、学習した内容について実技を含めて評価を実施できるようにしておくこと。 |
| オフィスアワー | 〔牛込〕月・木曜日16時～17時30分は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約 |
| 評価方法 | □筆記試験　50%<br>□小テスト　30%<br>□事例検討　20%<br>＊合計で60%以上を単位付与の基準とする。<br>＊ただし、筆記試験50%のうち30%に到達してない場合は、合計の基準を満たしたとしても単位付与の基準に到達していないものとみなす。 |
| 教科書 | ①長崎重信　監：作業療法学　ゴールドマスターテキスト　義肢装具学　第1版．メジカルビュー社 |
| 参考書 | ①社団法人　日本作業療法士協会　監修：作業療法学全書　改訂第3版　第9巻　作業療法技術学1 義肢装具学，協同医書出版社<br>②やさききよし　著：手のスプリントのすべて　第4版．三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員は、身体障害領域の病院・施設にて作業療法士として臨床業務に携わった経験を有する。<br>実務経験として、臨床業務の一環として装具療法を行っていた経験が科目内で活かされている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 生活行為向上マネージメント演習　　授業コード： 2003P2M220

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂駿 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント」を活用できるようになることを目的とする。<br>〔到達目標〕<br>①自立支援型地域ケア個別会議の目的や流れについて理解・説明することができる。<br>②生活行為向上マネジメントの目的や流れについて理解・説明することができる。<br>③生活行為向上マネジメントの各種シートを実践的に使用することができる。<br>④生活行為向上マネジメントの結果を活用し、自立支援型個別地域ケア会議での作業療法士の助言を行うことができる。 |
| 授業の概要 | ・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、自立支援型個別地域ケア会議の目的やそこでの作業療法士の役割、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。<br>・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるよう自身でも一連のプロセスを経験する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは<br>【key words】<br>地域包括ケアシステム　地域包括支援センター　自立支援　総合支援事業　介護予防事業<br><br>【授業概要】<br>・科目オリエンテーション<br>・地域包括ケアシステムについての概要を説明し、地域包括支援センターの役割、及び自立支援の考え方について説明する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回に向けて、配布された資料に目を通しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第2回 | 生活行為向上マネジメントとは①<br>【key words】<br>地域包括ケアシステム、ICF、MOHO、CMOP-E<br>【授業概要】<br>・生活行為向上マネジメント（MTDLP）導入の経緯<br>・MTDLPの概要<br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.8-21，2022.<br>配布資料<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記教科書の範囲について読み、分からない部分は調べたり、教員に聞いておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| | 第3回 | 生活行為向上マネジメントとは②<br>【key words】<br>地域包括ケアシステム、ICF、MOHO、CMOP-E<br>【授業概要】 |

・生活行為向上マネジメント（MTDLP）導入の経緯
・MTDLPの概要
【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.8-21，2022.
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書の範囲について読み、分からない部分は調べたり、教員に聞いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第4回　マネジメントツールの使い方①
【key words】
生活状況確認票、興味・関心チェックシート、生活行為聞き取りシート
【授業概要】
・各シートの概要について
【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書の範囲について読み、分からない部分は調べたり、教員に聞いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第5回　マネジメントツールの使い方②
【key words】
生活行為アセスメントシート、生活行為プランシート

【授業概要】
・ペアになり、相手の生活行為について聞き取り演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記教科書の範囲について読み、分からない部分は調べたり、教員に聞いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第6回　MTDLP演習①
【key words】
ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス

【授業概要】
グループに分かれて、高齢期の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える
【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.
世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドライブにアクセスできる PCまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。

【予習復習に必要な想定時間】
120分

第7回　MTDLP演習②
【key words】
ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス

【授業概要】
グループに分かれて、高齢期の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える

【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.
世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドライブにアクセスできる PCまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第8回　MTDLP演習③
【key words】
ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス

【授業概要】
グループに分かれて、高齢期の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える
【教科書ページ・参考文献】
（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.
（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.
世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドライブにアクセスできる PCまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。
【予習復習に必要な想定時間】

| | | |
|---|---|---|
| | | 120分 |
| | 第9回 | MTDLP演習④<br>【key words】<br>ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス<br>【授業概要】<br>グループに分かれて、高齢期の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える<br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第10回 | MTDLP演習⑤<br>【key words】<br>ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス<br>【授業概要】<br>グループに分かれて、精神障害領域の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える<br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第11回 | MTDLP演習⑥<br>【key words】<br>ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス<br><br>【授業概要】<br>グループに分かれて、精神障害領域の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える<br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第12回 | MTDLP演習⑦<br>【key words】<br>ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス<br>【授業概要】<br>グループに分かれて、精神障害領域の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える<br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第13回 | MTDLP演習⑧<br>【key words】<br>ブレインストーミング、KJ法、マネジメントプロセス<br>【授業概要】<br>グループに分かれて、精神障害領域の事例についてMTDLPを用いた評価・支援のマネジメント方法について考える。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>（一社）日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント，改訂第4版.<br>（一社）日本作業療法士協会，pp.22-39，2022.<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>Googleドライブにアクセスできるpcまたはタブレットを持参すること（スマホは不可）。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第14回 | 模擬地域ケア会議演習①<br>【key words】<br>模擬ケア会議　自立支援　助言者　ケアマネ<br>【授業概要】<br>地域ケア会議に関しての概要を説明し、地域ケア会議の流れ、必要な視点、専門職の役割について説明<br>する。ケア会議の事例に関してグループで検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配布する。 |

| | |
|---|---|
| | 【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回模擬ケア会議時に作業療法士として発言する内容を整理しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分<br>第15回　模擬地域ケア会議演習②<br>【key words】<br>模擬ケア会議　自立支援　助言者　ケアマネ<br>【授業概要】<br>ケア会議で作業療法士として発言する内容についてグループで検討する。<br>1～14回までの総括<br>試験範囲の伝達<br>【教科書ページ・参考文献】<br>これまでの資料やMTDLP教科書<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>地域ケア会議の流れや専門職の助言内容について復習しておくこと。<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>・原則、授業で提示するスライド資料は印刷しない。PDFデータでスレッド上にアップするので、必要に応じて各自でプリントアウトすること。<br>・40ポケットのA4版クリアポケットファイルを準備しておくこと。<br>・作業で使用するMTDLPの書式は、指定のURLから自分のPCなどにダウンロードしておくこと。<br>・授業中の必要事項はノートなどを使用し、記録しておくこと。<br>・演習では、Googleドライブの使用できるPCまたはタブレットを持参する。<br>・作業療法実践の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。<br>・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。<br>〔受講のルール〕<br>・グループワークを設けるが、グループメンバー内で活動状況に差が出ないよう各自が役割を担うこと。<br>・遠隔授業の場合は原則画面ONで受講すること。その際は、模擬背景を使用したり、室内環境に配慮すること。<br>・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。<br>・ペア学習やグループ学習があるため、極力欠席をしないこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。<br>分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。 |
| オフィスアワー | 木曜日8:50～12:00は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。 |
| 評価方法 | □ポートフォリオ（35点）<br>　□授業資料：5点<br>　□興味関心チェックシート：10点<br>　□文献：2事例分、各5点（1編1点）<br>　□模擬地域ケア会議用シート：10点<br>□MTDLP各種シート（50点）<br>　□作業聞き取りシート：10点<br>　□生活状況確認表：10点<br>　□作業遂行アセスメント表：15点<br>　□作業遂行向上プラン表：15点<br>□グループワークへの参加（15点）<br>　□自己評価：5点<br>　□他者評価：10点<br>※筆記試験は設けない |
| 教科書 | 一般社団法人日本作業療法士協会：作業療法マニュアル75　生活行為向上マネジメント　改訂第4版<br>世界保健機関：国際生活機能分類，中央法規 |
| 参考書 | 一般社団法人日本作業療法士協会編著：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>　■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>　作業療法士国家資格及び精神科・高齢期領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>　□PBL(課題解決型学習)<br>　■ディスカッション・ディベート<br>　■グループワーク<br>　■プレゼンテーション<br>　□実習、フィールドワーク<br>　□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>　□情報モラルに関する教育<br>　■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） |

| | |
|---|---|
| | ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 作業療法治療学総合演習　　授業コード： 2003P2M221

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・牛込祐樹・亀ヶ谷忠彦 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>事例を通して、根拠に基づく、作業療法実践プロセスを理解する。<br><br>〔到達目標〕<br>1) 限られた情報・観察から対象者の基本能力・応用的能力を把握し、対象者に必要な絞った評価計画を立案できる。<br>2) 対象者の全体像を構造的に理解できる。<br>3) 対象者に必要な作業療法目標を設定し、具体的な作業療法計画を立案できる。 |
| 授業の概要 | さまざまな領域・病期・生活をもった複数の対象者に対し、作業療法過程を模擬体験し、実践能力を高められる。特に、スクリーニングからの絞った評価、作業療法評価から得られる全体像の把握、作業療法計画立案を繰り返し体験し、作業療法の流れを考えられる力を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | オリエンテーション／事例A①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈、焦点化、目標設定、治療計画立案<br>【授業概要】<br>オリエンテーション本事業の進め方について説明。<br>評価計画、評価結果の読み取り、全体像の把握と目標設定、目標に基づく治療方針と具体的な治療方法の検討の作業療法プロセスの確認する。資料を配布する。事例プロフィールを提示する。<br>各グループで、事例Aについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Aの評価結果を提示する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第２回 | 事例A②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Aの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第３回 | 事例A③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Aの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 30分程度 |
| | 第４回 | 事例A④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Aにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第５回 | 事例A⑤発表<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例Bプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第６回 | 事例B①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント<br>【授業概要】<br>各グループで、事例Bについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Bの評価結果を提示する<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第７回 | 事例B②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Bの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第８回 | 事例B③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| | 第９回 | 事例B④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Bにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度 |
| | 第１０回 | 事例B⑤発表<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

| | |
|---|---|
| | 大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>事例Cプロフィールを提示する。次回までにプロフィールより、必要な評価とその理由を準備しておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１１回　事例C①評価計画立案<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント<br>【授業概要】<br>各グループで、事例Cについての必要な評価とその目的・理由を検討する。最後には、事例Cの評価結果を提示する。<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１２回　事例C②評価・全体像の整理<br>【key words】<br>評価計画、アセスメント、統合と解釈<br>【授業概要】<br>事例Cの評価結果に基づき、評価結果に関して、評価内容の確認と結果からの問題点の列挙、及び足らない評価項目の検討を行う。それらに基づき、ICFに基づき全体像を整理する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>グループごとに得られた情報の整理を行っておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１３回　事例C③目標設定<br>【key words】<br>焦点化、目標設定<br>【授業概要】<br>整理された全体像から、課題を焦点化し、事例Bの長期目標と短期目標を設定する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回治療計画立案に向けて、短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を考えておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度<br>第１４回　事例C④治療計画<br>【key words】<br>治療計画立案<br>【授業概要】<br>事例Cにおける各短期目標に対する治療方針とその具体的な方法を検討する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>次回、事例のまとめを発表するため、スライド等の準備を進めること。発表前日までに、スライドデータを教員に提出すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分程度<br>第１５回　事例C⑤発表／学んだことの振り返り<br>【key words】<br>プレゼンテーション、エビデンス<br>【授業概要】<br>各グループ1事例について、デモンストレーションを交え、①プロフィール、②評価計画、評価結果の概要、③全体像、④目標、⑤治療方針、⑥短期目標改善の為の具体的な介入方法について発表する。尚、介入方法についてはその根拠も合わせて提示すること。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>大学で使用している教科書・授業資料全般を利用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>これまでの総括を行う。疑問点はそのままにせず積極的に質問し、解消すること。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>30分程度 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 【受講生に関わる情報】<br>教室指定をするので確認しておくこと。<br>【受講のルール】<br>間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。<br>ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。 |
| オフィスアワー | 水曜日の16～17時、その他も随時対応。事前予約が望ましい。 |
| 評価方法 | ■3名の教員による授業内課題や期末課題など総合的に判断する。 |
| 教科書 | なし。随時資料を配布する。 |

| | |
|---|---|
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士国家資格及び各領域の臨床経験を有する教員が担当。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション総合演習　　授業コード： 20R4P2M222

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 4年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 浅野貞美・牛込祐樹 | | | |
| 作業療法治療学/理学療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | ［GIO：一般教育目標］<br>将来、理学療法士・作業療法士の資格を取得し、社会に貢献していくために必要となる知識について、総合的に網羅し修得することを目的とする。また、継続的に知識を習得していくための学習方法を身につける。<br>［SBO：行動目標］<br>①理学療法士・作業療法士が網羅しておくべき領域・知識について理解する。<br>②知識の理解を深めるために行うアクティブラーニング（グループシェア学習）の方法を身につける。<br>③知識の定着を図るために行うアクティブラーニング（ペアシェア学習）の方法を身につける。<br>④アクティブラーニングを実施し、実際に知識を習得する過程を経験し、継続的に実践できる。 |
| 授業の概要 | 理学療法士・作業療法士の資格を取得し、社会に貢献していくために必要となる領域・知識について学習する。また、知識を本質的に理解するためにアクティブラーニング（グループシェア学習・ペアシェア学習）の方法を学ぶ。アクティブラーニングによる学習方法を用いて知識を修得する過程を経験し、継続的に実践して理学療法士・作業療法士として必要な知識を身につける。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ○ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 理学療法士・作業療法士が備えておくべき領域・知識①<br>【key words】<br>基礎医学、臨床医学、基礎PT学、障害別PT学、基礎OT学、障害別OT学、国家試験<br>【授業概要】<br>理学療法士・作業療法士が備えておくべき領域・知識について国家試験の内容を確認しながら学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>復習180分 |
| | 第2回 | 理学療法士・作業療法士が備えておくべき領域・知識②<br>【key words】<br>基礎医学、臨床医学、基礎PT学、障害別PT学、基礎OT学、障害別OT学、国家試験<br>【授業概要】<br>理学療法士・作業療法士が備えておくべき領域・知識について国家試験の内容を確認しながら学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
復習180分

第3回　アクティブラーニング（グループシェア学習）について①
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）の概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第4回　アクティブラーニング（グループシェア学習）について②
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）の概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第5回　アクティブラーニング（グループシェア学習）について③
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）の概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第6回　アクティブラーニング（グループシェア学習）の実践①
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第7回　アクティブラーニング（グループシェア学習）の実践②
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第8回　アクティブラーニング（グループシェア学習）の実践③
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で指示する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習90分／復習９0分

第9回　アクティブラーニング（グループシェア学習）の実践④
【key words】
アクティブラーニング、グループシェア学習
【授業概要】
アクティブラーニング（グループシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

| | |
|---|---|
| | 授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第10回　アクティブラーニング（グループシェア学習）の実践⑤<br>【key words】<br>アクティブラーニング、グループシェア学習<br>【授業概要】<br>アクティブラーニング（グループシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第11回　アクティブラーニング（ペアシェア学習）について<br>【key words】<br>アクティブラーニング、ペアシェア学習<br>【授業概要】<br>アクティブラーニング（ペアシェア学習）の概要について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第12回　アクティブラーニング（ペアシェア学習）の実践①<br>【key words】<br>アクティブラーニング、ペアシェア学習<br>【授業概要】<br>アクティブラーニング（ペアシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第13回　アクティブラーニング（ペアシェア学習）の実践②<br>【key words】<br>アクティブラーニング、ペアシェア学習<br>【授業概要】<br>アクティブラーニング（ペアシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第14回　アクティブラーニング（ペアシェア学習）の実践③<br>【key words】<br>アクティブラーニング、ペアシェア学習<br>【授業概要】<br>アクティブラーニング（ペアシェア学習）を実践し、理学療法士・作業療法士に必要な知識を学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分<br>第15回　アクティブラーニングのまとめ<br>【key words】<br>アクティブラーニング、グループシェア学習、ペアシェア学習、国家試験<br>【授業概要】<br>アクティブラーニングの学習方法の振り返りを行う。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業内で指示する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>授業内で指示する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習90分／復習９0分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・科目の位置付けを理解し、主体的に授業に参加すること。<br>・授業に関する案内は、原則として授業スレッドを使用するため、各自確認を怠らないこと。<br>・授業内容に関する教員および学生間のコミュニケーションは歓迎する。授業に関係ない私語等、他学生の学習を妨げる場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・授業に関する内容であれば、インターネット端末の使用を推奨する。授業に関係ない内容に使用した場合は授業参加を拒否する場合がある。<br>・Zoom等のICTを活用するため以下の物品等を準備しておく。<br>①Zoomの繋がるパソコンまたはタブレット |

| | |
|---|---|
| | （スマートフォンでは、画面が小さいためパソコンまたはタブレットを推奨します）<br>②ペンタイプのタブレットやイラスト用板タブレットまたはマウス<br>（画面上でイラストを描きますので、ペンタイプのタブレットやイラスト用板タブレットをお持ちの方は、持参してください。お持ちでない方は、マウス等でイラストを描きますので持参してください）<br>③スマートフォン<br>④水性マーカー（太字＋細字・複数色　マッキーやプロッキーなど）<br>⑤A4コピー用紙（500枚1セット）<br>⑥個人用ホワイトボード（A3サイズ程度）<br>⑦ホワイトボード用マーカー（複数色）<br>⑧ホワイトボード用イレーザー<br>⑨蛍光マーカー<br>⑩付せん（大小各種）<br>⑪電源の延長コード<br>⑫イヤホンまたはヘッドホン |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | google formによるアンケート機能を用いて確認していく。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 習得したアクティブラーニングによる学習方法を活用し、継続して理学療法士・作業療法士として必要となる知識を習得すること。 |
| オフィスアワー | 担当教員に随時連絡を取り、調整すること。 |
| 評価方法 | レポート　１００％ |
| 教科書 | ・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 基礎医学：医歯薬出版株式会社<br>・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 臨床医学：医歯薬出版株式会社 |
| 参考書 | 指定なし |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>理学療法士・作業療法士として臨床場面での十分な勤務経験を有する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション治療学特論Ⅰ　　授業コード：20R3P2M223

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷忠彦 | | | |
| 作業療法治療学/理学療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>理学療法・作業療法で実践される基本的・応用的な評価や介入を講義・演習形式で学び、臨床実践で求められる知識、技術、思考力、判断力を修得する。<br>〔到達目標〕<br>①理学療法・作業療法の臨床で実践される基本的・応用的な評価や介入の種類と特徴を説明できる。<br>②理学療法・作業療法の臨床で実践される基本的・応用的な評価や介入の手技・手法を実施できる。<br>③理学療法・作業療法の臨床で求められる多職種連携、コミュニケーション、専門職の役割について説明できる。 |
| 授業の概要 | 理学療法・作業療法で実践される基本的・応用的な評価や介入を講義・演習形式で学び、臨床実践で求められる知識、技術、思考力、判断力を修得する。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 車椅子シーティング　(1)車椅子シーティングの概要と基礎知識<br>【key words】<br>高齢者、車椅子シーティング<br>【授業概要】<br>車椅子シーティングの概要と基礎知識を学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第1回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| | 第2回 | 車椅子シーティング　(2)車椅子利用者の不良座位姿勢<br>【key words】<br>高齢者、車椅子シーティング<br>【授業概要】<br>車椅子利用者の不良座位姿勢とその対策について学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第2回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第3回　車椅子シーティング　(3)車椅子シーティングの評価と介入
【key words】
高齢者、車椅子シーティング
【授業概要】
車椅子シーティングで実施される身体機能の評価、車椅子の調整や各種付属品の使用法について学ぶ
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第3回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第4回　住環境整備のプランニング　(1)住環境整備の概要と基礎知識
【key words】
住環境整備
【授業概要】
住環境整備の概要と基礎知識を学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第4回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第5回　住環境整備のプランニング　(2)住環境の評価と建築図面の作成
【key words】
住環境整備
【授業概要】
住環境の評価と建築図面の作成を演習形式で学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第5回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第6回　住環境整備のプランニング　(3)住環境整備の技法
【key words】
住環境整備
【授業概要】
住環境整備の技法（手すり設置等）について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第6回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第7回　住環境整備のプランニング　(4)事例演習
【key words】
住環境整備
【授業概要】
模擬事例に対する住環境整備のプランニングを演習する。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第7回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第8回　褥瘡予防とベッド上ポジショニング　(1)褥瘡予防とポジショニングの概要と基礎知識

【key words】
褥瘡予防、ポジショニング
【授業概要】
褥瘡予防とポジショニングの概要と基礎知識を学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第8回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第9回　褥瘡予防とベッド上ポジショニング　(2)ベッド上の体位変換、良肢位保持とポジショニング
【key words】
褥瘡予防、ポジショニング
【授業概要】
ベッド上の体位変換、良肢位保持に用いるポジショニングの技術を学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第9回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第10回　日常生活活動の評価と介入　(1)日常生活活動の定量的評価と介入
【key words】
日常生活活動、Functional Independence Measure (FIM)
【授業概要】
日常生活活動の定量的評価、介入プログラムの立案と効果判定について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第10回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第11回　日常生活活動の評価と介入　(2)FIM運動項目・認知項目の評価法
【key words】
日常生活活動、Functional Independence Measure (FIM)
【授業概要】
FIM運動項目・認知項目の評価法について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第11回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第12回　日常生活活動の評価と介入　(3)事例演習1（軽度～中等度の障がいを持つ対象者）
【key words】
日常生活活動、Functional Independence Measure (FIM)
【授業概要】
模擬事例（軽度～中等度の障がいを持つ対象者）の日常生活活動の定量的評価と介入について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】
第12回授業で復習の課題が提示される。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第13回　日常生活活動の評価と介入　(4)事例演習2（重度の障がいを持つ対象者）
【key words】
日常生活活動、Functional Independence Measure (FIM)
【授業概要】
模擬事例（重度の障がいを持つ対象者）の日常生活活動の定量的評価と介入について学ぶ。
【予習】
授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。
【復習】

| | |
|---|---|
| | 第13回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第14回　理学療法士・作業療法士による国際協力　(1)国際協力の概要と基礎知識<br>【key words】<br>国際協力<br>【授業概要】<br>理学療法士・作業療法士による国際協力の概要と基礎知識を学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第14回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第15回　理学療法士・作業療法士による国際協力　(2)国際協力の実例、実践の技術<br>【key words】<br>国際協力<br>【授業概要】<br>理学療法士・作業療法士による国際協力の実例、実践の技術を学ぶ。<br>【予習】<br>授業前にポータルサイト他で配布される資料を読む。<br>【復習】<br>第15回授業で復習の課題が提示される。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>資料を配付する。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | リハビリテーションの治療学に関する学びを深めるため、演習のなかで理解が難しかった内容や疑問に思った内容は積極的に教員へ質問してください。<br>リハビリテーション治療学特論Ｉは全ての授業（第1回～第15回）へ出席することが原則です。やむを得ない事由によって欠席する場合は、授業の開始前に担当教員へ必ず連絡してください。事前の連絡が困難な状況においては、できる限り速やかに連絡してください。欠席の事由が正当と判断された場合のみ，欠席した授業の内容を補習や追加課題によって学ぶことができるよう配慮します。無断で欠席をした場合や、欠席の事由が正当でないと判断された場合は、期末試験の受験を認めません。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード、WEBポータルのスレッド、googleフォームなどのWEBシステムを活用し、毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況を確認します。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回の授業で，次回の授業へ向けた準備と予習のポイントについて具体的に説明します。 |
| オフィスアワー | 月曜日16：00～17：30 |
| 評価方法 | 授業内小テスト･課題･発表など50％、期末試験50％ |
| 教科書 | 毎回の授業で資料を配付します。 |
| 参考書 | 毎回の授業で適宜紹介します。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士として病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業、国際共同研究等における実務に長く従事した教員が演習を担当する。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 |

| | |
|---|---|
| | □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション治療学特論Ⅱ　　授業コード：20R3P2M224

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小島俊文 | | | |
| 作業療法治療学/理学療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 「片麻痺患者の運動療法の実際」を学ぶのが、本特論の目的である。<br>1年次の「解剖・生理・運動学」を基礎とし、2年次での「病理学」、「神経内科学」で学んできたことを生かし、専門科目としてPT、OTそれぞれ「評価学」、「治療学」を実践してきたそれらの集大成として授業を行うものである。本特論の到達目標として、Berta Bobathの治療法の一端に触れ、その考え方や実際のアプローチ方法を知ることである。 |
| 授業の概要 | ここで学ぶのはテクニックではなく根本的な考え方なので、個々の患者に適した絶対的な処方ではない。又治療テクニックでも関連のない個々の運動を脈絡なく行うのではなく、実際に生活に即した能動的動作を導くための運動を行うものである。授業では、具体的で実践的な治療法の考え方を中心に、実技をできる限り取り入れたものとしていきたい。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 片麻痺の異常運動パターンを知る<br>【key words】<br>共同運動、異常筋緊張、姿勢反射<br>【授業概要】<br>映像教材を用いて、片麻痺患者の特徴的な異常運動を知る。連合反応や共同運動、またSTNR、ATNRの理解を進める。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p49～p69<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間～ |
| | 第2回 | 急性期ーポジショニングとベッドや椅子の上での動き方①<br>【key words】<br>基本的動作、ポジショニング、ベッド上<br>【授業概要】<br>急性期におけるベッドサイドでのポジショニングの基本を学ぶ。背臥位だけではなく、麻痺側を下にした側臥位、麻痺側を上にした側臥位、さらにベッドアップされた長坐位について、今後の回復過程に資するポジショニング方法を実践できるよう、実技中心に学んでいく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>p86～p91<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

1時間～

第3回　急性期ー椅子座位・車椅子上座位

【key words】
椅子座位、車椅子上座位、車椅子駆動
【授業概要】
特に車椅子上座位の実際について、正しい姿勢の作り方、望ましくない姿勢の典型および修正方法、駆動の指導方法や座位での上肢自動介助運動について、実技を中心に学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
p91～p100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第4回　急性期ーベッド上の移動・起き上がり・移乗

【key words】
介助方法、端座位、移乗
【授業概要】
ベッド上の側方及び前後方向への移動方法を実践する。自動及び自動介助、または全介助の方法を学ぶ。さらに正しい起き上がりの方法や、背もたれに頼らない座位姿勢の作り方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p100～p108
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第5回　姿勢筋緊張の正常化

【key words】
痙性、弛緩
【授業概要】
治療を行う際には、筋緊張をできるだけ正常化した後、運動を促通するといった原理に従って行うことが重要である。筋緊張の正常化→選択的運動の練習→機能的活動へ用いるといった流れを学んでいく。特に臥位における選択的活動の具体的方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p111～p118
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第6回　座位での治療活動

【key words】
座位姿勢、立ち上がり、立位
【授業概要】
正しい座位の姿勢とは何か、矢状面・前額面・水平面から観察し、片麻痺特有の姿勢を知ることから、その修正方法を学ぶ。座位における体幹の選択的活動の促通、また立ち上がり方法や立位での麻痺側への荷重方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p119～p129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第7回　立位における麻痺側下肢への荷重

【key words】
膝の屈伸、段の昇降、遊脚のコントロール
【授業概要】
麻痺側下肢への荷重状態で、選択的活動を促通していく。例えば膝の屈伸運動であったり、さらに段差の昇降のようなより負荷のかかる場面での活動方法を学んでいく。また立位における麻痺側の振り出しについてもその方法を学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
p120～p140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第8回　バランス反応の再教育

【key words】
座位、立位、バランス反応
【授業概要】
様々な肢位で平衡を維持する能力があってはじめて、身辺動作、仕事、それに娯楽などで必要とされる巧緻性に富んだ、運動すべてが可能となる。座位における並行反応とは何かを知り、その促通方法やまた立位におけるバランス反応を知り、促通方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p141～p155
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第9回　麻痺側上肢へのアプローチ－背臥位～座位

【key words】
筋緊張のコントロール、肩甲骨の可動性、下肢全体の筋緊張
【授業概要】
麻痺側上肢に対する、背臥位における基本的筋緊張コントロールの手技を説明し実施できるようにする。そのあと選択的活動の促通方法を学ぶ。さらに座位における麻痺側上肢の選択的活動方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p169～p178
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第10回　麻痺側上肢へのアプローチ－立位

【key words】
運動用ボール、立位、棒
【授業概要】
運動用ボールを用いた、立位における選択的活動の実際を学んでいく。また立位における上肢の筋緊張の抑制方法や、具体的なスウィープタッピングや寒冷療法による痙性抑制の具体的手技も学ぶ。また保護伸展反応を使った伸筋活動の促通や、棒を使った選択的活動方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p178～p193
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第11回　機能的歩行の再教育①

【key words】
異常歩行、歩行促通
【授業概要】
立ち上がりから実際の歩行場面でよく見られる特徴的な動作とその問題を知り、歩行を促通するための練習方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p201～p214
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第12回　機能的歩行の再教育②

【key words】
異常歩行、歩行促通、歩行補助具
【授業概要】
歩行を促通するための練習方法として、歩行中のコントロール（促通）方法を学ぶ。また連合反応の抑制方法や、保護的なステッピングの促通、弾性包帯を用いた足部や膝のコントロール法、さらにKAFOやAFOの選択と使用方法、杖等の選び方も学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p214～p236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第13回　基本動作－床上動作

【key words】
マット上、基本動作
【授業概要】
床からの立ち上がりからしゃがみ込みの方法を知り具体的な介助方法を学ぶ。基本動作は日常生活上必要となる動作であり、またその動作を利用して選択的活動の促通を行うこともできる。また片麻痺特有の基本動作についても知り、正しい基本動作を促通することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p257～p273
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は必ず調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間～

第14回　片麻痺に伴う肩の痛みについて

【key words】
亜脱臼、アライメント、肩の痛み
【授業概要】
片麻痺に伴う肩の痛みは、二次的な合併症であり予防が可能である。肩の痛みを引き起こす原因を知り、また正常な肩甲上腕の活動を理解しながら、有痛性の外傷の予防方法や「肩-手症候群」について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p276～p317
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として教科書の指定された場所を読んでまとめておくこと。わからない言葉が出てきた際は

| | |
|---|---|
| | 必ず調べておくこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>1時間～ |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | [受講生に関わる情報]および[受講のルール]<br>・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。<br>・その回の課題については必ず行ってくること。授業中に発表していただくが、課題を忘れることで他の受講生に迷惑をかけることを認識しておくこと。<br>・Zoomを用いた遠隔授業の際には、ビデオは必ずONの状態で受講すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、その結果は授業終了時に確認テストを行う予定。 |
| オフィスアワー | 火曜日16：30～<br>（この時間に限らず、いつでも相談可能） |
| 評価方法 | 筆記試験(客観・論述) 50%　、確認テスト・その他　50%<br>※授業への参加姿勢、確認テスト結果等を勘案し、総合的に評価することとする。 |
| 教科書 | ステップス・トゥ・フォロー 改訂第2版　丸善出版　監訳　冨田昌夫　　訳　額谷一夫 |
| 参考書 | 脳卒中最前線 ： 急性期の診断からリハビリテーションまで　医歯薬出版　福井圀彦，藤田勉，宮坂元麿編 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>脳卒中専門病院にて理学療法士として6年間勤務<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： リハビリテーション治療学特論Ⅲ　　授業コード：20R3P2M225

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法治療学/理学療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>認知機能障害のある人に対する評価と介入の様々な手法について、概要を学ぶとともに実際に評価や介入の方法を体験しながら学びを深める。<br>〔到達目標〕<br>①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価及びアプローチについて理解を深めることができる。<br>②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。<br>③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。 |
| 授業の概要 | 高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価とアプローチの手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第１回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>オリエンテーション、高次脳機能障害、定義<br>【授業概要】<br>高次脳機能、行政定義、高次脳機能障害の概要について、知識の習得状況を確認し学ぶべき課題を抽出する。高次脳機能障害の定義について、行政的定義や医学的定義の違いなどを理解する。<br>高次脳機能障害を引き起こす原因疾患などについて、復習をする。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>配布プリント配布<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習：高次脳機能障害の定義を調べる<br>復習：ポートフォリオ作成（高次脳の学術的定義と行政的定義）<br>次回は、注意機能の評価に関する文献を一つ集めて内容を理解しファイリングして持参。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分 |
| | 第２回 | attention に対する評価とアプローチ<br>【key words】<br>注意<br>【授業概要】<br>注意機能障害の分類について学ぶとともに、注意障害の評価について実技を通して学ぶと共に、そのアプローチ方法についても学ぶ。<br>また、意識やorientationについても学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】 |

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：注意機能に対する評価指標または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　Unilateral Spacial Neglectの評価とアプローチ
【key words】
USN
【授業概要】
ＵＳＮについての一般的知識を確認するとともに、ＵＳＮに対する評価、また、行動から観察する際のPointも学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：USNに対する評価指標または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　Agnosiaに対する評価とアプローチ
【key words】
視覚性失認、バリント症候群、標準高次視知覚検査
【授業概要】
失認、特に視覚性失認の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義の中では、実際にＶＰＴＡを実践する中で、視覚性認知について学ぶ。また、色彩や相貌の認知、パレイドリアなどにも触れ、レビー小体型認知症など視覚性認知と関連する疾患につても併せて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：Agnosiaに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　Aphasiaに対する評価とアプローチ
【key words】
失語症、SLTA、WAB
【授業概要】
Aphasiaの分類と各症状の概要について学ぶとともに、実際にＳＬＴＡを用いて言語評価について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：Aphasiaに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　Aplaxia, Gerstmann syndromeに対する評価とアプローチ
【key words】
失行症、ゲルストマン症候群
【授業概要】
失行症などの行為の障害についてその概要を復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。本講義では、ＳＰＴＡを実際に実施することで、行為の障害の分類について理解を深める。また、ゲルストマン症候群、構成失行、着衣失行についても復習し、頭頂葉の働きについて理解を深め、文献から最新のリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：AplaxiaやGerstmann syndromeに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る。特に行為の障害について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　Memoryに対する評価とアプローチ
【key words】
記憶障害、RBMT、WAIS-Ⅲ・Ⅳ、
【授業概要】
記憶障害の概要について復習するとともに、適切に評価するための手法を習得する。また、記憶障害に対する文献から、最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。また、ＲＢＭＴやＷＭＳ－Ⅲを実際に実施することで、記憶の分類やそのリハについて理解を深める。
ただし、この単元は非常に学ぶ範囲が広いため、進行によっては次回に一部繰越て実施する可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：memoryに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　executive functionに対する評価とアプローチ
【key words】
遂行機能障害、BASDS
【授業概要】

高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：executive functionに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　Social Behavior Disorders / Anosognosia に対する評価とアプローチ
【key words】
social cognition
【授業概要】
高次脳機能障害のリハを考える上で非常に重要となる病識や自己認知、社会的行動障害などについて、理解を深めるとともにどのように評価を行うかを学ぶ。新興分野であるため、文献などから最新の分類やリハビリテーションについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：social cognitionに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　general cognitionについて、Wechsler Adult Intelligence Scaleによる評価とアプローチ
【key words】
WAIS、知能
【授業概要】
WAIS-Ⅲ・Ⅳをはじめとした全般的認知機能を評価する指標を実践し、そこから全般的認知機能についての理解を深める。
WAISが何を評価しているのか、general cognitionとは何かを考える
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント配布プリントの復習
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：Wechsler Adult Intelligence Scaleに関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　認知症の評価指標とその結果から考えられる傾向について
【key words】
HDS-R、MMSEを例に
【授業概要】
MMSEやHDS-Rの結果を基に、対象者の状況として考えられる評価結果をまとめる作業などをグループワークで行い、結果を発表、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：HDS-RとMMSEが実施できる様に十分に練習をしてから受講する。数名に実際に実施してもらう。
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴
【key words】
アルツハイマー型認知症、FAST
【授業概要】
アルツハイマー病の特徴とその評価について理解を深める。アルツハイマー病患者の生活機能障害の特徴についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：Alzheimer's diseaseに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　各認知症疾患における特異的な評価とアプローチについて考える
【key words】
DLB、VD、FTD、iNPH
【授業概要】
アルツハイマー病以外の進行性神経疾患による認知症として、dementia with Lewy bodies; DLBや、frontotemporal dementia; FTD、正常圧水頭症iNPH、vascular dementia; VaDなどの特徴を知り、その評価手法を実際のケースを基に理解する。事例のMRIから、各認知症疾患のMRI画像の特徴も理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：DLB,FTD,VaD,iNPHに対する評価または介入に関する論文を調べて持参
復習：配布プリント等の授業内容を振り返る
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメントと具体的なアプローチの検討
【key words】

| | |
|---|---|
| | DASC-21、生活障害<br>【授業概要】<br>認知症の人を地域で支える仕組みや、その中でPTOTとして必要となる評価技能について実践的な事例を通して学んでいく。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ポートフォリオを完成させ提出する準備を進める<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分<br>第１５回　本科目のまとめ<br>【key words】<br>まとめ<br>【授業概要】<br>認知機能低下による生活障害について学ぶとともに、就労支援についても学ぶ。そこで必要となる質的なアセスメントについて学ぶ。その後まとめを行う。また、認知機能障害がある人の実生活上の問題点とここまでに学んだ各アセスメント結果とを結びつけて考えられるように、検査結果の解釈についてまとめる。また、検査にこだわらずに観察から認知機能障害についてアセスメントするための視点について、再度確認する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>ポートフォリオを提出する<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。<br>授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは認められた場合以外は操作しない。<br>講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。基本的には特論科目なので、主体的な学びを前提としている。また、2年次までの基礎医学系科目を習得していることを前提とする。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカード方式またはWEBポータルのスレッド |
| 授業外時間にかかわる情報 | 各科目において予習を前提としおり、また主体的な学びを基本としている。<br>選択科目であり、能動的態度の受講者は望まない。<br>ポートフォリオは各単元の予習と復習を含む。 |
| オフィスアワー | 水曜日16:00～17:30　（木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談） |
| 評価方法 | 小テスト・各授業フォーム、期末課題等；50%、各講義の予習と復習のまとめポートフォリオファイルの期末提出50% |
| 教科書 | 新たに購入の指定はしないが、神経内科学や解剖学・生理学、画像診断学、評価学などの既に手元にある教科書を参照されたい。 |
| 参考書 | 石合純夫：高次脳機能障害学-第3版，医歯薬出版株式会社，2022.<br>日本作業療法士協会監修/渕雅子編集：作業療法学全書、作業治療学５、高次脳機能障害　第３版<br>小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第２版<br>鈴木孝治(編)：高次脳機能障害領域の作業療法～プログラム立案のポイント～、中央法規 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、岐阜県認知症初期集中支援事業アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長、日本作業療法士協会制度対策部認知症班長なども務めている。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

| | |
|---|---|

講義科目名称： リハビリテーション治療学特論Ⅳ　　授業コード：20R3P2M226

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3年次 | 1単位(30) | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 新谷益巳 | | | |
| 作業療法治療学/理学療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | スポーツ理学療法について学び，専門職として必要な「知識の理解」と「技術の習得」することを目的とする．<br><br>到達目標<br>①スポーツ理学療法について説明できる．<br>②スポーツ傷害，障害について説明できる．<br>③スポーツ現場における理学療法士の役割について説明できる．<br>④スポーツ理学療法の実際から治療プログラムを考えることができる． |
| 授業の概要 | 授業の目的と到達目標で述べた通り，理学療法士としてスポーツ現場で何ができるのかを理解する事である．<br><br>各疾患に対する対応は，医師をはじめとしたチームとして専門職としての知識と技術を習得する．<br><br>スポーツ理学療法の中で，「知っている」と「できる」の双方を実現するため，幅広い領域を含めた理学療法に対する理解を深める． |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | ◎ |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる． | ◎ |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 第１回　　オリエンテーション　１．スポーツ医学と理学療法<br>【key words】<br>歴史，予防，救急対応<br>【授業概要】<br>スポーツ医学と理学療法について学ぶ．<br>理学療法士の役割の理解と実際の取り組みについて学び，将来どのような取り組みが必要か考える．<br>１．スポーツと理学療法<br>２．わが国におけるスポーツと理学療法<br>３．予防の取り組み<br>①スポーツ損傷の予防モデル<br>②前十字靭帯損傷の予防<br>③投球障害の予防<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書，p2～p19<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>1．スポーツと理学療法，２．わが国におけるスポーツと理学療法を事前に熟読し，わからない単語については事前に調べておく．<br>【予習復習に必要な想定時間】 |

予習に30分，復習に30分

第２回　２．運動療法の原則

【key words】
発生機序と要因，評価，治療，運動療法
【授業概要】
リハビリの原則について学ぶ.
１．スポーツ損傷と理学療法の原則
２．評価と運動療法
３．物理療法機器と補装具
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p20～p54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１．スポーツ損傷と理学療法の原則を読み，評価の原則と理学療法の原則について理解する．わからない単語については事前に調べておく.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第３回　３．運動療法の原則（実際の評価と運動療法について）

【key words】
関節機能，筋機能，協調性機能
【授業概要】
リハビリとして実際に行う機会が多いものを中心に実技を行う.
①関節機能の評価と治療
②筋機能の評価と治療
③協調性機能の評価と治療
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p27～p47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Web動画として確認できるものについては，事前に視聴しながら運動を行ってくる.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第４回　４．投球障害肩

【key words】
投球動作，バイオメカニズム，野球肩
【授業概要】
投球障害の病態について学ぶ（投球障害肩）

投球動作について，バイオメカニズムの視点から理解を深める．また，投球障害肩の病態を学び，理学療法評価項目を挙げることができる.
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p75～p84（投球障害肩）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
投球相について事前に覚えてくること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第５回　５．投球障害肩に対する運動療法

【key words】
ストレッチング，筋力強化，投球フォーム
【授業概要】
投球障害に対する疾患と病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.

投球障害肩に対する理学療法
１．関節可動域改善
２．ストレッチング
３．筋力強化
４．投球フォームの指導

投球障害肘に対する理学療法
１．関節可動域改善
２．ストレッチング
３．筋力強化
４．投球フォームの指導

【教科書ページ・参考文献】
教科書，p85～p87.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
投球障害肩に行う理学療法についてそれぞれ区別して理解すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第６回　６．投球障害肘

【key words】
投球動作，バイオメカニズム，野球肘
【授業概要】
投球障害の病態について学ぶ（投球障害肘）

投球動作について，バイオメカニズムの視点から理解を深める．また，投球障害肘の病態を学び，理学療法評価項目を挙げることができる.
【教科書ページ・参考文献】
p88～p97（投球障害肘）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
投球相について事前に覚えてくること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第７回　７．投球障害肘に対する理学療法
【key words】
ストレッチング，筋力強化，投球フォーム
【授業概要】
投球障害に対する疾患と病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.

投球障害肘に対する理学療法
１．関節可動域改善
２．ストレッチング
３．筋力強化
４．投球フォームの指導

投球障害肘に対する理学療法
１．関節可動域改善
２．ストレッチング
３．筋力強化
４．投球フォームの指導

【教科書ページ・参考文献】
教科書，p98～102.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
投球障害肘に行う理学療法についてそれぞれ区別して理解すること.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第８回　８．テニス肘・ゴルフ肘
【key words】
肘関節，上腕骨，橈骨，尺骨
【授業概要】
テニス肘とゴルフ肘の病態・受傷転機について理解し，診断がどの様に行われているか学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p104～p106（テニス肘，ゴルフ肘）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テニス肘とゴルフ肘の病態について復習を行うこと.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第９回　９．テニス肘・ゴルフ肘に対する理学療法
【key words】
物理慮法，装具療法，ストレッチング，筋力強化，動作指導
【授業概要】
テニス肘とゴルフ肘の病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.

テニス肘とゴルフ肘に対する理学療法
１．物理療法
２．装具療法
３．ストレッチング
４．筋力強化
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p106～p111（テニス肘，ゴルフ肘）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として，第8回で理解した内容を基に，理学療法アプローチについて考えて来る.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第１０回　１０．膝の半月板損傷
【key words】
大腿骨，脛骨，膝蓋骨，半月板
【授業概要】
膝の半月板損傷の病態と受傷機転について理解し．診断がどの様に行われているか学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p156～p159（半月板損傷）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
半月板損傷の病態について復習を行うこと.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第１１回　１１．膝の半月板損傷に対する理学療法
【key words】
半月板損傷，筋力強化，関節可動域
【授業概要】
膝の半月板損傷の病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.

半月板損傷に対する理学療法
１．関節可動域練習
２．ストレッチング
３．筋力強化
４．動作指導
【教科書ページ・参考文献】
教科書，p160～p172（半月板損傷）.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として，第10回で理解した内容から，理学療法アプローチについて考えて来る.
【予習復習に必要な想定時間】
予習に30分，復習に30分

第１２回　１２．膝オーバーユース
【key words】

| | |
|---|---|
| | ジャンパー膝，ランナー膝，鵞足炎<br>【授業概要】<br>膝オーバーユースの病態と受傷機転について理解し．診断がどの様に行われているか学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書，p173～p176，p180，p182（膝オーバーユース）.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>膝オーバーユースの病態について復習を行うこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分，復習に30分<br>第１３回　１３．膝オーバーユースに対する理学療法<br>【key words】<br>ジャンパー膝，ランナー膝，鵞足炎<br>【授業概要】<br>膝オーバーユースの病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.<br><br>膝オーバーユースに対する理学療法<br>１．ストレッチング<br>２．補装具<br>３．テーピング<br>４．動作指導<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書，p178－p179，p181，p183－p185.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として，第12回で理解した内容から，理学療法アプローチについて考えて来る.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分，復習に30分<br>第１４回　１４．腰部障害<br>【key words】<br>腰椎，椎間板，腰痛症，<br>【授業概要】<br>腰痛症状の病態と受傷機転について理解し．診断がどの様に行われているか学ぶ.<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書，p213－p225.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>腰痛の病態について復習を行うこと.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分，復習に30分<br>第１５回　１５．腰部障害に対する理学療法<br>【key words】<br>腰痛症<br>【授業概要】<br>腰痛症の病態について理解した上で，どの様な理学療法を行うか学ぶ.<br><br>腰痛症に対する理学療法<br>１．ストレッチング<br>２．補装具<br>３．テーピング<br>４．動作指導<br>【教科書ページ・参考文献】<br>教科書，p226－p229.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>予習として，第14回で理解した内容から，理学療法アプローチについて考えて来る.<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>予習に30分，復習に30分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実技時の服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます）.<br><br>学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます.<br><br>解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります.<br><br>不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい. |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | コメントカードから授業に関する質問をしてください. |
| 授業外時間にかかわる情報 | ノートを用意して，授業内で説明したことをまとめてください．また，配布資料を用いてわからない用語は意味を調べておいてください. |
| オフィスアワー | 木曜日の16時30分～17時30分 |
| 評価方法 | 【成績評価】①期末試験80%，②復習問題の取り組み20%の総合評価となります．復習問題は、前の授業で学んだ範囲から問題（5問程度）を作成し配布します．配布した問題に対する取り組みと解説づくりを評価します．①と②の合計が60%に達していない場合は再試験対象となります. |
| 教科書 | 堀部秀二，他：明確スポーツ理学療法，三輪書店，202，ISBN　978-4-89590-710-1 |
| 参考書 | 授業内で随時紹介します. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。<br>アクティブラーニング要素 |

| | |
|---|---|
| | □PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br><br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br><br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br><br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： Advance OSCE Ⅰ (OT)　　授業コード：2304P2M264

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(45) | 自由選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴・柳井明子 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法の実践に最低限必要となる、評価から治療までの実技や態度を身に着けることができる。<br>・実習時に最低限必要となるリスク管理（転倒・転落、感染・スタンダードプリコーション、情報漏洩など）ができる<br>・実習で学ぶ学生としての基本的態度 |
| 授業の概要 | まず、OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）とは、作業療法学生が臨床実習を開始するにあたり、必要な技能や態度が一定の水準に到達しているか、客観的な視点から評価するための試験である。<br>しかし、作業療法の実践対象者は、生まれたての子供から高齢者まで、またその人を取り巻く家族や多職種までと幅広く、そして身体機能に限らず認知機能や精神機能、背景因子までを評価し、幅広い疾病や障害、そして健康に関するあらゆることを対象とするため、幅広い知識と技能を要する。<br>臨床総合実習では、評価だけでなく治療計画の立案や治療の実践、そして再評価から治療計画の再検討までを学ぶ。つまり、単に関節可動域や筋力の測定など実技ができるだけでなく、治療計画に向けた臨床思考が必要になる。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ○ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | △ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第2～5回 | 実習に対する心構えと実習生としての態度。リスク管理。<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 6～15回 | 事例に対する評価計画と治療計画<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 16～23回 | 実技試験に向けたレクチャー及び実技試験<br>【key words】<br>【授業概要】 |

| | |
|---|---|
| | 【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>24～30回　事例を通した治療計画および治療実践と口頭試問<br>【key words】<br>【授業概要】<br>【教科書ページ・参考文献】<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 授業では実習着（ケーシーやジャージ）を指定する場合がある。指示に従って準備すること。<br>授業の内容は随時説明していくが、主体的な学習が必須となるため、積極的に参加すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 随時質問可能 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 実習科目の扱いであり、基本的には授業時間内で対応可能な内容だが、一部で課題の準備などが必要。<br>内容については、随時説明。 |
| オフィスアワー | 水曜日16～17時 |
| 評価方法 | 技能と態度を総合的に評価する（実技試験　40%、授業内課題・口頭試問など　60%） |
| 教科書 | 随時紹介する、配布プリント参照 |
| 参考書 | 随時紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>・主に身体障害や老年期領域の作業療法や海外での実戦経験が豊富な作業療法士が対応する。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： Advance OSCEⅡ (OT)　　授業コード：2304P2M265

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 1単位(45) | 自由選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口智晴 | | | |
| 作業療法治療学 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 作業療法の実践に必要な知識と技能を身に付けることができる |
| 授業の概要 | 作業療法における評価および治療に関する実践的な知識と技能を身に付けるための、講義と演習、実技のレクチャーから構成される。 |
| | |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 1～30回　作業療法実践過程<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>4年間で学んだ作業療法実践の過程、特に評価と治療に関する知識と技能について統合的に確認するとととともに学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 4年間で学んだ作業療法実践の過程、特に評価と治療に関する総合的な知識と技能について学ぶ。これまで用いた教科書や資料を準備し、必要に応じて復習できるようにしておくこと。<br>基本的には　講義のスタイルではなく、演習・実習のスタイルで実施される。学生達の主体的な姿勢が求められる。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 随時指定 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業時間内での学習を基本とするが、別途課題を指定することがある |
| オフィスアワー | 水曜日の16～17時 |
| 評価方法 | 授業内での取り組みを総合評価にて判定する。 |
| 教科書 | 随時紹介する |
| 参考書 | 随時紹介する |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>作業療法士としての経験豊富な教員が対応する<br>https://researchmap.jp/t-yamaguchi<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>□情報モラルに関する教育 |

| | |
|---|---|
| | □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 地域リハビリテーション概論　　授業コード： 20R2P2N227

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2年次 | 1単位(15) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 村山明彦・山口智晴 | | | |
| 地域作業療法学/地域理学療法学 | 理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 | 社会福祉主事任用資格指定科目 | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>地域リハビリテーションの定義、社会背景、関連制度についての概要を学ぶとともに、地域で生活する対象者に必要なサポート手段を検討するうえで必要な知識を身につける。<br>〔到達目標〕<br>①地域リハビリテーションの概要について説明できる。<br>③地域リハビリテーションの対象および関連制度について説明できる。<br>③群馬県下での地域リハビリテーションの現状について説明できる。 |
| 授業の概要 | 子どもから高齢者までが住み慣れた地域の中で生活していくことをサポートするうえで、リハビリテーション専門職が果たす役割が極めて大きいことを学ぶ。そして、リハビリテーション専門職として具体的に何ができるのかを自ら考え、実践するための素養を高める。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる | |
| (理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |
| (作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | |
| (作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | |
| (作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | はじめに（用語の定義および科目オリエンテーションを含む）（山口・村山）<br>【key words】<br>地域リハビリテーション<br>【授業概要】<br>科目オリエンテーション　地域リハビリテーション総論<br>科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。<br>国立社会保障・人口問題研究所ホームページ<br>http://www.ipss.go.jp/index.asp<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>授業概要で紹介している参考URLを参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと） |
| | 第2回 | わが国における社会的変遷と関連法規（村山）<br>【key words】<br>国際生活機能分類、社会保障制度、医療保険<br>【授業概要】<br>地域リハビリテーション、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, disability and Health）について、知識の整理をして授業に臨んでください。<br>厚生労働省ホームページ<br>http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html<br>厚生労働省　我が国の医療保険について |

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/iryouhoken01/
日本医師会　ホームページ
https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第3回　介護保険制度と地域包括ケアシステム（村山）
【key words】
介護保険制度、地域包括ケアシステム
【授業概要】
介護保険制度、地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。
厚生労働省　介護保険制度の概要
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html
独立行政法人 福祉医療機構　WAM NET（ワムネット）　介護保険制度解説
http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/
厚生労働省　地域包括ケアシステム
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第4回　地域における介護予防とヘルスプロモーション（村山）
【key words】
介護予防、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー
【授業概要】
介護予防、ヘルスプロモーションについて、知識の整理をして授業に臨んでください。
群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ
http://www.grsc.biz/
群馬県　地域包括ケア推進室
http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html
群馬県　高崎市　ホームページ
https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014012000147/
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第5回　地域におけるサルコペニア・フレイル予防（転倒予防を含む）（村山）
【key words】
サルコペニア、フレイル、転倒予防
【授業概要】
サルコペニア、フレイル、転倒予防について、知識の整理をして授業に臨んでください。
日本転倒予防学会ホームページ　http://www.tentouyobou.jp/
日本骨粗鬆症学会ホームページ　http://www.josteo.com/ja/index.html
日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/
日本リハビリテーション栄養学会ホームページ https://sites.google.com/site/jsrhnt/home
【教科書ページ・参考文献】
授業概要で紹介している参考URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分・復習60分

第6回　地域における認知症予防（山口）
【key words】
認知症予防、認知症施策推進大綱
【授業概要】
地域における認知症予防について理解を深めるために、各自で事前に調べた認知症予防の取り組みを元に、セラピストとして実践可能な認知症予防のあり方について理解を深める。また、「認知症予防」における「予防」の真意についてディスカッションを通して理解を深める。
【予習】
①認知症施策推進大綱について概要を知るために、ダウンロードして熟読する
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index.html
②認知症予防について、地域ではどの様な取り組みが実践されているのか？について調べる。具体的には、各自の居住市町村または出身市町村、興味がある市町村における認知症予防の取り組みについて各市のホームページで調べる。
【復習】
①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータルのスレッドに記載する。
②認知症予防における「予防」とは何か？　講義やディスカッションの内容を踏まえた自分なりの考えをまとめ、指定された方法で提出する。
【教科書ページ・参考文献】
上記URLを参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記の通り
【予習復習に必要な想定時間】

| | |
|---|---|
| | 150分<br>第7回　群馬県内における地域リハビリテーションの実践（山口）<br>【key words】<br>地域リハビリテーション、高次脳機能障害<br>【授業概要】<br>セラピストが実際にどの様な地域実践を行っているのか、群馬県内での地域リハビリテーションの実践について学ぶ。また、群馬県自立支援型ケアマネジメント推進事業アドバイザーとしての山口の実践業務について紹介する。その他、介護保険領域にかかわらず、高次脳機能障害や認知症に関する山口の具体的実践な取り組みや政策提言に向けた活動などを紹介する。専門職として、診療報酬･介護報酬以外にも、その知識や技能をいかに地域に還元し、より良い地域社会に向けた貢献をしていくべきか理解を深める。<br>【予習】<br>①群馬県内の地域リハビリテーション広域支援センターの各活動を閲覧する。各施設の取り組みは以下の群馬県地域リハ支援センターのリンク集から閲覧が可能。<br>http://www.grsc.biz/niji.php<br>②NPO法人ノーサイドのホームページの閲覧<br>https://www.npo-noside.com/<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>上記URL等を参照<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>【復習】<br>自分が将来どの様な領域でどの様な実践を行いたいと考えるか（興味があるか）、自分の考えについて、授業の感想とともにWEBポータルの授業スレッドに記載する。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>90分<br>第8回　まとめ（山口・村山）<br>【key words】<br>介護予防、自立、自立支援<br>【授業概要】<br>介護予防とは何か、その本質に対して理解を深める。筋力や体力、口腔嚥下機能、栄養、認知機能などの個別機能等の改善だけでなく、その先を見据えた介護予防や自立支援を実現するためにセラピストとして実施すべき事項について考える。<br>【予習】<br>①厚生労働省ホームページの「介護予防」について事前に閲覧<br>https://www.mhlw.go.<br>jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html<br>特に、その中にある「これからの介護予防」という部分をダウンロードして必ず読むこと。<br>【復習】<br>①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータルのスレッドに記載。<br>②講義内容を踏まえ、これからの超高齢社会において、PTまたはOTとして、「１．どのようなことが求められているか」、「２．それにはどのようなスキルが求められるか」の2点について、自分の考えをまとめ指定された方法で提出<br>【教科書ページ・参考文献】<br>特になし<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>上記の通り。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>120分 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 〔受講生に関わる情報〕<br>①予習・復習は必須である。<br>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。<br>〔受講のルール〕<br>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。<br>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。<br>③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | スレッド（Webポータル）<br>初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。<br>本科目の理解が乏しいと、3年時に各専攻で開講される地域系の科目を理解することが困難となる。この点も踏まえて、授業外も学習することが望ましい。 |
| オフィスアワー | 山口・村山　火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） |
| 評価方法 | 授業内課題20%、レポート80% |
| 教科書 | 特になし。各担当教員の作成した資料を配布する。 |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介する。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>山口<br>急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。(詳細は以下を参照)<br>https://researchmap.jp/t-yamaguchi |

| | |
|---|---|
| | 村山<br>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として7年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。<br>専門理学療法士（基礎・地域・予防・支援工学理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。<br>日本転倒予防学会（理事）、日本精神・心理領域理学療法研究会（評議員）、ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）、健康と福祉の研究会（世話人）なども務める。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 地域作業療法学　　授業コード： 2003P2N228

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 2単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子 | | | |
| 地域作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>人が生活するうえで必要となる様々な支援及び制度について学び、地域で生活する対象者の取り巻く環境、その中で行われている作業療法士の仕事や他職連携、作業療法の可能性を理解する。<br><br>【到達目標】<br>①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。<br>②日本の社会保障制度の概要を説明することができる。<br>③社会保険制度の種類とその仕組みを説明することができる。<br>④医療保険の種類について、対象者やその仕組みについて説明することができる。<br>⑤介護保険の対象者、認定からサービス利用までの流れ、サービスの内容について説明することができる。 |
| 授業の概要 | 地域リハビリテーションに関わる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。特に日本における社会保障制度における医療や介護などの社会保険制度を理解する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ◎ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第1回 | 科目オリエンテーション、地域リハビリテーションの概念<br>【key words】<br>地域リハビリテーション、ノーマライゼーション、CBR<br>【授業概要】<br>「地域」が意味するところ、「地域リハビリテーション」の概念について学びます。ノーマライゼーションからIL運動など歴史的な流れについて説明します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P3～25<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第2回 | 社会保障制度について<br>【key words】<br>社会保障制度、社会保険、社会福祉、生活保護、公衆衛生・医療・保健<br>【授業概要】<br>狭義・広義の社会保障制度について、その種類と対象者について学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P39～41<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>課題<br>「保険」と「保健」の違いについて調べておく。<br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第3回 | 社会保険制度について<br>【key words】<br>社会保険制度、保険者、被保険者、医療保険<br>【授業概要】<br>社会保障制度の1つである社会保険制度について、その種類や保険者・被保険者を説明します。特に、医療保険の仕組みについて学びます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第4回 | 診療報酬、後期高齢者医療制度について |

【key words】
診療報酬、医療費明細書、後期高齢者医療制度、疾患別リハビリテーション料
【授業概要】
医療保険制度における診療報酬について、医療費の仕組みとリハビリテーションについて学びます。また、高齢者を対象とした後期高齢者医療制度についても概要を説明します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
障害者総合支援法について調べ、まとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第5回　社会福祉制度について
【key words】
障害者総合支援法、措置制度、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、
【授業概要】
社会福祉について、障害者福祉法から現在の障害者総合支援法までの流れを説明します。各自が調べてきたことをもとに、日本の福祉の変遷、今後について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
P41～45、58～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　小テスト、障害者雇用制度について
【key words】
障害者雇用促進法、法定雇用率、納付金制度
【授業概要】
第5回までの小テストを行います。
障害者雇用について、事業主、対象者について学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
スマホ・タブレット等、検索に必要なデバイスを用意してください。
【予習復習に必要な想定時間】

第7回　介護保険導入について
【key words】
措置制度、保険者、被保険者
【授業概要】
社会保険制度の1つである介護保険制度について、導入までの流れやその概要について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
P47～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　財源構成について
【key words】
保険料、財源構成、調整交付金
【授業概要】
介護保険制度の被保険者ごとの保険料やその徴収、財源構成について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
P47～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　介護認定について
【key words】
認定調査、1次判定、介護認定
【授業概要】
介護保険利用のために必要な要介護・要支援認定の流れについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
P47～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　小テスト、介護保険サービス利用の流れについて
【key words】
予防給付、介護給付、マネジメント
【授業概要】
第6回～第9回までの小テストを行います。
介護認定後のサービス利用の流れを説明します。

【教科書ページ・参考文献】
P47～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題
グループで担当になったサービスについて、サービスの内容、対象者、利用料金、リハビリとの関係などについて発表用資料を作成し、提出する。
【予習復習に必要な想定時間】

第11回　介護保険サービス①通所系サービス、訪問系サービス
【key words】
通所介護、通所リハビリテーション、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション
【授業概要】
グループで調べた各サービスについて発表し、質疑応答を行います。不足があった場合は次回ま

| | |
|---|---|
| | での課題とします。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P47～51<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第12回　介護保険サービス②施設系サービス<br>【key words】<br>介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域密着型<br>【授業概要】<br>グループで調べた各サービスについて発表し、質疑応答を行います。不足があった場合は次回までの課題とします。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P47～51<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第13回　介護保険サービスのまとめ、地域包括支援システム、介護予防<br>【key words】<br>福祉用具貸与、福祉用具購入、地域包括支援システム、介護予防事業<br>【授業概要】<br>介護保険サービスにおける福祉用具の利用について学びます。<br>また、地域包括支援システム、介護予防事業について説明します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P47～58<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第14回　事例検討①施設入所者<br>【key words】<br>情報収集、ICF、利点・問題点、目標<br>【授業概要】<br>介護保険施設入所の事例を通し、作業療法評価の流れを学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ICFの教科書<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第15回　事例検討②通所サービス利用者<br>【key words】<br>情報収集、ICF、目標、作業療法立案<br>【授業概要】<br>通所サービス利用の事例を通し、作業療法の流れを学び、利用可能なサービスや支援について考える。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>ICFの教科書<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 関連法規について学ぶため、聞きなれない単語、似たような言葉が多くあります。整理して覚えていくことをお勧めします。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 事前課題やグループワーク、発表の準備等 |
| オフィスアワー | 月曜　16：00～17：00 |
| 評価方法 | 筆記試験　50%　　小テスト　30%　　課題　20% |
| 教科書 | 小川恵子編：標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学第3版．医学書院．2017 |
| 参考書 | 長谷憲明：よくわかる　新しい介護保険のしくみ　令和3年改正対応版，瀬谷出版．2021 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーションで作業療法士として勤務。現在埼玉県本庄市の介護予防事業、群馬県吾妻郡の通所介護にて地域支援に従事している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>□実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法 |

| | |
|---|---|
| | 等)<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 地域作業療法学演習　　授業コード： 2003P2N229

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3年次 | 1単位(30) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子・北爪浩美 | | | |
| 地域作業療法学 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【目的】<br>作業療法士が活躍している様々な領域について、活動・支援内容を理解する。また、地域在住の健康高齢者の現状を見学し、作業療法士としてかかわれることについて考える。<br><br>【到達目標】<br>①各領域における対象者について理解し、概要を説明することができる。<br>②各領域の作業療法士のかかわりについて説明することができる。<br>③各領域の課題について理解し、対応策をあげ説明することができる。<br>④老人センターで行うレクリエーションの企画・実施・振り返りができる。 |
| 授業の概要 | 発達障害領域、高齢期領域、精神障害領域などにおける対象者や作業療法士のかかわりについて、各領域の作業療法士にご講義いただきます。<br>また、地域在住の健康高齢者が集う老人センターでの実習を通し、高齢者の身体・心理状況、生活状況等について学びます。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 授業計画 | 第1回 | 科目オリエンテーション、地域作業療法の枠組み<br>【key words】<br>生活構造、ライフステージ<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P89～99<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第2回 | 住環境の評価、住環境の改善<br>【key words】<br>生活様式、生活動線、段差<br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P105-113<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第3回 | 個別支援プログラム、集団支援プログラム<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br>P114-128<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第4回 | リスクマネジメント<br>【key words】<br>リスク、PDCAサイクル<br>【授業概要】 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 作業療法におけるリスクとは何か。そのリスクを最小限にするためのリスクマネジメントにはどのようなものがあり、PDCAサイクルに基づいた取り組みの必要性について学ぶ。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>P134-140<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第5回 | <br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第6回 | 介護保険領域の地域作業療法（介護老人保健施設）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>介護老人保健施設の作業療法士より、地域での活動についてご講義いただきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第7回 | 介護保険領域の地域作業療法（通所・訪問系サービス）<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>通所・訪問系の作業療法士より、地域での活動についてご講義いただきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第8回 | 発達障害領域の地域作業療法<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>発達障害領域の作業療法士より、地域での活動についてご講義いただきます。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第9回 | 健康高齢者のつどいの場<br>【key words】<br>集いの場、サロン、老人センター<br>【授業概要】<br>地域在住の健康高齢者のつどいの場について学びます。<br>また、老人センターでの見学時に行うレクリエーションの企画を行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第10回 | 健康高齢者のつどいの場<br>【key words】<br>集いの場、サロン、老人センター<br>【授業概要】<br>グループで企画したレクリエーションの事前発表会を行います。<br>他グループから指摘された点について、実習までに修正してください。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第11回 | 地域在住高齢者のつどいの場<br>【key words】<br>老人センター<br>【授業概要】<br>老人センターでの実習を行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| | 第12回 | 地域在住高齢者のつどいの場<br>【key words】 |

| | |
|---|---|
| | 老人センター<br>【授業概要】<br>老人センターでの実習を行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第13回　地域在住高齢者のつどいの場<br>【key words】<br>老人センター<br>【授業概要】<br>老人センターでの実習を行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第14回　行政の作業療法<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>前橋市役所における作業療法士の活躍について、外部講師による講義を行います。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】<br>第15回　まとめ<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br><br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 外部講師が複数のため、開講日は不定期になります。日程の変更など、Webポータル、授業スレッドの確認をお願いします。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | シャトルカード方式 |
| 授業外時間にかかわる情報 | グループ課題やポートフォリオ作成 |
| オフィスアワー | 月曜日　16：30～17：30 |
| 評価方法 | 授業内課題（グループ発表等）、ポートフォリオ |
| 教科書 | 大熊明編：標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学　第4版，医学書院．2022 |
| 参考書 | 随時紹介 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等に勤務。現在吾妻郡、埼玉県本庄市において通所介護、介護予防事業に携わっている。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

| | |
|---|---|

講義科目名称： 基礎評価実習(OT)　　授業コード： 2002P30230

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2年次 | 2単位(90) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 高坂・作業療法専攻教員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。<br>【到達目標】<br>①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。<br>②担当ケースに対する評価計画の立案と準備、実施が助言を得ながらできる。<br>③得られた評価結果をもとにICFの視点に基づき利点や問題点を整理する過程を学ぶ。<br>④担当ケースの状態に応じた、リハゴール・長期目標及び短期目標の立案ができる。<br>⑤臨床実習指導者による対象者の治療プログラムについて、理解することができる。 |
| 授業の概要 | 学生は指定された実習先で2週間の臨床評価実習を体験してくる。臨床場面の見学を通して、地域における病院の役割や病院におけるOTの役割などを理解する。また、臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースの評価計画立案から評価の実施、統合と解釈、作業療法計画の立案などの一連のプロセスを臨床場面を通じて学ぶ。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ○ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 2週　基礎評価実習<br>【key words】<br>職業人としての基本的態度、感染症予防、情報保護、作業療法評価計画、作業療法評価<br>【授業概要】<br>令和6年2月26日（月）～3月8日（金）の2週間、4領域の病院・施設にて、評価計画立案や作業療法評価を体験する。<br>実習の前後で、大学でセミナーを行い、学習経験の共有や問題点の整理及び解決策についての討論を行うとともに、実技試験、筆記試験を実施する。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版. 医学書院, 2013.<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>毎日の記録（デイリーノート）、その他、対象者等に関わる調べ学習（概ね1時間程度で終えること）<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>60分／日 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | ・作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。詳細は、臨床実習の手引きに記載してある通り（実習前のオリエンテーションにて確認する）。<br>・COVID-19等の感染拡大状況や実習受け入れ施設の状況によっては、急遽実習地が変更となる場合や、Web上での遠隔実習となる場合がある。また、実習前後の筆記試験や実技試験についても中止（成績評価方法が変更）となる場合もある。その場合は、速やかに受講生に連絡する。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 各病院施設で指定された通り。また、必要に応じて大学教員に連絡を取り指示を仰ぐこと。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 実習前に筆記試験、実技試験を設ける。成績評価が60%に満たない者は、補講を実施する。日程については追って連絡する。<br>実習中は毎日学習日誌（デイリーノート）を作成する。A4版ファイルを用意し、毎日業務前にファイリングして実習指導者まで提出すること。<br>実習終了後、学んだことに関して発表資料を作成する。<br>実習指導者へのお礼状は、教員の添削を受けた後、必ず1週間以内に郵送すること。 |

| | |
|---|---|
| オフィスアワー | 各病院施設で指定された通り。 |
| 評価方法 | □出席（出席時間数要件：4/5以上）<br>※規定日数を満たさない者は評価対象外となる。また、①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す等がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。<br>□実習指導者からの評価：20%<br>□学内セミナー発表：20%<br>□レポート作成：20%<br>□実習前後での筆記試験：20%<br>□実習前後での実技試験：20%<br>※筆記試験、実技試験の内容については改めて連絡する。<br>※COVID-19の感染拡大状況によって、筆記試験・実技試験は延期または中止となる場合がある。その際は事前に連絡する。<br>※再受験の取り扱い：無 |
| 教科書 | 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | 岡田慎一郎：理学療法 臨床実習サポートブック．医学書院，2015. |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 評価実習　　授業コード： 2003P30231

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 4単位(180) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 牛込祐樹・OT教員全員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・作業療法の対象者に対して、作業療法評価を体験し実践できるようになること<br>・職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれるようになること<br><br>〔到達目標〕<br>・作業療法の評価計画を立てることができる<br>・対象者の情報収集・面接・観察・検査測定ができる<br>・評価結果を整理し全体像を把握することができる<br>・対象者の身体状況に応じて、科学的根拠に基づく目標設定ができる<br>・治療器具・道具を安全に使用し管理ができる<br>・リスク管理について理解できる<br>・記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる<br>・他部門（他職種）との連携がとれる<br>・施設の特徴について理解できる<br>・職業人としての常識的態度を身につける<br>・職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる<br>・自己管理ができる<br>・意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける |
| 授業の概要 | 医療施設、福祉施設等において、実習指導者の監督下で作業療法評価について「見学」「模倣」「実施」を経験し、作業療法の臨床思考過程を理解するとともに、学内で学んだ知識・技術・態度を臨床場面で実践する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 3週　　臨床評価実習<br>学生は各自割り当てられた病院･施設にて臨床評価実習を実施してくる。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 作業療法を目指す学生として、また、臨床現場に立つ学生としての相応しい身だしなみや立ち振る舞いを心がけること。<br>「臨床実習手引き」を熟読すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 作業療法に対する探究心をもって実習に取り組み、不明に思った点などは適宜実習指導者へ質問すること。<br>実習の進捗状況は、実習訪問指導の際に確認するとともに、実習指導者、実習担当教員、担任教員とで情報の共有を図る。<br>実習地で経験した内容を習得するために、学生は以下①～④を毎日実践することが求められる。<br>①臨床技能経験チェックリストを記入し、自分が経験した内容を確認すること<br>②実習日誌を作成し、その日に経験した内容を整理すること<br>③実習指導者とのディスカッションを通じて、作業療法の臨床思考過程を学ぶこと<br>④自己学習を行い、経験した内容に関する知識を深めること |
| 授業外時間にかかわる情報 | 臨床実習者の指導に従い、また実習訪問指導時の指導を踏まえ、実習の課題へ計画的に取り組むこと。<br>実習期間中は時間を効率的に使い、体調の管理に努めること。 |
| オフィスアワー | 実習期間内のオフィスアワーは、担任教員、実習担当教員へ適宜確認すること。 |
| 評価方法 | 成績は以下を参考に大学側が判定する。<br>①提出課題（実習日誌、ケースノート）・実習状況評価表：70%<br>②セミナー発表（プレゼンテーション、担当事例レジュメ、セミナーの参加状況）：30% |

| | |
|---|---|
| | 出席日数が実習期間の5分の4に満たない場合、実習の単位は認定されない。 |
| 教科書 | ①群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻　臨床実習の手引き<br>②大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版．医学書院 |
| 参考書 | ①標準作業療法学専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院.2017<br>②才籐栄一　監：PT・OTのためのOSCE　臨床力が身につく実践テキスト．第1版．金原出版株式会社．2011<br>③里宇明元　監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習．第１版．医歯薬出版株式会社．2015<br>④山口昇 編：作業療法臨床実習マニュアル第1版.三輪書店 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。また、多くの臨床実習指導の経験を有するとともに、一般社団法人日本作業療法士協会による作業療法士臨床実習指導者研修を修了している。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合臨床実習Ⅰ(OT)　　授業コード：2004P30232

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 8単位(360) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷・OT教員全員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・作業療法の対象者に対して、基本的作業療法を体験し実践できるようになること<br>・職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれるようになること<br><br>〔到達目標〕<br>・作業療法の評価計画を立てることができる<br>・対象者の情報収集・面接・観察・検査測定ができる<br>・評価結果を整理し全体像を把握することができる<br>・対象者の身体状況に応じて、科学的根拠に基づく目標設定ができる<br>・問題点及び目標設定から作業療法の治療プログラムの立案ができる<br>・作業療法の治療環境の設定ができる<br>・作業療法の治療プログラムを行うことができる<br>・治療器具・道具を安全に使用し管理ができる<br>・リスク管理について理解できる<br>・記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる<br>・他部門（他職種）との連携がとれる<br>・施設の特徴について理解できる<br>・職業人としての常識的態度を身につける<br>・職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる<br>・自己管理ができる<br>・意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける |
| 授業の概要 | 医療施設、福祉施設等において、実習指導者の監督下で作業療法の「見学」「模倣」「実施」を経験し、作業療法の臨床思考過程を理解するとともに、学内で学んだ知識・技術・態度を臨床場面で実践する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 総合臨床実習Ⅰ<br>【key words】<br>作業療法　作業療法参加型実習<br>【授業概要】<br>総合臨床実習を、医療施設、福祉施設等において8週間実施する。<br>実習期間中は、実習指導者の監督下で作業療法の「見学」「模倣」「実施」を経験し、作業療法の臨床思考過程を理解するとともに、学内で学んだ知識・技術・態度を臨床場面で実践する。<br>作業療法の対象者に対して基本的作業療法を体験し実践できるようになること、また職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれるようになることを目指す。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>実習指導者に指示された教科書、参考文献を使用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習指導者の指示に従い、予習・復習や課題に取り組むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>実習日における時間外の学習時間は1時間を目安とする。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 基礎評価実習、評価実習、地域リハビリテーション実習の単位修得が必要となる。<br>「臨床実習手引き」を熟読すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 作業療法に対する探究心をもって実習に取り組み、不明に思った点などは適宜実習指導者へ質問すること。 |

| | |
|---|---|
| 況の確認方法 | 実習の進捗状況は、実習訪問指導の際に確認するとともに、実習指導者、実習担当教員、担任教員とで情報の共有を図る。<br>実習地で経験した内容を習得するために、学生は以下①～④を毎日実践することが求められる。<br>①臨床技能経験チェックリストを記入し、自分が経験した内容を確認すること<br>②実習日誌を作成し、その日に経験した内容を整理すること<br>③実習指導者とのディスカッションを通じて、作業療法の臨床思考過程を学ぶこと<br>④自己学習を行い、経験した内容に関する知識を深めること |
| 授業外時間にかかわる情報 | 臨床実習者の指導に従い、また実習訪問指導時の指導を踏まえ、実習の課題へ計画的に取り組むこと。<br>実習期間中は時間を効率的に使い、体調の管理に努めること。 |
| オフィスアワー | 実習期間内のオフィスアワーは、担任教員、実習担当教員へ適宜確認すること。 |
| 評価方法 | 成績は以下を参考に大学側が判定する。<br>①提出課題（実習日誌、ケースノート）・実習状況評価表：70%<br>②セミナー発表（プレゼンテーション、担当事例レジュメ、セミナーの参加状況）：30%<br><br>出席日数が実習期間の5分の4に満たない場合、実習の単位は認定されない。 |
| 教科書 | 特に指定なし。 |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員の亀ヶ谷は、作業療法士として病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業等における実務に長く従事した経験を持つ。病院では臨床実習指導者として数多くの作業療法学生を指導し、一般社団法人日本作業療法士協会による作業療法士臨床実習指導者研修を修了している（認定番号1844号）。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 総合臨床実習Ⅱ(OT)　　授業コード：2004P30233

英文科目名称：

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 7単位(315) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 亀ヶ谷・OT教員全員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>・作業療法の対象者に対して、基本的作業療法を体験し実践できるようになること<br>・職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれるようになること<br><br>〔到達目標〕<br>・作業療法の評価計画を立てることができる<br>・対象者の情報収集・面接・観察・検査測定ができる<br>・評価結果を整理し全体像を把握することができる<br>・対象者の身体状況に応じて、科学的根拠に基づく目標設定ができる<br>・問題点及び目標設定から作業療法の治療プログラムの立案ができる<br>・作業療法の治療環境の設定ができる<br>・作業療法の治療プログラムを行うことができる<br>・治療器具・道具を安全に使用し管理ができる<br>・リスク管理について理解できる<br>・記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる<br>・他部門（他職種）との連携がとれる<br>・施設の特徴について理解できる<br>・職業人としての常識的態度を身につける<br>・職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる<br>・自己管理ができる<br>・意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける |
| 授業の概要 | 医療施設、福祉施設等において、実習指導者の監督下で作業療法の「見学」「模倣」「実施」を経験し、作業療法の臨床思考過程を理解するとともに、学内で学んだ知識・技術・態度を臨床場面で実践する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ◎ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 総合臨床実習Ⅰ<br>【key words】<br>作業療法　作業療法参加型実習<br>【授業概要】<br>総合臨床実習を、医療施設、福祉施設等において7週間実施する。<br>実習期間中は、実習指導者の監督下で作業療法の「見学」「模倣」「実施」を経験し、作業療法の臨床思考過程を理解するとともに、学内で学んだ知識・技術・態度を臨床場面で実践する。<br>作業療法の対象者に対して基本的作業療法を体験し実践できるようになること、また職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれるようになることを目指す。<br>【教科書ページ・参考文献】<br>実習指導者に指示された教科書、参考文献を使用すること。<br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br>実習指導者の指示に従い、予習・復習や課題に取り組むこと。<br>【予習復習に必要な想定時間】<br>実習日における時間外の学習時間は1時間を目安とする。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 基礎評価実習、評価実習、地域リハビリテーション実習の単位修得が必要となる。<br>「臨床実習手引き」を熟読すること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 作業療法に対する探究心をもって実習に取り組み、不明に思った点などは適宜実習指導者へ質問すること。 |

| | |
|---|---|
| 況の確認方法 | 実習の進捗状況は、実習訪問指導の際に確認するとともに、実習指導者、実習担当教員、担任教員とで情報の共有を図る。<br>実習地で経験した内容を習得するために、学生は以下①～④を毎日実践することが求められる。<br>①臨床技能経験チェックリストを記入し、自分が経験した内容を確認すること<br>②実習日誌を作成し、その日に経験した内容を整理すること<br>③実習指導者とのディスカッションを通じて、作業療法の臨床思考過程を学ぶこと<br>④自己学習を行い、経験した内容に関する知識を深めること |
| 授業外時間にかかわる情報 | 臨床実習者の指導に従い、また実習訪問指導時の指導を踏まえ、実習の課題へ計画的に取り組むこと。<br>実習期間中は時間を効率的に使い、体調の管理に努めること。 |
| オフィスアワー | 実習期間内のオフィスアワーは、担任教員、実習担当教員へ適宜確認すること。 |
| 評価方法 | 成績は以下を参考に大学側が判定する。<br>①提出課題（実習日誌、ケースノート）・実習状況評価表：70%<br>②セミナー発表（プレゼンテーション、担当事例レジュメ、セミナーの参加状況）：30%<br><br>出席日数が実習期間の5分の4に満たない場合、実習の単位は認定されない。 |
| 教科書 | 特に指定なし。 |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>授業担当教員の亀ヶ谷は、作業療法士として病院、介護老人保健施設、地域の介護予防事業等における実務に長く従事した経験を持つ。病院では臨床実習指導者として数多くの作業療法学生を指導し、一般社団法人日本作業療法士協会による作業療法士臨床実習指導者研修を修了している（認定番号1844号）。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>□ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>□プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>■情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 地域リハビリテーション実習　　授業コード：2003P30234

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3年次 | 1単位(45) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 悴田敦子・OT教員全員 | | | |
| 臨床実習 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 【授業の目的】<br>訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーションの実習を通して、地域で生活する対象者や様々な支援を学ぶ。またリハビリテーションおよび作業療法が実施する支援方法を学ぶ。<br>【到達目標】<br>①実習実施施設の概要および役割を説明することができる。<br>②地域リハビリテーションにおける作業療法の役割を説明することができる。<br>③地域で生活する対象者の生活課題を焦点化し、考察することができる。 |
| 授業の概要 | 訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーションにて5日間の実習を行う。実習中は日々の活動・学びについて実習記録にまとめ、実習指導者からフィードバックを受ける。実習終了後は報告会を実施し、様々な施設での体験・学習内容を共有する。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | ◎ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ○ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | ◎ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | ○ |

| | |
|---|---|
| 授業計画 | 地域リハビリテーション実施施設における実習<br>【key words】<br><br>【授業概要】<br>訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーション実施施設において、1週間の臨地実習を行います。実習開始にあたり、オリエンテーションを実施し、必要な書類や実習に向けての準備を行います。<br>実習終了後は施設ごとに発表を行い、さらに個人でのレポートを作成・提出します。<br>【教科書ページ・参考文献】<br><br>【課題・予習・復習・授業準備指示】<br><br>【予習復習に必要な想定時間】 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 実習施設が決定したら、交通手段を確認・確保し、自家用車の使用願の手続きを速やかに行ってください。<br>体調管理、感染症対策に万全を期し、問題が生じた場合は速やかに実習指導者および科目担当者に連絡すること。<br>実習期間中は実習施設および実習指導者の指導のもと、積極的な参加を心がけてください。<br>実習終了後は速やかに大学に終了連絡を入れること。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | 実習日誌や口頭での報告等により、実習指導者と確認を行います。また、各施設の担当教員と実習指導者、学生との連絡により、進捗状況を確認します。 |
| 授業外時間にかかわる情報 | 実習時間内に完成しなかった実習日誌や調べ学習を、帰宅後や休日に行う必要があります。 |
| オフィスアワー | 実習施設により異なる。 |
| 評価方法 | 既定の日数を実習したもののみ評価対象とする。<br>発表：50%　　レポート：50% |
| 教科書 | 大熊明、加藤朋子（編）：標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学　第3版，2022．医学書院 |
| 参考書 | 随時紹介します |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容 |

| | |
|---|---|
| | 病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーションでの勤務を経て、現在埼玉県本庄市の介護予防事業、群馬県吾妻郡の通所介護に従事している。<br>アクティブラーニング要素<br>■PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>■グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない<br>情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>□ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |

講義科目名称： 卒業研究(OT)　　授業コード：020194A770

英文科目名称： ＊

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4年次 | 2単位(60) | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| OT教員全員 | | | |
| 卒業研究 | 作業療法国家試験受験資格に係る必修 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的・到達目標 | 〔授業の目的〕<br>本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表までを行う。<br>〔到達目標〕<br>作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。また、各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。<br>研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。 |
| 授業の概要 | 作業療法セミナーや臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。 |

| 各学科、専攻、コースにおけるDP | 科目における重要度 |
|---|---|
| (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。 | △ |
| (専門性の探求)専門性を高めるための研究･探求の重要性を理解するとともに，その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。 | ◎ |
| (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について，心身機能や疾患特性，個人の考え，人的･物理的･制度的環境等に配慮し，全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる. | ○ |
| (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。 | △ |
| (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。 | △ |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 第１回 | オリエンテーション<br>流れ、スケジュール卒業研究の流れと、スケジュールを確認する. |
| | 第２回 | 研究テーマの検討<br>研究テーマを検討する. |
| | 第３回 | 〃<br>卒業研究計画を立案し、申請書を提出する. |
| | 第４回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第５回 | 卒業研究計画の立案<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第６回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第７回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第８回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第９回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１０回 | 各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１１回 | 〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく. |
| | 第１２回 | 〃 |

| | |
|---|---|
| | テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１３回　〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１４回　〃<br>テーマに沿って担当教員の基で、指導のスケジュールを仰ぎながら、研究の実施をすすめていく.<br>第１５回　中間発表<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１６回　〃<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１７回　〃<br>研究経過を発表し、研究の方向性を確認する.<br>第１８回　完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第１９回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２０回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２１回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２２回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２３回　〃<br>中間発表で明らかになった課題を踏まえ、研究を継続する.<br>第２４回　卒業研究発表会<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２５回　卒業研究発表会<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２６回　〃<br>研究としてまとめた成果を発表する。<br>第２７回　研究論文の最終調整<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第２８回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第２９回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。<br>第３０回　〃<br>研究発表会で得られた助言を最終的な論文に反映させ、提出する。 |
| 受講生に関わる情報および受講のルール | 卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。 |
| 毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法 | その他（随時担当教員と相談のうえで進める） |
| 授業外時間にかかわる情報 | 本科目では、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。 |
| オフィスアワー | 各教員に問い合わせること |
| 評価方法 | 「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」について、最終的な卒業研究発表会と最終提出された論文、またそこまでの取り組み状況について総合的に評価し、この合計を卒業研究の成績とする。 |
| 教科書 | 担当教員より随時指示 |
| 参考書 | 担当教員より随時指示 |
| 実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育 | 授業担当教員<br>■実務経験のある教員が担当している<br>具体的な実務経験の内容<br>全ての教員が病院や施設にて、作業療法士としての臨床経験を積んでいる。<br>アクティブラーニング要素<br>□PBL(課題解決型学習)<br>■ディスカッション・ディベート<br>□グループワーク<br>■プレゼンテーション<br>■実習、フィールドワーク<br>□アクティブラーニングは実施していない |

| | |
|---|---|
| | 情報リテラシー教育<br>■情報モラルに関する教育<br>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）<br>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）<br>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<br>□情報リテラシー教育は実施していない<br>ICTの活用<br>■ICTを活用した双方向型の授業の実施<br>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<br>□その他<br>その他の具体的内容 |